

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	医療福祉論	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	樋口 美智子	2年	授業の最後に受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailへしてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

「ソーシャルワークの価値・倫理」「医療福祉の概念」や「医療における尊厳と権利」を基盤として、保健医療分野におけるソーシャルワークの機能と役割を理解し、基本的な知識・技術を獲得します。また、地域包括ケアシステムにおける多職種協働について、ミクロ・メゾ・マクロの視点から理解します。

毎回、医療機関でのソーシャルワーク実践を紹介しています。他科目で学習した理論や技術、制度等が、どのように実践の中で活かされているかを学ぶことができます。特に医療ソーシャルワーカーを志望する学生は、実務的にその業務を理解することができます。「保健医療サービス」の既得が望ましいですが、内容を復習しながら進めますので、未履修者も歓迎します。

①ソーシャルワークの価値・倫理に基づいて、病気や障がいを抱えながら生活する人々を理解し、説明できる。
②保健医療分野におけるソーシャルワーク実践の過程を、事例を通じて説明できる。
③相談援助に必要な基本的な知識・技術について説明できる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	医療における社会保障政策の動向	社会保障制度改革の学習
	2	医療ソーシャルワークの成立の経過と今後の課題	社会福祉の歴史の復習
	3	医療ソーシャルワークの価値と倫理	社会福祉原論等の復習
	4	医療における「家族」の理解	ライフステージの特徴の学習
	5	生活機能障害とソーシャルワーク	ノーマライゼーションの復習
	6	医療ソーシャルワーカーに必要な医学知識	生活習慣病について予習
	7	医療ソーシャルワーカーの連携とチーム医療	連携・協働概念の予習
	8	診療報酬とソーシャルワーク	医療・介護保険制度の復習
	9	面接技術	基本的な理論・アプローチ等の予習
	10	アセスメント（1）	アセスメントの定義について予習
	11	アセスメント（2）	アセスメントの定義について復習
	12	ソーシャルワークの記録	記録の意義について予習
	13	ソーシャルワークにおけるスーパービジョンの機能	スーパービジョンについて予習
14	医療ソーシャルワーク実践事例検討の方法	事例とは何かについて予習	
15	地域包括ケアシステムにおける医療ソーシャルワーカーの役割	地域包括ケアシステムについて予習	
16	まとめと振り返り	課題に取り組む	
	テキスト・参考文献・資料など		
	<p>*テキスト：『保健医療ソーシャルワークの基礎－実践力の構築－』、公益社団法人日本医療社会福祉協会編、相川書房、『病院におけるソーシャルワークの理論と実践－基礎から学ぶ』、富樫八郎著、川島書店</p> <p>*参考文献：『支援者が成長するための50の原則－あなたの心と力を築く物語－』、川島隆彦著、中央法規、『相談支援のための福祉・医療制度活用ハンドブック』、日本医療社会福祉協会編、新日本法規</p>		
	学びの手立て		
	<p>①履修の心構え：やむを得ず遅刻・欠席をする場合は、次回までの時間外学習内容や課題提出日等を確認し、欠席届けを次回までに提出すること。受講時は、質問・ディスカッション・グループワークでの協働等、積極的・協調的な参加を評価します。</p> <p>②学びを深めるために：保健医療分野におけるソーシャルワークに関する図書は、制度・政策論的内容と知識・技術論的内容に大別されます。各々をバランスよく学習すると良いでしょう。制度やサービス等については、その根拠法をその都度確認する習慣を身につけましょう。</p>		
	評価		
	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点：質問や発言の有無、積極的・協調的なグループワーク参加態度等を適宜加算します。（30%） ・時間外学習レポートの提出状況・到達度を評価します。（20%） ・個人レポート、グループレポートの提出状況・到達度を評価します。（50%） 		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目：「保健福祉政策論」「保健医療サービス」</p> <p>(2) 次のステージ：基本的な保健医療分野におけるソーシャルワークを学んだ後に、救急医療・小児医療・在宅医療・緩和医療等のテーマを見つけて専門性を深める学習を継続していきましょう。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 社会福祉学と心理学の知識をもって社会貢献できる力を身につけるため、多様な他者と協働する機会を提供する正課教育科目である。

[/]

科目基本情報	科目名 インターンシップ I	期別	曜日・時限	単位
	担当者 学科インターンシップ運営委員	その他	その他	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 沖縄国際大学インターンシップは各学科の専門教育科目として、県内の企業や公官庁で実施しています。その目的は学生が実社会での体験学修を通して、大学教育では得難い実践的知識と技能の習得、社会人としての適性を見定め、職業観を養うことにあります。参加にあたっては、社会人基礎力を大学生活での取り組みに置き換え、全プログラムを通して意識的に実行することが求められます。	メッセージ 事前ガイダンスではインターンシップに必要な心構えやビジネスマナー、社会人に必要なスキル等を学ぶことで、安心して実習に参加できます。さらに、事後ガイダンスや報告会の参加、報告書作成を通して、自らの学びを言語化することで「働く価値観」をより明確にします。本プログラムを通して、働くとはどういうことか具体的に考える機会にしましょう。
	到達目標 ①社会人としてのマナーを修得する。 ②職業観を養い、自らの適性を見定める。 ③組織の構造と機能を理解する。 ④企業・組織の基本理念と将来ビジョンの理解に努め、効率的な組織の仕組みを考える。 ⑤組織における自らの役割を理解した上で、思考し行動する力を修得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1回オリエンテーション（募集説明会） ※欠席不可	面接資料作成（申込手続き後）
	2	各学科担当教員による面接および学内選考	面接担当者へ面接日の事前確認
	3	第2回オリエンテーション（実習生の顔合わせ、リーダー決定、今後の説明等） ※欠席不可	実習先に関する情報収集
	4	事前ガイダンス1 インターンシップの意義・目的	ガイダンスの振り返り
	5	事前ガイダンス2 ビジネススキル①	社会人に必要なマナー習得
	6	事前ガイダンス3 ビジネススキル②	実習先へ電話によるご挨拶
	7	事前ガイダンス4 インターンシップに必要な企業研究	実習先業界の情報収集（新聞等）
	8	事前ガイダンス5 インターンシップの目標設定	社会人基礎力ベースの目標設定
	9	第3回オリエンテーション（実習前後の注意事項、学科報告会の実行委員決定等） ※欠席不可	実習と報告会に向けて準備
	10	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	出勤簿・日報へ押印・記入し振り返り
	11	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習先での座学（業種、業界研究）
	12	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習先での業務体験（接客、事務）
	13	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習録日報まとめ（実習振り返り）
	14	事後ガイダンス1 インターンシップを通して考えるキャリア形成	ガイダンス内容を元に報告書作成
	15	事後ガイダンス2 学科報告会での担当別研修（発表者、司会、その他）	学科実習生全員で報告会運営準備
16	学科報告会（実習で得た学びを発表し、全体で共有する）	全体を通して学びの振り返り	

テキスト・参考文献・資料など
 実習生へ実習録を配布しますので、ガイダンス時の記録や実習中の出勤簿・日報などを記載してください。それらの記録をもとに、最終的に報告書作成や報告会の準備を行ってください。
 また、ガイダンス時に資料を配布しますので、あとで振り返りできるように整理してください。

学びの手立て
【応募資格】 ①各学科で受講可能となっている年次の学生（履修ガイドの学科選択科目を各自で確認すること）
 ②連続して2週間または3週間のインターンシップを意欲的に行える者 ③第1回オリエンテーション（募集説明会）から報告会まで、年間スケジュールと内容を理解して意欲的に臨める者
【注意事項】 ①各学科担当教員による面接を受けること ②全3回のオリエンテーションに参加すること（欠席不可） ③事前・事後ガイダンスを受講すること（他講義と重ならないよう確認すること） ④報告会を運営・参加すること ⑤連絡事項は、沖国大ポータルの「学内連絡」、メールアドレス（学籍番号）へ連絡するので見落としがないよう確認すること

評価
【出席について】 出席は単位習得の前提条件ですので、各オリエンテーションやガイダンス、報告会への出欠を毎回確認します。アルバイト等による欠席は認められません。出席状況が著しく悪い場合は、実習取り消しや不可となります。**【評価方法・割合】** ①実習先による学生評価調査 20% ②インターンシップ実習録（各ガイダンスの記録や課題、勤務状況、日報などから学びの状況を確認） 60% ③インターンシップ報告書（実習先に関する理解度、インターンシップを通して得られたこと等について確認） 20%

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 本インターンシッププログラムを通して気づいた自身の強みはさらに伸ばし、足りないと感じた部分は残りの学生生活で改善できるように取り組んでほしい。
 また、得られた職業観は今後のキャリアを考える際に役立ててほしい。

※ポリシーとの関連性 社会福祉学と心理学の知識をもって社会貢献できる力を身につけるため、多様な他者と協働する機会を提供する正課教育科目である。

[/]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	インターンシップⅡ	その他	その他	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	学科インターンシップ運営委員	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄国際大学インターンシップは各学科の専門教育科目として、県内の企業や公官庁で実施しています。その目的は学生が実社会での体験学修を通して、大学教育では得難い実践的知識と技能の習得、社会人としての適性を見定め、職業観を養うことにあります。参加にあたっては、社会人基礎力を大学生活での取り組みに置き換え、全プログラムを通して意識的に実行することが求められます。</p>	<p>事前ガイダンスではインターンシップに必要な心構えやビジネスマナー、社会人に必要なスキル等を学ぶことで、安心して実習に参加できます。さらに、事後ガイダンスや報告会の参加、報告書作成を通して、自らの学びを言語化することで「働く価値観」をより明確にします。本プログラムを通して、働くとはどういうことか具体的に考える経験にしませんか。</p>
到達目標	<p>①社会人としてのマナーを修得する。 ②職業観を養い、自らの適性を見定める。 ③組織の構造と機能を理解する。 ④企業・組織の基本理念と将来ビジョンの理解に努め、効率的な組織の仕組みを考える。 ⑤組織における自らの役割を理解した上で、思考し行動する力を修得する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1回オリエンテーション（募集説明会） ※欠席不可	面接資料作成（申込手続き後）
	2	各学科担当教員による面接および学内選考	面接担当者へ面接日の事前確認
	3	第2回オリエンテーション（実習生の顔合わせ、リーダー決定、今後の説明等） ※欠席不可	実習先に関する情報収集
	4	事前ガイダンス1 インターンシップの意義・目的	ガイダンスの振り返り
	5	事前ガイダンス2 ビジネススキル①	社会人に必要なマナー習得
	6	事前ガイダンス3 ビジネススキル②	実習先へ電話によるご挨拶
	7	事前ガイダンス4 インターンシップに必要な企業研究	実習先業界の情報収集（新聞等）
	8	事前ガイダンス5 インターンシップの目標設定	社会人基礎力ベースの目標設定
	9	第3回オリエンテーション（実習前後の注意事項、学科報告会の実行委員決定等） ※欠席不可	実習と報告会に向けて準備
	10	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	出勤簿・日報へ押印・記入し振り返り
	11	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習先での座学（業種、業界研究）
	12	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習先での業務体験（接客、事務）
	13	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習録日報まとめ（実習振り返り）
	14	事後ガイダンス1 インターンシップを通して考えるキャリア形成	ガイダンス内容を元に報告書作成
15	事後ガイダンス2 学科報告会での担当別研修（発表者、司会、その他）	学科実習生全員で報告会運営準備	
16	学科報告会（実習で得た学びを発表し、全体で共有する）	全体を通して学びの振り返り	

テキスト・参考文献・資料など

実習生へ実習録を配布しますので、ガイダンス時の記録や実習中の出勤簿・日報などを記載してください。それらの記録をもとに、最終的に報告書作成や報告会の準備を行ってください。また、ガイダンス時に資料を配布しますので、あとで振り返りできるように整理してください。

学びの手立て

【応募資格】 ①各学科で受講可能となっている年次の学生（履修ガイドの学科選択科目を各自で確認すること） ②連続して2週間または3週間のインターンシップを意欲的に行える者 ③第1回オリエンテーション（募集説明会）から報告会まで、年間スケジュールと内容を理解して意欲的に臨める者

【注意事項】 ①各学科担当教員による面接を受けること ②全3回のオリエンテーションに参加すること（欠席不可） ③事前・事後ガイダンスを受講すること（他講義と重ならないよう確認すること） ④報告会を運営・参加すること ⑤連絡事項は、沖国大ポータル「学内連絡」、メールアドレス（学籍番号）へ連絡するので見落としがないよう確認すること

評価

【出席について】 出席は単位習得の前提条件ですので、各オリエンテーションやガイダンス、報告会への欠席を毎回確認します。アルバイト等による欠席は認められません。出席状況が著しく悪い場合は、実習取り消しや不可となります。【評価方法・割合】 ①実習先による学生評価調書 20% ②インターンシップ実習録（各ガイダンスの記録や課題、勤務状況、日報などから学びの状況を確認） 60% ③インターンシップ報告書（実習先に関する理解度、インターンシップを通して得られたこと等について確認） 20%

学びの継続

次のステージ・関連科目

本インターンシッププログラムを通して気づいた自身の強みはさらに伸ばし、足りないと感じた部分は残りの学生生活で改善できるように取り組んでほしい。また、得られた職業観は今後のキャリアを考える際に役立ててほしい。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	介護技術Ⅰ	集中		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-諸見里 安知	2年	講義終了後に受け付ける	

学びの準備	ねらい 介護の意味や目的、介護技術の具体的内容、介護をする際の留意点、専門職としての倫理等について理解する	メッセージ 受講生は日頃から、介護について関心を持ち、介護の知識や技術についての情報を収集し理解を深めるよう努めること
	到達目標 クラス終了の際は、介護に関する基本的な知識を有すると同時に、関連する医療、保健、生活リハやレク等の基本について理解する	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション??講義概要、テキスト・服装・受講上の注意など?	講義内容を復習し次の時間に備える
	2	介護概論①（介護の内容・意味、現場の実情）	同上
	3	介護概論②（高齢者理解）	同上
	4	コミュニケーション技術①（基本）	同上
	5	コミュニケーション技術②（障害別）	同上
	6	介護保険施設の実際①（施設ケア）	同上
	7	介護保険施設の実際②（在宅ケア）	同上
	8	介護保険の課題?	同上
9	リスクマネジメント①（危険予知・ヒヤリハット）?	同上	
10	リスクマネジメント②（高齢者虐待）	同上	
11	認知症理解①（記憶障害・周辺症状）	同上	
12	認知症理解②（BPSD行動心理状態）	同上	
13	認知症ケア実践①（事例）	同上	
14	認知症ケア実践②（ロールプレー）	同上	
15	高齢者レクリエーション	同上	
16			
	テキスト・参考文献・資料など クラスの中で指定する 必要に応じて、資料を配付する		
	学びの手立て 多くの視聴覚教材もあり、学生が自主的に情報収集や資料収集をすることを歓迎する また、可能な限り、実際の介護現場に触れることを歓迎する		
	評価 ①中間試験50% ②期末試験50% で評価をする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 介護技術Ⅱの履修を希望する
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	介護技術Ⅱ	集中		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-山城 篤志(6回)、-山城 リサ(5回)、-新良 典子(5回)	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 介護の意味や目的、介護技術の具体的内容、介護を実践する際の留意点、多職種連携、専門職としてのチームワークを理解する。	メッセージ ①介護の中の「病気や障害」「発達と老化」のとらえ方を学ぶことで個別支援の大切さについて考える機会としてください。 ②③介護技術を実践するうえで、個別支援の大切さについて理解でき、介護の楽しさ、奥深さ、技術的な根拠を学び、日常生活において”介護”をより身近なものとして捉え、支援の意義を深める機会としましょう。
	到達目標 ①介護技術と知識の習得とともに、多職種連携の必要性や「こころとからだ」のしくみにも興味をもち学ぶことによって、よき支援者となるためには多角的な面からのアプローチが必要であることを理解できる。 ②介護技術と知識の習得とともに、関連する制度、多職種連携の必要性や個別支援の重要性について理解できる。 ③介護技術に関する基本的な正しい知識・技術を理解し、対人援助職としてより深い心構えをもって、クライアントを全人的に捉え、個別ケアの視点で介護技術の実践ができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	生活支援技術（こころのしくみ）	介護技術Ⅰを復習しておくこと
	2	生活支援技術（からだのしくみ）	同上
	3	生活支援技術（食事摂取のメカニズムと介助）	同上
	4	介護と看護の連携（多職種連携）	同上
	5	まとめ（振り返りと学びのレポート）	同上
	6	介護保険制度の理解①（制度の仕組み）	内容を予習復習し講義に備える
	7	介護保険制度の理解②（介護支援専門員の仕事）	同上
	8	介護保険制度の理解③（ケアプラン作成PDCA）	同上
	9	介護保険制度の理解④（包括ケアシステム）	同上
	10	生活支援技術①（ICF）、介護過程の展開	同上
	11	オリエンテーション 講義概要、テキスト・服装・受講上の注意など	同上
	12	生活支援技術①（生活支援の基本原則・ICFの理解）	同上
	13	生活支援技術②（立ち上がり動作介助・移乗介助）	同上
	14	生活支援技術③（環境整備・ベッドシート交換）（排泄介助・オムツ交換）	同上
	15	生活支援技術④（移動介助・車いす介助・杖歩行介助）（点字体験）	同上
	16	介護技術Ⅱまとめ（実技試験）	同上
	テキスト・参考文献・資料など クラスの中で指定する。必要に応じて資料等を配布する。		
	学びの手立て ・日頃から新聞記事やニュースなどでとりあげられる「病気」や「障害」に興味をもち、「介護が必要な状況」について考えること ・多くの視覚教材もあり、学生が主体的に情報収集や資料収集をすることを歓迎する。 ・可能な限り実際の介護現場などでボランティア体験されることを推奨する。 ・何度も繰り返し体験することが技術習得に繋がります。積極的な授業参加を期待します。		
	評価 評価基準として、①平常点50%（出席態度（参加・積極性・意欲などを含む）） ②学びについてのレポート・実技試験50%などを総合的に判断して行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 クラスで学んだことを社会福祉等の実習を通して現場で確認すること。 さらに、専門的な学びを継続し、将来は『福祉・介護』の専門職として従事することを期待する。
-------	---

※ポリシーとの関連性

「家族」を通して人間・社会・文化を考察していき、複眼的にもの
をみる知性・感性を養い、問題解決能力をつける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	家族社会学	前期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-具志堅 邦子	2年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①家族とは何かを考え、②どのようにして現在の家族が生成されたのかを考える。家族とは何かという問いは、家族という構造を明らかにすることである。どのようにして家族が生成されてきたのかをたどることは、家族を生成してきたものの構造を明らかにすることである。二つの構造を明らかにすることによって、これからの家族と社会の可能性を探る。	学生時代に、家族とは何か、家族するということはどういうことかを考察してみましょう。そのことによって、これからの家族と社会の可能性がみえてきます。
到達目標	近代・宗教・経済・ジェンダー・国民国家・アディクションなどの視点から家族と社会を読み解くことができるようになる。そのうえで、これからの社会と家族のありようをイメージすることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、夢見ることと目覚めること	初回から講義します
	2	贈与交換と貨幣経済と家族	配布資料を熟読すること
	3	子ども中心主義と家族意識の誕生	配布資料を熟読すること
	4	家族とコトバ	配布資料を熟読すること
	5	近代と人口	配布資料を熟読すること
	6	アニメやマンガにみる家族①	配布資料を熟読すること
	7	アニメやマンガにみる家族②	配布資料を熟読すること
	8	アニメやマンガにみる家族③	配布資料を熟読すること
	9	アニメやマンガにみる家族④	配布資料を熟読すること
	10	アディクションと家族	配布資料を熟読すること
	11	位牌継承慣行と家族①	配布資料を熟読すること
	12	位牌継承慣行と家族②	配布資料を熟読すること
	13	守姉がいた時代の家族	配布資料を熟読すること
14	家族と戸籍	配布資料を熟読すること	
15	これからの家族	配布資料を熟読すること	
16	課題かテスト		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定しない。講義に関連する文献は適宜講義内で指示する。また、授業に関連する資料を配布するので、それを参考にすること。講義の理論となっている主な参考文献は次のとおり。①フィリップ・アリエス『「子供」の誕生』（1980年、みすず書房） ②グレゴリー・ベイトソン『精神の生態学』（2000年、新思泉社）</p>		
学びの手立て	<p>現代社会は「大きな物語」が終焉したという前提で講義をすすめていく。毎回の受講の積み重ねが力になる。</p>		
評価	<p>発見だったこと、感じたことなどをリアクション・ペーパー（授業参加度とする）に書いて提出。授業参加度（80%）と課題（20%）で評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>多様な家族のあり方を支援する家族政策・社会政策へ提言できる。そのような活動・研究・臨床の場につながることをのぞむ。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	感情・人格心理学	前期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡 明奈	2年	研究室：5号館534 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 感情および人格に関する、心理学の古典的な理論から現代の最新知見を学び、理解する。	メッセージ 感情とはなにか、人格とはなにかについて、心理学的な視点から一緒に考えてみましょう。
	到達目標 ①感情や人格に関する心理学の代表的な理論や専門用語を理解し、説明できるようになる。 ②日常で見かける人の行動を、感情や人格に関する理論や専門用語を用いて説明できるようになる、	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	オリエンテーションの理解
	2	感情の定義	授業の復習
	3	感情の理論と測定	授業の復習
	4	感情と行動：ポジティブ気分とネガティブ気分の効果	授業の復習
	5	感情制御と文化	授業の復習
	6	感情と精神疾患	授業の復習
	7	感情の失調と感情知性	授業の復習
	8	人格の定義	授業の復習
	9	人格の理論：特性論と類型論	授業の復習
	10	人格の測定	授業の復習
	11	人格の形成	授業の復習
	12	人格と精神疾患	授業の復習
	13	動機付け	授業の復習
	14	感情と人格に関する心理療法	授業の復習
	15	まとめ	授業の復習
	16	期末試験	授業の復習
	テキスト・参考文献・資料など ・教科書は特に指定せず、毎回配布する資料を中心に講義を進めます。		
	学びの手立て ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、遅刻、途中退出等）は控えてください。 ・授業内で分からなかった所は、リアクションペーパーへ遠慮なくご記入ください。次回の授業にて可能な限りフィードバックを行います。		
	評価 ・成績は、授業への参加態度（50%）と学期末試験（50%）で評価します。授業への参加態度は、授業内で行う課題への取り組み具合やリアクションペーパーの内容も評価の対象となります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・社会・集団・家族心理学（社会・集団）や司法・犯罪心理学を合わせて履修すると、さらに学びを深められると思います。
-------	---

※ポリシーとの関連性 日本語のみならず、英語で文献を読むことにより、幅広い教養を身につけてもらう。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語演習 I (基礎)	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-柳田 正豪	3年	ptt511アットマークokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 欧米からきた心理学は、英語でふれることによって、その専門用語、理論、歴史等を理解することができる。	メッセージ 英語で心理関係の文献を読むのは、かなりハードルが高いですが、この授業で読む英文は、英検 2 級程度の単語が多いです。また主な頻出単語・表現を理解すれば、英文理解度も上がります。この授業を履修中に、英検 2 級やTOEICにチャレンジするのも良いかもしれません。
	到達目標 1. 心理系の英単語・表現を学ぶことができる。2. 英文の心理系文献を読む際、学んだ心理系英単語や表現を活かせる。3. 精神疾患やカウンセリングに関しての理解を深めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	米国と日本でのカウンセリングの価値観の違い	配布資料を読む。単語テスト
	2	So you want to become a psychologistを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	3	So you want to become a psychologistを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	4	The Role and Responsibility of Psychologists	配布資料を読む。単語テスト
	5	Projective Tests of Psychologyを読む	配布資料を読む。単語テスト
	6	Objective Tests of Psychologyを読む	配布資料を読む。単語テスト
	7	Abnormal Psychologyを読む	配布資料を読む。単語テスト
	8	Abnormal Psychologyを読む	配布資料を読む。単語テスト
	9	Abnormal Psychologyを読む	配布資料を読む。単語テスト
	10	Obsessive-compulsive disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	11	Obsessive-compulsive disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	12	Anorexia Nervosa/ Bulimia Nervosaを読む	配布資料を読む。単語テスト
	13	Anorexia Nervosa/ Bulimia Nervosaを読む	配布資料を読む。単語テスト
	14	Laughter and Healthを読む	配布資料を読む。単語テスト
	15	Laughter and Healthを読む	配布資料を読む。単語テスト
	16	期末試験	総復習
	テキスト・参考文献・資料など 毎回の授業で資料を配布します。		
	学びの手立て 辞書を毎講義、持参すること。		
	評価 単語テスト・・・30% 課題・・・20% 期末テスト・・・50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 外国語演習 I・II で培った英語文献を読む力と臨床心理学の知識を 3・4 年のゼミで活用してほしい
-------	---

※ポリシーとの関連性 日本語のみならず、英語で文献を読むことにより、幅広い教養を身につけてもらう。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語演習Ⅱ（基礎）	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-柳田 正豪	3年	ptt511アットマークokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 欧米からきた心理学は、英語にふれることによって、その専門用語、理論、歴史等を理解することができる。	メッセージ 英語で心理関係の文献を読むのは、ハードルが高いですが、この授業で読む英文は、英検2級程度の単語が多いです。また主な頻出単語・表現を理解すれば、英文理解度も上がります。この授業を履修中に、英検2級やTOEICにチャレンジするのも良いかもしれません。
	到達目標 1. 心理系の英単語・表現を学ぶことができる。 2. 英文の心理系文献を読む際、学んだ心理系英単語や表現を活かすことができる。 3. 精神疾患やカウンセリングに関する理解を深めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	子どもに見られる精神障害について。	配布資料を読む。
	2	ADHDを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	3	ADHDを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	4	Conduct Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	5	Conduct Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	6	Autistic Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	7	Autistic Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	8	Asperger's Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	9	Asperger's Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	10	Down Syndromeを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	11	Down Syndromeを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	12	Tourette's Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	13	Tourette's Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	14	Tic Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	15	Tic Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	16	期末テスト	総復習
	テキスト・参考文献・資料など 資料は毎授業で配布します。		
	学びの手立て 辞書を毎講義、持参すること。		
	評価 単語テスト・・・30% 課題・・・20% 期末テスト・・・50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 外国語演習Ⅰ・Ⅱで身につけた英語文献を読む力と臨床心理学の知識を、3・4年ゼミで活用してほしい
-------	--

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシー④に関連して、英語で書かれた専門科目の文献を読み、より広い知識を習得すること。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語演習Ⅲ（発展）	前期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大兼 千津子	4年	ptt510@okiu.ac.jpに連絡ください。又は授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 大学院教育に必要なレベルの心理学英語を学ぶ。 英語で書かれた心理学系の記事が読めるようになる。	メッセージ 現場に出て英語の文献を読む機会があります。また、海外の文献を読むことで多くのリソースに触れることが増えます。 卒業後も英語の勉強を続けてほしいです。
	到達目標 本科目を履修することで、心理学英語に親しみ、英語で書かれた心理学の文献をストレスなく読めるようになること。	

学びの準備	到達目標 本科目を履修することで、心理学英語に親しみ、英語で書かれた心理学の文献をストレスなく読めるようになること。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	配布資料の確認および事前学習
	2	心理学系英単語の理解と使用について1	配布資料の確認および事前学習
	3	心理学系英単語の理解と使用について2	配布資料の確認および事前学習
	4	心理学系英単語の理解と使用について3	配布資料の確認および事前学習
	5	心理学系の英語のニュースを読む1 (小テスト1：第2回～4回に関して)	配布資料の確認および事前学習
	6	心理学系の英語のニュースを読む2	配布資料の確認および事前学習
	7	心理学系の英語のニュースを読む3	配布資料の確認および事前学習
	8	心理学系の英語の記事を読む1 (小テスト2：第5回～7回に関して)	配布資料の確認および事前学習
	9	心理学系の英語の記事を読む2	配布資料の確認および事前学習
	10	心理学系の英語の記事を読む3	配布資料の確認および事前学習
	11	心理学系の英語の記事を読む4	配布資料の確認および事前学習
	12	心理学系の英語の論文を読む1 (小テスト3：第8回～11回に関して)	配布資料の確認および事前学習
	13	心理学系の英語の論文を読む2	配布資料の確認および事前学習
	14	心理学系の英語の論文を読む3	配布資料の確認および事前学習
	15	心理学系の英語の論文を読む4	配布資料の確認および事前学習
16	まとめ (小テスト4：第12回～15回に関して)	配布資料の確認および事前学習	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。
-------	---

学びの実践	学びの手立て ①履修の心構え 配布資料を熟読すること。 ②学びを深めるために簡単な英文を読んでみる。 英語で書かれた興味のある分野（心理学）を読んでみる。
-------	---

学びの実践	評価 宿題形式小テスト4回（各小テスト25%×4回） ※小テストは、学んだものを確認することを目的としたものです。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 外国語演習Ⅳで英語の力を深めてみよう。
-------	------------------------------------

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシー④に関連して、英語で書かれた専門科目の文献を読み、より広い知識を習得すること。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語演習Ⅳ（発展）	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大兼 千津子	4年	ptt510@okiu.ac.jpに連絡ください。又は授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 大学院進学を視野に入れ、英語で書かれた専門科目の文献が読めるようになる。 グローバルな観点で英語圏の文献やサイトが読めるようになる。	メッセージ 現場に出て英語の文献を読む機会があります。また、海外の文献を読むことで多くのリソースに触れることが増えます。 卒業後も英語の勉強を続けてほしいです。
	到達目標 本科目を履修することで、英語の文献および心理学専門機関のサイトを読む力をつける。 英論文のAbstractが書けるようになる。APAスタイルに則った英作文が書けるようになる。	

学びの準備	到達目標 本科目を履修することで、英語の文献および心理学専門機関のサイトを読む力をつける。 英論文のAbstractが書けるようになる。APAスタイルに則った英作文が書けるようになる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	配布資料の確認および事前学習
	2	心理学系の論文の単語等について（APAスタイル）1	配布資料の確認および事前学習
	3	心理学系の論文の単語等について（APAスタイル）2	配布資料の確認および事前学習
	4	心理学系の論文の単語等について（APAスタイル）3	配布資料の確認および事前学習
	5	心理学系英作文1（小テスト1：第2回～4回に関して）	配布資料の確認および事前学習
	6	心理学系英作文2	配布資料の確認および事前学習
	7	心理学系英作文3	配布資料の確認および事前学習
	8	心理学系の英語の論文を読む1（小テスト2：第5回～7回に関して）	配布資料の確認および事前学習
	9	心理学系の英語の論文を読む2	配布資料の確認および事前学習
	10	心理学系の英語の論文を読む3	配布資料の確認および事前学習
	11	心理学系の英語の論文を読む4	配布資料の確認および事前学習
	12	Abstractの翻訳1（小テスト3：第8回～11回に関して）	配布資料の確認および事前学習
	13	Abstractの翻訳2	配布資料の確認および事前学習
	14	Abstractの作成（APAスタイル）1	配布資料の確認および事前学習
	15	Abstractの作成（APAスタイル）2	配布資料の確認および事前学習
16	まとめ（小テスト4：第12回～15回に関して）	配布資料の確認および事前学習	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。
-------	---

学びの実践	学びの手立て ①履修の心構え 配布資料を熟読すること。 ②学びを深めるために 英語で書かれた興味のある分野（心理学）を読んでみること。 簡単な英作文から書いてみること。
-------	---

学びの実践	評価 宿題形式小テスト4回（各小テスト25%×4回） ※小テストは、学んだものを確認することを目的としたものです。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業後も英語の文献や関連サイトを読み続けましょう。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	学習・言語心理学	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-遠藤 直子	2年	講義の前か後に教室にて。 または ptt234あつとまあく okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>学習とは、経験によって生ずる比較的永続的な行動の基礎過程の変化である。本講義では、生得的行動と学習行動との関係を押さえた上で、馴化、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習について、それぞれの基本原理および日常生活や臨床への応用、近年の理論的展開について概説する。また、学習と関連の深い言語についても、その獲得と発達過程について概説する。</p>	<p>何気なく行っている日常の行動も、学習原理を当てはめて説明できることがたくさんあります。原理を知ることによって、私たちの行動を学習心理学的な観点から理解することができます。自分でも日常例など考えながら積極的に講義に参加しよう。また言語についても学び、言語がヒトの行動や心にどう関わるか、興味と理解を深めよう。</p>
到達目標	<p>①学習の基本原理や関連する概念について十分に理解し、説明できるようにする。 ②学習研究の現在の動向や臨床への応用について興味や理解を深める。 ③日常の行動について、学習原理を用いて説明できるようにする。 ④言語の獲得と発達過程について理解する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス / 学習とは	講義概要の確認
	2	学習の様々なタイプ	資料の見直し、復習テストを解く
	3	馴化とその応用	資料の見直し、復習テストを解く
	4	古典的条件づけの基本原理	資料の見直し、復習テストを解く
	5	古典的条件づけの臨床への応用	資料の見直し、復習テストを解く
	6	古典的条件づけにおける近年の理論的展開	資料の見直し、課題に取り組む
	7	オペラント条件づけの基本原理	資料の見直し、復習テストを解く
	8	強化スケジュール	資料の見直し、復習テストを解く
	9	回避と罰	資料の見直し、復習テストを解く
	10	オペラント条件づけの臨床への応用	資料の見直し、復習テストを解く
	11	オペラント条件づけにおける近年の理論的展開	資料の見直し、復習テストを解く
	12	模倣理論および認知的発達などに及ぼす観察学習の影響	資料の見直し、復習テストを解く
	13	観察学習の臨床への応用	資料の見直し、課題に取り組む
	14	言語の獲得と発達	資料の見直し、復習テストを解く
15	言語と思考	資料及び復習テスト全体の見直し	
16	期末テスト	講義内容の総復習	

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは使用しない。講義毎に資料を配付する。 指定図書①「メイザーの学習と行動」ジェームズ・E・メイザー著、磯博行/坂上貴之/川合伸幸訳、二瓶社 指定図書②「学習・言語心理学」楠見孝編、遠見書房。その他、参考図書は適宜紹介する。</p>
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>授業は対面で行います。資料およびその回の復習テストを配布するので学習の助けにしてください。講義終了後にリアクションペーパーを提出してもらいます（質問や感想等を記入）。次回の講義時に皆さんのコメントをいくつかピックアップして解説します。質問は講義時間内にも随時受け付けますが、自分でも調べたり日常例を考えてみたりして、積極的に参加しましょう。</p>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>受講態度（10点。主にリアクションペーパーの内容で評価します）、期末試験（50点）とレポート2本（20点×2＝40点）の合計で評価します。 レポートの詳細については講義内で説明。なお、出席日数が2/3に満たない場合は単位を与えません。</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学概論、知覚・認知心理学などの内容と関連づけながら履修するとよい。次のステージ：引き続き、学習・言語心理学で学んだ知識と結びつけながら、心理学の専門分野を広く履修し、また学習原理を用いて日常の行動を分析してみる習慣を継続しよう。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

社会福祉に関する問題がまずどのようなことがあるかを認識し、対応を考えるための最初の段階を行える場としたい。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習	後期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド クレイグ ウィルコックス	1年	E-mail : d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい 社会福祉の幅広い分野の論文に触れ、論文の読み方、構成、パワーポイント作成、プレゼンテーション技術等、2年次の専門演習へつながる基本の知識・技術を学ぶことを目的とする。	メッセージ 「フレッシュマンセミナー」での学びをベースに、国際協力への参加や社会人講師の講演等から自分が興味のある社会福祉分野を検索し、より深く学ぶための考え方・知識・技術を身につけましょう。
	到達目標 パソコンの準備・接続が出来るようになる。 個人・グループでのプレゼンテーションが出来るようになる。 センテンス・段落を意識した作文が出来るようになる。 提出課題のデータに適切なファイル名をつけて提出するようになる。 ポータルサイトを活用した課題提出が出来るようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) オリエンテーション	大学生活のデザインを考える
	2	(特) 合同ゼミ (専門演習の説明)	各専門演習ゼミ内容の確認
	3	(特) 合同ゼミ (専門演習の説明)	各専門演習ゼミ内容の確認
	4	(特) 合同ゼミ (専門演習の説明)	各専門演習ゼミ内容の確認
	5	(特) JICAについて	JICAについて調べる
	6	(特) 合同ゼミ (学生支援室概要/海外福祉演習の説明他)	合同ゼミの内容を確認
	7	(特) 合同ゼミ (キャンパス相談室紹介他)	合同ゼミの内容を確認
	8	(特) 文献を使いこなす、文献の探し方	配付資料の精読
9	(特) 研修論文の読み方	配付資料の精読	
10	(特) 発表準備	発表資料作成	
11	(特) 発表準備	発表資料作成	
12	(特) グループ発表	配付資料の精読・発表資料作成	
13	(特) グループ発表	配付資料の精読・発表資料作成	
14	(特) グループ発表	配付資料の精読・発表資料作成	
15	(特) 講義全体の振り返り	1年を通しての反省を考える	
16	(特) まとめ	全体を通してまとめを考える	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト「よくわかる学びの技法」ミネルヴァ書房 を使用しながら講義を進めていく。 必要に応じて、資料を紹介・配付する。		
	学びの手立て 演習においては、指示された資料等については事前に読んでおくこと。 グループでの発表も予定しているので他学生との交流も積極的に行い、意見交換等を行うのが望ましい。		
	評価 授業参加度(50%)、発表・提出物の状況(40%)、その他(10%)として評価を行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 この講義を終えると次は「専門演習 a」につながります。「専門演習 a」では、各自の興味のある先生のゼミの元で学びを深めていくこととなります。1年次では「社会福祉の基礎」も同時に履修しどの福祉分野を学びたいかを判断してください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富 郁哉	1年	教員メール(i.ashitomi@okiu.ac.jp)あるいは、ゼミ室で随時回答する。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	フレッシュマンセミナーとの連動により、大学4年間で何をどのように学ばよいか(学びの意義)、また、自分で考えて問題を解決する力を身につけることを目標とする。	4年間の大学生活に向けて、基本的な「アカデミック・スキルズ」を身につけ、また、発表力(プレゼンテーション能力)を向上させる。

到達目標
①大学でのまなびの意義と自分の進むべき道を考える②アカデミック・スキルズ(レポートの書き方、パソコンの利用、その他マルチメディア(インターネットを中心として)等を身につける。③発表力を培う(パワーポイントを使用した発表)④遠隔授業ツール(Teams)の基本的な操作ができるの4点を到達目標とする。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	グループエンカウンター①仲良くなろう②だれとでも話せるようになる。	コミュニケーションスキル①
	3	グループエンカウンター③グループで取り組む協働性を養う。	コミュニケーションスキル②
	4	話題提供認知症①	認知症について：概要
	5	認知症について発表①PP	認知症について：医学的側面
	6	認知症について発表②PP	認知症について：予防
	7	認知症について発表③PP	認知症について：介護
	8	認知症カフェ発表①PP	認知症カフェ：概要
	9	認知症カフェ発表②PP	認知症カフェ：開設
	10	認知症カフェ発表③PP	認知症カフェ：全国開設の状況
	11	認知症カフェ発表④PP	認知症カフェ：沖縄開設の状況
	12	認知症カフェ⑤社会人講師招へい 予定	宜野湾市認知症カフェ
	13	わが街の認知症カフェ	住んでる街のカフェを調べる
	14	私がカフェ開設者だったら・・・①	カフェのアイディア
15	私がカフェ開設者だったら・・・②	カフェのアイディア	
16	後期振り返り	ゼミ活動についての振り返り	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストについては特に指定しないが、必要に応じて随時資料の配布と参考書等の紹介を行う。
-------	---

学びの手立て	与えられた課題等については、積極的に、また、真摯に取り組み、客観的なレポートが問題なく書けるようになる。
--------	--

評価	ゼミ形式で行われる「基礎演習」については、授業への参加度(30%)、課題等提出状況(30%)、発表力(プレゼンテーション力・まとめ方)(40%)で評価する。但し、授業(ゼミ)参加は単位付与の前提条件であるため、出席時数が3分の2に満たない者は「不可」とする。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 2年生以降の、専門演習・卒業演習では、8,000文字、16,000文字の論文の提出が課せられることになるため、本フレッシュマンセミナー及び基礎演習ではレポートの書き方、まとめ方を十分に理解し、執筆要領に慣れておく必要がある。
-------	---

※ポリシーとの関連性

社会福祉に関する基礎を実践的に学習すること。個別での学習のみならず、グループ等での学習成果の発表を行う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	1年	講義終了後あるいはメール等でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習（桃原ゼミ）では、前期の「フレッシュマンセミナー」で学んだ「聞く力」に続き、学士力（ジェネリックスキル）を身につけるための共同学習を行う。学士力において重要なキーワードとなるのが「リサーチリテラシー」（研究のための基礎力）であり、それは聞く力のほかに課題発見力、情報収集力、情報整理力、読む力、データ分析力、書く力、プレゼンテーション力が鍵となる。	1年次の後期は、前期で身につけたコミュニケーション技能とグループでの学習・討論の姿勢をいかして、社会福祉に関する基礎的な学習を行います。2年次の専門的な学習や大学生にとっての基本的なスキル（レポートの書き方など）にも関わるので、頑張ってください。
到達目標	学士力（ジェネリックスキル）としての「リサーチリテラシー」（研究のための基礎力）を身につける。聞く力のほかに課題発見力、情報収集力、情報整理力、読む力、データ分析力、書く力、プレゼンテーション力を身につけること。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>基礎演習では、フレッシュマンセミナー（前期）で身につけた学士力およびリサーチリテラシーの柱の一つである聞く力に引き続き、以下の7つのスキル（課題発見力、情報収集力、情報整理力、読む力、データ分析力、書く力、プレゼンテーション力）をグループで共同学習していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①課題発見力：大学生がもっとも苦手になっているが、社会学、心理学、社会福祉学など具体的なものを題材に問いの立て方などのコツを身につけていく。 ②情報収集力：文献検索と収集の方法、図書館の使い方、インターネットの活用法を身につける。 ③情報整理力：書類整理のコツやパソコンを使った情報管理などを身につける。 ④読む力：学術書などの読み方を段階的に学んでいく。 ⑤書く力：レポートや論文の書き方について、問題提起と結論、そして結論を支える理由といった学術的文章の仕組みを意識した書き方を学んでいく。 ⑥データ分析力：データを分析して解釈する手続きを学びつつ、データに騙されないための視点を身につける。 ⑦プレゼンテーション力：自分の考え、意見を人にわかりやすく伝えるための方法を身につける。（発表用のレジメ作成と印刷作業、パワーポイント作成、学務課からPCを借りてプロジェクターのセッティングを行うなどプレゼンの準備等の姿勢も重視する） ⑧大学で学ぶ科目の課題提出方法、特にポータルを活用した提出について理解し、提出できるようになる。 <p>また、基礎演習では10月下旬～11月上旬ごろ、2年次の専門演習に向けたオリエンテーションを予定している。</p>
	テキスト・参考文献・資料など
	適宜資料等を配布し、文献等を紹介する。
学びの手立て	<p>ゼミは前期の「フレッシュマンセミナー」と同じクラスに登録すること。よって無断でクラス（ゼミ）を変更しないこと。</p> <p>個別ゼミ以外の専攻全体のゼミも必ず出席すること。</p> <p>必ず3分の2以上出席すること。無断欠席は認めない。欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。</p> <p>与えられた個別課題（レポート等）、グループ課題（発表作品）には必ず取り組んで、提出・発表すること。</p>
評価	<p>以下の構成で総合的に評価する。平常点（受講姿勢等）が20点、グループ学習および発表の内容・精度が20点、グループおよび個人に課せられた課題の提出状況が60点という構成となる。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：専門演習a</p> <p>次のステージ：</p> <p>1年次では社会福祉や周辺関連分野の学問について基礎的なことを学ぶ。その中から、自己の関心領域を絞り込み、2年次以降の専門領域を確立する。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習	後期	木 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	1年	講義終了後に受け付けます。遠隔授業の時はメールでお願いします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	2年次以降、専門科目を学ぶ上で身につけておくべき知識や技術、姿勢を学びます。主に、発表をする時に行うこと（文献検索、資料収集、レジュメやパワーポイントの作成、資料の印刷、PCやスクリーンの設置方法など）を体験しながら学びます。	専門科目では自身の研究を発表したり他の学生の研究に対して質問したりする場面がたくさんあります。本科目ではその準備をするため、ひとりひとり調べたことを発表します。積極的に取り組みましょう。

到達目標
基礎演習の5クラスの共通目標です。
①ゼミで発表する際に必要なレジュメ、パワーポイントを作成できるようになる。
②パソコンを学務課から借り、プロジェクターのセッティングができるようになる。
③レジュメなどゼミ活動に必要な資料を印刷室で印刷できるようになる。
④レポートの書き方やルールを学ぶ時間を確保し、レポートがスムーズに書けるようになる。
⑤科目の課題の提出方法、特にポータルサイトを活用した提出方法について理解すると共に、提出できるようになる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション ゼミの概要説明	共通課題に関する配布資料①復習
	2	講義：個別研究の意義と研究方法	共通課題に関する配布資料②復習
	3	講義：レジュメとパワーポイントの作成方法	パワーポイントを各自作成
	4	面談：個別研究のテーマ設定①	レジュメを各自作成
	5	面談：個別研究のテーマ設定②	面談を参考に発表準備をする
	6	専門演習について理解する～上級生との交流	面談を参考に発表準備をする
	7	個別発表①	発表者のテーマについて感想まとめ
	8	個別発表②	発表者のテーマについて感想まとめ
	9	個別発表③	発表者のテーマについて感想まとめ
	10	個別発表④	発表者のテーマについて感想まとめ
	11	個別発表⑤	発表者のテーマについて感想まとめ
	12	個別発表⑥	発表者のテーマについて感想まとめ
	13	個別発表⑦	発表者のテーマについて感想まとめ
	14	個別発表⑧	発表者のテーマについて感想まとめ
15	まとめ①	演習テーマについてレポート	
16	まとめ②	演習振り返り	

テキスト・参考文献・資料など
講義時に随時紹介します。指定の教科書はありません。

学びの手立て
①履修の心構え：演習科目は学生の主体性が不可欠です。積極的に活動に参加しましょう。
②学びを深めるために：受講にあたっては講義終了後に振り返りをしっかりしていきましょう。また、講演会や研修に積極的に参加しましょう。

評価
個別研究発表内容（50%）、演習参加状況（50%）

学びの継続
次のステージ・関連科目
①次のステージ：専門の勉強をする際にフレッシュマンセミナーで学んだことを活かしていきましょう。
②関連科目：1年次が履修できる社会福祉専攻の専門科目

※ポリシーとの関連性

社会福祉に関する問題がまずどのようなことがあるかを認識し、対応を考えるための最初の段階を行える場としたい。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド クレイグ ウィルコックス	1年	Email:d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	社会福祉の幅広い分野の論文に触れ、論文の読み方、構成、パワーポイント作成、プレゼンテーション技術等、2年次の専門演習へつなげる基本の知識・技術を学ぶことを目的とする。	「フレッシュマンセミナー」での学びをベースに、国際協力への参加や社会人講師の講演等から自分が興味のある社会福祉分野を探索し、より深く学ぶための考え方・知識・技術を身につけよう。

到達目標	<p>パソコンの準備・接続が出来るようになる。</p> <p>個人・グループでのプレゼンテーションが出来るようになる。</p> <p>センテンス・段落を意識した作文が出来るようになる。</p> <p>提出課題のデータに適切なファイル名をつけて提出出来るようになる。</p> <p>ポータルサイトを活用した課題提出が出来るようになる。</p>
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	大学生活のデザインを考える
	2	文献を使いこなす、文献の探し方	配付資料の精読
	3	レポートを書く技術	配付資料の精読
	4	社会人講師による講演（予定）	公演後の感想をまとめる
	5	合同ゼミ（予定）	合同ゼミの内容を確認
	6	国際理解と国際福祉の紹介	国際福祉や国際状況について調べる
	7	JICAについて	JICAについて調べる
	8	専門演習について	国際福祉について調べる
	9	研修論文の読み方1	配付資料の精読
	10	研究論文の読み方2	配付資料の精読
	11	グループ発表	配付資料の精読・発表資料作成
	12	グループ発表	配付資料の精読・発表資料作成
	13	グループ発表	配付資料の精読・発表資料作成
14	グループ発表についての振り返り	配付資料の精読・発表資料作成	
15	講義全体の振り返り	後期を通しての反省を考える	
16	まとめ	全体を通して何をするか考える	
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト「よくわかる学びの技法」ミネルヴァ書房 を使用しながら講義を進めていく。必要に応じて、資料を紹介・配付する。		
	学びの手立て		
	演習においては、指示された資料等については事前に読んでおくこと。グループでの発表も予定しているので他学生との交流も積極的に行い、意見交換等を行うのが望ましい。		
	評価		
	授業参加度（50%）、発表・提出物の状況（40%）、その他（10%）として評価を行う。		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この講義を終えると次は「専門演習 a」につながります。「専門演習 a」では、各自の興味のある先生のゼミの元で学びを深めていくことになります。1年次では「社会福祉の基礎」も同時に履修しどの福祉分野を学びたいかを判断してください。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習A	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃	1年	研究室：5-431 e-mail：mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。	メッセージ 大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力はどの社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。
	到達目標 ①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。 ②必要な情報・文献を図書館で入手できる。 ③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。 ④相手に伝わるレジメが作れる。 ⑤相手に伝わる発表ができる。 ⑥他者と協働して課題を進めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	全体オリエンテーション・就学/登録に関する諸注意	履修ガイドを読む・配布資料を読む
	2	各ゼミでの顔合わせ・ゼミメンバー交流	ミニレポート
	3	ゼミグループワーク	ミニレポート
	4	遠隔授業の受講の仕方	配布資料の復習
	5	ライティングスキル①（事実と考えを分けた記述/要約・段落構成）	ライティング課題
	6	ライティングスキル②（Eメールの使い方と基本マナー）	ライティング課題
	7	図書館オリエンテーション	文献検索課題
	8	ライティングスキル①②のフィードバックと解説	ライティング課題の見直し
9	ライティングスキル③（読み手の視点に立つ）	ライティング課題	
10	ライティングスキル④（要約とレジメの作り方）	ライティング課題	
11	ライティングスキル③④のフィードバックと解説/レポートの書き方①（テーマの絞り方）	ライティング課題の見直し	
12	図書館心理学関連書架見学ツアー	文献検索課題	
13	レポートの書き方②（文章の構成）	ライティング課題	
14	レポートの書き方③（論の展開と結び）	ライティング課題	
15	レポートの書き方フィードバックと図書紹介課題	ライティング課題の見直し	
16	予備日	前期の総復習・図書紹介課題	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストはとくに指定しない。 参考図書は適宜紹介する。		
	学びの手立て まずは積極的にゼミのメンバーと交流してほしい。課題は目的を持って出題されているので、必ず毎回提出すること。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションでお互いに意見を述べ合うことは、個人を非難、攻撃することとは異なる。共通の課題解決のために意見を交換しているという視点を大切にする。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすこと。困ったことや分からないことはアカデミックアドバイザー（担当教員）/SA(教育支援者の先輩)に遠慮なく相談すること。		
	評価 平常点（演習参加の態度、提出期限）…30点 ライティング課題…40点 最終レポート内容…30点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：基礎演習Aで学んだことを、「基礎演習B」で応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。 次へのステージ：共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習A	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡 明奈	1年	研究室：5-534研究室 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。</p> <p>到達目標</p> <p>①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。 ②必要な情報・文献を図書館で入手できる。 ③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。 ④相手に伝わるレジメが作れる。 ⑤相手に伝わる発表ができる。 ⑥他者と協働して課題を進めることができる。</p>	<p>大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力はどの社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	全体オリエンテーション・就学/登録に関する諸注意	履修ガイドを読む
	2	各ゼミでの顔合わせ・ゼミメンバー交流	ミニレポート
	3	ゼミグループワーク	ミニレポート
	4	遠隔授業の受講の仕方	配布資料の復習
	5	ライティング課題①（事実と考えを分けた記述/要約・段落構成）	ライティング課題
	6	ライティング課題②（Eメールの使い方とマナー）	ライティング課題
	7	図書館オリエンテーション	文献検索課題
8	ライティング課題①②のフィードバックと解説	ライティング課題の見直し	
9	ライティング課題③（読み手の視点に立つ）	ライティング課題	
10	ライティング課題④（要約とレジメの作り方）	ライティング課題	
11	ライティング課題③④のフィードバックと解説/レポートの書き方①（テーマの絞り方）	ライティング課題の見直し	
12	図書館心理学関連書架見学ツアー	文献検索課題	
13	レポートの書き方②（文章の構成）	ライティング課題	
14	レポートの書き方③（論の展開と結び）	ライティング課題	
15	レポートの書き方フィードバックと図書紹介課題	ライティング課題の見直し	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストはとくに指定しない。 参考図書は適宜紹介する。		
	学びの手立て		
	まずは積極的にゼミのメンバーと交流してほしい。課題は目的を持って出題されているので、必ず毎回提出すること。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションでお互いに意見を述べ合うことは、個人を非難、攻撃することとは異なる。共通の課題解決のために意見を交換しているという視点を大切にする。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすこと。困ったことや分からないことはアカデミックアドバイザー（担当教員）/SA(教育支援者の先輩)に遠慮なく相談すること。		
	評価		
	平常点（演習参加の態度、提出期限）…30点 ライティング課題…40点 最終レポート内容…30点		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目：基礎演習Aで学んだことを、「基礎演習B」で応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。 次へのステージ：共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習A	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	1年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。</p> <p>到達目標 ①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。②必要な情報・文献を図書館で入手できる。③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。④相手に伝わるレジメが作ることができる。⑤相手に伝わる発表ができる。⑥他者と協働して課題を進めることができる。</p>	<p>大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力は社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・就学/登録に関する諸注意	履修ガイド・配布資料を読む
	2	各ゼミでの顔合わせ・ゼミメンバー交流	ミニレポート
	3	ゼミグループワーク	ミニレポート
	4	遠隔授業の受講の仕方	配布資料の復習
	5	ライティング課題①（事実と考えを分けた記述/要約・段落構成）	ライティング課題
	6	ライティング課題②（Eメールの使い方とマナー）	ライティング課題
	7	図書館オリエンテーション	文献検索課題
8	ライティング課題①②のフィードバックと解説	ライティング課題の見直し	
9	ライティング課題③（読み手の視点に立つ）	ライティング課題	
10	ライティング課題④（要約とレジメの作り方）	ライティング課題	
11	ライティング課題③④のフィードバックと解説/レポートの書き方①（テーマの絞り方）	ライティング課題の見直し	
12	図書館心理学関連書架見学ツアー	文献検索課題	
13	レポートの書き方②（文章の構成）	ライティング課題	
14	レポートの書き方③（論の展開と結び）	ライティング課題	
15	レポートの書き方フィードバックと図書紹介課題	ライティング課題の見直し	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストは特に指定しない。 参考図書は適宜紹介する。		
	学びの手立て		
	まずは積極的にゼミのメンバーと交流してほしい。課題は目的を持って出題されているので、必ず毎回提出すること。一つ一つのプログラムや課題は大学生活で学ぶ重要なスキルを身につけるものであるため、他の講義や大学生生活の様々な場面で、学んだことを応用して活かしてほしい。 困ったことや分からないことはアカデミックアドバイザー（担当教員）/SA(教育支援者の先輩)に遠慮なく相談すること。		
	評価		
	平常点（演習参加の態度、提出期限）…30点 ライティング課題…40点 最終レポート内容…30点		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	基礎演習Aで学んだことを、「基礎演習B」で応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。 共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習B	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃	1年	研究室：5-431 e-mail：mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。</p>	<p>大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力はどの社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。</p>

到達目標
①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。
②必要な情報・文献を図書館で入手できる。
③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。
④相手に伝わるレジメが作れる。
⑤相手に伝わる発表ができる。
⑥他者と協働して課題を進めることができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	心理学用語調べPart I：調べ学習（理論から日常）の課題説明など	グループミーティング・資料作成
	2	図書紹介3分プレゼンテーション	ミニレポート
	3	心理学用語調べPart I：調べ学習・ミーティング	グループミーティング・発表準備
	4	心理学用語調べPart I：発表会①	ミニレポート
	5	心理学用語調べPart I：発表会②	ミニレポート
	6	心理学用語調べPart II：課題の説明（日常から理論）の課題説明など	グループミーティング・資料作成
	7	心理学用語調べPart II：調べ学習・ミーティング	グループミーティング・発表準備
	8	心理学用語調べPart II：発表会①	ミニレポート
	9	心理学用語調べPart II：発表会②	ミニレポート
	10	ライティングスキル⑦（図表を読み取る 基礎）	ライティング課題
	11	ライティングスキル⑧（図表を読み取る 発展）	ライティング課題
	12	ライティングスキル⑧（図表を読み取る 発展）の解説	ミニレポート
	13	ボランティア報告会①	ミニレポート
	14	グループワーク／社会人OBOGへの質問（一般企業職）	ライティング課題見直し
15	ボランティア報告会②／社会人OBOGへの質問（一般企業職）／まとめ	ミニレポート	
16	予備日	後期の学習内容の総復習	

テキスト・参考文献・資料など
テキストは、特に指定しない。 参考文献は、講義時に適宜紹介する。

学びの手立て
<p>基礎演習Aで学んだことを振り返り、応用することが大事。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションで互いに意見を述べ合うことは、個人を非難、攻撃することとは異なる。共通の課題解決のために意見を交換しているという視点を大切にする。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすこと。困ったことや分からないことはアカデミックアドバイザー（担当教員）/SA(教育支援者の先輩)に遠慮なく相談すること。</p>

評価
<p>平常点（演習参加の態度、課題の提出状況）…40点 発表…30点 ライティング課題内容・ミニレポート内容…30点</p>

学びの継続
<p>次のステージ・関連科目</p> <p>基礎演習A・Bで学んだことを、「心理学基礎演習A・B」のより専門的な内容（心理学の各研究法）の学びを通して応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。 共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習B	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡 明奈	1年	研究室：5-534研究室 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。	メッセージ 大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力はどの社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。
	到達目標 ①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。 ②必要な情報・文献を図書館で入手できる。 ③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。 ④相手に伝わるレジメが作れる。 ⑤相手に伝わる発表ができる。 ⑥他者と協働して課題を進めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	心理学用語調べPart I (理論から日常) : 課題の説明など	グループミーティング・資料作成
	2	図書紹介3分プレゼンテーション	ミニレポート
	3	心理学用語調べPart I : 調べ学習・ミーティング	グループミーティング・発表準備
	4	心理学用語調べPart I : 発表会①	ミニレポート
	5	心理学用語調べPart I : 発表会②	ミニレポート
	6	心理学用語調べPart II (日常から理論) : 課題の説明など	グループミーティング・資料作成
	7	心理学用語調べPart II : 調べ学習・ミーティング	グループミーティング・発表準備
	8	心理学用語調べPart II : 発表会①	ミニレポート
9	心理学用語調べPart II : 発表会②	ミニレポート	
10	ライティングスキル⑦ (図表を読み取る 基礎)	ライティング課題	
11	ライティングスキル⑦の解説/ライティングスキル⑧ (図表を読み取る 発展)	ライティング課題	
12	ライティングスキル⑧ (図表を読み取る 発展) の解説	ミニレポート	
13	ボランティア報告会①	ミニレポート	
14	グループワーク/社会人OBOGへの質問 (一般企業職)	ライティング課題見直し	
15	ボランティア報告会②/社会人OBOGへの質問 (一般企業職) /まとめ	ミニレポート	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは、特に指定しない。 参考文献は、講義時に適宜紹介する。		
	学びの手立て 基礎演習Aで学んだことを振り返り、応用することが大事。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションで互いに意見を述べ合うことは、個人を非難、攻撃することとは異なる。共通の課題解決のために意見を交換しているという視点を大切にする。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすこと。困ったことや分からないことはアカデミックアドバイザー (担当教員) /SA (教育支援者の先輩) に遠慮なく相談すること。		
	評価 平常点 (演習参加の態度、課題の提出状況) …40点 発表…30点 ミニレポート内容・課題内容…30点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習A・Bで学んだことを、「心理学基礎演習A・B」のより専門的な内容 (心理学の各研究法) の学びを通して応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。 共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習B	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	1年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。</p> <p>到達目標 ①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。②必要な情報・文献を図書館で入手できる。③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。④相手に伝わるレジメが作れる。⑤相手に伝わる発表ができる。⑥他者と協働して課題を進めることができる。</p>	<p>大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力は社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	心理学用語調べPart I (理論から日常) : 課題の説明など	グループミーティング・資料作成
	2	図書紹介3分プレゼンテーション	ミニレポート
	3	心理学用語調べPart I : 調べ学習・ミーティング	グループミーティング・発表準備
	4	心理学用語調べPart I : 発表会①	ミニレポート
	5	心理学用語調べPart I : 発表会②	ミニレポート
	6	心理学用語調べPart II (日常から理論) : 課題の説明など	グループミーティング・資料作成
	7	心理学用語調べPart II : 調べ学習・ミーティング	グループミーティング・発表準備
8	心理学用語調べPart II : 発表会①	ミニレポート	
9	心理学用語調べPart II : 発表会②	ミニレポート	
10	ライティングスキル⑦ (図表を読み取る 基礎)	ライティング課題	
11	ライティングスキル⑦の解説/ライティングスキル⑧ (図表を読み取る 発展)	ライティング課題	
12	ライティングスキル⑧ (図表を読み取る 発展) の解説	ミニレポート	
13	ボランティア報告会①	ミニレポート	
14	グループワーク/社会人OBOGへの質問 (一般企業職)	ライティング課題の見直し	
15	ボランティア報告会②/社会人OBOGへの質問 (一般企業職) /まとめ	ミニレポート	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など 適宜、紹介する。 参考図書は適宜紹介する。		
	<p>学びの手立て</p> <p>基礎演習Aで学んだことを振り返り、応用することが大事。課題は目的を持って出題されているので、必ず毎回提出すること。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションでは、積極的に議論をすること。共通の課題解決のために意見を交換しているという視点を大切に。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすこと。困ったことや分からないことはアカデミックアドバイザー (担当教員) /SA(教育支援者の先輩) に遠慮なく相談すること。後半は2限の「キャリア心理学入門」と関連するプログラム内容になっている。</p>		
	<p>評価</p> <p>平常点 (演習参加の態度、課題の提出状況) …40点 発表…30点 ミニレポート内容・課題内容…30点</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>基礎演習A・Bで学んだことを、「心理学基礎演習A・B」のより専門的な内容 (心理学の各研究法) の学びを通して応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。 共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	キャリア心理学応用 (リテラシー)	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-鮫島 智行	3年	ptt1175@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ビジネスの現場で求められるスキルを知ることによって今後の学業に役立つ基礎力を習得するとともに、企業における採用活動の実情や就職を取り巻く状況の動向を理解し、具体的な就職活動の準備を進められるようになること。</p> <p>到達目標</p> <p>①大学での学びを自らのキャリア形成に意味づけることができる ②社会で求められる基礎能力について理解し、それを向上させる手立てがわかる ③キャリア計画を立て、就職活動の方針を検討できる</p>	<p>心理学での学び、大学生活での様々な経験は、心理の専門職だけでなく、どのような進路に進んでも活かされます。この講義では、学びとキャリアのビジョンを描き、それらをあなたの「生き方」と仕事へ結びつけます。</p> <p>※全15回を対面授業で行う予定。ただし、コロナの状況などにより、遠隔授業に変更する可能性もあります。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	組み立てる力① (ビジネスの現場におけるロジック、様々なロジック)	演習の復習
	2	組み立てる力② (ロジックの構成法、実務に役立つロジック)	演習の復習
	3	伝える力① (仕事におけるプレゼンの機会、プレゼンの構成)	演習の復習
	4	伝える力② (図解のノウハウ、トークのポイント)	演習の復習
	5	主な業界と職種の動向 (主な業界と職種の最新動向、注意を要する業界と職種)	リフレクションシート
	6	キャリアパスの検討 (どんな将来を望むのか? 希望をかなえるキャリアとは?)	リフレクションシート
	7	志向性と仕事選び (自分のタイプと志向性、業界や職種との相性)	リフレクションシート
	8	就活メディアの活用法 (就活メディアとは? 情報の読み取り方、注意点)	リフレクションシート
	9	その他情報の収集法 (有効な情報、企業のサイトや発行物、各種メディア)	リフレクションシート
	10	ドメインの設定 (狙うべきドメイン「領域」の検討、優先順位の考え方)	リフレクションシート
	11	採用の実際 (採用の計画と過程、評価と合否判定、企業はどこを見ているのか?)	リフレクションシート
	12	説明会と応募 (企業にとっての説明会、エントリーシートと履歴書のポイント)	リフレクションシート
	13	筆記試験 (筆記試験の意義、一般教養と基礎学力、その他の試験)	リフレクションシート
	14	面接と実技 (面接の目的と構成、評価のポイント、身だしなみと立ち居振る舞い)	リフレクションシート
15	就職活動のポイント (活動計画、様々な状況に対応する戦略、全般に関する注意点)	リフレクションシート	
16	予備日		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキストは特に指定しない。毎回の配布資料をファイリングすること。

学びの手立て	<p>就職活動が近付いた3年次は、キャリアや就職に関する実践力を身に付ける時期です。この講義から就職活動が始まるものと捉え、積極的な質問や発言を求めます。それにより講義はより充実し、受講者全員に、さらに大きな成果をもたらすはず。毎回の講義で、心理学とビジネスやさまざまな仕事との関連、具体的な企業や職種などに関する話題を取り上げます。興味を持った話題について各自で調べたり、実際に出かける、人に会う、やってみるといった体験を機会をつくることで、学習内容をさらに深めることができるでしょう。</p>
--------	--

評価	<p>平常点 (演習参加の態度、リフレクションシート) …50点 最終レポート…50点</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学特論C、インターンシップ、心理ボランティア演習、その他の共通・専門科目 次のステージ：それぞれのキャリア計画に基づき、今後の大学での学びや活動と、就職活動につなげていく。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	キャリア心理学基礎（コンピテンシー）	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史・-鮫島 智行	2年	平山篤史 研究室 : 13-211 E-mail : atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>職業についての理解を深め、ビジネスの現場で求められるスキルを知ること、キャリアデザインの明確化、就職活動の準備、および、今後の学業に役立つ基礎力を習得する。</p>	<p>心理学での学び、大学生活での様々な経験は、心理の専門職だけでなく、どのような進路に進んでも活かすことができます。そのためには主体的な努力や意味付けが大事になってきます。この講義は大学での学びとあなたの「生き方」を結びつけます。</p>
	到達目標	
	<p>①キャリア計画を立てる ②大学での学びを自らのキャリア形成に意味づけることができる ③社会で求められる基礎能力について理解し、それを向上させる手立てがわかる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 心理カウンセリング専攻カリキュラムのキャリア形成での活かし方	
	2	インターンシップで高める社会人基礎能力	リフレクションシート
	3	キャリア支援課の紹介	リフレクションシート
	4	ボランティア活動で高める社会人基礎能力①	リフレクションシート
	5	会社のタイプ（法人の種類などによる違い/規模や歴史による違い/県内企業と県外企業の違い）	リフレクションシート
	6	会社と職種（主な業界の会社/主な業界の職種/新しい業界や職種）	リフレクションシート
	7	会社と仕事の選び方（会社や仕事に何を求めるか？/キャリア形成の戦略/仕事と適正の見極め）	リフレクションシート
	8	読む力①・仕事における文書の色々・言葉の意味と使い分け・ミニ演習	演習の復習
	9	読む力②・キーワードの抽出・文章の読解・ミニ演習	演習の復習
	10	書く力①・ビジネス文書のポイント・簡潔な表現・ミニ演習	演習の復習
	11	書く力②・正確な文章のポイント・要約文の作成法・ミニ演習	演習の復習
	12	数理的な思考力①・ビジネスと仕事と数字・基本的な計算法・ミニ演習	演習の復習
	13	数理的な思考力②・データの扱い方・確率と期待値・ミニ演習	演習の復習
14	心理専門職（公認心理師・臨床心理士）になるために	リフレクションシート	
15	公認心理師・臨床心理士の仕事の実際と専門性	リフレクションシート	
16	ボランティア活動で高める社会人基礎能力②	最終レポート作成	
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストは特に指定しない。毎回の配布資料をファイリングすること。		
	学びの手立て		
	<p>キャリアデザインを明確化し、社会人基礎力を身につけるために、様々な情報を得ることはもちろん大事であるが、様々な人との出会い、経験を通して多くの刺激を受けることも大切である。積極的に様々な活動にチャレンジし、動きながら考えると得られるものは多い。関心のある活動を精力的に取り組み、その活動のキャリアにつながる意味付けを考えてみよう。</p>		
	評価		
	<p>平常点（演習参加の態度、リフレクションシート）…50点 最終レポート…50点</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：キャリア心理学応用、インターンシップ、心理ボランティア演習、その他の共通・専門科目 次のステージ：それぞれのキャリア計画に基づき、今後の大学での学び、活動につなげていく。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名 キャリア心理学入門	期別 後期	曜日・時限 木2	単位 2
	担当者 平山（4回）・鮫島智行（4回）・前堂（4回）・山岡（4回）	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ 平山篤史 研究室 : 13-211 E-mail : atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい キャリア計画を立て、大学での学び・課外活動を効果的に自らのキャリア形成に役立てることを目的とする。	メッセージ 心理学での学び、大学生活での様々な経験は、どのような進路に進んでも活かすことができます。そのためには主体的な努力や意味付けが大事になってきます。この講義は大学での学びとあなたの「生き方」を結びつけます。
	到達目標 ①キャリア計画を立てる ②大学での学びを自らのキャリア形成に意味づけることができる ③今後の履修計画のイメージを明確にする	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション/キャリア形成とは	
	2	専攻のカリキュラム特徴とキャリア形成～3コースと履修計画の説明	
		時間外学習の内容	
	3	大学の機能と大学時代を使ったキャリア形成	キャリア計画を作成
	4	仕事を知る①（仕事と会社）	キャリア計画と履修計画の関連付け
	5	仕事を知る②（働き方と業界）	リフレクションシート
	6	仕事を知る③（色々な職種）	リフレクションシート
	7	仕事を知る④（専門性の活かし方）	リフレクションシート
	8	ボランティアから考えるキャリア形成	リフレクションシート
	9	心理学と職業調べ学習オリエンテーション（心理の専門職）	調べ学習・グループミーティング
	10	調べ学習グループミーティング	調べ学習・グループミーティング
	11	調べ学習事前指導	調べ学習・グループミーティング
	12	発表会①（医療保健・教育・司法矯正）	リフレクションシート
	13	発表会②（福祉・産業労働） / ディスカッション「心理専門職の専門性とやりがいとは」	リフレクションシート
	14	卒業生講話①一般企業	リフレクションシート
	15	卒業生講話②心理専門職	リフレクションシート
	16	予備日	最終レポート
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。毎回の配布資料をファイリングすること。		
	学びの手立て キャリア計画を立てるために、様々な情報を得ることはもちろん大事であるが、様々な人との出会い、経験を通して多くの刺激を受けることが大切である。積極的に様々な活動にチャレンジし、動きながら考えると得られることが多い。		
	評価 平常点（演習参加の態度、発表、リフレクションシート）…75点 最終レポート…25点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：キャリア心理学基礎、キャリア心理学応用、インターンシップ、心理ボランティア演習、その他の共通・専門科目 次のステージ：それぞれのキャリア計画に基づき、今後の大学での学び、活動につなげていく。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育心理学概論	後期	土3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宜保 英理	2年	メールでの受付になりますが、普段は学内不在のため、返信が遅くなることがあります。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「教わる」「学ぶ」という過程は学校のみならず、社会に出てからも多くの人が経験するものです。教育心理学的な観点から個人、集団、社会の理解を深めることで、「教える」「学ぶ」機会に際した時に理論に基づいて分析・実践ができようになることを目指します。	教育にまつわる様々なテーマを取りあげて学びの機会を提供できたらと思います。グループあるいは全体での意見・感想のシェアや学生自身が積極的な参加できる講義を目指したいです。
到達目標	①個人の発達、成長の知識を身につけること ②教育心理学的な視点から個人、集団、社会について理解する ③教育現場だけでなく、生活の中で使える心理学について理解する	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、教育心理学について	シラバスについて確認
	2	発達① 乳幼児期～青年期	発達についての予習
	3	発達② 成人期～老年期	発達についての予習
	4	学習	学習についての予習
	5	記憶	記憶についての復習
	6	パーソナリティ	パーソナリティについて復習
	7	動機付け	動機付け等に関する課題
	8	向社会的行動	社会的行動についての復習
	9	集団	集団についての復習
	10	集団をとりまく諸問題	問題行動の復習
	11	発達障害（知的障害、LD、ADHD、ASD等）	個人理解としての障害を考える
	12	行動分析	問題への対処を考える
	13	評価	評価などの復習
	14	メンタルヘルス	健康についての視点で考える
15	相談	相談、接し方について考える	
16	試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 講義の中で資料を配布します。また、適宜、文献なども紹介します。
-------	---

学びの手立て	教育の視点から心理学の理解を深めることを目的としています。そのため、心理学の基礎となる概論について復習しておくこと、また学校教育や隣接する学校心理学についての知識も役立つと思われます。学校に係るのは児童・生徒だけでなく、保護者や教員等の成人も含まれます。この講義では社会に出てからも心理学を役立ててもらうために成人にも焦点を当てた内容を紹介する予定です。そのため、発達心理学や精神医学的な知識も役立つと思われます。
--------	---

評価	評価は、各回での感想シート60%、期末試験・レポート課題の提出状況40%で行います。課題については講義の中で適宜お伝えします。講義の前半には前回の感想を元にした振り返りを行いますので、遅れないように出席してください。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 【関連科目】学習・言語心理学、発達心理学、教育・学校心理学
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育・学校心理学	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-山本 雅子	2年	授業終了後に教室にて受け付けます	

学びの準備	ねらい 学校教育場面での支援に必要な、基礎的な知識を学ぶとともに、得られた知識を基に事例への応用についても検討したい。	メッセージ 教育・学校現場で役立つ心理学的知識や、現場におけるさまざまなテーマを取り上げ、学びを共に深めたいと思います。状況的に可能であれば、グループディスカッションや積極的な意見交換も行いたいと思っています。
	到達目標 学校教育場面で支援を行うにあたり必要な基礎的な知識としての関係法令、行政の理解、不登校、いじめ、学校コミュニティの緊急支援などについて学ぶ	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスを確認ください
	2	教育における支援：法律	配布資料の確認
	3	教育における支援：行政	配布資料の確認
	4	教育分野における心理的課題	配布資料の確認
	5	教育分野における心理的課題	配布資料の確認
	6	教育分野における心理的課題	同上+中間レポート
	7	学校心理学について（レポート提出）	配布資料の確認
	8	学校心理学について	配布資料の確認
	9	学校コミュニティでの心理支援	配布資料の確認
	10	学校コミュニティでの心理支援	配布資料の確認
	11	学校コミュニティでの心理支援	配布資料の確認
	12	学校コミュニティにおける緊急支援	配布資料の確認
	13	学校コミュニティにおける緊急支援	配布資料の確認
	14	その他知っておくべきこと	配布資料の確認
15	その他知っておくべきこと	配布資料の確認	
16	まとめ（レポート提出）	配布資料の確認+最終レポート	
テキスト・参考文献・資料など テキストは使用せず、適宜資料を配布します。 参考文献については適宜紹介します。			
学びの手立て 心理学の基礎的な知識は本講義において役立ちますので復習しておいてください。また、講義の中で出てきた疑問や興味を活用し、ぜひ積極的にご自身でも学びを深める試みをしてください。			
評価 平常点（授業参加、リフレクションシート、など）…30パーセント 中間・最終レポート…70%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 特に公認心理師を目指す人は、「教育心理学」「学習心理学」も履修してください（本講に含まれない内容があるため）。
-------	--

※ポリシーとの関連性

「課題解決に役立つ傾聴力、共感性、対人援助力を身につけるための実践的な知識と技法を学ぶ専門科目」に相当する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	傾聴トレーニング	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子	3年	5号館424-2研究室 h.imura@okiu.ac.jp (@は半角に直す)	

学びの準備	ねらい この講義では、傾聴に関する基礎的な心理学理論を学ぶとともに、自分の内面を見つめたり、相手の気持ちを理解したりするためのワークを通して、傾聴技法を体験的に学習することを目的とする。	メッセージ キャリア実践心理コース及び心理学専門コースの学生を対象とし、傾聴技法を身につけるためのワークを中心とした講義科目である。毎回少しずつステップアップしながら、実践的なスキルの修得を目指していく。今年度は全日程をオンライン授業で実施する。
	到達目標 傾聴についての心理学的理論を学ぶ。 実践的な傾聴技法を修得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 講義のオリエンテーション	シラバスの理解と課題提出
	2	(特) 援助的なかかわりと応答	動画視聴・資料の復習と課題提出
	3	(特) 相手の話	動画視聴・資料の復習と課題提出
	4	(特) 感情の反射	動画視聴・資料の復習と課題提出
	5	(特) 感情の反射 (2)	動画視聴・資料の復習と課題提出
	6	(特) 話し手の質問の意味	動画視聴・資料の復習と課題提出
	7	(特) 聞き手の質問 (1)	動画視聴・資料の復習と課題提出
	8	(特) 聞き手の質問 (2)	動画視聴・資料の復習と課題提出
	9	(特) ケース理解 (1)	動画視聴・資料の復習と課題提出
	10	(特) ケース理解 (2)	配布資料の復習と課題提出
	11	(特) 援助的傾聴と応答 (1)	動画視聴・資料の復習と課題提出
	12	(特) 話し手への応答と対話分析	動画視聴・資料の復習と課題提出
	13	(特) 聞き手の質問 (3)	動画視聴・資料の復習と課題提出
	14	(特) 聞き手の質問 (4)	動画視聴・資料の復習と課題提出
	15	(特) 援助的傾聴と応答 (2)	総復習・課題提出
	16	学期末試験	試験回答提出
	テキスト・参考文献・資料など 毎回、資料とワークシートを配信する。 重要なポイントについては、動画解説を配信する。 資料配信の都合で、プログラムの順番が変更することもある。		
	学びの手立て 傾聴技法を身につけるため、段階的に講義を積み重ねていくので、毎回各自で配布資料と動画解説を視聴しながら学習を継続して、次回の講義に臨むこと。		
	評価 授業参加 (オンラインでのアクセス) 及び毎回の課題提出状況 (70%)、学期末試験 (30%) を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「臨床心理学概論」が履修済みであることが望ましい。
-------	--

※ポリシーとの関連性

カリキュラム・ポリシー3をふまえ、医療、保健、福祉領域で期待される心理職の役割と求められる知識と技能を理解する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	健康・医療心理学	前期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 貞則	3年	講義終了後に教室で受けつけます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	保健医療領域における心理職は、チーム医療の一員として、多職種とともに活動する役割をもつ。多職種協働で患者などの支援を必要とする人を多角的視点から支援していく中で、心理職は医学・心理学の知識をベースとしたアセスメントと心理支援が求められる。本講義では、保健医療分野で必要となる保健医療制度、医学・心理学的知識及びそれに基づく予防、支援とリハビリテーションを学ぶ。	公認心理師法が施行され、保健医療分野における心理職に対する期待も大きい。保健医療分野で活躍するためには、心理学的知識はもとより医学的知識とその分野で活躍する多職種の理解が必須である。本講義では保健医療分野で求められる知識と心理職の役割を学んでいく。
到達目標	到達目標 ①保健、医療とは何か、またそこに関わる職種を理解する ②保険医療分野で必要となる医学、心理学の知識を理解する ③保健医療分野での心理職に求められる役割を理解する	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	健康心理学オリエンテーション	講義概要の確認と講義内容の復習
	2	保健・医療における法律・制度・倫理	講義内容の復習
	3	保健医療分野に関わる職種及びその役割と多職種協働	同上
	4	予防医学と健康支援①	同上
	5	予防医学と健康支援②	同上
	6	ストレスと心身の疾病とマネジメント①	同上
	7	ストレスと心身の疾病とマネジメント②	同上
	8	ストレスと心身の疾病とマネジメント③	同上
	9	ストレスチェック制度と健康支援	同上
	10	心療内科医療と内科医療における心理社会的支援	同上
	11	精神科領域の心理的支援①	同上
	12	精神科領域の心理的支援②	同上
	13	精神科領域の心理的支援③	同上
	14	周産期医療と心理社会的支援	同上
15	緩和医療と心理的支援及び災害支援と心理的支援	同上	
16	期末試験	同上	

テキスト・参考文献・資料など
 講義ごとに資料を配布する。学びを深めるために以下の参考図書を参照すること。
【参考図書】
 健康・医療心理学 宮脇 稔 編他 医歯薬出版株式会社
 公認心理師分野別テキスト 保健医療分野 理論と支援の展開 津川律子編著他 創元社
 今日から実践 日常診療に役立つ行動医学・心身医学アプローチ 吉内一浩 編 医歯薬出版株式会社
 地域リハビリテーション学 第2版 重森健太 編他 羊土社

学びの手立て
 「学びを深めるために」
 ①配布資料をもとに講義を行うため講義後は、資料をもとにポイントを復習する。
 ②毎回、講義前または講義後に小テストを行い理解度を確認する。
 ③小テストにおいて理解が不足している部分は、再度復習を行い確認する。

評価
 成績は、講義前または講義後の小テスト(30%)及び期末試験(70%)の結果にて評価

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 関連科目：社会・集団・家族心理学、心理学理論と心理的支援、心理検査、ストレスマネジメント、行動療法、精神医学など
 次のステージ：本講義で学んだ各分野での心理職の役割を念頭に実践的な知識と技法を学び課題解決に役立つ対人援助力を身につけることを期待する。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	権利擁護と成年後見制度	後期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-竹藤 登	2年	take10140730@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	さまざまな権利擁護システムや成年後見制度の概要を理解し、認知症高齢者等の判断能力が不十分な人達への意思決定支援、自己決定支援の実際を学ぶことにより、ソーシャルワーカー、社会福祉士としての専門職の役割や責務を学ぶことを目的とする。	成年後見制度のなかで、実際の活動を理解することで、社会福祉士が、専門の業務として社会でどのような役割、どのような責務を担っているのかがイメージできます。しっかり学びましょう。
到達目標	権利擁護システム、成年後見制度の概要を学び、社会福祉士としての権利擁護活動の実際を理解することにより、社会福祉士としての必要な知識・技術・価値・倫理観、基礎的な役割、責務を理解することを目標とする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	日本国憲法の理解 人権と権利 憲法25条「生存権」と憲法13条「幸福追求権」	日本国憲法の概要を理解
	2	新しい人権 公私分離の原則 統治機構 福祉基礎構造改革と権利擁護システム	日本国憲法の概要を理解
	3	行政法の理解 行政行為 行政訴訟 行政不服申し立て 国家賠償法	行政法の概要を理解
	4	民法の理解 契約行為	民法の概要 契約行為を理解
	5	民法の理解 親族法と相続法	親族法と相続法を理解
	6	成年後見制度の概要 法定後見と任意後見制度	成年後見制度の概要を理解
	7	成年後見制度の概要 類型(補助・保佐・後見)と権限(同意権・取消権・代理権)	成年後見人等の権限を理解
	8	成年後見人等の実務 申し立ての流れと実務(財産管理と身上保護業務)	成年後見人等の実務を理解
	9	成年後見人等の義務と責任 最近の動向と課題 中核機関の設置	制度の現状と課題を理解
	10	日常生活自立支援事業と成年後見制度利用支援事業	権利擁護システムを理解
	11	権利擁護にかかわる団体・組織(家庭裁判所・法務局・市町村等)	権利擁護団体・組織を理解
	12	権利擁護にかかわる専門職の役割(弁護士・司法書士・社会福祉士等)	権利擁護の専門職を理解
	13	成年後見活動の実際(認知症高齢者支援・知的障害者支援・精神障害者支援等)	成年後見活動の実際を理解
14	権利擁護活動の実際(虐待対応・苦情解決等)	権利擁護活動の実際を理解	
15	成年後見活動事例検討(独居在宅認知症高齢者の事例)	実際的事例を理解	
16	まとめとテスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト 新・社会福祉士養成講座19 権利擁護と成年後見制度 中央法規出版株式会社		
	資料 毎回授業でレジュメを配布します。		
	学びの手立て		
	レジュメで講義内容をまとめてあるので、講義中は聴くことに集中し内容を理解するようにして下さい。復習は、レジュメを見ることで、できるように工夫されていますので活用する。専門用語が数多くあるので、わからない時は、授業後に配布する小レポートに質問を書くと、翌週の授業中に回答致します。		
	評価		
	① 期末テスト評価 55%		
	② 小レポート評価 45% 3点～1点×15回		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	他の社会福祉士養成講座科目全般

科目 基本 情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	芸術療法	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-中山 さおり	2年	ptt654@okiu.ac.jpまで（返信に数日かかります）	

学 び の 準 備	ねらい 芸術療法とは、様々な表現活動をとおして行う心理療法です。本講義では、絵画・コラージュ・詩歌などの技法を中心に解説し実習を行い、表現することが心にとって持つ意味や非言語的なやりとりについて、体験的に学習することを目指します。	メッセージ 「芸術」というと高尚なものをイメージする方もいるかもしれませんが、芸術療法は、子どもが絵を描き工作することを楽しむような人の自然な活動をいかしていこうとするものです。上手・下手は全く関係ありません。
	到達目標 芸術療法についての基本的な知識を身につけます。	

学 び の 実 践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、芸術療法概説	シラバスを読む
	2	芸術療法概説	復習
	3	絵画療法	復習
	4	絵画療法	復習
	5	絵画療法	復習
	6	絵画療法	復習
	7	絵画療法	復習
	8	コラージュ療法	復習
	9	コラージュ療法	復習
	10	コラージュ療法	復習
	11	コラージュ療法	復習
	12	詩歌療法	復習
	13	詩歌療法	復習
	14	詩歌療法	復習
15	まとめ	復習	
16	学期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定なし。レジユメを配布します。		
	学びの手立て 履修の心構えとして以下のことをお願いします。 ・共同作業や話し合いを多く行います。お互いの作品や意見を大切に受け止めあう態度を望みます。 ・その日の授業内容によっては途中参加が難しい場合があります。出来るだけ遅刻はしないでください。 ・実習で作られる作品から自分や他学生の心理状態を決めつけることは不適切だということを理解しておいてください。 ・感染防止策にご協力ください。また授業連絡がないか確認するようにしてください。		
	評価 授業への参加姿勢・実習ミニレポート（65%）、期末テスト（35%）		

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 心理学の各分野を広く履修し、関連づけながら学びを深めてください。
-----------------------	---

科目 基本 情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	芸術療法	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-中山 さおり	2年	ptt654@okiu.ac.jp (返信に数日かかります)	

学 び の 準 備	ねらい 芸術療法とは、様々な表現活動をおして行う心理療法です。本講義では、絵画・コラージュ・詩歌などの技法を中心に解説し実習を行い、表現することが心にとって持つ意味や非言語的なやりとりについて、体験的に学習することを目指します。	メッセージ 「芸術」というと高尚なものをイメージする方もいるかもしれませんが、芸術療法は、子どもが絵を描き工作することを楽しむような人の自然な活動をいかしていこうとするものです。上手・下手は全く関係ありません。
	到達目標 芸術療法についての基本的な知識を身につけます。	

学 び の 実 践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、芸術療法概説	シラバスを読む
	2	芸術療法概説	復習
	3	絵画療法	復習
	4	絵画療法	復習
	5	絵画療法	復習
	6	絵画療法	復習
	7	絵画療法	復習
	8	コラージュ療法	復習
	9	コラージュ療法	復習
	10	コラージュ療法	復習
	11	コラージュ療法	復習
	12	詩歌療法	復習
	13	詩歌療法	復習
	14	詩歌療法	復習
	15	まとめ	復習
	16	期末テスト	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定なし。適宜レジユメを配布します。		
	学びの手立て 履修の心構えとして以下のことをお願いします。 ・共同作業や話し合いを多く行います。お互いの作品や意見を大切に受け止め合う態度を望みます。 ・授業以外の場で他学生の作品内容などについてむやみに噂話をしないでください。 ・実習の内容によっては途中参加が難しい場合がありますので、出来るだけ遅刻しないようにしてください。 ・授業で作られる作品は面接で作られる作品とは別物ですので、自分や他学生の作品から心理状態を決め付けることはできないと理解しておいてください。 ・感染防止策にご協力ください。また授業連絡がないか確認するようにしてください。		
	評価 授業への参加姿勢・毎回の課題 (65%) 学期末テスト (35%)		

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 心理学の各分野をひろく履修し、関連づけて学びを深めてください。
-----------------------	--

※ポリシーとの関連性

社会福祉専門者に必要な知識(社会福祉の価値/理念、社会福祉の歴史、福祉政策の変遷、現代社会の特徴等)の理解を目指します。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	現代社会と福祉 I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	2年	講義の後に受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>そもそも社会福祉はどのように生まれどのように発展したのか、国家システムの中で、また、地域社会の中で社会福祉はどのような役割を担ってきたのか等、社会福祉について包括的に掘り下げていきます。また、広く現代社会を福祉の側面から問い直し、現代社会の課題を共に考えます。</p>	<p>本科目は現代社会について社会福祉学の視点から学術的に学びます。受講生は、国家試験受験予定学生、教職課程学生、選択必修科目として履修する学生、他学科の学生等など、幅広い関心を持つ学生が集まりますので、それぞれの学生に有益な内容となることを目指します。</p>
到達目標	<p>人・社会・生活および社会福祉の理解に関する知識を総合的に理解することができるようになる。具体的には、福祉制度・政策の理念、福祉国家の歴史的展開、社会福祉の原理をめぐる理論・哲学について理解することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、講義のキーワードに関連するグループワーク	グループワークのふりかえり
	2	福祉制度の発展過程① 欧米諸国における近代社会と福祉	参考文献を読んで理解を深める
	3	福祉制度の発展過程② 欧米諸国における現代社会と福祉	参考文献を読んで理解を深める
	4	福祉制度の発展過程③ 日本における前近代社会と福祉	参考文献を読んで理解を深める
	5	福祉制度の発展過程④ 日本における近代社会と福祉	次週に向けて課題に取り組む
	6	現代の福祉制度の発展過程① 戦後日本の動向	次週に向けて課題に取り組む
	7	現代の福祉制度の発展過程② 社会福祉基礎構造改革以降の動向	中間試験に向けて準備する
	8	現代の福祉制度の発展過程③ 地域共生社会時代の動向。中間試験	中間試験の回答を復習する
	9	福祉国家の展開① 福祉国家の国際比較	次週に向けて課題に取り組む
	10	福祉国家の展開② 少子高齢社会、人口減少社会における社会福祉の課題	次週に向けて課題に取り組む
	11	福祉政策におけるニーズと資源	参考文献を読んで理解を深める
	12	福祉の原理をめぐる哲学	参考文献を読んで理解を深める
	13	福祉専門職の役割① 利用者主体と支援者の役割	次週に向けて課題に取り組む
14	福祉専門職の役割② 社会資源の開発と活用	次週に向けて課題に取り組む	
15	福祉専門職の役割③ アドボカシーとエンパワメント	前期末試験の準備をする	
16	まとめ。前期末試験	模範解答を確認する	
テキスト・参考文献・資料など	<p>教科書：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『社会福祉の原理と政策（最新・社会福祉士養成講座/精神保健福祉士養成講座）中央法規出版社』</p> <p>参考文献： 坏洋一，金子充，室田信一（2016）『問いからはじめる社会福祉学：不安・不利・不信に挑む』有斐閣</p>		
学びの手立て	<p>講義では基礎知識を理解することを目標としています。講義中に参考文献を紹介していくので、積極的に図書館に行き文献を読みましょう。本科目は社会を構造的に理解し分析することを重視します。そのためにも日ごろからニュースをみたり新聞を読んだりしましょう。</p>		
評価	<p>リアクションペーパーの内容30% 中間試験 35% 期末試験 35%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>社会福祉関連科目、教職課程関連科目、その他社会科学関連科目の基盤となる科目なので、しっかり学んで応用していきましょう。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

社会福祉専門者に必要な知識（社会福祉の価値/理念, 社会福祉の歴史, 社会福祉政策の変遷, 現代社会の特徴等）の理解を目指します。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	現代社会と福祉Ⅱ	後期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	2年	質問は講義の後に受け付けます。遠隔授業の際はポータルメールにお願いします。	

学びの準備	ねらい 現代社会と福祉Ⅰで学んだことをベースにして、広く社会福祉実践の現状や社会福祉政策/社会福祉関連分野政策を学ぶ。また、国際比較を通してグローバルな視点から日本や沖縄の社会福祉が目指す方向を探っていきます。	メッセージ 今日の社会問題の背景を理解し、福祉的アプローチの可能性を考えていきましょう。
	到達目標 人・社会・生活および社会福祉の理解に関する知識を総合的に理解することができる。具体的には、社会福祉政策と関連政策との関連性を理解したり、利用者本位の総合的・包括的サービス提供に求められる専門知識や地域社会資源とのネットワーク形成技術等について理解したりすることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション。現代社会と福祉Ⅰのふりかえり	Iのふりかえりをする
	2	持続可能な社会づくりと社会福祉課題～SDGs時代における社会福祉学～	参考文献を読む
	3	社会福祉政策遂行における政府、市場、市民の役割	参考文献を読む
	4	社会福祉計画の意義と課題、政策決定過程および政策評価	提示した課題に取り組む
	5	福祉サービス供給の特徴① ～福祉多元化と地域包括ケア～	提示した課題に取り組む
	6	福祉サービス供給の特徴② ～格差、分断、差別、権利侵害の解消に向けて～	中間試験の準備をする
	7	福祉サービス供給の特徴③ ～国際社会との連携～。中間試験	中間試験のふりかえりをする
	8	福祉政策と社会問題① 保健医療政策	提示した課題に取り組む
9	福祉政策と社会問題② ジェンダー政策	提示した課題に取り組む	
10	福祉政策と社会問題③ 災害政策	提示した課題に取り組む	
11	福祉政策と関連政策④ 住宅政策	提示した課題に取り組む	
12	福祉政策と関連政策⑤ 労働政策	関連文献読書感想文作成	
13	福祉政策と関連政策⑥ 教育政策	関連文献読書感想文作成	
14	沖縄社会の生活課題と社会福祉の役割	提示した課題に取り組む	
15	途上国の生活課題と社会福祉の役割～国際社会福祉の視点から	期末試験の準備をする	
16	まとめ。期末試験	講義をふりかえる	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編(2021)『社会福祉の原理と政策（最新 社会福祉士/精神保健福祉士養成講座）』中央法規出版 参考書・参考資料等：厚生労働白書ほか白書、社会福祉小六法。その他毎講義時に文献を紹介します。		
	学びの手立て 講義時に福祉ニーズが生じる社会的背景の理解につながる文献を紹介しますのでしっかり読みましょう。加えて積極的にボランティア活動を行い、福祉実践を客観的に分析しましょう。分析したことを言葉にして自身の意見を多くの人に伝えられるようにしましょう。		
	評価 中間試験30%、期末試験30% 各回のリアクションペーパー20% 読書感想文 20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本科目で社会を分析する視点を理解して、社会福祉専門科目や教職科目、その他社会科学関連科目につなげて下さい。
-------	--

科目基本情報	科目名 公衆衛生学	期別 後期	曜日・時限 水3	単位 2
	担当者 オムニバス（社会人特別講師12回）	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ Email:d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい 公衆衛生学とは、ある特定の地域や環境における集団の疾病を予防し、心身の健康を図ることを目的とする学問である。本講義では、社会・生活環境、格差や心理状態との関連性、疫学や様々な保健領域に視点を置いた上で、特に公衆衛生分野におけるソーシャルワーカーの役割について学び、考えていきたい。	メッセージ 本講義はオムニバス形式をとり、医療・保健の分野においてどのような活動が行われているかを各教員から講義をしてもらい理解することをねらいとする。受講学生にはこれらを踏まえ、ソーシャルワーカーから見た公衆衛生への考え方を身につけて欲しい。
	到達目標 公衆衛生学とはどのような学問かを理解し、身近な問題とどのような関連性があるかを理解することを目標とする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	講義の進め方を把握する
	2	社会と健康	講師の専門分野を理解する
	3	環境と健康	講師の専門分野を理解する
	4	生活習慣の現状と対策	講師の専門分野を理解する
	5	公衆衛生看護I	講師の専門分野を理解する
	6	保健医療福祉の連携	講師の専門分野を理解する
	7	環境と健康 ～衛生学、公衆衛生学の視点から～	講師の専門分野を理解する
	8	沖縄県の自殺予防I	講師の専門分野を理解する
9	沖縄県の自殺予防II	講師の専門分野を理解する	
10	沖縄県の健康状況の変化	講師の専門分野を理解する	
11	沖縄県の健康格差	講師の専門分野を理解する	
12	沖縄県の感染症(はしか)対策について	講師の専門分野を理解する	
13	沖縄県におけるコロナウイルスの現状と対策	講師の専門分野を理解する	
14	学校保健I	講師の専門分野を理解する	
15	学校保健II	講師の専門分野を理解する	
16	全体まとめなど	全体を通してまとめを考える	
実践	テキスト・参考文献・資料など ・近藤克則(2005)『健康格差社会 何が心と健康を蝕むのか』医学書院 ・近藤克典編(2007)『検証「健康格差社会」介護予防に向けた社会疫学的大規模調査』医学書院 ・内藤通考(2011)『公衆衛生学入門』昭和堂 その他、各教員から適宜資料を配布または紹介する。		
	学びの手立て 各講師からそれぞれの分野における公衆衛生について学んでいく。 身近な問題にも焦点をあて、自身の環境における視点からも考えてほしい。		
	評価 出席状況(30%)、各教員からの課題等の提出状況(30%)、期末課題等の内容(30%)、授業への参加意欲(10%)を総合的に判断し評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 保健医療や格差社会の分野において知っておくべき講義内容になっている。 得た知識はどの福祉分野にも活かせるので、自身の課題として学びを続けてほしい。
-------	---

※ポリシーとの関連性

今後進展する高齢社会において、重要な科目の一つであり、社会福祉専門職者として必要な知識を修得するための専門科目となる。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	高齢者に対する支援と介護保険制度 I	前期	火 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富 郁哉	2年	教員メールで受け付ける。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	高齢社会の理解、高齢者の身体的・精神的等特性の理解、生活、高齢社会の問題構造、高齢者支援の諸制度等、特に介護保険制度について理解する。	日頃から高齢者の生活、意識、役割等に関心を持ち、身近な祖父母などとの関わり、高齢者施設などでのボランティアを通して、高齢者の立場や視点で考えることができるよう、また、新聞等マスメディアによる情報に関心を持つよう期待する。

到達目標	①人口高齢化の状況、高齢者を取り巻く社会的状況について説明することができる。② 高齢者の心身の特性について説明することができる。③ 高齢者福祉施策及び関連法規について説明することができる。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：講義概要（シラバス説明）、評価の方法等について	講義概要（シラバス）の理解
	2	我国の高齢化の状況を理解する	高齢社会の現状理解
	3	高齢社会に関する関連用語を知る	高齢社会に関する用語の理解
	4	多死社会の背景と課題について理解する	多死社会を理解
	5	「生理的老化」「病的老化」を理解する	老化について理解
	6	高齢者と生活習慣病：老化に伴う変化について理解する①	高齢期に発症する生活習慣病の理解
	7	高齢者と生活習慣病：老化に伴う変化について理解する②	高齢期における認知機能の低下
	8	認知症について理解する①	MCI、老年期うつ病、せん妄の理解
	9	認知症について理解する②	認知症及び同患者の理解
	10	オレンジプランと新オレンジプランについて理解する	新オレンジプランを理解
	11	認知症とサルコペニア	予防の観点で考える
	12	高齢者及びその家族を支える～成年後見制度～について理解する	成年後見制度を理解
	13	高齢者を支える専門職（専門職の種類と役割）について理解する	高齢者を支える専門職の理解
	14	介護現場の実態と課題（介護現場の諸課題、人材不足の実態など）について理解する	支援現場の実情・課題等の理解
15	「高齢者の生きがい支援」について理解する	高齢期における「いきがい」の理解	
16	期末試験	振り返りと期末試験の実施	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキスト：中央法規・最新・社会福祉養成講座2「高齢者福祉」を指定教科書とする。同指定テキストは時間外学習に役立ててもらいたい。参考文献：「国民の福祉と介護の動向」厚生労働統計協会、「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房

学びの手立て	日頃から、新聞等マスメディアに関心を持ち、特に高齢者の生活に関すること、国の高齢者施策等についての情報収集に努めることが望ましい。
--------	---

評価	期末試験の得点を学部履修規定に基づき評価する。また、授業出席は単位付与の前提条件であるため、出席時数が3分の2に満たない者は期末試験を受けることができない。なお、Covid-19感染拡大等で期末試験が実施できなかった場合は授業出席状況(50%)及び課題レポート(50%)によって評価する。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージ：本科目で学ぶ内容は高齢社会及び高齢者の特性等を理解する上で重要であり、今後ますます高齢社会が進展する中で必要不可欠な知識となる。関連科目：関連科目の1つとして「保健福祉政策論」がある。同科目は高齢期に発症率の高まる「生活習慣病」とそれら疾病群に対する健康政策を中心とした講義内容であることから、併行して履修することによって高齢者特性についてより理解が深まる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富 郁哉	2年	教員メールにて受け付ける。	

学びの準備	ねらい 介護保険制度は、高齢社会を背景に身近な社会保障制度として、重要かつ多用される制度の一つであるため知識を深める必要がある。	メッセージ 高齢社会は今後ますます進展する。その中で本科目は高齢者に関わる社会保障制度を知る重要な科目として位置づけられている。周りの人にその知識を伝えられるよう十分に理解してほしい。
	到達目標 介護保険制度について説明することができる。また、介護に関する諸問題について対応することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	高齢社会の基礎	高齢社会についての基礎知識
	2	介護保険制度導入の背景①	要介護高齢者・独居高齢者の状況
	3	介護保険制度導入の背景②	高齢社会がもたらす問題点
	4	介護保険制度の基礎①	介護保険制度の理念を調べる
	5	介護保険制度の基礎②	介護保険制度とは何か
	6	介護保険制度の基礎③	介護保険制度の概要を調べる
	7	介護保険サービス①	在宅(居宅)サービスの種類
	8	介護保険サービス②	施設サービスの種類を調べる
	9	介護保険サービス③	地域密着型サービスとは何か
	10	介護保険サービス④	地域包括ケアシステムとは何か
	11	介護保険サービス⑤	地域包括ケアシステムの構成要素
	12	高齢者に対する関連諸制度①	高齢社会対策基本法とは何か
	13	高齢者に対する関連諸制度②	育児・介護休業法：介護休業法
	14	高齢者・家族を支えるインフォーマルな援助者	フォーマル・インフォーマル援助
15	まとめ	Review資料すべてに目を通す	
16	期末試験実施予定（新型コロナの感染状況によっては課題レポートに替える）	講義時配布のReviewの理解	
テキスト・参考文献・資料など テキスト：中央法規・最新・社会福祉士養成講座2「高齢者福祉」を指定テキストとする。同テキストは時間外学習に役立ててもらいたい。参考文献：「国民の福祉と介護の動向」厚労省統計協会、「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房			
学びの手立て 新聞等マスメディアに関心をもち、特に高齢者に関する新聞記事等について熟知することが望ましい。			
評価 期末試験の得点を学部履修規定に基づき評価する。また、授業出席は単位付与の前提条件であるため、出席時数が3分の2に満たない者は期末試験を受けることができない。なお、Covid-19感染拡大等で期末試験が実施できなかった場合は授業出席状況(50%)及び課題レポート(50%)によって評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰが履修済みであることが望ましい。その他の関連科目には社会保障ⅠⅡ、権利擁護と成年後見制度、保健福祉政策論などがある。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際福祉論	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-新垣 誠	2年	makoto@ocjc.ac.jp 授業後に教室でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>21世紀は同時多発テロという国際テロリズムで幕を開けた。現在も紛争による難民が増え続けている。このような地球規模の課題は、一国で解決できるものではなく、国際社会全体で取り組まなければ解決しない。また、私たち自身が地球市民としての意識を持ち、公平かつ共生的な社会システムを構築するには何が必要か。グローバル時代の社会福祉のあるべき形を模索する。</p>	<p>アメリカ合衆国の新政権、イギリスのEU離脱、難民受け入れ拒否や極右政治の台頭と、現在私たちの地球社会は不寛容にシフトしつつあります。誰もが不安を抱え自己防衛の構えをとる先に私たちを待ち受けるものは、本当の豊かさであり幸せでしょうか。現在の経済・文化システムが危機を迎える今こそ、未来に向かってグローバル規模の「人間の福祉」を一緒に考えてみませんか。</p>
到達目標	<p>グローバルな文化・経済システムがどのように格差や不平等な地球社会を作り出しているか説明できるようになる。開発途上国の社会問題について概要を説明できるようになる。日本人のライフスタイルと途上国の人権問題の関連性について理解できるようになる。「地球市民」という意識を持ち、自らのライフスタイルや価値観を批判的に捉え、問題解決に向けての行動について意見できるようになる。人間にとっての「豊かさ」や「幸せ」について深く理解し、社会福祉をグローバルな視点で説明することができるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	「国際社会福祉」とは？その意義と目的	福祉の定義や歴史について調べる。
	2	グローバリゼーションと社会福祉：「国家福祉」から「国際福祉」へ	今回のテーマについて調べる。
	3	グローバリゼーションとアクター（国家、多国籍企業、市民団体）	復習をして次の講義に備える。
	4	グローバル資本主義と経済格差	次回テーマの国について調べる。
	5	バングラデシュ縫製工場とファストファッション（資本主義と労働）	次回テーマの地域について調べる。
	6	アフリカの子ども兵士と鉱物資源（子どもの権利条約、植民地主義）	次回テーマについて調べる。
	7	開発途上国の抱える問題（ネパールの人身売買とジェンダー・ジャスティス）	次回テーマについて調べる。
	8	開発途上国の抱える問題（ストリートチルドレンとフィリピン・マニラの都市貧困）	次回テーマについて調べる。
	9	児童労働とインドの「子ども組合」	人種問題について調べる。
	10	民族間対立と多文化共生（アメリカの例を元に人種間対立と調和を考える）	沖縄の多様性について調べる。
	11	沖縄社会の多様性（県在住外国人と多文化共生の課題）	ジェンダーの定義・概念を調べる。
	12	セクシュアルマイノリティとジェンダー規範（福祉と多様性）	地球市民について調べる。
	13	「地球市民」という概念と国際社会福祉（地元沖縄でできること）	自分のライフスタイルを再考する。
	14	「幸せ」とは？「豊かさ」とは？大量消費社会と私たちのライフスタイル	幸せについて考えてみる。
15	社会福祉と国際ボランティア（国際協力、フェアトレード、NGO活動）	復習をして次の講義に備える。	
16	国際協力の現場（ラオスJICA草の根事業の現場から沖縄型国際福祉を考える）	全講義の内容を見直してみる。	

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：なし。教材や資料は担当者がその都度配布します。 参考文献・資料：「グローバリゼーションと国際社会福祉」（2002年）、仲村優一他、中央法規；「国際社会福祉論」（2004年）、川村匡由、ミネルヴァ書房；「国際社会福祉論」（1999年）、ジェームス・ミッジリイ、中央法規。その他のマルチメディア資料については、講義の進捗状況に応じて授業内で随時紹介します。</p>
-------	--

学びの手立て	<p>「履修の心構え」：授業への参加が重視されます（遅刻や欠席は大きな減点対象です）。15分以上の遅刻や早退は欠席として扱います。授業態度は厳しく評価されます。福祉の前提は全ての人の配慮です。私語などの授業妨害行為はそもそも福祉の考えと相反するものです。人として基本的ルールを守れる人、学びの意欲がある学生のみが履修することを強く希望します。「学びを深めるために」：参考文献・資料は古いものが多いので、メディア情報などを活用し最新の国際情勢や地域の状況を把握するように努力してください。ドキュメンター映画やニュース番組の特集などから更に状況の深い理解や分析を試みて下さい。地域の行政やNGOなどが主催するイベントに参加して下さい。実際現場に関わっている人たちから話を聴き見識を深めて下さい。同じ受講生とも対話を持ち、意見交換をおこなってみて下さい。</p>
--------	--

評価	<p>期末レポート50%、学期内不定期課題（2回程度）20%、授業への参加（受講態度を含む）30%：期末レポートでは講義内容の理解度とそれを受けて受講者独自の考えがアウトプットされているかを特に評価します。学期内にディスカッションやドキュメンタリーの内容に基づいたエッセイを課します。授業への前向きな参加としてグループディスカッションでの発言や発表などを評価します。私語などの妨害行為・迷惑行為ならびに寝ない・スマートフォンをいじらないなど基本的な受講態度ができていないか評価します。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>（1）関連科目：批判的思考を育てるとともに多様な価値観を理解できるよう、色々な科目を履修し幅広く学ぶことを勧めます。特に自分が苦手な思っている科目を履修することをあえて勧めます。（2）次のステージ：地球社会・地域社会には多くの課題が山積しています。その課題を何かのせいにするのではなく、自分の課題として捉え、問題解決へ向けて考え行動してみてください。自分が変われば世界が変わります。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	コミュニケーションスキル	後期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-島袋 有子	3年	ptt1222@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい コミュニケーションのスキルを学ぶことは、1対1のカウンセリング等、個別へのアプローチはもとより集団へのアプローチに際しても重要です。本授業では、集団でのコミュニケーションスキルのトレーニングを体験し、コミュニケーションのスキルを学ぶと同時に、コミュニケーションスキルのトレーニングの手法を学習します。	メッセージ この授業では、自身が捉えたことや感じたこと等を表出することが他の学生の学びとなります。正に『参加することに意義がある』授業です。
	到達目標 ①コミュニケーションのスキルを学習し、獲得する。 ②コミュニケーションスキルのトレーニングを行う手法を学び、トレーニング場面をファシリテートする力をつける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) オリエンテーション	
	2	(特) きいてみたいこと	レポート作成
3	(特) 自己紹介		レポート作成
4	(特) 共通点探し *zoom使用		レポート作成
5	(特) リフレーミング		レポート作成
6	(特) レジリエンス 1		レポート作成
7	(特) ゴーサイン・ノーゴーサイン *zoom使用		レポート作成
8	(特) 名刺		レポート作成
9	(特) レジリエンス 2		レポート作成
10	(特) 若い女性と水夫 *zoom使用		事前課題・レポート作成
11	(特) こんな時どうする？		レポート作成
12	(特) アサーション・トレーニング		レポート作成
13	(特) 仮説 *zoom使用		レポート作成
14	(特) 10年後の未来		レポート作成
15	(特) 贈りもの *zoom使用		レポート作成
16	(特) まとめ		レポート作成
	テキスト・参考文献・資料など Zoomを使用してグループワークを行います。		
	学びの手立て 課題を配信し、レポートの提出を求める回と、Zoomを使用したグループワークへの参加後、レポートの提出を求める回があります。詳細はオリエンテーションで説明を行います。		
	評価 グループワークへの参加 25% レポートの作成・提出 75%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 心理学の基礎的な分野をはじめ諸分野の知識を持って考え合わせることで、コミュニケーションスキルに対しての理解を深められると考えます。実践を重ね、学びを深めることを期待します。 [関連科目]グループアプローチ、傾聴トレーニング
-------	---

※ポリシーとの関連性

公認心理師の必修科目となる産業・組織心理学を学び、産業界で心理学がどのように応用されているかを学ぶ専門科目である。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業・組織心理学	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大兼 千津子	2年	ppt510@okiu.ac.jpまたは授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい この講義では、産業・組織心理学の基本事項を学び、キャリア理論およびキャリア教育について学びます。講義の中では、産業・労働分野における心理的支援について学び、キャリア・カウンセリングの基礎知識も学びます。	メッセージ 現代は物質的に豊かな生活が実現し、人々が心の豊かさを求める時代となり、産業界では心理学がさらに重要視されるようになりました。産業・組織心理学およびキャリア理論を学ぶことにより、働く人の支援について知見を深めることができるでしょう。
	到達目標 理論や実践を学ぶだけでなく、自己理解にもつながります。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	登録・オリエンテーション、産業・組織心理学とキャリア理論について	配布資料の再読
	2	産業・組織心理学の始まりと展開	配布資料の再読
	3	モチベーションと職務満足	配布資料の再読
	4	認知とモチベーション	配布資料の再読
	5	目標や関係性とモチベーション	配布資料の再読
	6	交渉と説得的コミュニケーション	配布資料の再読
	7	消費者行動とマーケティング、広告の心理	配布資料の再読
	8	リーダーシップと組織のコミュニケーション	配布資料の再読
9	組織風土と組織の意思決定	配布資料の再読	
10	キャリア教育	配布資料の再読	
11	適性とキャリア形成	配布資料の再読	
12	現代のキャリア理論、ワークライフバランス	配布資料の再読	
13	職場における問題 ストレスとメンタルヘルス	配布資料の再読	
14	産業・労働分野に関する法律、制度	配布資料の再読	
15	働く人への支援（従業員支援プログラム、組織へのコンサルテーション、心理教育、復職支援）	配布資料の再読	
16	まとめ、レポートの提出		
	テキスト・参考文献・資料など 【参考文献】※授業では、講師が資料を配布します。 榎本博明（2019）はじめてふれる産業・組織心理学 サイエンス社 新田泰生編 野島一彦、繁樹算男 監修（2019）公認心理師の基礎と実践20 産業・組織心理学 遠見書房 森田美弥子、松本真理子、金井篤子（2016）心の専門家養成講座 産業心理臨床実践 ナカニシヤ出版 渡辺 三枝子（2009）「新版 キャリアの心理学—キャリア支援への発達のアプローチ」ナカニシヤ出版		
	学びの手立て 遅刻や欠席をしないこと。意欲的な授業参加を求める。 配布資料を復習すること。 現代社会の問題に関心を持ち、経済・産業の動向や個人と組織の関係にも興味を持つこと。		
	評価 レポートの提出（2件）70%、授業態度15%、リアクションペーパー（毎回）15%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：社会心理学、集団心理学
-------	---------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	司法・犯罪心理学	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-松田 盛雄	2年	matsudamo@okigei.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>非行や犯罪行動を理解するための基本的な諸理論・モデル・知見等について学ぶ。主にわが国の公的統計資料から非行・犯罪の情勢や動向を正確に理解し、また、重大な非行や犯罪事例にも触れながら、その発生メカニズムを考察する。さらに、非行・犯罪をおかした人の処遇に関する司法・矯正システムを学び、刑罰、更生などについて理解と見識を深める。</p>	<p>非行・犯罪という複雑な要因が絡む社会的行動や事象について、多角的な視座から科学的に読み解く目を養うことを目標にします。事象や事件の表面に見える特異性だけに注目するのではなく、そこに至る文脈や背景についても注意深く考察しながら学んでいきましょう。</p>
到達目標	<p>①司法統計・犯罪統計などの公的資料やデータに基づき、非行や犯罪、犯罪被害及び家事事件等の現状や動向に関する基本的知識について正確に理解できるようになる。②社会で発生している様々な非行・犯罪事象について学びながら、その発生メカニズムについて個人的・社会的・状況的要因など多角的視座から考え、討議し、理解を深めることができる。③非行少年や犯罪をおかした成人がどのように処遇されるかについて、司法・矯正の基本システムを把握し、そこでの諸施策や活動を知り、あわせて課題や問題点等について理解を深める。④司法・犯罪分野における諸問題及び必要な心理的支援・矯正プログラムなどに関して理解を深め、課題や問題点、展望について考察を深める。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	履修登録・授業契約・オリエンテーション：講義概要・諸注意の説明(特)	シラバス・授業契約の理解等
	2	犯罪情勢の現状と動向～わが国の公的統計を中心に～(特)	わが国の犯罪情勢・動向の復讐等
	3	非行・犯罪の諸理論(1)～生物学的・心理学的アプローチ～(特)	犯罪の生物・心理学的理論の復讐等
	4	非行・犯罪の諸理論(2)～社会学的・機会論的アプローチ～(特)	身近な犯罪不安喚起場所の探索課題
	5	防犯心理学～犯罪不安感と犯罪リスク認知～(特)	重大少年事件についての予習等
	6	重大少年犯罪事件についての検討(特)	沖縄県の少年非行についての予習等
	7	沖縄県における少年非行の現状と課題(担当：那覇少年鑑別所所長)(特)	殺人・攻撃・暴力の基礎理論の予習
	8	殺人・暴力犯罪～性・支配・攻撃を背景として～(特)	凶悪犯罪事件についての予習等
	9	凶悪犯罪事件～大量殺傷事件を例として～(特)	窃盗事件についての演習課題等
	10	窃盗事件～犯罪手口と狙われやすい場所～(特)	捜査心理学の基本用語調べ等
	11	捜査心理学(1)～目撃証言・ポリグラフ検査・脳指紋検査～(特)	捜査心理学に関係する演習課題等
	12	捜査心理学(2)～放火事犯と地理的プロファイリング～(特)	プロファイリングの演習課題等
	13	日本の司法・矯正システム(1)～非行少年・犯罪者の処遇～(特)	日本の司法矯正システムの予習等
	14	日本の司法・矯正システム(2)～更生・立ち直り・刑罰と心理支援～(特)	更生・保護・刑罰・支援等の復讐等
15	非行・犯罪心理学の動向と司法・矯正の課題：講義のまとめ・学期末課題の案内(特)	総復習と学期末課題への取組み等	
16	予備日(学期末課題として試験を実施する場合は試験日)(特)	非行・犯罪心理学の総復習・まとめ	

テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定せず、毎回の配布資料を中心に講義を進めていく。参考文献は以下のとおりである。</p> <p>(1) 浜井紘一 編著 2013 犯罪統計入門【第2版】：犯罪を科学する方法 日本評論社</p> <p>(2) 桐生正幸 編著 2012 基礎から学ぶ犯罪心理学研究法 福村出版</p> <p>(3) 黒沢香・村松励 2012 非行・犯罪・裁判(キーワード心理学シリーズ9) 新曜社</p> <p>(4) 小林寿一 編著 2008 非行少年の行動科学：学際的アプローチと実践への応用 北王路書房</p> <p>(5) 越智啓太 2012 Progress & Application 犯罪心理学 サイエンス社</p>
----------------	---

学びの手立て	<p>・講義の中で紹介された知見については、そのテーマや研究方法についてさらに詳しく調べたり、自分が研究するとしたらどのような発想や工夫で取り組んでみたいかなど、研究のアイデアを膨らませながら受講してもらいたい。</p> <p>・図書館に所蔵されている図書や非行・犯罪心理学系の学術論文(学会誌・大学紀要等)を積極的に検索し、どのような研究がなされているのか調べ、実際に読んでみるなどして講義内容の理解を深めてもらいたい。</p>
--------	---

評価	<p>・成績評価は、平常点50%(授業への参加態度：諸々のワーク、リアクションペーパー、課題等で評価)、学期末課題50%の内訳で、これらを総合的に評価して行う。ただし、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となる。</p> <p>・学期末課題については、試験を実施する場合は「参考書や資料等の持ち込み不可」として行う予定である。レポート課題を課す場合は、授業内で詳細を指示する。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：「社会・集団・家族心理学(社会・集団)」を合わせて履修すると、非行・犯罪心理学の分野で活かされている理論や方法についての理解が深められると思われる。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	社会科学研究法	期別	曜日・時限	単位
	担当者	-古波蔵 契	前期	火2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			1年	メール（授業初回にお伝えします）、授業前後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	本講義では、物事の理解に不可欠な情報収集・整理・分析能力を培うとともに、調査に基づいて自分の考えを適切に表現し、他者に伝えるテクニックを習得する。	メッセージ	本授業で習得する「調べる」、「読む」、「書く」といった能力は、大学での学びに不可欠であるばかりでなく、日常生活を送る上でも、社会福祉士として働く上でも、不可欠と言えます。授業では実際にレポートを作成し、互いに修正点を指摘し合ってもらいます。積極的かつ真摯な参加を期待します。
	到達目標	本講義では、実際に調査、レポートの作成、相互レビューなどを通じて、以下の能力を身につけることを目標とする。 ①多角的な観点から情報を収集し、批判的に分析する能力 ②自らの問題関心を社会科学的な問いにまで深める能力 ③課題に沿って合理的に研究計画を作成し、実施する能力 ④先行研究や仲間の文章に丁寧かつ批判的に向き合う姿勢		

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
		回	テーマ	時間外学習の内容
		1	オリエンテーション——社会福祉と本授業の関わり	予習：テキストの目次、第1章
		2	自分の情報環境を知る	自分の情報源をリスト化しておく
		3	文献・資料調査——ネットと紙媒体	予習：テキスト第2章
		4	論文を探す	授業中に指示
		5	論文を読む	授業中に指示
		6	本、新聞、公文書	授業中に指示
		7	統計を探す、読む	授業中に指示
		8	フィールドワーク——インタビュー、参与観察、アンケート	予習：テキスト第3章
		9	前半のまとめ、レポート作成の進め方	予習：テキスト第4章
		10	レポートを書く（1） 課題設定と論証、引用	授業中に指示
		11	レポートを書く（2） 論文作成のツールの紹介	予習：テキスト第5章
		12	レポートを書く（3） ピア・レビューの方法について	授業中に指示
		13	レポートを書く（4） ドラフトの提出とピア・レビュー（1回目）	授業中に指示
		14	レポートを書く（5） 中間講評と書き直しの方向性について	授業中に指示
		15	レポートを書く（5） レポートの提出とピア・レビュー（2回目）	授業中に指示
		16	まとめと期末レポートの講評	授業中に指示
	テキスト・参考文献・資料など	テキスト 宮内泰介・上田昌文『実践 自分で調べる技術』岩波書店、2020年。		
	学びの手立て	①履修の心構え 履修に当たって、自分自身が日頃どのようなソースから情報を得ているのか、自覚的になるよう意識してみること。 授業の中では、実際にレポートを書き、学生同士で互いに修正点を指摘する。積極的かつ真摯な参加姿勢を評価します。 ②学びを深めるために 授業中に紹介する文献・映像に可能な限り当たってみる。		
	評価	課題（学期途中での提出物とピア・レビューの内容）を40%、期末レポートを60%とし、平常点も考慮しながら評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ①関連科目：本講義で習得する能力は社会科学系の専門科目を学ぶための基礎となる。 ②次のステージ：授業で学んだ調査方法を「普段使い」できるようになること。新聞やSNSの使い方を見直し、必要に応じて学術研究の成果を活用するスキルを身につけましょう。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会学概論 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	2年	Teams上でのチャット、あるいはメール等で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「社会学」は、自己が生きる日常とそれを取り巻く社会（他者）との関係を、科学的な視点で解明する学問である。「わたしはこの世の中でどう生き／どう生かされているのか」、また、自己と他者との間にどのような権力関係が作用しているのかという問いを、「行為」と「構造」という視点から考えるための知識や方法を身につける学問である。</p>	<p>「社会学は難しい」「でも社会学は面白い」という言葉をよく聞きます。そんな不思議な学問ですが、複雑怪奇な現代社会を上手く乗りこなす武器になると思います。※この科目は全15回を遠隔授業で行います。使用するアプリはTeamsです。Teamsでこの科目に参加する方法は、第1回目の講義（4月8日）までにポータルの授業連絡でお知らせします。</p>
到達目標	社会的な「行為」、社会の「構造」とは何かを理解する。また、その「行為」と「構造」における権力関係を理解すること。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 社会学概論 I への招待 ～基本概念としての「行為」と「構造」	基本概念の具体例を考える
	2	(特) 社会学の歴史 ～ジンメル、デュルケム、ヴェーバーを中心に	社会学的視点の具体例を考える
	3	(特) 自我とアイデンティティの社会学① ～欲望の社会理論	「欲望の模倣」の具体例を考える
	4	(特) 自我とアイデンティティの社会学② ～フロイトの自我論とミードの自我／客我論	身近な社会的抑圧を考える
	5	(特) 自我とアイデンティティの社会学③ ～社会学における「アイデンティティ」概念の系譜	「自分らしさ」とは何かを考える
	6	(特) 行為と相互作用の基本概念① ～ヴェーバーからハーバーマスまで	コミュニケーションの意味を考える
	7	(特) 行為と相互作用の基本概念② ～ゴフマンの演技論	日常における演技の具体例を考える
	8	(特) 行為と相互作用の基本概念③ ～公共性と親密性	無関心と「なれなれしさ」を考える
	9	(特) 現代社会を考えるミニ課題について ～自我と演技に関する課題	前半のふりかえりと資料収集
	10	(特) 行為と構造の密やかな関係① ～語彙（ボキャブラリー）と文化資本	「しゃべらされる」自己を考える
	11	(特) 行為と構造の密やかな関係② ～記号とシンボルの社会的な意味	考えない気楽さとしての日常の探索
	12	(特) 行為と構造の密やかな関係③ ～「脱構築」の視点	排除されるものを見る作法を考える
	13	(特) 「権力」から読み解く現代社会① ～ヴェーバーの権力論	支配と権力の具体例を考える
14	(特) 「権力」から読み解く現代社会② ～フーコーの権力論	主体化＝服従化の具体例を考える	
15	(特) 社会学のまとめと期末課題について	講義プリントのふりかえり	
16	(特) 予備日	期末課題の作成	
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキストの指定はとくにないが、参考文献・資料などを適宜紹介していく。	
学びの手立て	<p>リアクション・ペーパーは平常点の重要なポイントとなるので、面倒くさがらずに書き込むこと。大学は「学士力」（ジェネリック・スキル）を養うところ。その重要なポイントは「リサーチ・リテラシー」（高度かつ適切な情報収集と処理能力）となる。よって、課題に取り組む際はインターネットの情報に頼りすぎないこと。インターネット情報を分析せずに、鵜呑みにして使用した場合は、減点の対象となる。</p>		
評価	<p>平常点（Teamsへの接続状況とリアクション・ペーパーへの書き込み内容など）が20点、「現代社会を考えるミニ課題」が30点、期末レポート課題の内容評価が50点という構成で総合評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：社会学概論 II</p> <p>次のステージ：社会学概論 I で身につけた社会学の基本的な視点を用いて、具体的な社会現象を解説する。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

複雑な現代社会を解説するための理論と方法、および社会福祉学を補強する学問領域として社会学のアウトラインを学ぶ。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会学概論Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	2年	Teams上でのチャット、あるいはメール等で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 概論Ⅰで身につけた社会学の基本的な視点、概念、理論を分析道具として、現代社会の諸相を解説する内容となる。とくに日常に見受けられる具体的な問題を提起していく。	メッセージ 「社会学は難しい」「でも社会学は面白い」という言葉をよく聞きます。そんな不思議な学問ですが、複雑怪奇な現代社会を上手く乗りこなす武器になると思います。※この科目は全15回を遠隔授業で行います。使用するアプリはTeamsです。Teamsでこの科目に参加する方法は、第1回目の講義（9月30日）までにポータルの授業連絡でお知らせします。
	到達目標 概論Ⅰで身につけた「行為」と「構造」および「権力関係」などの基本概念に基づいて、現代社会の具体的な事柄を分析・解説する知識と技能を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 社会学概論Ⅱへの招待 ～社会学概論Ⅰのおさらいを中心に	基本的な視点、概念をふりかえる
	2	(特) 現代社会とメディア① ～ステレオタイプ、アジェンダ・セッティング、沈黙の螺旋	身近なメディア情報の探索
	3	(特) 現代社会とメディア② ～エンコーディング/デコーディングと公共圏の形成	情報を送受信する自己を考える
	4	(特) モノと消費をめぐる社会的探求① ～「消費」の基本概念	身近な「記号的」消費を考える
	5	(特) モノと消費をめぐる社会的探求② ～ボードリヤールの概念と「ミニマムセルフ」	消費から自己と他者の関係を考える
	6	(特) ジェンダーとセクシュアリティ① ～「ジェンダー」をめぐる日本社会の現状	既存の実態調査データの収集
	7	(特) ジェンダーとセクシュアリティ② ～家父長制と性別役割分業の系譜	身近な「性別役割分業」を考える
	8	(特) ジェンダーとセクシュアリティ③ ～三歳児神話、TVドラマ、CMから考えるジェンダー規範	具体的な作品の収集と分析
9	(特) 現代社会を考えるミニ課題について ～メディア論、消費概念、ジェンダー規範から	前半のふりかえりと資料収集	
10	(特) ジェンダーとセクシュアリティ④ ～「ジェンダー」「セクシュアリティ」をめぐる知の変遷	社会的カテゴリーをめぐる知の探索	
11	(特) ジェンダーとセクシュアリティ⑤ ～「行為遂行性」と「エイジェンシー」	「性」をめぐる権力の探索	
12	(特) 現代社会と差別① ～差別をめぐる社会学の基本的な視点	身近な「感動ポルノ」の考察	
13	(特) 現代社会と差別② ～ヘイトスピーチから考える差別構造	メディア論を応用して考える	
14	(特) 現代社会と差別③ ～「自己責任論」の問題、モデル・マイノリティ、ポジショナリティ	差別を持續する 行為を考える	
15	(特) 概論Ⅱのまとめと期末課題	講義プリントのふりかえり	
16	(特) 予備日	期末課題の作成	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストの指定はとくにないが、参考文献・資料などを適宜紹介していく。		
	学びの手立て リアクション・ペーパーは平常点の重要なポイントとなるので、面倒くさがらずに書き込むこと。大学は「学力」（ジェネリック・スキル）を養うところ。その重要なポイントは「リサーチ・リテラシー」（高度かつ適切な情報収集と処理能力）となる。よって、課題に取り組む際は、インターネットの情報に頼りすぎないこと。インターネット情報を分析せずに、鵜呑みにして使用した場合は、減点の対象となる。		
	評価 平常点（Teamsへの接続状況とリアクション・ペーパーへの書き込み内容など）が20点、「現代社会を考えるミニ課題」が30点、期末レポート課題の内容評価が50点という構成で総合評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：都市社会学、家族社会学、臨床社会学 次のステージ：社会学概論で学んだ基本的な概念、理論、視点を身につけて、社会学の諸領域に視野を広げる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会学と社会システム	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-古波蔵 契	1年	メール（授業初回にお伝えします）、授業前後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本講義では、社会福祉に取り組む上で不可欠な、現代社会に関するマクロな知識・視点の習得を目指す。社会システム全体における「福祉」という分野の位置づけを理解する。	メッセージ 本授業で学ぶ社会理論、システムとして社会を捉える視点は、日常生活の中で課題を発見し、解決に向けた糸口を考える上で、必ず役に立ちます。「家族」や「地域」といった、日頃無意識に接してきた事柄を社会学の視点から捉え直すことで、「当たり前」だと思っていたこと、「変わらない」と諦めていたことに向き合うきっかけになればと思います。
	到達目標 本講義では、テキストに沿って現代社会が抱える課題を体系的に学ぶ。それ通じて、社会福祉としての業務を遂行する上で不可欠な、①身の回りの人間関係や生活世界の中から、課題を発見し、批判的に分析する能力、②身近な課題を社会の仕組みと関連づけて理解する視点の涵養を目指す。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション——社会福祉と本授業の関わり	
	2	現代社会を理解する——社会システムと法、経済	
		時間外学習の内容	
	3	社会変動とグローバル化	テキストの目次に目を通しておく
	4	人口からみた社会変動	予習：テキスト第1章1～3節
	5	生活のとらえ方（1）家族	予習：テキスト第1章4節
	6	生活のとらえ方（2）地域	予習：テキスト第1章5節
	7	社会的行為	予習：テキスト第2章1～2節
	8	社会的役割	予習：テキスト第2章3節
	9	社会集団と組織	予習：テキスト第3章1節
	10	社会的ジレンマ	予習：テキスト第3章2節
	11	社会関係資本と社会的連帯	予習：テキスト第3章3節
	12	社会問題のとらえ方	予習：テキスト第3章4節
	13	共生社会と権利	予習：テキスト第3章5節
	14	現代沖縄社会の課題	予習：テキスト第4章1～2節
	15	まとめ・補足	予習：テキスト第4章3節
	16	期末テスト	授業の中で指示します
			授業の中で指示します
			授業の中で指示します
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト 社会福祉士養成講座編集委員会編『社会理論と社会システム(新・社会福祉士養成講座) 第3版』中央法規出版、2014年。		
	学びの手立て		
	①履修の心構え 履修に当たっては、テキストの目次に目を通し、興味関心の湧いたチャプターから読み進めておくこと。 ②学びを深めるために 授業中に紹介する文献・映像に可能な限り当たってみる。		
	評価		
	授業ごとに提出するコメント・シートの内容（40%）と期末テスト（60%）の結果を総合して評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ①関連科目： 他の社会福祉士関連科目、とくに「社会調査の基礎」 ②次のステージ： 授業で会得した洞察力を日常生活の中で応用するスキルを磨くこと
-------	---

※ポリシーとの関連性

本講義では、カリキュラム・ポリシーの一つである「社会福祉専門職の養成」に関わる技能を習得することを目指す。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会調査の企画と設計	後期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮平 隆央	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、社会調査の基礎について学び、さらに後半では質的調査の方法を学ぶ。この講義を通して、社会福祉専門職として働く上で頻繁に触れることになる社会調査によるデータの読み方を身につけ、さらに効果的な支援を構築するために不可欠となる社会調査を自ら実施する能力を身につけることがねらいである。</p>	<p>社会調査の基礎を学ぶ。「社会調査の基礎」では量的調査を中心に内容を展開したが、本講義ではサンプリングの技法と質的調査（とりわけ参与観察法、生活史法、ドキュメント分析など）に力点を置いて講義を行う。また、学生各自による調査の企画と設計、および量的調査または質的調査のいずれかを使用した調査の実践を行い、その成果を論文にまとめてもらう。</p>
到達目標	<p>本講義の到達目標は以下の通りである。</p> <p>①質的調査によるデータを読んで、社会的な事象についての考察に活かせるようになること。</p> <p>②自らの関心を質的調査によって明らかにする手法を身につけること。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	「社会調査の企画と設計」への招待	授業内で指示：語句確認等、小課題
	2	標本抽出（サンプリング）の理論	授業内で指示：語句確認等、小課題
	3	サンプリングの種類	授業内で指示：語句確認等、小課題
	4	サンプリングの実際	授業内で指示：語句確認等、小課題
	5	質的調査の考え方	授業内で指示：語句確認等、小課題
	6	質的調査の種類	授業内で指示：語句確認等、小課題
	7	質的調査の諸注意	授業内で指示：語句確認等、小課題
8	ドキュメント分析と観察法	授業内で指示：語句確認等、小課題	
9	生活史法とライフコース分析	授業内で指示：語句確認等、小課題	
10	面接とインタビューの技法	授業内で指示：語句確認等、小課題	
11	調査実施の際の諸注意	授業内で指示：語句確認等、小課題	
12	個別研究テーマの提出	授業内で指示：語句確認等、小課題	
13	調査の企画と設計の発表・提出	授業内で指示：語句確認等、小課題	
14	調査実施の効果とふりかえり	授業内で指示：語句確認等、小課題	
15	本講義のまとめと課題提出	授業内で指示：語句確認等、小課題	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】 大谷信介、他著『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房</p>		
学びの手立て	<p>原則的に講義形式で進めるが、調査票作成および調査プロトコール作成においてはグループごとに討論することもあるため、話し合い、および活動には積極的に参加すること。</p>		
評価	<p>レポート（40%）、試験（40%）、グループ参加状況（20%）などを総合的に評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目 本講義で身につけた調査法の技能を、ぜひ各自の課題研究に生かしてほしい。</p> <p>(2) 次のステージ 各自の関心に即して収集したデータに基づいた考察を行い、具体的な支援や行動につなげられるようになることである。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会統計学 I	前期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-細川 妃奈子	2年	講義終了後またはメールにて対応します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この講義では、統計的データをまとめたり、分析したりするために必要な基礎的な統計学的知識について学び、統計リテラシー（統計を読み取り必要な情報を得る力・統計を作成し正確な情報を作る力、など統計を活用する力）を身につけることを目指します。	統計は、私たちが生活している社会の有り様を示す、重要な情報の一つです。しかし、社会には、信頼のおけるものから不確かなものまで、様々な統計・数字があふれています。講義では、事例をできるだけ多く紹介して統計的な考え方のイメージや基礎的な考え方を学ぶとともに、パソコンを使用して実際に統計を作成・分析する作業を通じ、理解を深めて行きます。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. PCを利用して、簡易な統計データを作成することができる。 2. 統計データを加工して、簡易な分析ができる。 3. 統計データの分析を通じて、社会現象について考察できる。 4. インターネット・図書館等を利用して、目的に応じた統計データを収集することができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション（講義の趣旨・方法・スケジュールの説明）	①統計関連書籍・サイト閲覧
	2	「統計」とは何か？（ものごとを数字で測るとは？ 統計学的な考え方）	①+②講義使用データの復習
	3	「測る」とはどういうことか？（尺度と変数、度数分布とグラフ）	①+②講義使用データの復習
	4	データの特徴をどう表すか？～基本統計量1（代表値とは何か）	①+②講義使用データの復習
	5	データの特徴をどう表すか？～基本統計量2（散布度とは何か）	①+②講義使用データの復習
	6	データの特徴をどう表すか？～基本統計量3（尖度・歪度、正規分布・標準偏差）	①+②講義使用データの復習
	7	データからどこまで確かなことがいえるか？1（検定・推定の考え方、抽出法の理論）	①+②講義使用データの復習
	8	収集したデータ間に関連性はあるか？ ～量的変数1～（相関係数）	①+②講義使用データの復習
	9	収集したデータから予測はできるか？ ～量的変数2～（回帰分析の基礎1）	①+②講義使用データの復習
	10	収集したデータによる予測をどう読み取るか？～量的変数3～（回帰分析の基礎2）	①+②講義使用データの復習
	11	みせかけの関連性を見抜くにはどうするか？～量的変数4～（変数のコントロール、偏相関係数）	①+②講義使用データの復習
	12	収集したデータ間に関連性はあるか？～質的変数1～（独立性の検定）	①+②講義使用データの復習
	13	データの関連性をどうやって示すか？～質的変数2～	①+②講義使用データの復習
14	複数のデータをどうやって読み解くか？～質的変数3～（エラボレーション）	①+②講義使用データの復習	
15	複数のデータをどうやって読み解くか？～質的変数4～（エラボレーション2）	①+②講義使用データの復習	
16	講義の振り返り・まとめ（レポート提出）	①+②講義使用データの復習	
テキスト・参考文献・資料など	テキスト・参考文献・資料など 下記のテキストを使用する受講者は各自入手すること。ほか、必要に応じて別途、講義中で指示する 廣瀬毅士・寺島拓幸編著『社会調査のための統計データ分析』オーム社、2010年		
学びの手立て	①「履修の心構え」 原則として、毎回パソコンを使用して統計データの加工・処理を学習します。そのため講義冒頭でデータの配布等を行います。遅刻・欠席は受講上大きな支障となります。注意してください。なお、欠席に関しては、必ず欠席届を提出してください。 ②学びを深めるために 本講義ではPC使用が必須です。PC操作が苦手な人もいますが、卒業後は必須の技術です。本講義では主としてEXCELを使用しますので、日ごろからEXCELに触ることをお勧めします。小遣い帳、燃費計測、バイトの給与計算等、日ごろの生活で使ってみてください。		
評価	平常点：70%、期末課題：30% 平常点：毎講義で、課題を配布するので、その課題を加工して提出してください（課題の取り組み方、授業態度等）。なお、遠隔講義の場合は、毎回課題（5点×14回）を配布し、提出してもらう。 期末課題：講義中で学習した内容について、EXCELデータを加工して回答する課題を出題する。受講生は回答の上、期限までに提出する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「社会統計学Ⅱ」 社会統計学Ⅰを受講後、より多様な数量データ分析の初歩を学んでほしい。また、社会調査士指定科目等における質的調査・データに関する学習が調査におけるデータの取り扱いについて理解をより深める。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会統計学Ⅱ	後期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-細川 妃奈子	2年	講義終了後またはメールにて対応します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この講義では、「社会統計学Ⅰ」の内容を踏まえ、社会調査データの分析で用いる基礎的な多変量解析法について、その基礎的な考え方と方法を学びます。講義ではPCで実際にデータを加工します。到達目標として、基礎的統計リテラシー（統計を読み取り必要な情報を得る力・統計を作成し生活な情報を作る力など統計を活用する力）を高めることを目指します。	社会で起きている現象の多くは、一つの要因で起こることよりも、複数の要因が関係によることもあります。逆に、一つの要因が複数の現象を生み出すこともあります。社会統計学における多変量解析は、社会現象に関わる様々な要因の関係を数学で表そうとするものです。講義では、事例をできるだけ多く紹介し、多変量解析のイメージや基礎的な考え方をお話したいと思います。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多変量解析に関する基本的な知識・技術が身についている 2. 多変量解析の学習を通じて、社会現象が多様な要素から成り立っていることを想像できる 3. 統計解析など、数量データを活用するメリットを学ぶとともに、そのデメリットと等も学び、多面的に社会現象を理解・想像できる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション（講義の趣旨・方法・スケジュールの説明）	①統計関連書籍・サイト閲覧
	2	「多変量解析」を学ぶ前に（社会統計学Ⅰの復習）	①+②講義使用データの復習
	3	「多変量解析」とは何か？（多変量解析の種類と用途、その方法の概要）	①+②講義使用データの復習
	4	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」1	①+②講義使用データの復習
	5	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」2	①+②講義使用データの復習
	6	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」3	①+②講義使用データの復習
	7	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」4	①+②講義使用データの復習
	8	複数の変数を合成する「主成分分析」1	①+②講義使用データの復習
	9	複数の変数を合成する「主成分分析」2	①+②講義使用データの復習
	10	複数の変数を合成する「主成分分析」3	①+②講義使用データの復習
	11	複数の変数を合成する「主成分分析」4	①+②講義使用データの復習
	12	データの背後を分析する「因子分析」1	①+②講義使用データの復習
	13	データの背後を分析する「因子分析」2	①+②講義使用データの復習
	14	データの背後を分析する「因子分析」3	①+②講義使用データの復習
15	データの背後を分析する「因子分析」4	①+②講義使用データの復習	
16	講義のふりかえり・まとめ（レポート提出）	①+②講義使用データの復習	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>下記のテキストを使用する。受講者は各自入手すること。また、社会統計学Ⅰのテキストを随時参考資料として使用する。</p> <p>ほか、必要に応じて別途、講義中で指示する。</p> <p>○主テキスト 浦井良幸、浦井貞美『多変量解析がわかる』技術評論社 2011</p>

学びの手立て	<p>①「履修の心構え」 原則として、毎回パソコンを使用して統計データの加工・処理を学習します。そのため講義冒頭でデータの配布等を行います。遅刻・欠席は受講上大きな支障となります。注意してください。なお、欠席に関しては、必ず欠席届を提出してください。</p> <p>②学びを深めるために 本講義ではPC使用が必須です。PC操作が苦手な人もいますが、卒業後は必須の技術です。本講義では主としてEXCELを使用しますので、日ごろからEXCELに触ることをお勧めします。小遣い帳、燃費計測、バイトの給与計算等、日ごろの生活で使ってみてください。</p>
--------	---

評価	<p>平常点：70%、期末課題：30%</p> <p>平常点：毎講義で、課題を配布するので、その課題を加工して提出してください（課題の取り組み方、授業態度等）。なお、遠隔講義の場合は、毎回課題（5点×14回）を配布し、提出してもらう。</p> <p>期末課題：講義中で学習した内容について、EXCELデータを加工して回答する課題を出題する。受講生は回答の上、期限までに提出する。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目 「社会統計学Ⅰ」 社会統計学Ⅱは、社会統計学Ⅰで学習した内容を踏まえて行うため、前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ）を連続して受講することが望ましい。 ただし、社会統計学Ⅱを先に受講することを妨げない。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会福祉学特講A	集中		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高山 直樹	2年	授業終了後に受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>現在、地域共生社会の構築に向けて、各地で様々な取り組みが行われている。本科目は、広く全国の先進事例を学び、地域共生社会を実現するための理念、方法、課題等を学ぶ。講義では、多様な分野（高齢者、障害児者、子ども、ひきこもり等々）の生活課題をテーマにして、今後の日本の社会福祉の方向性を探っていく。</p>	<p>2016年7月、神奈川県内の障害者施設において元職員による殺傷事件がありました。この事件は差別、優生思想、入所施設等の様々な問題が絡み合っています。本講では、この事件に加え、現代的課題を取り上げ、地域共生社会のあり方を掘り下げて考えていきます。専門の勉強を始めたばかりの2年次にも理解できる内容です。</p>
到達目標	<p>地域共生社会の理念および様々な事例について学ぶことができる。また、多様なセクターの特徴を学ぶことができる。さらに、異分野異業種との協働による取組みにおいてソーシャルワーカーに期待されていることを理解することができる。広く全国の取組み事例を学んだ上で沖縄の課題を見出すことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講師自己紹介、講義オリエンテーション、その他	配布資料を復習する
	2	少子高齢化、人口減少社会の現状を把握する	教員が提示したテーマについて議論
	3	地域共生社会が求められている社会背景について理解する	教員が提示した宿題をする
	4	事例1-1	配布資料を復習する
	5	事例1-2	教員が提示したテーマについて議論
	6	事例1-3	教員が提示した宿題をする
	7	事例2-1	配布資料を復習する
	8	事例2-2	教員が提示したテーマについて議論
	9	事例2-3	教員が提示した宿題をする
	10	事例3-1	配布資料を復習する
	11	事例3-2	教員が提示したテーマについて議論
	12	事例3-3	教員が提示した宿題をする
	13	地域共生社会構築のプロセスにおけるソーシャルワーカーの役割①	配布資料を復習する
14	地域共生社会構築のプロセスにおけるソーシャルワーカーの役割②	配布資料を復習する	
15	地域共生社会構築のプロセスにおけるソーシャルワーカーの役割③	配布資料を復習する	
16	まとめ	レポートをまとめる	
テキスト・参考文献・資料など	資料等は配布する。		
学びの手立て	<p>①履修の心構え：本講義は、地域共生社会の構築について理論的に学ぶと共に具体的事例を学ぶ講義です。また、ソーシャルワーカーの役割について多角的に考えることを目指しているため、これらの点に関心があることが望ましい。集中講義形式なので、あらかじめスケジュールを調整して講義に集中できるようにする。</p> <p>②学びを深めるために：実際にアクションを起こしたり関連文献を読んだりして学びを深めましょう。</p>		
評価	中間レポート（40%）、最終レポート（40%）、平常点（20%）		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：社会福祉専攻専門科目すべてにつながる内容。専門分野の実践を理解する上でベースとなる科目。</p> <p>次のステージ：地域共生社会の理論研究にふれて考えを深める。ボランティアとして地域の取組みに参画する。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会福祉調査の基礎	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-糸数 温子	1年	講義終了後、時間の許す限り受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、社会調査の意義・目的・方法・倫理に関する基礎を学びます。</p> <p>今後、福祉の専門職として福祉サービスを必要とする方へのよりよい相談援助を展開するためにも、社会調査にもとづく基礎データを読み解き、また自ら社会調査を設計・実施によってできることを目指します。</p>	<p>・オンライン講義ですが、みなさんからのご意見や感想をできる限り拾い、アプリによってグループワークなども取り入れます。専門知の習得だけではなく、IT活用についても講義内で扱います。</p>
到達目標	<p>本講義の到達目標は以下の通りである。</p> <p>①社会調査の意義・目的・方法・倫理に関わる基本的知識を習得する。</p> <p>②他者の意見を適切に理解し、それを踏まえて?分の意?を論理的に述べるができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（本講義の概要、社会調査の意義、目的）	
	2	社会調査の歴史、ソーシャルワーク	テキスト（第1章）を読む
	3	社会調査の概要	テキスト（第2章）を読む
	4	社会調査における倫理と個人情報保護	テキスト（第5章）を読む
	5	社会調査の実施にあたってのIT活用方法	テキスト（第6章）を読む
	6	量的調査の方法①	テキスト（第3章）を読む
	7	量的調査の方法②（調査票作成）	テキスト（第3章）を読む
8	量的調査の分析①（配布と回収）	テキスト（第3章）を読む	
9	量的調査の分析②（データ解析）	テキスト（第3章）を読む	
10	質的調査の方法①	テキスト（第4章）を読む	
11	質的調査の方法②（調査設計）	テキスト（第4章）を読む	
12	質的調査の方法③（調査の実施）	テキスト（第4章）を読む	
13	質的調査の分析④（グループワーク）	レポートの文章化	
14	質的調査の発表と報告	レポートの文章化	
15	本講義のまとめ	テキスト（第7章）を読む	
16	レポート提出		
テキスト・参考文献・資料など	<p>■テキスト：社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 社会調査の基礎』中央法規</p> <p>■参考文献：大谷信介、他著『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房</p> <p>講義は上記「テキスト」を使います。適宜、講義内で「参考文献・資料」を紹介することもあります。さらに、社会調査を行おうと考えている方、社会調査士資格の取得を目指す方は、上記「参考文献」も参照してください。</p>		
学びの手立て	<p>・新型コロナ対策のため本講義はオンラインで実施する。そのため、視聴のできるデバイス環境の整備、ZOOM等のアプリケーションを適宜ダウンロードするよう求めるため、学内外で活用できるインターネット環境・PCの利用できる場所を確認しておいてください。</p>		
評価	<p>① 毎回のコメントペーパーに基づく評価（30%）</p> <p>② グループワークやディスカッション、課題提出への参加姿勢（45%）</p> <p>③ 期末レポートまたはテスト（25%）</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	・社会福祉士資格取得、社会調査士資格取得のための科目

科目基本情報	科目名 社会福祉の基礎	期別	曜日・時限	単位
		前期	水 4	2
	担当者 岩田直子 (2)、ウィルコックス (2)、桃原一彦 (2)、比嘉昌哉 (3)、樋口美智子 (2)、小柳正弘 (2)、知名孝 (3)	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	本講義は福祉専攻7名の教員で担当する。問い合わせは専攻主任知名まで連絡すること。	
学びの準備	ねらい 社会福祉学の基礎を様々な専門領域から学ぶ。	メッセージ 本科目は1年次の必修科目である。つまり、絶対に履修しなければならない科目である。講義は、社会福祉専攻教員が2~3コマずつ担当し、社会福祉についてそれぞれの研究領域から教示する。将来、自分がどういった領域に進むべきか、また2年次でどの専門演習ゼミを希望するか等の参考にして下さい。		
	到達目標 社会福祉学の基礎および各専門領域の特色を理解し、2年~4年次で履修する専門演習ゼミの選択の参考にする。			
学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 第1回目の講義・オリエンテーション時に詳細を提示する。なお、第1回目の講義は必ず出席するようにしてください。対面授業を基本としますが、コロナウイルス感染の状況に応じてOnline授業となる可能性もある。			
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しません。 各担当教員が講義の中で必要に応じ紹介する。			
	学びの手立て 7名の教員が担当するそれぞれの講義内容によって異なる。その注意事項等を必ず聞き漏らさないように気をつけてください。			
	評価 講義を担当する7名の専攻専任教員がそれぞれ100点満点で評価を行い、その評価点を総合して最終評価を行う。この講義に関しては、1名の講師で2~3コマを担当するので、1回でも欠席をすると60点以下 (不可に相当する) 評価が出されることがあるので注意すること。評価はそれぞれの講師の担当回で出される課題をもって評価を行う。			
学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習aや他の専門演習および社会福祉士資格、精神保健福祉士資格関連科目。			

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会保障 I	前期	月 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富 郁哉	2年	教員メールにて受け付ける。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義のねらいは、まず、社会保障とは何かを理解することにある。また、社会保障制度の概念や体系、少子高齢化を背景とした我が国における社会保障制度の課題を学ぶ。「社会保障 I」では、公的医療保険制度を中心に知識を深める。</p>	<p>学問としての社会保障制度について学ぶことは当然であるが、社会保障制度を、身近な問題となる「医療」との関わりでとらえ、医療保険制度が解決手段として活用できるよう知識を深めてもらいたい。なお、前期に開講する「保健福祉政策論」を同時履修することによって「医療」をより幅広く理解することができる。</p>
到達目標	<p>一般目標：「社会保障」の定義を明確にし、その目的や機能を再確認する。また、「社会保障」が個人のライフサイクルの中でどのように関わっているかを理解する。さらに、社会保障給付のしくみ、社会保障給付費の動向について理解する。行動目標：①社会保障の定義を説明できる。②社会保障の体系を説明できる。③社会保障の機能を説明できる。④ライフサイクルからみた社会保障制度を説明できる。⑤社会保障給付費のしくみ・動向を説明できる。⑥公的医療保険制度について説明することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・社会保障とは	社会保障・ナショナルミニマムとは
	2	わが国における社会保障給付費について理解する	社会保障制度・社会保障給付費とは
	3	ライフサイクルからみた「社会保障制度」を理解する	社会保障制度を調べる
	4	社会保障制度の体系について理解する	社会保障制度の体系について調べる
	5	社会保障の5つの機能について理解する	社会保障5機能について調べる
	6	社会保障給付費の財源について理解する	社会保障制度の財源について調べる
	7	国民負担率とは何かを理解する	国民負担率について調べる
	8	公的医療保険制度の特徴について理解する	公的医療保険制度とその特徴とは
	9	我国の公的医療保険制度の体系について理解する	公的医療保険制度の体系とは
	10	被用者保険の保険料の算定方法について理解する	医療保険料の算定方法①
	11	地域保険の保険料算定方法について理解する	医療保険料の算定方法②
	12	「傷病手当金」について理解する	傷病手当金について調べる
	13	「出産育児一時金」について理解する	出産育児一時金について調べる
14	「保険外併用療養費」について理解する	保険外併用療養費について調べる	
15	「高額療養費制度」について理解する	高額療養費制度について調べる	
16	期末試験実施予定（新型コロナの感染状況によっては課題レポートに替えることがある）	振り返りと期末試験の実施	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：中央法規・最新・社会福祉士養成講座7「社会保障」を指定テキストとする。同テキストは時間外学習に役立ててもらいたい。参考文献：「国民衛生の動向」厚労省統計協会</p>		
学びの手立て	<p>履修の心構え：本科目は社会保障制度概論と、主として「公的医療保険制度」について教示する。「医療」は、健康に関する身近な生活問題であることから、公的医療保険制度は重要な社会保障制度としてとらえ学習に取り組んでもらいたい。学びを深めるために：日頃から新聞・テレビニュース、雑誌などでとりあげられる公的医療保険関連について積極的に関心を示し知識として蓄えてもらいたい。保健福祉政策論の同時履修が望ましい。</p>		
評価	<p>期末試験の得点を学部履修規定に基づき評価する。また、授業出席は単位付与の前提条件であるため、出席時数が3分の2に満たない者は期末試験を受けることができない。なお、Covid-19感染拡大等で期末試験が実施できなかった場合は授業出席状況(50%)及び課題レポート(50%)によって評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目：前期に開講する「保健福祉政策論」を同時履修することによって「医療」をより幅広く理解することができ、公的医療保険制度との関連を深めることができる。(2) 次のステージ：社会保障制度を学び、身近な問題（病気になったら、職場でけがをしたら、失業したらなど）の解決手段に役立てる。相談援助業務には必要不可欠な知識となる。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 本科目は、社会福祉専門職に関わる重要かつ不可欠な学問であり、共通する知識となる。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会保障Ⅱ	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富 郁哉	2年	教員メールにて受け付ける。	

学びの準備	ねらい 社会保障制度のうち、「年金保険制度」、「労働保険制度」（労災保険・雇用保険制度）について知識を深める。	メッセージ 学問としての社会保障制度について学ぶことは当然であるが、社会保障制度を、私たちの生活上生じた問題の解決手段として活用できるよう知識を深めてもらいたい。社会保障Ⅰ履修済みであることが望ましい。
	到達目標 一般目標：「社会保障」の定義を明確にし、その目的や機能を再確認する。また、「公的年金制度」及び「労働保険制度」のしくみと体系を理解し、個人のライフサイクルとどのように関わるかを知る。行動目標：公的年金保険制度の種類と内容を理解し、説明することができる。また、労働保険制度の労働者災害補償制度(労災)と雇用保険制度(失業保険等)の内容を理解し、説明することができる。	

学びの準備	到達目標 一般目標：「社会保障」の定義を明確にし、その目的や機能を再確認する。また、「公的年金制度」及び「労働保険制度」のしくみと体系を理解し、個人のライフサイクルとどのように関わるかを知る。行動目標：公的年金保険制度の種類と内容を理解し、説明することができる。また、労働保険制度の労働者災害補償制度(労災)と雇用保険制度(失業保険等)の内容を理解し、説明することができる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	公的年金制度①	公的年金制度の沿革
	2	公的年金制度②	公的年金制度の概要・体系について
	3	公的年金制度③	国民年金制度について
	4	公的年金制度④	厚生年金制度について
	5	公的年金制度⑤	その他の年金制度について
	6	公的年金制度の管理運営体制	公的年金制度の課題とは
	7	公的年金制度振り返り	公的年金制度についての復習
	8	労働保険制度①	労災補償制度の目的・対象について
	9	労働保険制度②	労災補償制度給付内容について
	10	労働保険制度③	雇用保険制度の目的・対象について
	11	労働保険制度④	雇用保険制度給付内容について①
	12	労働保険制度⑤	労働保険制度給付内容について②
	13	労災保険・雇用保険の管理運営体制	労働保険制度の課題
	14	労働保険制度振り返り	労働保険制度についての復習
	15	まとめ	講義時に配布したReview資料
16	期末試験実施予定（新型コロナの感染状況によっては課題レポートに替える）	講義時配布のReviewの理解	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：中央法規・最新・社会福祉士養成講座7「社会保障」を指定テキストとする。同テキストは時間外学習に役立ててもらいたい。参考文献：「国民衛生の動向」厚労省統計協会等には最新情報が掲載され、参考となる。なお、社会保障制度は頻繁に改正が行われるため、教科書・参考書等は最新版のものを使用（購入）することが望ましい。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え：本科目では、主として「公的年金制度」「労働保険制度」について教示する。高齢社会における年金の問題、働き方改革と労働保険制度、いづれも身近な課題として重要であることから、積極的に学習に取り組んでもらいたい。学びを深めるために：日頃から新聞・テレビなどのニュース、雑誌などでとりあげられる年金・働き方改革等関連情報について積極的に興味を持ち、知識として蓄えることが望ましい。
-------	--

学びの実践	評価 期末試験の得点を学部履修規定に基づき評価する。また、授業出席は単位付与の前提条件であるため、出席時数が3分の2に満たない者は期末試験を受けることができない。なお、Covid-19感染拡大等で期末試験が実施できなかった場合は授業出席状況(50%)及び課題レポート(50%)によって評価する。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目：前期「社会保障Ⅰ」が履修済みであることが望ましい。後期開講「高齢者の生活支援と介護保険制度Ⅱ」(2) 次のステージ：社会保障制度を学び、身近な問題（老後の生活保障、職場でけがしたら、失業したらなど）の解決手段に役立てる。相談援助業務には必要不可欠な知識と捉えてほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会・集団・家族心理学（社会・集団）	後期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡 明奈	2年	研究室5号館534号室 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	社会・集団に関する心理学の古典的な知見および研究手法について学び、理解する。また、公認心理師資格試験に対応する該当領域を網羅しつつ、日常的な心理現象を扱いながら講義を進め、これらを社会心理学的視点からみる力を養う。	この講義を通して、日常や社会で生じている出来事を社会心理学的な視点で捉えられるようになります。
到達目標	①社会・集団心理学分野における古典的な研究知見や理論について理解する。 ②社会・集団心理学分野における専門用語や理論を用いて、日常や社会で生じている現象を説明することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション	シラバスの内容の理解
2	自己過程		授業の復習
3	対人認知		授業の復習
4	対人関係の形成と発展		授業の復習
5	対人間のコミュニケーション		授業の復習
6	対人ストレスとソーシャルサポート		授業の復習
7	態度変容		授業の復習
8	ステレオタイプと偏見		授業の復習
9	向社会的行動と反社会的行動		授業の復習
10	社会的促進・抑制		授業の復習
11	社会的影響		授業の復習
12	集団過程		授業の復習
13	社会的相互作用		授業の復習
14	文化と社会心理学		授業の復習
15	集団行動とマスコミュニケーション		授業の復習
16	期末試験		授業の復習
実践	テキスト・参考文献・資料など	・教科書は特に指定せず、毎回配布する資料を中心に講義を進めます。	
	学びの手立て	・他の受講生の迷惑になる行為（私語、遅刻、途中退出等）は控えてください。 ・授業内で分からなかった所は、リアクションペーパーへ遠慮なくご記入ください。次回の授業にて可能な限りフィードバックを行います。	
	評価	・成績は、授業への参加態度（50%）と学期末試験（50%）で評価します。授業への参加態度は、授業内で行う課題への取り組み具合やリアクションペーパーの内容も評価の対象となります。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	社会・集団・家族心理学（家族）や司法・犯罪心理学を合わせて履修すると、さらに学びを深められると思います。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	障害者支援実践演習A	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-田中 美也子	2年	E-mailで受け付けます。 ichuni0809miya@yahoo.co.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では、障害児支援を概観し、平成24年の改正児童福祉法に創設された「保育所等訪問事業」について、実践的に学びます。SDGs「持続可能な開発目標」を統合する一つのキーワードである「ダイバーシティ&インクルージョン」が根底に流れている「保育所等訪問事業」について学ぶことにより、現場に应用可能な障害児(者)支援の実践力を身につけることを目指す。	大学や実施施設の許可が得られた場合は、保育所や学校など現場に同行し実践的に学ぶことができます。
到達目標	障害児(者)支援の一形態としての「保育所等訪問事業」をコンパクトに説明することができる。 「保育所等訪問事業」について理論と実践の側面から説明ができる。 障害児(者)支援の実践的なスキルを身につけ、現場に応じて応用ができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1回：「障害」と支援／ケア	自身の「障害」観の整理（予習）
	2	第2回：障害と「子ども」	自身の「子ども」観の整理（予習）
	3	第3回：障害児支援としての「療育」	講義の内容の整理（復習）
	4	第4回：発達過程と「療育」	講義の内容の整理（復習）
	5	第5回：社会福祉における「療育」	講義の内容の整理（復習）
	6	第6回：「保育所等訪問事業」（理論）	講義の内容の整理（復習）
	7	第7回：「保育所等訪問事業」（理論）	講義の内容の整理（復習）
	8	第8回：「保育所等訪問事業」（実践と理論）	「保育所等訪問事業」実践
	9	第9回：「保育所等訪問事業」（実践と理論）	「保育所等訪問事業」実践
	10	第10回：「保育所等訪問事業」（実践と理論）	「保育所等訪問事業」実践
	11	第11回：「保育所等訪問事業」（実践と理論）	「保育所等訪問事業」実践
	12	第12回：「保育所等訪問事業」（実践と理論）	「保育所等訪問事業」実践
13	第13回：「保育所等訪問事業」（実践と理論）	「保育所等訪問事業」実践	
14	第14回：「保育所等訪問事業」（理論と実践）	「保育所等訪問事業」実践	
15	第15回：「保育所等訪問事業」の展望	展望を考察する（復習）	
16			
テキスト・参考文献・資料など			
レジュメ・資料を配布する。 テキスト ミルトン・メイヤロフ著「ケアの本質」			
学びの手立て			
①「履修の心構え」 テキストととして、ミルトン・メイヤロフの「ケアの本質」を使用します。授業計画に沿って熟読すること。			
②「学びを深めるために」 この授業は、実践的演習として重要である。大学や実施施設の許可が得られた場合は、現場に同行し実践的に学ぶこと。			
評価			
保育所等訪問事業に関する理論的な理解と施設訪問における実践とを50：50で評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目 ケアの理論と実践 (2) 次のステージ 障害児通所支援事業所等にボランティア実践の機会を求めてください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	前期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲村 小夜子	2年	講義開始前と終了後に受け付けます	

学びの準備	ねらい 障害者福祉の理念と意義および障害者の生活のしづらさや歴史と権利を学び、障害者福祉の施策や制度および動向の概要を理解することをねらいとします。本科目を通して障害者福祉の基礎知識を習得することを旨とします。	メッセージ 本科目は社会福祉士、精神保健福祉士の受験資格科目としても位置付けられており、講義はテキストを中心に、障害者福祉の基礎知識が習得できるように展開していきます。テキストは必ず購入しましょう。資格に関係なく広く障害者福祉を学びたい学生も歓迎します。障害者福祉が目指す社会像について考え、実践できるきっかけとなれば嬉しく思います。共に学んでいきましょう。
	到達目標 ①障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む）について理解することができる。 ②障害者福祉制度の発展過程について理解することができる。 ③相談援助活動において必要となる障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション(講義概要の理解)	講義内容を各自確認
	2	障害者を取り巻く社会情勢①	課題と次回講義予習
3	障害者の生活実態やニーズ	ミニ確認テストと次回講義予習	
4	障害の概念(ICFの特徴)、障害の医学モデル/社会モデル	ミニ確認テストと次回講義予習	
5	障害者基本法、他	ミニ確認テストと次回講義予習	
6	障害者虐待防止法、他	ミニ確認テストと次回講義予習	
7	障害者総合支援法① 理念・考え方、自立支援給付	ミニ確認テストと次回講義予習	
8	障害者総合支援法② 支給決定のプロセス、自立支援医療費、補装具費	ミニ確認テストと次回講義予習	
9	障害者総合支援法③ 地域生活支援事業、障害福祉計画	ミニ確認テストと次回講義予習	
10	障害者総合支援法④ 苦情解決、審査請求、介護保険制度との関連	ミニ確認テストと次回講義予習	
11	障害児福祉施策	課題と次回講義予習	
12	組織・機関の役割	ミニ確認テストと次回講義予習	
13	障害者総合支援法に基づく主な専門職の役割と実際	ミニ確認テストと次回講義予習	
14	多職種連携・ネットワーク	ミニ確認テストと次回講義予習	
15	まとめ・振り返り *進捗状況によりコマ数の変更、順序の変更あり	ふりかえり確認問題	
16	前期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト 新・社会福祉士養成講座(14) 障害者に対する支援と障害者自立支援制度(中央法規)の最新版(受講生は必ず購入すること) 参考文献・資料 参考文献は必要に応じて講義時間に紹介、資料は配布する。		
	学びの手立て ①社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験に必要な科目でもあり、毎回出席を取ります。②期末試験の受験資格、成績評価等その他については、学則、学部履修規程に基づきます。③講義内容の学びを深めるに、講義終了時にはリアクションペーパーの提出や簡単なミニ確認テスト等を行います。④復習、予習で理解度が確実にアップします。⑤福祉新聞や地元新聞にも目を通しましょう。		
	評価 講義時の【リアクションペーパー・課題・ミニテスト】等50%、【期末試験】50%で、まずは評価し、出席状況の内容を勘案して、最終評価をします。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ①関連科目：国家資格関連科目を履修しましょう。②次のステージ：実習や研究活動に活用しましょう。
-------	--

科目基本情報	科目名 神経・生理心理学（神経）	期別 後期	曜日・時限 木5	単位 2
	担当者 前堂 志乃	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 前堂：5-431/mshino@okiu.ac.jp 上田：13-213/y.ueda@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 神経・生理心理学は、脳・行動・心の関係性を正常・異常の両面から明らかにする学問領域である。心の動きは体や感覚器・神経系の活動と密接に関係している。従って、それらを知ることにより複雑な心の理解が容易になる。本講義では、神経・生理心理学の領域の中でも神経分野、特に脳神経系の構造及び機能、記憶と生理学的反応のしくみ、高次脳機能障害について学ぶ。	メッセージ 今、心は脳機能の現れと理解されている。しかし、脳と心との関係理解は簡単には理解できない。脳が観察可能な「実体」だが心は「目に見えない存在」だからである。ここでは表情や行動、ことばに表現されて、読み取られ、理解される。表情や行動やことばを表現することを実現させている、脳のしくみや働きを理解することで心と脳を理解しよう。
	到達目標 ①神経・生理心理学の基礎知識（専門用語、理論）を理解し、神経・生理心理学分野の入門書を自分で読んで内容を理解できる。 ②神経・生理心理学の基礎知識（専門用語、理論）と日常の出来事を結びつけて自分の言葉でわかりやすく説明できる。 ③日常の身近な課題や問題について、神経・生理心理学の基礎知識をもちいて考えることができる。 ④心理学的視点（人、社会、自分、他者、人間の心の諸問題を科学的に分析的に理解し考える力）を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	時間外学習の内容	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、生命と心（神経・生理心理学とは）	シラバスの理解と講義内容の復習
	2	中枢神経系の構造、神経系の情報伝達（ニューロンとシナプス）	講義内容の復習と日常観察
3	末梢神経系の構造と機能、脳の発生・発達と環境	講義内容の復習と日常観察	
4	感覚・知覚・運動と脳	講義内容の復習と日常観察	
5	学習・記憶と脳、遺伝・進化・経験と脳	講義内容の復習と日常観察	
6	半球機能の側性化と言語	講義内容の復習と日常観察	
7	注意・意識と脳	講義内容の復習と日常観察	
8	脳、大脳辺縁系とホメオスタシス	講義ノートの復習	
9	高次脳機能障害①失語	講義ノートの復習	
10	高次脳機能障害②失認③失行	講義ノートの復習	
11	高次脳機能障害④注意障害⑤記憶障害	講義ノートの復習	
12	高次脳機能障害⑥遂行機能障害⑦社会的行動障害	講義ノートの復習	
13	認知症・脳血管障害・外傷性脳損傷	講義ノートの復習	
14	認知リハビリテーション・子どもの発達障害	講義ノートの復習	
15	ストレスと健康	講義ノートの復習	
16	期末テスト	期末テストの準備と全体の総復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要な資料などは適宜配布する。以下に示す文献を参考図書とする。 ①理化学研究所脳科学総合研究センター（2011）. 脳科学の教科書 神経編（岩波ジュニア新書）岩波書店 ②理化学研究所脳科学総合研究センター（2013）. 脳科学の教科書 ところ編（岩波ジュニア新書）岩波書店 ③緑川晶・山口加代子・三村将編（2018）. 臨床神経心理学 医歯薬出版 ④森岡周（2014）. 脳を学ぶー「ひと」とその社会がわかる生物学 協同医書出版社 ④池谷裕二（2015）. 大人のための図鑑ー脳と心のしくみ 新星出版社		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 授業の配布資料や参考文献などで示す心理学の専門知識に関する文章を読んで理解するには、2度読み（下読み、分析読み）をすること、心理学の専門用語について自分で調べることが重要です。 予習、復習において、授業で学んだことを踏まえた日常観察を課します。日頃から脳と心について「よく読み、よく観察し、よく考える」ことに積極的に取り組んでください。 心理カウンセリング専攻学生を優先します。他学科、他専攻学生の受講に際しては、共通科目の心理学Ⅰ・Ⅱまたは心理学概論などの心理学入門科目を履修済みであることが望ましい。 		
評価	成績は、平常点（授業への参加態度や内容理解を振り返り課題などで評価）…30%、最終試験…70%によって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学概論、知覚・認知心理学、神経・生理心理学（生理）、学習・言語心理学 次のステージ：神経心理学と生理心理学の観点から自分の心の動きや行動、身近な物事を捉え考える（専門知識と日常を繋げる）習慣を継続しよう。引き続き、神経・生理心理学（神経）で学んだ知識と結びつけながらその他の心理学の専門科目を幅広く履修しよう。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	神経・生理心理学（生理）	前期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-遠藤 直子	2年	ptt234あつとまあくoku.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>神経・生理心理学は、脳・行動・心の間を正常・異常の両面から明らかにする学問領域である。心の動きは体や感覚器・神経系の活動と密接に関係している。従って、それらを知ることにより複雑な心の理解が容易になる。本講義では、神経・生理心理学の領域の中でも生理分野、特に感情と生理反応、睡眠時・薬物摂取時における生理反応のメカニズムなどを学ぶ。</p>	<p>日常生活の中でも、なぜ緊張するとドキドキするの？昼食後の3限で眠くなるのはなぜ？笑うと健康になるって聞くけどホント？どんな睡眠が良質なの？お酒を飲むとなぜ人格が変わるの？など、心と生理反応や身体の状態との関連についての不思議がたくさんあります。これらの基礎のメカニズムを学ぶことで、脳・行動・心の間についての理解を深めよう。</p>
到達目標	<p>①感情に関わる脳領域や神経系、身体への反応について理解し、説明できる。 ②脳波と覚醒レベルの関係、睡眠時の脳活動や生理状態の変化などについて理解し、説明できる。 ③薬物摂取時の脳活動の変化や依存のメカニズムを理解し、説明できる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、神経・生理心理学とは	講義概要の確認
	2	脳・神経系の基礎（脳の構造と機能）	資料の見直し、復習テストを解く
	3	脳・神経系の基礎（ニューロンとシナプス）	資料の見直し、復習テストを解く
	4	脳・神経系の基礎（自律神経系と内分泌系）	資料の見直し、復習テストを解く
	5	感情の心理学（感情の理論と測定法）	資料の見直し、復習テストを解く
	6	感情の心理学（ネガティブ・ポジティブ感情と自律機能）	資料の見直し、課題に取り組む
	7	感情の心理学（ネガティブ・ポジティブ感情と表情筋活動）	第1回課題提出 資料の見直し、復習テストを解く
	8	感情の心理学（感情の制御と感情に関わる脳部位）	資料の見直し、復習テストを解く
	9	睡眠・覚醒の心理学（脳波の基礎と分類）	資料の見直し、復習テストを解く
	10	睡眠・覚醒の心理学（脳波と覚醒レベル・睡眠段階）	資料の見直し、復習テストを解く
	11	睡眠・覚醒の心理学（睡眠と健康）	資料の見直し、復習テストを解く
	12	薬物使用と依存の心理学（薬物のタイプと依存）	資料の見直し、復習テストを解く
	13	薬物使用と依存の心理学（オピオイド、覚醒剤）	資料の見直し、課題に取り組む
	14	薬物使用と依存の心理学（アルコール）	第2回課題提出 資料の見直し、復習テストを解く
15	全体の復習、まとめ	資料及び復習テスト全体の見直し	
16	期末テスト	講義内容の総復習	

テキスト・参考文献・資料など
 テキストは使用しない。講義毎に資料を配付する。
 指定図書「脳とこころの不思議な関係 生理心理学入門」古川聡他 川嶋書店、
 「バイオサイコロジー」ピネル 西村書店、
 「生理心理学と精神生理学」Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ巻、堀忠雄・尾崎久記監修 北大路書房。
 その他、参考図書は適宜紹介する。

学びの手立て
 授業は対面で行います。毎回終了時にリアクションペーパー（感想、発見、疑問点など記述）を提出してもらいます。次回の講義時に皆さんからのコメントをいくつかピックアップして解説しますので、疑問点などを皆で共有し、理解を深める助けにしてください。また毎回、復習テストも添付するので、時間外学習に利用すること。またレポートを2回提出してもらいますが、詳細は講義内で説明します。

評価
 期末試験（50点）、授業期間内に提出のレポート2本（各20点、計40点）、受講態度（10点。主にリアクションペーパーの内容で評価）の合計によって評価する。なお、出席日数が2/3に満たない場合は単位を与えない。

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 関連科目：神経・生理心理学（神経）。次のステージ：引き続き、ここで学んだ知識と結びつけながら、神経・生理心理学（神経）およびその他の心理学の専門分野を広く履修し、また日常生活の中での生理状態の変化を心の動きと結びつけて、自分なりに分析してみる習慣を継続しよう。

科目基本情報	科目名 心理学概論	期別 通年	曜日・時限 水4	単位 4
	担当者 前堂 志乃 (16)、赤嶺遼太郎 (16)	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ 前期：mshinoあつとまあくokiu.ac.jp 後期：ptt1003あつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 心理学の歴史、生物-心理-社会（統合）モデル、研究法、各分野の重要研究、理論を学び心理学の全体像をつかむ。前期は「歴史、研究法、感覚・知覚、記憶、学習、思考、知能、動機づけ、情動、心と脳」、後期は「発達、パーソナリティ、社会、臨床」の基礎知識を学ぶ。心理学の基礎知識をもち人間心の諸問題を心理学的に捉える視点（心と行動を科学的に理解する）を獲得する。	メッセージ 心理学的視点で人や社会、自分自身について考える面白さをお伝え出来るよう、古典的な心理学から最近のトピックまで幅広く紹介しながら学習を進めていきます。関心のある分野を見つけて、自分で調べたり、周りの人に説明したり、知識や技術を積極的に使うことでより深く学ぶことができます。
	到達目標 ①心理学の基礎知識（専門用語、理論）を理解し、心理学の各分野の入門書を自分で読んで内容を理解できる ②心理学の基礎知識（専門用語、理論）と日常の出来事を結びつけて自分の言葉でわかりやすく説明できる。 ③日常の身近な課題や問題について、心理学の基礎知識をもちいて考えることができる。 ④心理学的視点（人、社会、自分、他者、人間の心の諸問題を科学的に分析的に理解し考える力）を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期オリエンテーション	予習法（2度読み・用語調べ）理解
	2	心理学の歴史・生物-心理-社会（統合モデル）	歴史・研究法の資料を復習
	3	心理学の研究法	感覚・知覚の資料を復習
	4	感覚・知覚1：感覚のメカニズムの理解	感覚・知覚の資料を復習
	5	感覚・知覚2：知覚・認知のメカニズムの理解	記憶の資料を復習
	6	記憶1：記憶のメカニズムの理解	記憶の資料を復習
	7	記憶2：日常記憶	記憶の資料を復習
	8	学習1：条件づけの理解	記憶の資料を復習
	9	学習2：条件づけ以外の学習理論の理解	思考と創造性の資料を復習
	10	思考と創造性1：思考の過程の理解・創造性の	思考と創造性の資料を復習
	11	思考と創造性2：言語過程と発達の理解・知能の定義と捉え方	動機づけ・情動の資料を復習
	12	動機づけ・情動1：動機づけの過程の理解	動機づけ・情動の資料を復習
	13	動機づけ・情動2：感情・情動のメカニズムの理解	こころと脳の資料を復習
	14	こころと脳1：脳と神経系の生理学的基盤・神経学的基盤の理解	こころと脳の資料を復習
	15	こころと脳2：脳と神経系の機能と心の働きとの関連・比較心理学的理解	期末課題によるこれまでの復習
	16	後期オリエンテーション	履修の基本ルール（出欠・成績等）
	17	発達心理学1：乳幼児期まで	用語調べ
	18	発達心理学2：児童期・青年前期まで	用語調べ
	19	発達心理学3：青年中期・後期～老年期まで	用語調べ
	20	パーソナリティ心理学1：パーソナリティ理論	用語調べ
	21	パーソナリティ心理学2：パーソナリティ検査	用語調べ
	22	パーソナリティ心理学3：パーソナリティ心理学の課題	用語調べ
	23	社会心理学1：対人認知・対人関係	用語調べ
	24	社会心理学2：集団・組織心理	用語調べ
	25	社会心理学3：家族心理	用語調べ
	26	臨床心理学1：臨床心理学の主要な理論	用語調べ
	27	臨床心理学2：教育・学校・司法・犯罪との関連	用語調べ
	28	臨床心理学3：産業・組織との関連	用語調べ
	29	進化心理学1	用語調べ
	30	進化心理学2	用語調べ
31	期末テスト	これまでの復習	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストは指定しない。授業時に必要な資料を配布する。 ・参考図書 坂口典弘・相馬花恵（2017）心理学入門 ステップアップ心理学シリーズ 講談社 鹿取広人・杉本敏夫・鳥居修晃（編）（2015）心理学第 [5版] 東京大学出版会 サトウタツヤ・渡邊芳之（2019）心理学・入門 [改訂版] 有斐閣 重野純（編）（2012）心理学 [改訂版] キーワードコレクション 新曜社
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>履修の心構え：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修に関する大学の規則を理解しておいて下さい。講義中は周囲の迷惑にならないよう配慮して下さい。 ・心理カウンセリング専攻学生を優先します。人間福祉学科以外の学生で公民科の教科に関する科目として履修したい場合は教職用クラス（2022年度開講予定）を履修してください。 <p>学びを深めるために：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で適宜参考図書を紹介します。関心のある分野の参考図書を積極的に読みましょう。 ・心理学の専門知識についての文章（配布資料、参考図書）を理解するには、心理学の専門用語を自分でも調べてみる習慣が大事になります。
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期は、平常点（授業参加態度・振り返りシート内容）：30%、課題レポート：10%、振り返りレポート：10%、期末テスト：50%の合計で評価。 ・後期は、平常点（30点満点）、期末テスト（70点満点）の合計点で評価。 ・前期、後期とも、課題やテストを用いて、上記の到達目標の①～④の達成度を評価する。前期と後期の点数を平均し通年の評価とする。後期の期末テストは特例で行う予定である。変更がある場合は事前に連絡する。
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学史、心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、知覚・認知心理学、学習・言語心理学、神経・生理心理学（生理/神経）、発達心理学、感情・人格心理学、社会・集団・家族心理学（社会・集団/家族）、臨床心理学概論、教育・学校心理学、教育心理学概論、司法・犯罪心理学、産業・組織心理学、福祉心理学、障害者・障害児心理学、健康・医療心理学など。次のステージ：心理学的視点で考える習慣を継続し、共通科目を幅広く学ぶ。</p>

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、
実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名 心理学基礎演習A	期別 前期	曜日・時限 火2	単位 2
	担当者 前堂 志乃	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ	
			研究室 5-431 e-mail mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（心理検査法、行動観察、自由再生、ミューラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナル・スペース、質問紙法）について実習を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究方法の基礎を体験的に身につけてもらう。	メッセージ 心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に取り組むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
	到達目標 ①人間のところや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。 ②実験法、観察法などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。 ③実験法、観察法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。 ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	初回オリエンテーション/実習の進め方についての諸説明/実験法の概説
	2	実習1-1：実験実習①（記憶の自由再生実験）の実施/実験テーマと実施手続きについての解説
	3	実習1-2：データ整理と図表の書き方のポイント解説
	4	実習1-3：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説
	5	文献検索のポイント解説/文献検索実習
	6	実習1-4：実験レポートの添削指導・ポイント解説
	7	実習2-1：実験実習②（ミューラー・リエル錯視）の実施/データ整理と図表の書き方のポイント解説
	8	実習2-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説
	9	実習3-1：実験実習③（パーソナル・スペース）の実施/データ整理と図表の書き方のポイント解説
	10	実習3-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説
	11	実習4-1：実験実習④（訓練の転移）の実施/データ整理と図表の書き方のポイント解説
	12	実習4-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説
	13	実習5-1：実験実習⑤（視覚的短期記憶）の実施/データ整理と図表の書き方のポイント解説
	14	実習5-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説
	15	実習6-1：質問紙法の概説/質問紙実習の説明
16	予備日	
		時間外学習の内容 配布資料・実験実習・実験法の理解 記憶実験と実験手続きの理解 データ整理・図表の作成 結果の読み取り・実験レポート作成 文献検索課題 実習①実験レポート最終版の作成 データ整理・図表の作成 実習②実験レポート作成 データ整理・図表の作成 実習③実験レポート作成 データ整理・図表の作成 実習④実験レポート作成 データ整理・図表の作成 実習⑤実験レポート作成 質問紙実習の理解・関連論文の熟読

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。 ①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房 ③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版 ④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成等）が必要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努める。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント：教育支援者）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成等について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切である。
--------	---

評価	<p>平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実験実習①～⑤）の5本…60%</p> <p>※原則として、全課題において実験者・実験参加者の役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすこと。研究計画書は問題と目的、方法、結果の整理、引用文献を含むこと。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学研究法Ⅰ、心理学実験Aを履修すること。 次へのステージ：引き続き心理学基礎演習B、心理学研究法Ⅱを履修すること。また、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修すると、研究法とそれによって得たデータの解析法との結びつきについて学びを展開することができる。 心理学基礎演習Aで学んだことを、その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	心理学基礎演習A	期別	曜日・時限	単位
	担当者	平山 篤史	前期	火 2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（心理検査法、行動観察、記憶的自由再生、ミューラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナルスペース、質問紙法）について実習を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究法の基礎を体験的に身につけてもらう。	メッセージ	心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究法の基礎を学ぶ心理らしい科目です。目には見えないところを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に取り組むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
	到達目標	<p>①人間のところや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。</p> <p>②実験法、観察法などの実証的研究手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。</p> <p>③実験法、観察法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。</p> <p>④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。</p>		

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	初回オリエンテーション/実習の進め方についての諸説明/実験法の概説	配布資料・実験実習・実験法の理解	
	2	実習1-1: 実験実習①（記憶の自由再生実験）の実施/実験テーマと実施手続きについての解説	記憶実験と実験手続きの理解	
	3	実習1-2: データ整理と図表の書き方のポイント解説	データ整理・図表の作成	
	4	実習1-3: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説	結果の読み取り・実験レポート作成	
	5	文献検索のポイント解説/文献検索実習	文献検索課題	
	6	実習1-4: 実験レポートの添削指導・ポイント解説	実習①実験レポート最終版の作成	
	7	実習4-1: 実験実習④（訓練の転移）の実施/データ整理と図表の書き方のポイント解説	データ整理・図表の作成	
	8	実習4-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説	実習④実験レポート作成	
	9	実習5-1: 実験実習⑤（視覚的短期記憶）の実施/データ整理と図表の書き方のポイント解説	データ整理・図表の作成	
	10	実習5-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説	実習⑤実験レポート作成	
	11	実習2-1: 実験実習②（ミューラー・リエル錯視）の実施/データ整理と図表の書き方のポイント解説	データ整理・図表の作成	
	12	実習2-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説	実習②実験レポート作成	
	13	実習3-1: 実験実習③（パーソナル・スペース）の実施/データ整理と図表の書き方のポイント解説	データ整理・図表の作成	
	14	実習3-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説	実習③実験レポート作成	
	15	実習6-1: 質問紙法の概説/質問紙実習の説明	質問紙実習の理解・関連論文の熟読	
16	予備日			

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）. 心理学基礎実習マニュアル 北大路書房</p> <p>②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）. 認定心理士資格準拠一実験・実習で学ぶ心理学の基礎—金子書房</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版</p> <p>④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成等）が必要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努める。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成等について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切。
--------	--

評価	<p>平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実験実習①～⑤）の5本…60%</p> <p>※原則として、全課題において実験者・実験参加者の役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすこと。研究計画書は問題と目的、方法、結果の整理、引用文献を含むこと。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学研究法Ⅰ、心理学実験Aを履修すること。</p> <p>次へのステージ：引き続き心理学基礎演習B、心理学研究法Ⅱを履修すること。また、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修すると、研究法とそれによって得たデータの解析法との結びつきについて学びを展開することができる。</p> <p>心理学基礎演習Aで学んだことを、その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	心理学基礎演習A	期別	曜日・時限	単位
	担当者	山岡 明奈	前期	火 2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室：5-534研究室 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（心理検査法、行動観察、自由再生、ミュラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナル・スペース、質問紙法）について実習を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究法の基礎を体験的に身につけてもらう。	心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
到達目標	<p>①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。</p> <p>②実験法、観察法などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。</p> <p>③実験法、観察法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。</p> <p>④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	初回オリエンテーション/実習の進め方についての諸説明/実験法の概説	配布資料・実験実習・実験法の理解
	2	実習1-1：実験実習①（記憶の自由再生実験）の実施/実験テーマと実施手続きについての解説	記憶実験と実験手続きの理解
	3	実習1-2：データ整理と図表の書き方のポイント解説	データ整理・図表の作成
	4	実習1-3：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説	結果の読み取り・実験レポート作成
	5	文献検索のポイント解説/文献検索実習	文献検索課題
	6	実習1-4：実験レポートの添削指導・ポイント解説	実習①実験レポート最終版の作成
	7	実習2-1：実験実習②（パーソナル・スペース）の実施/データ整理と図表の書き方のポイント解説	データ整理・図表の作成
	8	実習2-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説	実習②実験レポート作成
	9	実習3-1：実験実習③（訓練の転移）の実施/データ整理と図表の書き方のポイント解説	データ整理・図表の作成
	10	実習3-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説	実習③実験レポート作成
	11	実習4-1：実験実習④（視覚的短期記憶）の実施/データ整理と図表の書き方のポイント解説	データ整理・図表の作成
	12	実習4-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説	実習④実験レポート作成
	13	実習5-1：実験実習⑤（ミュラー・リエル錯視）の実施/データ整理と図表の書き方のポイント解説	実験実習の実施・データ収集
	14	実習5-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説	実習⑤実験レポート作成
15	実習6-1：質問紙法の概説/質問紙実習の説明	質問紙実習の理解・関連論文の熟読	
16	予備日		

テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書に常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房</p> <p>②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版</p> <p>④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>
----------------	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成等）が必要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努める。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・各実習ではSA（チューデント・アシスタント：教育支援者）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成等について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切である。
--------	--

評価	<p>平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実験実習①～⑤）の5本…60%</p> <p>※原則として、全課題において実験者・実験参加者の役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすこと。研究計画書は問題と目的、方法、結果の整理、引用文献を含むこと。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学研究法Ⅰ、心理学実験Aを履修すること。</p> <p>次へのステージ：引き続き心理学基礎演習B、心理学研究法Ⅱを履修すること。また、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修すると、研究法とそれによって得たデータの解析法との結びつきについて学びを展開することができる。</p> <p>心理学基礎演習Aで学んだことを、その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、
実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	心理学基礎演習A	期別	曜日・時限	単位
	担当者	上田 幸彦	前期	火 2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

基本的な心理学研究方法を用いた9つの実習（心理検査法、記憶の自由再生、パーソナルスペース、視覚的短期記憶、触二点閾、行動観察、訓練の転移、ミュラー・リエル錯視、質問紙法）について実習を行う。心理学のものの見方、考え方、研究方法を理解する。各テーマについて心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究方法の基礎を身につけてもらう。

心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理学らしい科目である。目には見えないココロを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。またこれまでの臨床心理士としての実務経験をもとに、実験と臨床場面での心理査定との関連にも触れながら講義を進めます。

①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。
②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。
③実験、調査、観察などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。
④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	全体オリエンテーション/ゼミ生同士の顔合わせ	シラバス、実施要項を理解する
	2	心理学研究法とは？（合同ゼミ）	配布資料の理解・課題へ取り組み
	3	実験法オリエンテーション（合同ゼミ）	配布資料の理解・課題へ取り組み
	4	実習①：心理検査法実習の概説と実習手順の説明（合同ゼミ）	検査法実習の実施・データ収集
	5	実習②-1：記憶の自由再生実験の説明（合同ゼミ）	実験の実施・データ収集
	6	実習②-2：実験結果の整理～考察までの解説	データの整理
	7	実習②-3：実験レポートの書き方の解説（合同ゼミ）	レポート草稿の作成
	8	合同ゼミ：文献検索実習	文献検索課題
	9	実習②-4：実験レポート草稿の添削フィードバック（合同ゼミ）	レポート改訂版の作成
	10	実習②-5：実験レポート最終版作成上のポイント解説（合同ゼミ）	レポート最終版の作成
	11	実習③-1：個別実験実習のテーマ説明・実施手順のポイント解説	実験実施・データ収集
	12	実習③-2：実習データの図表作成におけるポイント解説	データ整理・結果の読み取り
	13	実習③-3：実習データの読み取り・考察のポイント	レポート作成
	14	実習④-1：質問紙調査計画（案）の検討（合同ゼミ）	計画（案）の作成
15	実習④-2：質問紙計画書（改訂版）の検討（合同ゼミ）	計画改訂版の作成	
16	実習④-3：質問紙計画書（最終版）の検討・質問紙試作版の作成	最終版の作成・質問紙試作版作成	

実践	テキスト・参考文献・資料など
----	----------------

テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。
①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房
②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房
③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版
④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が重要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。
--------	---

評価	<p>平常点（演習参加への態度、各週に課される課題の提出状況）…40% レポート（実習①、②、③、④それぞれのレポート4本）…60% ※原則として、全課題において実験者・実験参加者としての役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学研究法Ⅰ、心理学実験Aを履修すること。 次へのステージ：引き続き心理学基礎演習B、心理学研究法Ⅱを履修すること。また、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修すると、研究法とそれによって得たデータの解析法との結びつきについて学びを展開することができる。 心理学基礎演習Aで学んだことを、その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、
実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	心理学基礎演習B	期別	曜日・時限	単位
	担当者	前堂 志乃	後期	火 2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室 5-431 e-mail mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（心理検査法、行動観察、記憶の自由再生、ミュラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナルスペース、質問紙法）について実習を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究方法の基礎を体験的に身につけてもらう。	心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に取り組むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
到達目標	<p>①人間のところや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。</p> <p>②実験法、観察法などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。</p> <p>③実験法、観察法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。</p> <p>④現代社会における諸問題について、心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	実習6-2：質問紙調査計画の立て方／質問紙調査計画書の書き方の説明	質問紙調査計画書の作成
	2	実習6-3：質問紙の作成方法の説明	質問紙の作成
	3	実習6-4：質問紙調査計画書と質問紙の添削指導とポイント解説①	質問紙調査計画書と質問紙の修正①
	4	実習6-5：質問紙調査計画書と質問紙の添削指導とポイント解説②	質問紙調査計画書と質問紙の修正②
	5	実習6-6：質問紙調査計画書と質問紙の添削指導とポイント解説③/依頼状の作成方法の説明	質問紙調査計画書と質問紙の完成
	6	実習6-7：依頼状の検討/調査の実施準備と実施方法の確認	質問紙と依頼状の完成/実査練習
	7	実習6-8：質問紙調査の実施/回収票のチェックとデータ集計	質問紙調査の実施・データ集計
	8	実習6-9：データ分析と図表の作成/結果の読み取りと考察	図表作成・結果の読み取りと考察
	9	実習6-10：質問紙実習レポート（実習⑥）の書き方/発表用資料の作成方法の説明	発表資料作成・発表練習
	10	実習6-11：質問紙実習発表会	実習⑥質問紙レポートの作成
	11	実習6-12：質問紙実習および発表会の振り返り	実習⑥質問紙レポートの作成
	12	実習7-1：観察法の概説・観察法実習の手順・実施方法・データ整理・図表作成の説明	データ整理・図表作成
	13	実習7-2：観察法の結果の読み取りと考察・観察実習レポート（実習⑦）の書き方の説明	結果読み取り・⑦観察レポート作成
	14	実習8-1：心理検査法の概説・心理検査実習の手順・実施方法・データ整理・図表作成の説明	データ整理・図表作成
	15	実習8-2：結果の読み取りと考察・心理検査レポート（実習⑧）の書き方の説明	結果読み取り・⑧検査レポート作成
16	予備日	後期の学習内容の総復習	

テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房</p> <p>②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版</p> <p>④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>
----------------	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成等）が必要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努める。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成等について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切。
--------	--

評価	<p>・平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>・レポート（実習⑥、⑦、⑧の各レポート、実習⑥の質問紙調査計画書完成版と質問紙完成版の5本）…60%</p> <p>※原則、全課題において実施者・参加者の役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものとする。質問紙調査計画書と質問紙は、教員に指示された適切な様式で作成すること。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学実験B、心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学研究法Ⅰ・Ⅱを履修するとよい。</p> <p>次へのステージ：心理学基礎演習A・Bで学んだことを、3年次以降のゼミ（心理学専門演習）での研究活動や実践活動につなげる。その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	心理学基礎演習B	期別	曜日・時限	単位
	担当者	山岡 明奈	後期	火 2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室：5-534研究室 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（心理検査法、行動観察、記憶の自由再生、ミュラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナルスペース、質問紙法）について実習を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究法の基礎を体験的に身につけてもらう。	メッセージ	心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に取り組むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
	到達目標	<p>①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。</p> <p>②実験法、観察法などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。</p> <p>③実験法、観察法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。</p> <p>④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。</p>		

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	実習6-2：質問紙調査計画の立て方／質問紙調査計画書の書き方の説明	質問紙調査計画書の作成	
	2	実習6-3：質問紙の作成方法の説明	質問紙の作成	
	3	実習6-4：質問紙調査計画書と質問紙の検討（添削指導とポイント解説）①	質問紙調査計画書と質問紙の修正①	
	4	実習6-5：質問紙調査計画書と質問紙の検討（添削指導とポイント解説）②	質問紙調査計画書と質問紙の修正②	
	5	実習6-6：質問紙調査計画書と質問紙の検討（添削指導とポイント解説）③／依頼状の作成方法の説明	質問紙調査計画書と質問紙の完成	
	6	実習6-7：依頼状の検討／調査の実施準備と確認	質問紙と依頼状の完成／実査練習	
	7	実習6-8：質問紙調査の実施と回収票のチェックとデータ集計	質問紙調査の実施・データ集計	
	8	実習6-9：データ分析と図表の作成／結果の読み取りと考察	図表作成・結果の読み取りと考察	
	9	実習6-10：質問紙実習レポート（実習⑥）の書き方／発表用資料の作成方法の説明	発表資料作成・発表練習	
	10	実習6-11：質問紙実習発表会	実習⑥質問紙レポートの作成	
	11	実習6-12：質問紙実習および発表会の振り返り	実習⑥質問紙レポートの作成	
	12	実習7-1：観察法の概説・観察法実習の手順の説明・実施・結果の整理の仕方・図表作成の説明	データ整理・図表作成	
	13	実習7-2：観察法の 結果の読み取りと考察・レポートのまとめ方の説明	結果読み取り・⑦観察レポート作成	
	14	実習8-1：心理検査法の概説・心理検査の実習手順の説明・実施・結果の整理の仕方の説明	データ整理・図表作成	
	15	実習8-2：結果の読み取りと考察・レポートのまとめ方の説明	結果読み取り・⑧検査レポート作成	
16	予備日			

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房</p> <p>②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版</p> <p>④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成等）が必要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努める。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・各実習ではSA（チューデント・アシスタント：教育支援者）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成等について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切である。
--------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40% ・レポート（実習⑥、⑦、⑧の各レポート、実習⑥の質問紙調査計画書完成版と質問紙完成版の5本）…60% <p>※原則、全課題において実施者・参加者の役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものとする。質問紙調査計画書と質問紙は、教員に指示された適切な様式で作成すること。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学実験B、心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学研究法Ⅰ・Ⅱを履修するとよい。</p> <p>次へのステージ：心理学基礎演習A・Bで学んだことを、3年次以降のゼミ（心理学専門演習）での研究活動や実践活動につなげる。その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、
実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	心理学基礎演習B	期別	曜日・時限	単位
	担当者	上田 幸彦	後期	火 2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい	基本的な心理学研究方法を用いた9つの実習（心理検査法、記憶の自由再生、パーソナルスペース、視覚的短期記憶、触二点閾、行動観察、訓練の転移、ミュラー・リエル錯視、質問紙法）について実習を行う。各実習テーマについて心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究方法の基礎を体験的に身につけてもらう。	メッセージ	心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理学の中核となる科目です。全期間を対面授業で計画していますが、状況により、特例授業に転換する場合があります。授業（実験実習）の順序や実施方法等を変更する可能性もあります。随時、授業連絡を確認し、指導教員の指示を確認しましょう。
	到達目標	<p>①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。</p> <p>②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。</p> <p>③実験、調査、観察などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。</p> <p>④現代社会における諸問題について、心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。</p>		

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	(対)実習4-1：実験実習（視覚的短期記憶）の実施	実習4データの整理・読み取り	
	2	(対)実習4-2：実習データの図表作成	実習4データの解釈・考察	
	3	(対)実習3-5：質問紙改訂版の検討と完成／依頼状の作成／調査の実施準備と確認	質問紙と依頼状の完成/実査練習	
	4	(対)実習3-6：質問紙調査の実施と回収票のチェック／データ集計／データ分析と図表の作成	データ収集・整理・集計・図表作成	
	5	(対)実習3-7：結果の読み取りと考察／レポートの書き方	レポートの作成／実習の振り返り	
	6	(対)実習5-1：実験実習（触二点閾）の実施	データの整理・読み取り	
	7	(対)実習5-2：実習データの図表作成	データの解釈・考察	
	8	(対)実習6-1：実験実習（訓練の転移）の実施	データの整理・読み取り	
	9	(対)実習6-2：実習データの図表作成	データの解釈・考察	
	10	(対)実習7-1：実験実習（パーソナルスペース）の実施	データの整理・読み取り	
	11	(対)実習7-2：実習データの図表作成	データの解釈・読み取り	
	12	(対)実習8-1：実験実習（ミュラー・リエル錯視）の実施	データの整理・読み取り	
	13	(対)実習8-2：実習データの図表作成	データの解釈・読み取り	
	14	(対)実習9-1：観察法実習の実施	データの整理・読み取り	
	15	(対)実習9-2：実習データの図表作成	データの解釈・考察	
16	(特)予備日／振り返り・アンケート協力	後期の学習内容の総復習		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房</p> <p>②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版</p> <p>④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>

学びの実践	学びの手立て
	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が必要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。

学びの実践	評価
	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40% ・レポート（実習⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、それぞれのレポート5本）…60% <p>※原則として、全課題において実験者・実験参加者としての役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>関連科目：心理学実験B、心理統計学基礎、心理統計学I・II、心理学研究法I・IIを履修するとよい。</p> <p>次へのステージ：心理学基礎演習A・Bで学んだことを、3年次以降のゼミでの研究活動につなげること。</p> <p>その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	心理学基礎演習B	期別	曜日・時限	単位
	担当者	平山 篤史	後期	火 2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	基本的な心理学研究法を用いた8つの実習（心理検査法、行動観察、記憶的自由再生、ミューラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナルスペース、質問紙法）について実験者・参加者の立場で実習を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究法の基礎を体験的に身につけてもらう。	メッセージ	心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところを心理学的研究法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に取り組むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
	到達目標	<p>①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。</p> <p>②実験法、観察法、検査法の実証的研究手法について、8つの実習を通して体験的に理解し、身につける。</p> <p>③研究目的・仮説の設定、方法の立案、データ収集・分析・考察の仕方など、科学論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につける。</p> <p>④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につける。</p>		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	実習6-2：質問紙調査計画の立て方／質問紙調査計画書の書き方の説明	質問紙調査計画書の作成
	2	実習6-3：質問紙の作成方法の説明	質問紙の作成
	3	実習6-4：質問紙調査計画書と質問紙の添削指導とポイント解説①	質問紙調査計画書と質問紙の修正①
	4	実習6-5：質問紙調査計画書と質問紙の添削指導とポイント解説②	質問紙調査計画書と質問紙の修正②
	5	実習6-6：質問紙調査計画書と質問紙の添削指導とポイント解説③/依頼状の作成方法の説明	質問紙調査計画書と質問紙の完成
	6	実習6-7：依頼状の検討/調査の実施準備と実施方法の確認	質問紙と依頼状の完成/実査練習
	7	実習6-8：質問紙調査の実施/回収票のチェックとデータ集計	質問紙調査の実施・データ集計
	8	実習6-9：データ分析と図表の作成/結果の読み取りと考察	図表作成・結果の読み取りと考察
	9	実習6-10：質問紙実習レポート（実習⑥）の書き方/発表用資料の作成方法の説明	発表資料作成・発表練習
	10	実習6-11：質問紙実習発表会	実習⑥質問紙レポートの作成
	11	実習6-12：質問紙実習および発表会の振り返り	実習⑥質問紙レポートの作成
	12	実習7-1：観察法の概説・観察法実習の手順・実施方法・データ整理・図表作成の説明	データ整理・図表作成
	13	実習7-2：観察法の結果の読み取りと考察・観察実習レポート（実習⑦）の書き方の説明	結果読み取り・⑦観察レポート作成
	14	実習8-1：心理検査法の概説・心理検査実習の手順・実施方法・データ整理・図表作成の説明	データ整理・図表作成
15	実習8-2：結果の読み取りと考察・心理検査レポート（実習⑧）の書き方の説明	結果読み取り・⑧検査レポート作成	
16	予備日	後期の学習内容の総復習	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）. 心理学基礎実習マニュアル 北大路書房</p> <p>②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）. 認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版</p> <p>④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が必要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成等について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切。
--------	---

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40% ・レポート（実習⑥、⑦、⑧の各レポート、実習⑥の質問紙調査計画書完成版と質問紙完成版の5本）…60% <p>※原則、全課題において実施者・参加者の役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものとする。質問紙調査計画書と質問紙は、教員に指示された適切な様式で作成すること。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学実験B、心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学研究法Ⅰ・Ⅱを履修するとよい。</p> <p>次へのステージ：心理学基礎演習A・Bで学んだことを、3年次以降のゼミ（心理学専門演習）での研究活動や実践活動につなげる。その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名 心理学研究法 I	期別	曜日・時限	単位
	担当者 前堂 志乃	前期	火 5	2
		対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室：5-431 e-mail:mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講では、心理学の分野において実証的研究を実施する方法についての基礎的知識と技術を理解することを目的とする。具体的には、心理学の代表的な研究法の概要と具体的な技法について理解していく。まず、基本的な研究の展開の仕方、研究論文の様式、研究倫理について理解する。次に、前・後期を通し実験、観察、面接、検査、調査の各研究法に関する知識と技術とその特徴を理解する。	メッセージ 心理学の専門科目の中でも実証的研究法の基礎的な知識と技術を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところだからこそ心理学的研究法に従い収集したデータに基づいて初めて、ひとのこころを客観的に科学的に理解できることを知ってほしい。研究法は理解に時間がかかる科目ですが、心理の心強い味方(道具)です。自主的・積極的・実践的に学び、心理学研究力と態度を身につけよう。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる ②実験、観察、調査、検査、面接などの研究手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力(論理的思考力、問題解決能力、表現力)、研究力の基礎を身につけることができる ③実験、観察、調査、検査、面接などの研究手法によるデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、心理学的研究の技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につける ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	初回オリエンテーション/心理学研究法とは・研究倫理
	2	実験法①実験法の概説・特徴/実験における変数の理解と扱い方
	3	実験法②実験計画の策定・実験の準備
	4	実験法③実験結果の整理とまとめ方
	5	実験法④実験研究と図表の作り方・結果の読み取り・考察のポイント
	6	文献研究①：文献検索/文献(実験研究論文)の構造の理解・文献カード、レビューの書き方
	7	実験法⑤実験研究と統計解析・実験法の留意点と倫理的配慮
	8	精神生理学的研究法：概要と特徴/結果の整理とまとめ方/留意点と倫理的配慮
	9	面接法(調査的面接)①面接法の概要と特徴
	10	面接法(調査的面接)②面接計画の策定・面接の準備
	11	面接法(調査的面接)③面接実習
	12	面接法(調査的面接)④面接結果の整理とまとめ方・面接法の留意点と倫理的配慮
	13	調査法(質問紙法)①質問紙法の概要と特徴
	14	文献研究②文献(質問紙研究論文)の構造の理解・文献カード、レビューの書き方
	15	調査法(質問紙法)②質問紙計画の策定・質問紙の構成の理解
16	期末テスト	
		時間外学習の内容
		シラバスなどの理解/次回の予習
		今回の復習/次回の予習
		今回の復習/次回の予習
		今回の復習/次回の予習
		今回の復習/次回の予習
		今回の復習/次回の予習
		今回の復習/次回の予習
		今回の復習/次回の予習
		全体の復習/期末試験・課題の準備
		前期の学習内容の総復習

テキスト・参考文献・資料など
 テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～⑤を参考図書として参照してください。
 ①高野陽太郎・岡隆(編)(2010)．心理学研究法―心を見つめる科学のまなざし― 有斐閣アルマ 有斐閣
 ②南風原朝和 他(編)(2006)．心理学研究法入門―調査・実験から実践まで― 東京大学出版会
 ③宮谷真人・坂田省吾(代編)(2009)．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房
 ④心理学基礎演習シリーズVol.1(実験法)、Vol.2(質問紙法)、Vol.3(観察・面接法) ナカニシヤ出版
 ⑤心理学マニュアルシリーズ(研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法) 北大路書房

学びの手立て
 ・心理学の専門的な参考文献(テキスト、配布資料や参考図書)を読んで理解するには、2度読み(下読み、分析読み)をすることと、心理学の専門用語について自分で調べることが重要です。
 ・予習・復習において、参考資料の2度読みやワークシートのまとめを課します。予・復習の内容をもとに授業内でのワークを行います。自発的に、積極的に取り組むことが理解を深めます。
 ・心理学研究法は実践しながら学ぶことが重要です。授業内外の課題やワークに取り組みながら研究法を学び、心理学基礎演習A・心理学実験Aの実験・実習と結びつけて、実際にやって学ぶを心がけてください。
 ・心理カウンセリング専攻学生を優先します。他学科、他専攻の学生の方は、初回の授業で必ず担当教員に相談してください。

評価
 ①平常点：振り返り課題・諸課題(授業内ワーク、振り返りクイズなど)(15回分)30%、
 ②期末課題：心理学研究法比較レジュメ15%、振り返りレポート10%
 ③期末テスト：45%
 ※①～③を総合して評価する。

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 関連科目：心理学基礎演習A、心理学実験Aを履修すること。
 次のステージ：引き続き、心理統計学基礎、心理学基礎演習B、心理学実験B、心理学研究法IIを履修する。心理学研究法Iで学んだことを、心理学基礎演習B、心理学実験B、心理学専門演習IA・B、心理学専門演習IIA・Bにおける学習や卒業論文研究に繋げてほしい。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学研究法Ⅱ	後期	火5	2
	担当者 前堂 志乃	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	研究室：5-431 e-mail:mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講では、心理学の分野において実証的研究を実施する方法についての基礎的知識と技術を理解することを目的とする。具体的には、心理学の代表的な研究法の概要と具体的な技法について理解していく。前期の心理学研究法Ⅰの学びに続き、実験、観察、面接、検査、調査の各研究法に関する知識と技術とその特徴を理解する。さらに、各研究法の特徴を踏まえた研究立案の視点を身につける。</p>	<p>心理学の専門科目の中でも実証的研究法の基礎的な知識と技術を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところだからこそ心理学的研究法に従い収集したデータに基づいて初めて、ひとのこころを客観的に科学的に理解できることを知ってほしい。研究法は理解に時間がかかる科目ですが、心理の心強い味方(道具)です。自主的・積極的・実践的に学び、心理学研究力と態度を身につけよう。</p>
到達目標	<p>①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる ②実験、観察、調査、検査、面接などの研究手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力(論理的思考力、問題解決能力、表現力)、研究力の基礎を身につけることができる ③実験、観察、調査、検査、面接などの研究手法を用いたデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、心理学的研究の技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につける ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	初回オリエンテーション/調査法(質問紙法)③質問紙計画の策定・質問項目の検討	シラバスの理解/今回の課題と復習
	2	調査法(質問紙法)④質問紙計画の策定・質問紙案の検討	今回の課題と復習
	3	調査法(質問紙法)⑤質問紙の依頼状の作成/質問紙実査の準備	今回の課題と復習
	4	調査法(質問紙法)⑥質問紙の結果の整理とまとめ方	今回の課題と復習
	5	調査法(質問紙法)⑦質問紙法のデータ分析と図表作成/発表資料の作成	今回の課題と復習
	6	調査法(質問紙法)⑧質問紙法の留意点と倫理的配慮	今回の課題と復習
	7	検査法①検査実習	今回の課題と復習
	8	検査法②検査法の概要と特徴	今回の課題と復習
	9	検査法③検査の実施手続き・実施準備	今回の課題と復習
	10	検査法④検査結果の整理とまとめ方・検査法の留意点と倫理的配慮	今回の課題と復習
	11	観察法①観察法の概要と特徴	今回の課題と復習
	12	観察法②観察計画の策定・観察の準備	今回の課題と復習
	13	観察法③観察実習	今回の課題と復習
	14	観察法④観察結果の整理とまとめ方・留意点と倫理的配慮/実践的研究法の概要と特徴	今回の課題と復習
15	研究の流れ：研究の展開－研究計画から発表・論文執筆まで・研究倫理	全体の復習/期末試験・課題の準備	
16	期末テスト	後期の学習内容の総復習	

テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～⑤の参考図書として参照してください。</p> <p>①高野陽太郎・岡隆(編)(2010)．心理学研究法一心を見つめる科学のまなざしー有斐閣アルマ 有斐閣 ②南風原朝和 他(編)(2006)．心理学研究法入門ー調査・実験から実践までー 東京大学出版会 ③宮谷真人・坂田省吾(代編)(2009)．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ④心理学基礎演習シリーズVol.1(実験法)、Vol.2(質問紙法)、Vol.3(観察・面接法) ナカニシヤ出版 ⑤心理学マニュアルシリーズ(研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法) 北大路書房</p>
----------------	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 心理学の専門的な参考文献(テキスト、配布資料や参考図書)を読んで理解するには、2度読み(下読み、分析読み)をすることと、心理学の専門用語について自分で調べることが重要です。 予習・復習において、参考資料の2度読みやワークシートのまとめを課します。予・復習の内容をもとに授業内でのワークを行います。自発的に、積極的に取り組むことが理解を深めます。 心理学研究法は実践しながら学ぶことが重要です。授業内外の課題やワークに取り組みながら研究法を学び、心理学基礎演習B・心理学実験Bの実験・実習と結びつけて、実際にやって学ぶを心がけてください。 心理カウンセリング専攻学生を優先します。他学科、他専攻の学生の方は、必ず初回の授業で担当教員に相談してください。
--------	--

評価	<p>①平常点：振り返り課題・諸課題(授業内ワーク、振り返りクイズなど)(15回分)30%、 ②期末課題：心理学研究法比較レジュメ15%、振り返りレポート10% ③期末テスト：45% ※①～③を総合して評価する。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習B、心理学実験Bを履修すること。次のステージ：心理学研究法Ⅰ・Ⅱで学んだことを、他の心理専門科目と結びつけて学んでほしい。卒業論文研究を目指す場合は、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理調査法を履修し、心理学専門演習ⅠA・B、心理学専門演習ⅡA・Bにおける学習と卒業論文研究に繋げてほしい。社会や日常の諸問題を心理学研究法の視点を通して理解し考える態度を実践してほしい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学史	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 (4回) ・山岡 (4回) ・前堂 (4回) ・上田 (4回)	2年	上田幸彦 研究室：13-213 E-mail：y.ueda@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	心理学は、その裾野は大変幅広く、様々な専門領域に分化している。この講義では心理学がどのような歴史を経て学問的体系を作り上げ、確立してきたのか、またどのように文化し発展してきたのかを学ぶことを目的とする。本専攻で開講されている様々な心理学の科目が、心理学全体の中にどのように位置づけられるのかを体系的に整理し、心理学に対する更なる興味を高める。	心理学は人間の心に対する興味を土台として発展した学問である。したがって心理学の歩みは、人間の心の働きの発達歴史といわれている。人類は人の心をどのように理解してきたのか。そして現代心理学は、どのように結実してきたのか。果たして心理学はこれからどのように展開していくのだろうか。これらを心理学史を知ることと考えてみたい。
到達目標	①心理学の発展の流れが理解できる。 ②心理学の様々な領域のつながりが理解できる。 ③心理学と社会のつながりが理解できる。 ④これまで（これから）学んだ心理学の理論を体系的に位置づけられる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 心理学史の方法論	リフレクションシート作成・復習
	2	19世紀の心理学①	リフレクションシート作成・復習
	3	19世紀の心理学②	リフレクションシート作成・復習
	4	20世紀の3大潮流① 行動主義～新行動主義	リフレクションシート作成・復習
	5	20世紀の3大潮流② 新行動主義～ゲシュタルト心理学	リフレクションシート作成・復習
	6	20世紀の3大潮流③ ゲシュタルト心理学～認知心理学	リフレクションシート作成・復習
	7	20世紀の3大潮流④ 精神分析とその後 臨床心理学	リフレクションシート作成・復習
	8	心理学と社会① 初期における社会と心理学のコラボレーション	リフレクションシート作成・復習
	9	心理学と社会② 心理学と社会とのさらなる関わり	リフレクションシート作成・復習
	10	心理学と社会③ 第二次世界大戦後の展開	リフレクションシート作成・復習
	11	日本の心理学史① 心理学という学範の成立	リフレクションシート作成・復習
	12	日本の心理学史② 心理学の展開	リフレクションシート作成・復習
	13	日本の心理学史③ 制度化と停滞、復興期の心理学	リフレクションシート作成・復習
14	心理学史の見方① 個人差への興味とその先駆者	リフレクションシート作成・復習	
15	心理学史の見方② 実用的な知能検査	リフレクションシート作成・復習	
16	試験	試験勉強	
テキスト・参考文献・資料など	テキスト「流れを読む心理学史 世界と日本の心理学史」 サトウタツヤ・高砂美樹（著）有斐閣アルマ 2003 参考図書「心理学史への招待 - 現代心理学の背景 -」 梅本堯夫・大山正（編）サイエンス社 1994 参考図書「心理学史 現代心理学の生い立ち」 梅本堯夫・大山正（監）サイエンス社 2010		
学びの手立て	この講義は4人の教員によるオムニバス形式をとる。基本的にはテキストに沿って講義を展開する。テキストを購入し、講義で指示された箇所を予習して講義に臨んで下さい。各講義についてリフレクションシートを課す。配布資料を熟読すること。		
評価	平常点（講義の参加態度・リフレクションシート）50% 試験 50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 他の心理学の専門科目
-------	---------------------------

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	心理学実験A	期別	曜日・時限	単位
	担当者	前堂 志乃	前期	火3	1
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室 5-431 e-mail mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	基本的な心理学研究法を用いた8つの実習（心理検査法、行動観察、記憶の自由再生、ミューラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナルスペース、質問紙法）について実験者・参加者の立場で実習を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究法の基礎を体験的に身につけてもらう。	メッセージ	心理学基礎演習Aの講義をふまえ、目には見えない心を測定する心理学的研究法について、実際に実験実習を体験することによって学んでください。心の科学的な測定方法と客観的なデータ解析法について、主体的・積極的な姿勢で教員、SA、ゼミ仲間と協働しながら学ぶことで、体験的に研究の基礎力を身につけましょう。
	到達目標	<p>①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。</p> <p>②実験法、観察法、検査法などの実証的研究手法について、8つの実験実習を通して体験的に理解し、身につけることができる。</p> <p>③研究目的・仮説の設定、方法の立案、データ収集・分析・考察の仕方など、科学論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。</p> <p>④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。</p>		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	初回オリエンテーション/実習の進め方についての諸説明/実験法の概説	配布資料・実験実習・実験法の理解
	2	実習1-1：実験実習①（記憶の自由再生実験）の実施/実験テーマと実施手続きについての解説	記憶実験と実験手続きの理解
	3	実習1-2：データ整理と図表の書き方のポイント解説	データ整理・図表の作成
	4	実習1-3：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説	結果の読み取り・実験レポート作成
	5	文献検索のポイント解説/文献検索実習	文献検索課題
	6	実習1-4：実験レポートの添削指導・ポイント解説	実習①実験レポート最終版の作成
	7	実習2-1：実験実習②（ミューラー・リエル錯視）の実施/データ整理と図表の書き方のポイント解説	データ整理・図表の作成
	8	実習2-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説	実習②実験レポート作成
	9	実習3-1：実験実習③（パーソナル・スペース）の実施/データ整理と図表の書き方のポイント解説	データ整理・図表の作成
	10	実習3-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説	実習③実験レポート作成
	11	実習4-1：実験実習④（訓練の転移）の実施/データ整理と図表の書き方のポイント解説	データ整理・図表の作成
	12	実習4-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説	実習④実験レポート作成
	13	実習5-1：実験実習⑤（視覚的短期記憶）の実施/データ整理と図表の書き方のポイント解説	データ整理・図表の作成
	14	実習5-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説	実習⑤実験レポート作成
15	実習6-1：質問紙法の概説/質問紙実習の説明	質問紙実習の理解・関連論文の熟読	
16	予備日		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）. 心理学基礎実習マニュアル 北大路書房</p> <p>②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）. 認定心理士資格準拠一実験・実習で学ぶ心理学の基礎— 金子書房</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1(実験法)、Vol.2(質問紙法)、Vol.3(観察・面接法) ナカニシヤ出版</p> <p>④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、心理学基礎演習Aの講義内容を踏まえて実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）を行う必要がある。2つの授業を欠かさず受講するよう心がけてもらいたい。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切。
--------	---

評価	<p>平常点（実験実習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実験実習①～⑤）の5本…60%</p> <p>※原則として、全課題において実験者・実験参加者の役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすこと。研究計画書は問題と目的、方法、結果の整理、引用文献を含むこと。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習A、心理学研究法Ⅰを履修すること。次へのステージ：引き続き心理学基礎演習B、心理学実験B、心理学研究法Ⅱを履修すること。また、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修すると、研究法とそれによって得たデータの解析法との結びつきについて学びを展開することができる。心理学基礎演習Aおよび心理学実験Aの学びを、その他の心理専門科目の内容と結びつけて履修を進めると良い。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	心理学実験A	期別	曜日・時限	単位
	担当者	山岡 明奈	前期	火 3	1
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室：5-534研究室 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（心理検査法、行動観察、記憶の自由再生、ミューラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナルスペース、質問紙法）について実験者・参加者の立場で実習を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究法の基礎を体験的に身につけてもらう。	メッセージ	心理学基礎演習Aの講義をふまえ、目には見えない心を測定する心理学的研究法について、実際に実験実習を体験することによって学んでください。心の科学的な測定方法と客観的なデータ解析法について、主体的・積極的な姿勢で教員、SA、ゼミ仲間と協働しながら学ぶことで、体験的に研究の基礎力を身につけましょう。
	到達目標	<p>①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。</p> <p>②実験法、観察法、検査法などの実証的研究手法について、8つの実験実習を通して体験的に理解し、身につけることができる。</p> <p>③研究目的・仮説の設定、方法の立案、データ収集・分析・考察の仕方など、科学論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。</p> <p>④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。</p>		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	初回オリエンテーション/実習の進め方についての諸説明/実験法の概説	配布資料・実験実習・実験法の理解
	2	実習1-1：実験実習①（記憶の自由再生実験）の実施/実験テーマと実施手続きについての解説	記憶実験と実験手続きの理解
	3	実習1-2：データ整理と図表の書き方のポイント解説	データ整理・図表の作成
	4	実習1-3：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説	結果の読み取り・実験レポート作成
	5	文献検索のポイント解説/文献検索実習	文献検索課題
	6	実習1-4：実験レポートの添削指導・ポイント解説	実習①実験レポート最終版の作成
	7	実習2-1：実験実習②（パーソナル・スペース）の実施/データ整理と図表の書き方のポイント解説	データ整理・図表の作成
	8	実習2-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説	実習②実験レポート作成
	9	実習3-1：実験実習③（訓練の転移）の実施/データ整理と図表の書き方のポイント解説	データ整理・図表の作成
	10	実習3-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説	実習③実験レポート作成
	11	実習4-1：実験実習④（視覚的短期記憶）の実施/データ整理と図表の書き方のポイント解説	データ整理・図表の作成
	12	実習4-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説	実習④実験レポート作成
	13	実習5-1：実験実習⑤（ミューラー・リエル錯視）の実施/データ整理と図表の書き方のポイント解説	実験実習の実施・データ収集
	14	実習5-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説	実習⑤実験レポート作成
15	実習6-1：質問紙法の概説/質問紙実習の説明	質問紙実習の理解・関連論文の熟読	
16	予備日		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房</p> <p>②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版</p> <p>④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>
----	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、心理学基礎演習Aの講義内容を踏まえて実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）を行う必要がある。2つの授業を欠かさず受講するよう心がけてもらいたい。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切。
--------	---

評価	<p>平常点（実験実習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実験実習①～⑤）の5本…60%</p> <p>※原則として、全課題において実験者・実験参加者の役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすこと。研究計画書は問題と目的、方法、結果の整理、引用文献を含むこと。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習A、心理学研究法Ⅰを履修すること。次へのステージ：引き続き心理学基礎演習B、心理学実験B、心理学研究法Ⅱを履修すること。また、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修すると、研究法とそれによって得たデータの解析法との結びつきについて学びを展開することができる。心理学基礎演習Aおよび心理学実験Aの学びを、その他の心理専門科目の内容と結びつけて履修を進めると良い。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、実験法・観察法などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	心理学実験A	期別	曜日・時限	単位
	担当者	上田 幸彦	前期	火 3	1
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室13号館 2 1 3 y.ueda@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	基本的な心理学研究方法を用いた9つの実習（心理検査法、記憶の自由再生、パーソナルスペース、視覚的短期記憶、触二点域、行動観察、訓練の転移、ミュラー・リエル錯視、質問紙法）について実験者・参加者の立場で実習を行う。各テーマについて心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究法の基礎を体験的に身につけてもらう。	メッセージ	心理学基礎演習Aの講義を踏まえ、目には見えない心を測定する心理学的研究法について、実際の実験実習を体験することによって学んでください。現場での臨床心理士としての経験を踏まえ、実際の臨床場面でも応用される心の科学的な測定方法と客観的なデータ解析法について学んでもらいます。
	到達目標	<p>①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し説明することができる。</p> <p>②実験法、観察法、検査法などの実証的研究手法について、9つの実験実習を通して体験的に理解し、身につけることができる。</p> <p>③研究目的・仮説の検証、方法の立案、データ収集・分析・考察の仕方など、科学論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。</p> <p>④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。</p>		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	全体オリエンテーション / ゼミ生同士の顔合わせ	シラバス、実習の実施要項の理解
	2	心理学的研究法とは？（合同ゼミ）	配布資料の理解、課題に取り組む
	3	実験法オリエンテーション（合同ゼミ）	配布資料の理解、課題に取り組む
	4	実習①：心理検査法実習の概説と実習手順の説明（合同ゼミ）	検査法実習の実施・データ収集
	5	実習②-1：記憶の自由再生実験の説明（合同ゼミ）	実験の実施・データ収集
	6	実習②-2：実験結果の整理～考察までの解説	データの整理
	7	実習②-3：実験レポートの書き方と解説（合同ゼミ）	レポート草稿の作成
	8	合同ゼミ：文献検索実習	文献検索課題
	9	実習②-4：実験レポート草稿の添削フィードバック（合同ゼミ）	レポート改訂版の作成
	10	実習②-5：実験レポート最終版作成上のポイント解説（合同ゼミ）	レポート最終版の作成
	11	実習③-1：個別実験実習のテーマ説明・実施手順のポイント解説	実験実施・データ収集
	12	実習③-2：実習データの図表作成におけるポイント解説	データ整理・結果の読み取り
	13	実習③-3：実習データの読み取り・考察のポイント	レポート作成
	14	実習④-1：質問紙調査計画（案）の検討（合同ゼミ）	計画（案）の作成
15	実習④-2：質問紙計画書（改訂版）の検討（合同ゼミ）	計画改訂版の作成	
16	実習④-3：質問紙計画書（最終版）の検討・質問紙試作版の作成	最終版の作成・質問紙試作版の作成	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書等を常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）心理学基礎実習マニュアル 北大路書房</p> <p>②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）認定心理士資格準拠 - 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 - 金子書房</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法） Vol.2（質問紙法） Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版</p> <p>④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>

学びの実践	学びの手立て
	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理を十分に注意すること。 ・この授業では、心理学基礎演習Aの講義内容を踏まえて実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）を行う必要がある。2つの授業を欠かさず受講するよう心がけてもらいたい。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・困ったこと、分からないことは積極的に質問すること。自分一人で抱え込まないようにすることが大切。

学びの実践	評価
	<p>平常点（実験実習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%、レポート（実習①、②、③、④それぞれのレポート4本）…60%、</p> <p>原則として全課題において実験者・参加者の役割を担い、指定期間内に各実習レポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>関連科目：心理学統計基礎、心理学基礎演習A、心理学研究法Ⅰを履修すること。</p> <p>次のステージ：引き続き心理学基礎演習B、心理学研究法Ⅱを履修すること。また心理統計学Ⅰ、Ⅱを履修すると、研究法とそれによって得たデータの解析法との結びつきについて学びを展開することができる。</p> <p>心理学基礎演習Aおよび心理学実験Aの学びを、その他の心理専門科目の内容と結びつけて履修を進めると良い。</p>

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	心理学実験A	期別	曜日・時限	単位
	担当者	平山 篤史	前期	火3	1
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室 : 13-211 E-mail : atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（心理検査法、行動観察、記憶の自由再生、ミューラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナルスペース、質問紙法）について実験者・参加者の立場で実習を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究方法の基礎を体験的に身につけてもらう。	メッセージ	心理学基礎演習Aの講義をふまえ、目には見えない心を測定する心理学的研究法について、実際に実験実習を体験することによって学んでください。心の科学的な測定方法と客観的なデータ解析法について、主体的・積極的な姿勢で教員、SA、ゼミ仲間と協働しながら学ぶことで、体験的に研究の基礎力を身につけましょう。
	到達目標	<p>①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。</p> <p>②実験法、観察法、検査法などの実証的研究手法について、9つの実験実習を通して体験的に理解し、身につけることができる。</p> <p>③研究目的・仮説の設定、方法の立案、データ収集・分析・考察の仕方など、科学論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。</p> <p>④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。</p>		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	初回オリエンテーション/実習の進め方についての諸説明/実験法の概説	配布資料・実験実習・実験法の理解
	2	実習1-1: 実験実習①（記憶の自由再生実験）の実施/実験テーマと実施手続きについての解説	記憶実験と実験手続きの理解
	3	実習1-2: データ整理と図表の書き方のポイント解説	データ整理・図表の作成
	4	実習1-3: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説	結果の読み取り・実験レポート作成
	5	文献検索のポイント解説/文献検索実習	文献検索課題
	6	実習1-4: 実験レポートの添削指導・ポイント解説	実習①実験レポート最終版の作成
	7	実習2-1: 実験実習④（訓練の転移）の実施/データ整理と図表の書き方のポイント解説	データ整理・図表の作成
	8	実習2-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説	実習④実験レポート作成
	9	実習3-1: 実験実習⑤（視覚的短期記憶）の実施/データ整理と図表の書き方のポイント解説	データ整理・図表の作成
	10	実習3-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説	実習⑤実験レポート作成
	11	実習4-1: 実験実習②（ミューラー・リエル錯視）の実施/データ整理と図表の書き方のポイント解説	データ整理・図表の作成
	12	実習4-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説	実習②実験レポート作成
	13	実習5-1: 実験実習③（パーソナル・スペース）の実施/データ整理と図表の書き方のポイント解説	データ整理・図表の作成
	14	実習5-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説	実習③実験レポート作成
15	実習6-1: 質問紙法の概説/質問紙実習の説明	質問紙実習の理解・関連論文の熟読	
16	予備日/振り返り・アンケート協力	予備日	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書に常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）. 心理学基礎実習マニュアル 北大路書房</p> <p>②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）. 認定心理士資格準拠一実験・実習で学ぶ心理学の基礎— 金子書房</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1(実験法)、Vol.2(質問紙法)、Vol.3(観察・面接法) ナカニシヤ出版</p> <p>④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が必要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成等について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切。
--------	---

評価	<p>平常点（実験実習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実験実習①～⑤）の5本…60%</p> <p>※原則として、全課題において実験者・実験参加者の役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすこと。研究計画書は問題と目的、方法、結果の整理、引用文献を含むこと。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習A、心理学研究法Ⅰを履修すること。次へのステージ：引き続き心理学基礎演習B、心理学実験B、心理学研究法Ⅱを履修すること。また、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修すると、研究法とそれによって得たデータの解析法との結びつきについて学びを展開することができる。心理学基礎演習Aおよび心理学実験Aの学びを、その他の心理専門科目の内容と結びつけて履修を進めると良い。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	心理学実験B	期別	曜日・時限	単位
	担当者	前堂 志乃	後期	火 3	1
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室 5-431 e-mail mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（心理検査法、行動観察、記憶の自由再生、ミューラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナルスペース、質問紙法）について実験者・参加者の立場で実習を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究法の基礎を体験的に身につけてもらう。	メッセージ	心理学基礎演習Aの講義をふまえ、目には見えない心を測定する心理学的研究法について、実際に実験実習を体験することによって学んでください。心の科学的な測定方法と客観的なデータ解析法について、主体的・積極的な姿勢で教員、SA、ゼミ仲間と協働しながら学ぶことで、体験的に研究の基礎力を身につけましょう。
	到達目標	①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。 ②実験法、観察法、検査法などの実証的研究手法について、8つの実験実習を通して体験的に理解し、身につけることができる。 ③研究目的・仮説の設定、方法の立案、データ収集・分析・考察の仕方など、科学論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。 ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。		

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	実習6-2：質問紙調査計画の立て方／質問紙調査計画書の書き方の説明	質問紙調査計画書の作成	
	2	実習6-3：質問紙の作成方法の説明	質問紙の作成	
	3	実習6-4：質問紙調査計画書と質問紙の添削指導とポイント解説①	質問紙調査計画書と質問紙の修正①	
	4	実習6-5：質問紙調査計画書と質問紙の添削指導とポイント解説②	質問紙調査計画書と質問紙の修正②	
	5	実習6-6：質問紙調査計画書と質問紙の添削指導とポイント解説③/依頼状の作成方法の説明	質問紙調査計画書と質問紙の完成	
	6	実習6-7：依頼状の検討/調査の実施準備と実施方法の確認	質問紙と依頼状の完成/実査練習	
	7	実習6-8：質問紙調査の実施/回収票のチェックとデータ集計	質問紙調査の実施・データ集計	
	8	実習6-9：データ分析と図表の作成/結果の読み取りと考察	図表作成・結果の読み取りと考察	
	9	実習6-10：質問紙実習レポート（実習⑥）の書き方/発表用資料の作成方法の説明	発表資料作成・発表練習	
	10	実習6-11：質問紙実習発表会	実習⑥質問紙レポートの作成	
	11	実習6-12：質問紙実習および発表会の振り返り	実習⑥質問紙レポートの作成	
	12	実習7-1：観察法の概説・観察法実習の手順・実施方法・データ整理・図表作成の説明	データ整理・図表作成	
	13	実習7-2：観察法の結果の読み取りと考察・観察実習レポート（実習⑦）の書き方の説明	結果読み取り・⑦観察レポート作成	
	14	実習8-1：心理検査法の概説・心理検査実習の手順・実施方法・データ整理・図表作成の説明	データ整理・図表作成	
	15	実習8-2：結果の読み取りと考察・心理検査レポート（実習⑧）の書き方の説明	結果読み取り・⑧検査レポート作成	
16	予備日	後期の学習内容の総復習		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。 ①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）. 心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）. 認定心理士資格準拠一実験・実習で学ぶ心理学の基礎—金子書房 ③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版 ④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、心理学基礎演習Aの講義内容を踏まえて実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）を行う必要がある。2つの授業を欠かさず受講するよう心がけてもらいたい。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切。
--------	---

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点（実験への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40% ・レポート（実習⑥⑦⑧の各レポート、質問紙実習⑥の質問紙調査計画書完成版と質問紙完成版の5本）…60% ※原則、全課題において実施者・参加者の役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものとする。質問紙調査計画書と質問紙は、教員に指示された適切な様式で作成すること。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習B、心理学研究法Ⅱを履修すること。 次のステージ：3年次の心理学専門演習ⅠA・ⅠBを履修すると共に、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修することで、卒業研究へと展開させていくことや実践活動に役立てることができるだろう。心理学基礎演習Bおよび心理学実験Bの学びを、その他の心理専門科目の内容と結びつけて履修を進めると良い。
-------	---

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	心理学実験B	期別	曜日・時限	単位
	担当者	山岡 明奈	後期	火 3	1
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室：5-534研究室 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（心理検査法、行動観察、記憶の自由再生、ミューラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナルスペース、質問紙法）について実験者・参加者の立場で実習を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究法の基礎を体験的に身につけてもらう。	メッセージ	心理学基礎演習Aの講義をふまえ、目には見えない心を測定する心理学的研究法について、実際に実験実習を体験することによって学んでください。心の科学的な測定方法と客観的なデータ解析法について、主体的・積極的な姿勢で教員、SA、ゼミ仲間と協働しながら学ぶことで、体験的に研究の基礎力を身につけましょう。
	到達目標	①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。 ②実験法、観察法、検査法などの実証的研究手法について、8つの実験実習を通して体験的に理解し、身につけることができる。 ③研究目的・仮説の設定、方法の立案、データ収集・分析・考察の仕方など、科学論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。 ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。		

学びの準備	到達目標	①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。 ②実験法、観察法、検査法などの実証的研究手法について、8つの実験実習を通して体験的に理解し、身につけることができる。 ③研究目的・仮説の設定、方法の立案、データ収集・分析・考察の仕方など、科学論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。 ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。		
-------	------	--	--	--

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	実習6-2：質問紙調査計画の立て方／質問紙調査計画書の書き方の説明	質問紙調査計画書の作成	
	2	実習6-3：質問紙の作成方法の説明	質問紙の作成	
	3	実習6-4：質問紙調査計画書と質問紙の検討（添削指導とポイント解説）①	質問紙調査計画書と質問紙の修正①	
	4	実習6-5：質問紙調査計画書と質問紙の検討（添削指導とポイント解説）②	質問紙調査計画書と質問紙の修正②	
	5	実習6-6：質問紙調査計画書と質問紙の検討（添削指導とポイント解説）③／依頼状の作成方法	質問紙調査計画書と質問紙の完成	
	6	実習6-7：依頼状の検討／調査の実施準備と確認	依頼状の作成	
	7	実習6-8：質問紙調査の実施と回収票のチェックとデータ集計	質問紙調査の実施・データ集計	
	8	実習6-9：データ分析と図表の作成／結果の読み取りと考察	図表作成・結果の読み取りと考察	
	9	実習6-10：質問紙実習レポート（実習⑥）の書き方/発表用資料の作成方法の説明	発表資料作成・発表練習	
	10	実習6-11：質問紙実習発表会	実習⑥質問紙レポートの作成	
	11	実習6-12：質問紙実習および発表会の振り返り	実習⑥質問紙レポートの作成	
	12	実習7-1：観察法の概説・観察法実習の手順・実施方法・データ整理・図表作成の説明	データ整理・図表作成	
	13	実習7-2：観察法の結果の読み取りと考察・観察実習レポート（実習⑦）の書き方の説明	結果読み取り・⑦観察レポート作成	
	14	実習8-1：心理検査法の概説・心理検査実習の手順・実施方法・データ整理・図表作成の説明	データ整理・図表作成	
	15	実習8-2：結果の読み取りと考察・心理検査レポート（実習⑧）の書き方の説明	結果読み取り・⑧検査レポート作成	
16	予備日	後期の学習内容の総復習		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房</p> <p>②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版</p> <p>④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>

学びの実践	学びの手立て
	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、心理学基礎演習Bの講義内容を踏まえて実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）を行う必要がある。2つの授業を欠かさず受講するよう心がけてもらいたい。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切。

学びの実践	評価
	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点（実験への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40% ・レポート（実習⑥⑦⑧の各レポート、質問紙実習⑥の質問紙調査計画書完成版と質問紙完成版の5本）…60% <p>※原則、全課題において実施者・参加者の役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものとする。質問紙調査計画書と質問紙は、教員に指示された適切な様式で作成すること。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習B、心理学研究法Ⅱを履修すること。</p> <p>次のステージ：3年次の心理学専門演習ⅠA・ⅠBを履修すると共に、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修することで、卒業研究へと展開させていくことや実践活動に役立てることができるだろう。心理学基礎演習Bおよび心理学実験Bの学びを、その他の心理専門科目の内容と結びつけて履修を進めると良い。</p>

科目基本情報	科目名	心理学実験B	期別	曜日・時限	単位
	担当者	上田 幸彦	後期	火3	1
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室：13号館213 y.ueda@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	基本的な心理学研究方法を用いた9つの実習（心理検査法、記憶の自由再生、パーソナルスペース、視覚的短期記憶、触二点域、行動観察、訓練の転移、ミュラー・リエル錯視、質問紙法）について実験者・参加者の立場で実習を行う。各テーマについて心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究方法の基礎を体験的に身につけてもらう。	メッセージ “心理学基礎演習Bと同じく実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理学の中核となる科目です。全期間を対面授業で計画していますが、状況により、特例授業に転換する場合があります。授業（実験実習）の順序や実施方法等を変更する可能性もあります。随時、授業連絡を確認し、指導教員の指示を確認しましょう。
	到達目標	①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し説明することができる。 ②実験法、観察法、検査法などの実証的研究手法について、9つの実験実習を通して体験的に理解し、身につけることができる。 ③研究目的・仮説の検証、方法の立案、データ収集・分析・考察の仕方など、科学論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。 ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	(対)実習4-1：実験実習（視覚的短期記憶）の実施	実習4データの整理・読み取り	
	2	(対)実習4-2：実習データの図表作成	実習4データの解釈・考察	
	3	(対)実習3-5：質問紙改訂版の検討と完成／依頼状の作成／調査の実施準備と確認	質問紙と依頼状の完成／実査練習	
	4	(対)実習3-6：質問紙調査の実施と回収票のチェック／データ集計／データ分析と図表の作成	データ収集整理 図表の作成	
	5	(対)実習3-7：結果の読み取りと考察／レポートの書き方	レポートの作成/実習の振り返り	
	6	(対)実習5-1：実験実習（触二点閾）の実施	データの整理・読み取り	
	7	(対)実習5-2：実習データの図表作成	データの解釈・考察	
	8	(対)実習6-1：実験実習（訓練の転移）の実施	データの整理・読み取り	
	9	(対)実習6-2：実習データの図表作成	データの解釈・考察	
	10	(対)実習7-1：実験実習（パーソナルスペース）の実施	データの整理・読み取り	
	11	(対)実習7-2：実習データの図表作成	データの解釈・考察	
	12	(対)実習8-1：実験実習（ミュラー・リエル錯視）の実施	データの整理・読み取り	
	13	(対)実習8-2：実習データの図表作成	データの解釈・考察	
	14	(対)実習9-1：観察法実習の実施	データの整理・読み取り	
15	(対)実習9-2：実習データの図表作成	データの解釈・考察		
16	(特)予備日（個人レポート作成・提出に向けた諸注意）	個人レポート作成・後期の総復習		
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。 ①宮谷真人・坂田省吾（代編）(2009) 心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ②日本心理学会 認定心理士資格認定協会(編)(2015) 認定心理士資格準拠 - 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 - 金子書房 ③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法） Vol.2（質問紙法） Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版 ④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房		
	学びの手立て	・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理を十分に注意すること。 ・この授業では、心理学基礎演習Aの講義内容を踏まえて実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）を行う必要がある。2つの授業を欠かさず受講するよう心がけてもらいたい。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・困ったこと、分からないことは積極的に質問すること。自分一人で抱え込まないようにすることが大切。		
	評価	平常点（実験実習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%、レポート（実習①、②、③、④それぞれのレポート4本）…60%、 原則として全課題において実験者・参加者の役割を担い、指定期間内に各実習レポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目：心理学統計基礎、心理学基礎演習B、心理学研究法Ⅱを履修すること。 次のステージ：3年次の心理学専門演習ⅠA・ⅠBを履修するとともに、また心理統計学Ⅰ、Ⅱを履修することで卒論研究へと展開させていくことができるだろう。心理学基礎演習Bおよび心理学実験Bの学びを、その他の心理専門科目の内容と結びつけて履修を進めると良い。

科目基本情報	科目名	心理学実験B	期別	曜日・時限	単位
	担当者	平山 篤史	後期	火 3	1
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室 : 13-211 E-mail : atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	基本的な心理学研究法を用いた8つの実習（心理検査法、行動観察、記憶の自由再生、ミューラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナルスペース、質問紙法）について実験者・参加者の立場で実習を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究法の基礎を体験的に身につけてもらう。	メッセージ	心理学基礎演習Aの講義をふまえ、目には見えない心を測定する心理学的研究法について、実際に実験実習を体験することによって学んでください。心の科学的な測定方法と客観的なデータ解析法について、主体的・積極的な姿勢で教員、SA、ゼミ仲間と協働しながら学ぶことで、体験的に研究の基礎力を身につけましょう。
	到達目標	①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。 ②実験法、観察法、検査法などの実証的研究手法について、8つの実験実習を通して体験的に理解し、身につけることができる。 ③研究目的・仮説の設定、方法の立案、データ収集・分析・考察の仕方など、科学論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。 ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	実習6-2：質問紙調査計画の立て方／質問紙調査計画書の書き方の説明	質問紙調査計画書の作成
	2	実習6-3：質問紙の作成方法の説明	質問紙の作成
	3	実習6-4：質問紙調査計画書と質問紙の添削指導とポイント解説①	質問紙調査計画書と質問紙の修正①
	4	実習6-5：質問紙調査計画書と質問紙の添削指導とポイント解説②	質問紙調査計画書と質問紙の修正②
	5	実習6-6：質問紙調査計画書と質問紙の添削指導とポイント解説③/依頼状の作成方法の説明	質問紙調査計画書と質問紙の完成
	6	実習6-7：依頼状の検討/調査の実施準備と実施方法の確認	質問紙と依頼状の完成/実査練習
	7	実習6-8：質問紙調査の実施/回収票のチェックとデータ集計	質問紙調査の実施・データ集計
	8	実習6-9：データ分析と図表の作成/結果の読み取りと考察	図表作成・結果の読み取りと考察
	9	実習6-10：質問紙実習レポート（実習⑥）の書き方/発表用資料の作成方法の説明	発表資料作成・発表練習
	10	実習6-11：質問紙実習発表会	実習⑥質問紙レポートの作成
	11	実習6-12：質問紙実習および発表会の振り返り	実習⑥質問紙レポートの作成
	12	実習7-1：観察法の概説・観察法実習の手順・実施方法・データ整理・図表作成の説明	データ整理・図表作成
	13	実習7-2：観察法の結果の読み取りと考察・観察実習レポート（実習⑦）の書き方の説明	結果読み取り・⑦観察レポート作成
	14	実習8-1：心理検査法の概説・心理検査実習の手順・実施方法・データ整理・図表作成の説明	データ整理・図表作成
15	実習8-2：結果の読み取りと考察・心理検査レポート（実習⑧）の書き方の説明	結果読み取り・⑧検査レポート作成	
16	予備日	後期の学習内容の総復習	

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。 ①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）. 心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）. 認定心理士資格準拠一実験・実習で学ぶ心理学の基礎—金子書房 ③心理学基礎演習シリーズVol.1(実験法)、Vol.2(質問紙法)、Vol.3(観察・面接法) ナカニシヤ出版 ④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、心理学基礎演習Bの講義内容を踏まえて実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）を行う必要がある。2つの授業を欠かさず受講するよう心がけてもらいたい。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切。
--------	---

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点（実験への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40% ・レポート（実習⑥⑦⑧の各レポート、質問紙実習⑥の質問紙調査計画書完成版と質問紙完成版の5本）…60% ※原則、全課題において実施者・参加者の役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものとする。質問紙調査計画書と質問紙は、教員に指示された適切な様式で作成すること。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習B、心理学研究法Ⅱを履修すること。 次のステージ：3年次の心理学専門演習ⅠA・ⅠBを履修すると共に、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修することで、卒業研究へと展開させていくことや実践活動に役立てることができるだろう。心理学基礎演習Bおよび心理学実験Bの学びを、その他の心理専門科目の内容と結びつけて履修を進めると良い。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習 I A	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡 明奈	3年	研究室5号館534号室 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文研究・活動実践報告に必要な力を身に着ける。具体的には、卒業論文・活動実践報告書の書き方を学び、文献・情報収集、研究・活動計画立案を行う。	2年次までに積み上げてきた心理学での学びを踏まえて、卒業研究・活動実践に必要な力を身に付けていきましょう。自分が何を知りたいのか、何をやりたいのかを自覚し、ゼミの仲間と協力して取り組みましょう。

学びの準備	到達目標
	①人間の心や行動に関する疑問や関心を心理学的な理論や専門用語を用いて理解し、説明することができる。 ②心理学の実証的研究法（特に実験・質問紙等）を用いて、心理学的現象について調べ、研究するために必要な力を身に着ける。 ③現代社会における諸問題について、心理学的な視点から分析し、考察するために必要な力を身に着け、卒業論文研究や実践活動へと展開させることができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ゼミメンバーの顔合わせ・オリエンテーション	オリエンテーションの理解
	2	対人交流グループ・ワーク	授業内容の振り返り
	3	人を対象とする研究の倫理について	授業の復習
	4	研究記録の書き方/活動記録の書き方	授業の復習
	5	文献検索の仕方、文献/情報のまとめ方	文献を検索してみる
	6	研究計画/活動計画の立て方	授業の復習
	7	研究方法の検討/活動方法の検討	授業の復習
	8	分析方法の検討/活動結果の評価方法の検討	情報収集をする
	9	論文/活動報告書の書き方1	授業の復習
	10	論文/活動報告書の書き方2	授業の復習
	11	文献レビュー1/情報収集2	文献レビュー/情報収集
	12	文献レビュー2/活動計画の作成1	文献レビュー/情報収集
	13	文献レビュー3/活動計画の作成2	文献レビュー/情報収集
	14	研究テーマの決定/活動計画の発表	活動計画書の作成
15	今後の研究/活動の計画の修正	授業の復習	
16	予備日		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ・授業内で適宜紹介する
-------	-------------------------------

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>①ゼミ活動は、正課内・外で自主的に動くことが不可欠であることを常に自覚し、行動しましょう。 ②発表担当の回は、責任をもって資料作成・配布・プレゼンを行うようにしましょう。 ③ゼミメンバーと協力し合い、互いを思いやりながら活動を楽しみましょう。 ④疑問や質問は、まず自分たちで調べて考えるようにしましょう。その上で分からないことは教員や先輩に相談するようにしましょう。</p>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>・研究・活動への関与度（50％）と、研究・実践活動への理解（50％）で評価します。関与度はゼミ内での発表・質問・コメントなど発言の積極性、コメントシートの内容も評価対象になります。理解は、計画書の内容、レジュメの内容、研究・活動の成果等が評価対象となります。</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学基礎演習A・B、心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱなど。 次のステージとして心理学専門演習ⅠB、心理プロジェクト演習ⅠBの履修につなげましょう。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅠA	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	3年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒論作戦の前段階として、実際の心理学論文を幅広く読み、理解できる力を身につける。同時に、これまで知らなかった幅広い対象者に心理学的アプローチが可能であることを知ることによって、各自の卒論構想の幅を広げることを狙いとする。	【実務経験】これまでの臨床心理士・公認心理師としての経験とともに、日常生活の中での困ったこと、何げない疑問や不思議に思うことを、いかに心理学の研究として明らかにしていくかを伝えていきます。
到達目標	①人間のこころや行動に関する素朴な疑問や関心を、心理学的理論や概念を用いて理解し、人に説明することができる。 ②心理学の実証的研究法を用いて、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）研究基礎力を身につけることができる。 ③現代社会における諸問題について、心理学的視点から分析し、考察するための基本的な研究力と態度を身につけ、それを卒業研究のテーマへと展開させることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	論文①中途障害関連 輪読	論文の読み込み
	2	論文① 輪読	論文の読み込み
	3	論文① 輪読	論文の読み込み
	4	論文②高次脳機能障害関連 輪読	論文の読み込み
	5	論文② 輪読	論文の読み込み
	6	論文② 輪読	論文の読み込み
	7	論文③ 高次脳機能障害リハビリテーション関連 輪読	論文の読み込み
	8	論文③ 輪読	論文の読み込み
	9	論文③ 輪読	論文の読み込み
	10	論文④糖尿病と心理学関連 輪読	論文の読み込み
	11	論文④ 輪読	論文の読み込み
	12	論文④ 輪読	論文の読み込み
	13	論文⑤糖尿病へのグループアプローチ関連 輪読	論文の読み込み
	14	論文⑤ 輪読	論文の読み込み
15	論文⑤ 輪読 夏休み課題の説明	論文の読み込み 課題の選択	
16			

テキスト・参考文献・資料など	参考文献：「心理社会的リハビリテーションのキーワード」イーゼンバーグ編 岩崎学術出版社 「病気のひとのこころ」 日本心理学会監修 誠心書房 「リハビリテーションにおける認知行動療法的アプローチ」上田幸彦著 風間書房
----------------	---

学びの手立て	①ゼミは学生が自ら積極的に関与することが不可欠であることを強く意識して参加すること。 ②論文を読んで生じた疑問や質問などは、まず自分で調べ、考え、その上でどうしても分からない場合は、ゼミ中に積極的に教員に尋ねること。
--------	---

評価	ゼミにおける質問や発表の積極性（50%）、他のゼミメンバーの発表に対する質問やコメント、討議への参加度（50%）により評価する。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学基礎演習A, B 心理学研究法Ⅰ, Ⅱ 心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ、Ⅱ 次のステージ心理学専門演習ⅠB 卒業研究
-------	---

科目基本情報	科目名 心理学専門演習ⅠA	期別	曜日・時限	単位
	担当者 平山 篤史	前期	月 2	2
		対象年次 3年	授業に関する問い合わせ 研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 平山ゼミは、心理学専門コースおよびキャリア実践心理コース向けのゼミです。卒業論文制作または、活動実践報告書をまとめます。卒論グループは所定のテーマで実証研究を行うための一連の科学的方法論（文献精読、研究計画、実査、データ解析、考察、発表資料のまとめ）の習得を目指します。実践活動グループは、活動についての計画・経過報告・報告書作成についての検討を行います。	メッセージ チームで課題を乗り越えていきます。そのプロセスで、科学的な視点、多角的視点で考える力、追求していく力、継続する力、協働する力、コミュニケーション能力など就職活動や社会に出て役立つ様々な力を伸ばすことができます。また大きな課題に向き合うことは、自分自身にも向き合うこととなります。ゼミの活動を通して皆さんが、さらに成長するお手伝いをします。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する素朴な疑問や関心を、心理学的理論や概念を用いて理解し、人に説明することができる。 ②心理学の実証的研究や実践活動を通して、論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、科学的視点、共感的視点を身につける。 ③これまで学んだことを活用して社会貢献する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ゼミメンバーの顔合わせ
	2	活動および研究グループ編成とテーマ選択
	3	活動および研究グループ編成とテーマ決定
	4	グループワークの理論と技法①
	5	グループワークの理論と技法②
	6	グループワークの理論と技法③
	7	グループワークの臨床・教育・福祉領域への活用
	8	動作を通した心身へのアプローチ（動作法を中心として）の理論と技法①
	9	動作を通した心身へのアプローチ（動作法を中心として）の理論と技法②
	10	動作を通した心身へのアプローチ（動作法を中心として）の理論と技法③
	11	動作法の臨床・教育・福祉領域への活用
	12	対人不安の悩みに関する理論と支援①
	13	対人不安の悩みに関する理論と支援②
	14	対人不安の悩みに関する理論と支援③
	15	対人不安の悩みに対する心理教育
16	予備日	
		時間外学習の内容
		研究・活動テーマについて調べる
		研究・活動テーマについて調べる
		研究・活動テーマについて調べる
		リフレクションシート
		リフレクションシート
		リフレクションシート
		研究・活動テーマの検討
		リフレクションシート
		リフレクションシート
		リフレクションシート
		研究・活動テーマの検討
		リフレクションシート
		リフレクションシート
		研究・活動テーマの検討
		最終レポート作成

実践	テキスト・参考文献・資料など 推奨図書（テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。） 松井 豊（2010）改訂新版：心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社 丹野義彦・坂本真士（2001）自分のこころからよむ臨床心理学入門 東京大学出版会 坂本真士・佐藤健二（2004）はじめての臨床社会心理学入門 有斐閣 鶴光代（2007）臨床動作法への招待 金剛出版 高良聖（2013）サイコドラマの技法 岩崎学術出版社
----	--

学びの手立て	①ゼミ活動は、正課内・外で学生が自ら主体的に動くことが不可欠であることを強く意識し、行動すること。 ②発表担当が割り当てられた回は、責任を持って資料作成・配布・プレゼンを行うこと。やむを得ない事情で担当できなくなった場合は、速やかに教員およびゼミ長に連絡を入れること。 ③グループ研究を予定通りに進めるには、全員の協力が必要です。体調やスケジュール管理をしながら、お互いにしっかりと連絡を取り合って協働すること。 ④実践活動・研究活動を進める中で生じた疑問や質問など、まずは自分たちで調べ、考えること。その上で報告・連絡・相談を怠らないことが大事です。
--------	---

評価	・活動への関与度(50%)、研究報告・活動報告(50%)により評価します。関与度は、文献調査、ディスカッション、質問や発表の積極性、ゼミメンバーの発表に対する質問やコメント、討議への参加度などにより評価します。 ・研究報告・活動報告は、研究・活動計画書の内容、活動の取り組み等によって評価します。 ・授業内で頻繁に意見表明を求める機会があります。意見を表明しなかったり、消極的な態度を示したりすると評価が低くなります。プレゼンやディスカッションにおいて「聴く」態度も評価の対象です。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：「動作法」「グループアプローチ」「コミュニケーションスキル」で技法を学び、実践活動につなげることができます。「心理プロジェクト演習ⅠA・B」と連動して活動を進めていきます。 次のステージ：「心理学専門演習ⅠB」「心理学専門演習ⅡA/B」「心理プロジェクト演習ⅡA・B」の履修につなげて大学での学びの集大成としてまとめていきます。
-------	---

科目基本情報	科目名	心理学専門演習 I A	期別	曜日・時限	単位
	担当者	前堂 志乃	前期	月 2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			3年	研究室：5-431 e-mail：mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	本講義の目的は卒業論文研究・活動実践報告の基礎力を獲得することである。卒業論文研究・活動実践を行い、卒業論文・実践報告を行うためのプロセスの習得を目指す。前半は、卒業論文研究・活動実践の進め方と卒業論文・実践報告の書き方を学ぶ。後半は、文献研究・情報収集、研究計画案・活動計画案の策定に取り組む。	メッセージ	2年次までに積み上げてきた心理学の学びをふまえ、卒業研究へとつなげる研究基礎力または実践活動へとつなげる社会人基礎力を身につけていこう。日常生活の中で感じる疑問や不思議に思うことを心理学研究方法を用いて実証的に明らかにすること、誰かの社会の役に立ちたい気持ちと心理学の知と技を結びつけ実践することを目指す。真摯に、楽しみながら、みんなでゼミ活動に取り組もう。
	到達目標	①人間のこころや行動に関する素朴な疑問や関心を、心理学的理論や概念を用いて理解し、人に説明することができる。 ②心理学の実証的研究法（実験、質問紙、観察など）を用いて、心理学的現象を調べ論理的に考え説明できる研究基礎力を身につけることができる。心理学の知識や技法を社会生活に応用する実践基礎力を身につけることができる。 ③現代社会における諸問題について、心理学的視点から分析し、考察するための研究基礎力を身につけ、卒業研究へと展開させることができる。心理学の知識や技法を応用して社会貢献できる実践基礎力（社会人基礎力）を身につけ、実践活動へと展開させることができる。		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	初回オリエンテーション/授業計画の確認/ゼミメンバーの確認	授業計画の理解/次回に向けた予習
	2	4年次の卒論構想発表資料の理解	振り返り・振り返りシート作成
	3	人を対象とする研究・実践活動に関する倫理について	授業内容の復習
	4	心理学研究の流れ・問題意識とリサーチクエスト/実践報告の流れ・活動目的	日常の問題意識・社会貢献の検討
	5	文献検索と文献レビュー・情報収集について	文献検索をやってみる
	6	研究計画の策定/活動計画の策定	研究計画/活動計画を立ててみる
	7	研究方法の検討/活動方法の検討	研究方法/活動方法を考えてみる
	8	データの測定・整理/活動記録（日誌）の取り方と整理	授業の復習/関連文献を見てみる
	9	データ分析/活動内容・効果の評価①	授業の復習/関連文献を見てみる
	10	データ分析/活動内容・効果の評価②	授業の復習/関連文献を見てみる
	11	結果のよみとりとまとめ・図表の作成/活動内容・効果の評価の理解とまとめ・図表の作成	授業の復習/関連文献を見てみる
	12	研究結果の考察/活動内容の振り返りと修正点・改善点の抽出	授業の復習/関連文献を見てみる
	13	論文の書き方/活動実践報告書の書き方①	授業の復習/関連文献を見てみる
	14	論文の書き方/活動実践報告書の書き方②	授業の復習/関連文献を見てみる
15	研究の成果発表の仕方/活動実践報告の発表の仕方	授業の復習/関連文献を見てみる	
16	予備日	夏休みの課題/文献検索・精読	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。 ・卒業研究を進めるに当たり、以下の書籍を推奨します。その他の文献については、授業内で適宜紹介します。 <p>松井 豊 2010 改訂新版：心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社 白井利明・高橋一郎 2008 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房 都筑学 2006 心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 山田剛史・林創 2011 大学生のためのリサーチリテラシー入門 ミネルヴァ書房</p>

学びの手立て	<p>①ゼミ活動は、正課内・外で学生が自ら主体的に動くことが不可欠であることを強く意識し、行動すること。</p> <p>②発表担当の回は、責任を持って資料作成・配布・プレゼンを行うこと。やむを得ない事情で担当できなくなった場合は、速やかに教員およびゼミ長に連絡を入れること。</p> <p>③ゼミ活動（研究・実践活動）には楽しみと成長する苦しみがあります。楽しみつつ目標をクリアし成長する苦しみを乗り越えるには、お互いの思いやりと協力する気持ちが必要です。体調やスケジュール管理をし、お互いこまめに連絡を取り合い情報を共有しながら協働していこう。</p> <p>④疑問や質問などはまずは自分たちで調べ、語り合い、考える。その上で分からない点については、教員や院生や先輩に確認する。ゼミの縦横斜めでザッソウ（雑談と相談）をやってみよう。</p>
--------	---

評価	ゼミ活動への関与度(60%)、研究と実践活動の過程についての理解度(40%)により評価します。関与度は、ゼミ内の発表・質問の積極性、ゼミメンバーの発表に対する質問やコメント、対話への参加度、振り返りシートの提出などにより評価します。ゼミの発表・対話の機会における、感想・意見を述べる態度、聴く態度も評価の対象になります。研究・実践活動の過程についての理解度は、研究活動および実践活動の過程に関するまとめレポート、卒論および実践報告書の書き方に関するレジュメなどの提出により評価します。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目：心理学基礎演習A・B、心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理統計学基礎、心理学統計法Ⅰ・Ⅱ、心理プロジェクト演習ⅠA、傾聴トレーニング、コミュニケーションスキル、知覚・認知心理学、神経・生理心理学（神経/生理）など。次のステージ：心理学専門演習ⅠB、心理プロジェクト演習ⅠBの履修につなげ、卒業研究/実践活動へと展開しましょう。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅠA	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子	3年	5号館424-2研究室 h.imura@okiu.ac.jp (@は半角に直す)	

学びの準備	ねらい これまで学んだ基礎的な心理学研究法を基盤として、心理学領域の論文の検索の仕方や、内容の理解の仕方について体験的に学ぶ。	メッセージ 日常生活の中でとらえた人の心に関する事象を、どのような心理学的手法で実証するのかを、しっかりと考えてほしい。また、上級生の発表を見聞きし、1年後の自分をイメージしながら、手本として学びを深めてほしい。
	到達目標 日常生活の中でとらえた人の心に関する事象を、詳細に検証する心理学的な研究手法について学ぶ。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・授業概要説明	スケジュール確認
	2	卒論構想発表への参加①	研究構想へのコメント
	3	卒論構想発表への参加②	研究構想へのコメント
	4	卒論構想発表への参加③	研究構想へのコメント
	5	卒論構想発表への参加④	研究構想へのコメント
	6	心理学研究（卒論）の進め方①	配布資料の予習・復習
	7	心理学研究（卒論）の進め方②	配布資料の予習・復習
	8	文献検索①	文献検索・文献収集
	9	文献検索②	文献検索・文献収集
	10	文献検索③	文献検索・文献収集
	11	卒論研究計画発表への参加	研究計画へのコメント
	12	卒論研究計画発表への参加	研究計画へのコメント
	13	卒業論文研究構想準備①	研究準備のための諸活動
	14	卒業論文研究構想準備②	研究準備のための諸活動
15	卒業論文研究構想準備③	研究準備のための諸活動	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指定する。 参考文献 松井豊（著）2010「改訂新版 心理学論文の書き方」河出書房新社		
	学びの手立て 自ら学び、自分を成長させようという意欲と態度を持ち続けること。 他の学生とのディスカッション（オンラインでのディスカッションを含む）に積極的に参加すること。		
	評価 演習への参加状況とゼミ内でのディスカッション内容（50%）、課題に対する取り組みの態度及び提出された課題内容（50%）を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 前年度の「心理学基礎演習A」・「心理学基礎演習B」に引き続いて履修する科目である。 後期は、「心理学専門演習ⅠB」を履修する。
-------	---

※ポリシーとの関連性

本専攻のカリキュラム・ポリシー「心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための実証的研究法を学ぶ」専門演習。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅠB	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子	3年	5号館424-2研究室 h.imura@okiu.ac.jp (@は半角に変える)	

学びの準備	ねらい これまでで学んだ研究方法を基に、各自の関心あるテーマについて先行研究を検索し、概要をレポートにまとめる。こうした一連の活動を通して、卒業論文のテーマを絞り込むことを最終目標としている。	メッセージ 心理学的視点でとらえた自分の興味・関心のある事象を、どのような心理学的手法で実証するかを、しっかりと考えてほしい。
	到達目標 心理学的視点でとらえた事象の詳細を検証する心理学的な研究手法を学ぶ。自分の興味・関心のある事象を、心理学的に検証する方法について学ぶ。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒業論文研究計画策定①（テーマ選定）	文献検索
	2	卒業論文研究計画策定②（テーマ選定）	文献検索
	3	卒業論文研究計画策定③（テーマ選定）	文献検索
	4	卒業論文研究の報告発表参加①	報告発表へのコメント
	5	卒業論文研究の報告発表参加②	報告発表へのコメント
	6	卒業論文研究計画策定④（先行研究論文検索・収集）	文献収集・精読
	7	卒業論文研究計画策定⑤（先行研究論文検索・収集）	文献収集・精読
	8	卒業論文研究計画策定⑥（先行研究論文検索・収集）	文献収集・精読
9	卒業論文研究の報告発表参加③	報告発表へのコメント	
10	卒業論文研究の報告発表参加④	報告発表へのコメント	
11	卒業論文研究計画策定⑦（卒論論文構想計画）	研究構想計画書の作成	
12	卒業論文研究計画策定⑧（卒論論文構想計画）	研究構想計画書の作成	
13	卒業論文研究構想計画の発表①（研究計画発表）	研究構想計画発表資料作成	
14	卒業論文研究構想計画の発表②（研究計画発表）	研究構想計画発表資料作成	
15	卒業論文構想発表会準備（発表資料作成・予行演習）	卒論研究構想計画書の提出	
16	予備日		
実践	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指定する。 各自のテーマに沿って紹介する。 参考文献 松井豊(著) 2010「改訂新版 心理学論文の書き方」河出書房新社		
	学びの手立て 自ら学び、自分を成長させようという意欲を持ち続けること。 他の学生とのディスカッションに積極的に参加すること。		
	評価 授業参加態度（ゼミ内での研究構想発表・ゼミメンバーの研究計画へのコメント等）が50%、卒論研究への取り組み（最終的に提出された研究構想計画書）が50%であり、総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 前期開講の「心理学専門演習ⅠA」に引き続いて履修する科目である。 次年度は「心理学専門演習ⅡA」・「心理学専門演習ⅡB」を履修する。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習 I B	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡 明奈	3年	研究室5号館534号室 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 心理学専門演習 I Aで学んだことを踏まえて、卒業論文研究・活動実践報告に向けた活動を行っていく。具体的には、研究テーマに関連する文献のレビュー、研究材料の作成、活動実践の実行を行う。	メッセージ 2年次までに積み上げてきた心理学での学びを踏まえて、卒業研究・活動実践に必要な情報集め・材料作成・実行準備を行いましょ
	到達目標 ①人間の心や行動に関する疑問や関心を心理学的な理論や専門用語を用いて理解し、説明することができる。 ②心理学の実証的研究法（特に実験・質問紙等）を用いて、心理学的現象について研究するために必要な準備を行うことができる。 ③現代社会における諸問題について、心理学的な視点から分析し、考察するために必要な準備を行い、卒業論文研究や実践活動へと展開させることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	オリエンテーションの理解
	2	研究テーマに関する文献レビュー1/実践活動のための準備・材料づくり1	文献レビュー/準備を進める
	3	研究テーマに関する文献レビュー2/実践活動のための準備・材料づくり2	文献レビュー/準備を進める
	4	研究テーマに関する文献レビュー3/実践活動のための準備・材料づくり3	文献レビュー/準備を進める
	5	研究デザインの精査1/実践活動計画の発表1	研究デザインの検討/発表準備
	6	研究デザインの精査2/実践活動計画の発表2	研究デザインの検討/発表準備
	7	研究デザインの精査3/実践活動計画の発表3	研究デザインの検討/発表準備
	8	研究デザイン発表1/実践活動のための準備・材料づくり4	発表準備/準備を進める
	9	研究デザイン発表2/実践活動のための準備・材料づくり5	発表準備/準備を進める
	10	研究デザイン発表3/実践活動のための準備・材料づくり6	発表準備/準備を進める
	11	研究デザインの精査4/実践活動の実行1	研究デザインの検討/実践
	12	研究デザインの精査5 /実践活動の実行2	研究デザインの検討/実践
	13	卒論構想発表会のプレ発表1/実践活動の途中経過報告1	発表準備
	14	卒論構想発表会のプレ発表2/実践活動の途中経過報告2	発表準備
15	卒論構想発表会のプレ発表3/実践活動の途中経過報告3	発表準備	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など ・授業内で適宜紹介する		
	学びの手立て ①ゼミ活動は、正課内・外で自主的に動くことが不可欠であることを常に自覚し、行動しましょう。 ②発表担当の回は、責任をもって資料作成・配布・プレゼンを行うようにしましょう。 ③ゼミメンバーと協力し合い、互いを思いやりながら活動を楽しみましょう。 ④疑問や質問は、まず自分たちで調べて考えるようにしましょう。その上で分からないことは教員や先輩に相談するようにしましょう。		
	評価 ・研究・活動への関与度（50％）と、研究・実践活動への理解（50％）で評価します。関与度はゼミ内での発表・質問・コメントなど発言の積極性、コメントシートの内容も評価対象になります。理解は、研究デザインの内容、パワポの内容、研究・活動の成果等が評価対象となります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学基礎演習A・B、心理学研究法 I・II、心理統計学基礎、心理統計学 I・II、心理学専門演習 I A・IB、心理プロジェクト演習 I A・IB。
-------	---

科目基本情報	科目名 心理学専門演習 I B	期 別 後期	曜日・時限 月 2	単 位 2
	担当者 前堂 志乃	対象年次 3 年	授業に関する問い合わせ 研究室：5-431 e-mail：mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 心理学専門演習 I Aで学んだ研究基礎力（文献研究、研究計画策定、データ収集・解析、結果の読み取りと考察、卒論作成）や実践基礎力（情報収集、活動計画策定、実践活動と記録、振り返り・評価、活動報告書作成）を用い、卒業論文研究計画/実践活動計画を策定する。具体的には、文献検索・レビュー、研究・活動計画の策定、卒業論文ブレ構想発表/実践活動ブレ報告を行う。	メッセージ 3年前期までの心理学の学びを踏まえ卒論研究・実践活動に取り組む準備をしよう。ゼミの共通テーマと自分の疑問や関心を結びつけるよう意識し、日常体験、授業での学び、芸術・文化、社会の出来事など様々なことにアンテナを張り、卒論研究・実践活動の計画を策定しよう。研究と活動の基本は自発性とゼミ仲間と教員との協働です。真摯に、楽しみながら、みなでゼミ活動に取り組もう。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する素朴な疑問や関心を、心理学的理論や概念を用いて理解し、人に説明することができる。 ②心理学の実証的研究法（特に、質問紙調査法）を用いて、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究基礎力を身につけることができる。心理学の知識や技法を社会生活に応用する力を身につけることができる。 ③現代社会における諸問題について、心理学的視点から分析し、考察するための基本的な研究力と態度を身につけ、それを卒業研究テーマへと展開させることができる。心理学の知識や技法とをもって社会貢献できる活動実践力と社会人基礎力を身につけ、それを実践活動へと展開させ実践報告としてまとめることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	初回オリエンテーション/夏休みの課題の報告	授業計画の理解/課題の振り返り
	2	研究スケジュールの検討/実践活動スケジュールの検討	研究・活動スケジュールの検討
	3	文献検索・情報収集とレビューについて	文献・資料の検索と読み込み
	4	卒業論文研究計画策定/実践活動計画策定①文献の読み込みと文献レビュー発表-1	文献の読み込み・発表の振り返り
	5	卒業論文研究計画策定/実践活動計画策定②文献の読み込みと文献レビュー発表-2	文献の読み込み・発表の振り返り
	6	卒業論文研究計画策定/実践活動計画策定③テーマの設定・計画の検討・ブレ発表-1	研究・活動計画書の検討・作成
	7	卒業論文研究計画策定/実践活動計画策定④テーマの設定・計画の検討・ブレ発表-2	研究・活動計画書の検討・作成
	8	卒業論文研究計画策定/実践活動計画策定⑤テーマの設定・計画の検討・ブレ発表-3	研究・活動計画書の検討・作成
	9	卒業論文研究計画策定/実践活動計画策定⑥研究・活動計画案発表-1（レジュメ形式）	研究・活動計画書の完成・振り返り
	10	卒業論文研究計画策定/実践活動計画策定⑦研究・活動計画案発表-2（レジュメ形式）	研究・活動計画書の完成・振り返り
	11	卒業論文研究計画策定/実践活動計画策定⑧研究・活動計画案発表-3（レジュメ形式）	研究・活動計画書の完成・振り返り
	12	卒業論文ブレ構想発表/実践活動ブレ報告①（構想発表会/実践報告会形式）	発表・報告会パワポ作成・振り返り
	13	卒業論文ブレ構想発表/実践活動ブレ報告②（構想発表会/実践報告会形式）	発表・報告会パワポ作成・振り返り
	14	卒業論文ブレ構想発表/実践活動ブレ報告③（構想発表会/実践報告会形式）	発表・報告会パワポ作成・振り返り
	15	卒業論文ブレ構想発表/実践活動ブレ報告④（構想発表会/実践報告会形式）	発表・報告会パワポ作成・振り返り
16	予備日	ブレ発表・報告会振り返り	

実践	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。 ・卒業研究を進めるに当たり、以下の書籍を推奨します。その他の文献については、授業内で適宜紹介します。 松井 豊 2010 改訂新版：心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社 白井利明・高橋一郎 2008 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房 都筑学 2006 心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 山田剛史・林創 2011 大学生のためのリサーチリテラシー入門 ミネルヴァ書房
----	--

学びの手立て	・ゼミは、毎時の発表（文献紹介、研究・活動テーマ紹介、研究・活動計画発表、履修・進路状況、年間計画のリ・スケジュールなど）と研究・活動に関する質疑応答・対話・個別指導・助言を組み合わせる。 ・卒論研究と実践活動の計画検討はゼミの時間だけでは進まない。課外時間における自発的・積極的な取り組みが重要になる。 ・卒論と実践活動を進めるにはゼミ仲間との協働（積極的に意見交換・交流を持ち互いの意見や考え方を共有する、各自が役割や責任を果たし、自発的に協力し合って研究・活動をする）が重要になる。 ・研究・活動に関する疑問や課題は、ゼミ仲間、先輩、教員、院生とのザッソウと対話を通して、整理し明確にしていくとよい。
--------	--

評価	到達目標①と②：文献紹介、研究・活動テーマ紹介、各自の卒論構想発表・実践活動報告（研究・活動計画書および発表内容）を評価する（70%） 到達目標③：ゼミへの参加・貢献度（積極的な発表・質問、ゼミメンバーの発表への建設的質問・コメント）、各自の研究・活動全般への自発的・積極的な取り組み、ゼミメンバーとの協働などを評価（30%）
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学研究法 I・II、心理統計学基礎、心理学統計法 I・II、心理学基礎演習 A・B、心理学専門演習 I A、心理プロジェクト演習 I A、傾聴トレーニング、コミュニケーションスキル、知覚・認知心理学、神経・生理心理学（神経/生理）。次のステージ：心理学専門演習 II A・B、心理プロジェクト演習 II A・Bを履修する。3年ゼミを通して身につけた心理学的視点と研究・実践基礎力をもとに、卒業研究・実践活動へと展開しよう。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅠB	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	3年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 卒論作成の前段階として、実際の心理学論文を幅広く読み、理解できる力を身につける。同時に、これまで知らなかった幅広い対象者に心理学的支援が可能であることを知ることで、各自の卒論構想の幅を広げることを狙いとする。	メッセージ 【実務経験】これまでの臨床心理士・公認心理師としての経験にもとづき、実際心理臨床の現場にはどのような課題があるのかを伝えていきます。
	到達目標 現代社会にはどのような障害、難病があり、それに人間心理がどのように関連するのかを理解する。そこに心理学がどのように寄与できるのかを学ぶ。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	夏休み読書課題 発表①	発表の準備
	2	” 発表②	発表の準備
	3	” 発表③	発表の準備
	4	” 発表④	発表の準備 レポート作成
	5	論文⑥ 偏見関連 輪読	論文の読み込み
	6	論文⑥ 輪読	論文の読み込み
	7	論文⑥ 輪読	論文の読み込み
	8	論文⑦ 認知行動療法関連 輪読	論文の読み込み
9	論文⑦ 輪読	論文の読み込み	
10	論文⑦ 輪読	論文の読み込み	
11	選択した論文紹介①	論文紹介の準備	
12	選択した論文紹介②	論文紹介の準備	
13	選択した論文紹介③	レポート作成	
14	卒論構想発表	卒論構想を考える	
15	卒論構想発表	卒論構想の再検討	
16	予備日		
テキスト・参考文献・資料など 参考文献：「心理社会的リハビリテーションのキーワード」イーゼンバーグ編 岩崎学術出版社 「病気のひとのこころ」日本心理学会編 誠信書房 「リハビリテーションにおける認知行動療法的アプローチ」上田幸彦著 風間書房			
学びの手立て 学術論文を読みこなす力を高めることが重要である。まず一読し、さらに重要な箇所をマークし、わからない用語があれば自分で調べ、引用文献で興味を引くものがあればその文献を入手して読む、などを積極的に行うこと。			
評価 平常点（輪読時の積極性、質問・コメント）・・・70%、選択論文のレポート・・・30% によって評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージは心理学専門演習Ⅱ 関連科目としてストレスマネジメント
-------	--

科目基本情報	科目名 心理学専門演習 I B	期別 後期	曜日・時限 月 2	単位 2
	担当者 平山 篤史	対象年次 3年	授業に関する問い合わせ 研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 平山ゼミは、心理学専門コースおよびキャリア実践心理コース向けのゼミです。卒業論文制作または、活動実践報告書をまとめます。卒論グループは所定のテーマで実証研究を行うための一連の科学的方法論（文献精読、研究計画、実査、データ解析、考察、発表資料のまとめ）の習得を目指します。実践活動グループは、活動についての計画・経過報告・報告書作成についての検討を行います。	メッセージ チームで課題を乗り越えていきます。そのプロセスで、科学的な視点、多角的視点で考える力、追求していく力、継続する力、協働する力、コミュニケーション能力など就職活動や社会に出ても役立つ様々な力を伸ばすことができます。また大きな課題に向き合うことは、自分自身にも向き合うこととなります。ゼミの活動を通して皆さんが、さらに成長するお手伝いをします。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する素朴な疑問や関心を、心理学的理論や概念を用いて理解し、人に説明することができる。 ②心理学の実証的研究や実践活動を通して、論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、科学的視点、共感的視点を身につける。 ③これまで学んだことを活用して社会貢献する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 心理学専門演習 I Aでの体験を踏まえて下記のテーマから研究テーマおよび活動テーマを選択する (1) 研究テーマ ①大学生の友人関係および適応に関する研究 特に切り口として、対人不安、シャイネス、自己呈示、対人交流（親密化過程）、役割、公的自己意識や客体的自覚状態といった自己注目の理論からの検討 ②グループワークを用いた基礎研究・実践的研究 大学生に対する対人交流、シャイネスの低減をねらいとしたグループアプローチ、ロールプレイングを用いたグループ活動プログラム開発と基礎研究。 ③動作法・こころとからだのつながりについての研究 <講義計画> 1、(2週) 研究テーマ決定と文献・資料の検索、収集 2、(5週) 文献・論文の精読・要約報告とディスカッション 3、(5週) 研究計画の作成途中経過の報告と検討 4、(2週) 研究方法についての検討 (2) 活動プロジェクトテーマ ①グループアプローチによる教育・臨床活動 大学生に対する対人交流、シャイネスの低減をねらいとしたグループアプローチのプログラム開発と効果研究。オープンキャンパス、合格者事前オリエンテーション、新入生1日研修会でのプログラム開発。小中高校での対人交流プログラム開発。 ②動作法を用いた実践研究：障がい児者に対する動作法を用いた支援。動作法を用いたストレスマネジメント。 ③貧困家庭児童生徒に対するスポーツ活動支援 ④大学生の適応に関する心理教育プログラム <講義計画> 1、(2週) 活動テーマ決定と文献・資料の検索、収集 2、(2週) 文献・論文の精読・要約報告とディスカッション 3、(5週) 研究計画の作成途中経過の報告と検討 4、(6週) 活動方法についての検討
	テキスト・参考文献・資料など 推奨図書（テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。） 松井 豊 (2010) 改訂新版：心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社 丹野義彦・坂本真士 (2001) 自分のこころからよむ臨床心理学入門 東京大学出版会 坂本真士・佐藤健二 (2004) はじめての臨床社会心理学入門 有斐閣 鶴光代 (2007) 臨床動作法への招待 金剛出版 高良聖 (2013) サイコドラマの技法 岩崎学術出版社
	学びの手立て ①ゼミ活動は、正課内・外で学生が自ら主体的に動くことが不可欠であることを強く意識し、行動すること。 ②発表担当が割り当てられた回は、責任を持って資料作成・配布・プレゼンを行うこと。やむを得ない事情で担当できなくなった場合は、速やかに教員およびゼミ長に連絡を入れること。 ③グループ研究を予定通りに進めるには、全員の協力が必要です。体調やスケジュール管理をしながら、お互いにしっかりと連絡を取り合って協働すること。 ④実践活動・研究活動を進める中で生じた疑問や質問など、まずは自分たちで調べ、考えること。その上で報告・連絡・相談を怠らないことが大事です。
評価	・活動への関与度(50%)、研究報告・活動報告(50%)により評価します。関与度は、文献調査、ディスカッション、質問や発表の積極性、ゼミメンバーの発表に対する質問やコメント、討議への参加度などにより評価しす。 ・研究報告・活動報告は、研究・活動計画書の内容、活動の取り組み等によって評価します。 ・授業内で頻繁に意見表明を求める機会があります。意見を表明しなかったり、消極的な態度を示したりすると評価が低くなります。プレゼンやディスカッションにおいて「聴く」態度も評価の対象です。

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：「動作法」「グループアプローチ」「コミュニケーションスキル」で技法を学び、実践活動につなげることができます。「心理プロジェクト演習 I B」と連動して活動を進めていきます。 次のステージ：「心理学専門演習 II A/B」「心理プロジェクト演習 II A/B」の履修につなげて大学での学びの集大成としてまとめていきます。
-------	--

※ポリシーとの関連性

実験、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明できることを示す。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡA	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	4年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 卒業論文作成を通して、これまでに学んだ心理学的現象を論理的に考え説明できる力の集大成とする。	メッセージ 【実務経験】これまでの臨床心理士としての経験から、現場ではいかに研究課題を見出し、そしてどのように取り組んでいくかが求められます。心理士の研究者としての側面を高めることを目指します。
	到達目標 夏休み中にデータ収集を行えるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒論構想発表①	ゼミ発表準備
	2	卒論構想発表②	ゼミ発表準備
	3	卒論構想発表③	ゼミ発表準備
	4	卒論構想発表④	ゼミ発表準備
	5	卒論進捗状況（方法）発表 ①	ゼミ発表準備
	6	卒論進捗状況（方法）発表 ②	ゼミ発表準備
	7	卒論進捗状況（方法）発表 ③	ゼミ発表準備
	8	卒論進捗状況（方法）発表 ④	ゼミ発表準備
	9	卒論進捗状況（方法）発表 ⑤	ゼミ発表準備
	10	卒論進捗状況（質問紙等完成）発表 ①	ゼミ発表準備
	11	卒論進捗状況（質問紙等完成）発表 ②	ゼミ発表準備
	12	卒論進捗状況（質問紙等完成）発表 ③	ゼミ発表準備
	13	卒論進捗状況（質問紙等完成）発表 ④	ゼミ発表準備
	14	卒論進捗状況（データ収集状況）発表 ①	ゼミ発表準備
15	卒論進捗状況（データ収集状況）発表 ②	ゼミ発表準備	
16			
テキスト・参考文献・資料など 日本心理学会編 『心理学研究』執筆・投稿の手引き 改訂版			
学びの手立て 卒論の進め方、データ分析の仕方などわからない場合は、大学院生、担当教員に積極的に聞くこと。			
評価 平常点（毎回の授業での発言・質問状況）・・・50%、論文作成過程での取り組み方・・・50% によって評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 心理学専門演習ⅡB
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名 心理学専門演習ⅡA	期別	曜日・時限	単位
	担当者 前堂 志乃	前期	月 2	2
		対象年次 4年	授業に関する問い合わせ 研究室：5-431 e-mail：mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講は、卒業研究/活動実践を行い、卒業論文/報告書にまとめることを目的とする。卒論研究は構想発表を踏まえ卒業論文のテーマを設定、関連文献のレビュー、研究デザインの策定、研究デザインに従った適正な研究手続きによる実験・調査、データ収集・分析を行い、卒業論文を執筆し卒論発表を行う。活動実践は活動計画に従い活動実践を継続し、報告書にまとめ発表を行う。	メッセージ 4年間心理学を専門的に学んできた集大成としての卒論研究/実践活動です。卒論研究を行うことで人々に役立つ新しい知識を発見・発信することができ、実践活動で心理学の知識や技法を応用することで社会貢献ができます。卒論研究/実践活動の基本は自分次第ですが、ゼミ仲間、後輩、教員との協働も不可欠です。共に研究/実践を楽しみ、研究力/実践力を高め、成長していきましょう。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する疑問や関心を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる ②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力が身につけている。心理学の知識や技法を社会生活に応用する実践力が身につけている。 ③現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察し、人とのつながりの中で実践的に問題解決していくための研究力と態度が身につけている。心理学の知識や技法を応用して社会貢献できる実践力（社会人基礎力）と態度が身につけている。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	初回オリエンテーション/授業計画の確認	年間計画・振り返り報告の準備
	2	卒論構想発表会/実践報告/振り返り	研究デザイン検討・実践内容検討
	3	卒業論文の研究デザインと研究計画についての検討/これまでの実践内容の確認・検討	研究デザイン修正・実践計画検討
	4	卒業論文の研究デザインと研究計画の策定/実践活動計画の策定	研究デザイン・実践計画の策定
	5	研究デザイン発表（研究デザインと研究計画のチェックと最終決定）/実践活動と経過報告	研究デザイン修正・実践と振り返り
	6	研究デザイン発表（研究デザインと研究計画のチェックと最終決定）/実践活動と経過報告	研究デザイン修正・実践と振り返り
	7	研究デザイン発表（研究デザインと研究計画のチェックと最終決定）/実践活動と経過報告	研究デザイン修正・実践と振り返り
	8	研究計画の具体化（実験・調査などの研究準備/予備実験・予備調査）/実践活動と経過報告	研究計画の具体化/実践と振り返り
	9	研究計画の具体化（実験・調査などの研究準備/予備実験・予備調査）/実践活動と経過報告	研究計画の具体化/実践と振り返り
	10	研究計画の具体化（実験・調査などの研究準備/予備実験・予備調査）/実践活動と経過報告	研究計画の具体化/実践と振り返り
	11	研究計画の具体化（実験・調査などの研究準備/予備実験・予備調査）/実践活動と経過報告	研究計画の具体化/実践と振り返り
	12	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理）/実践活動と経過報告	卒論研究の諸活動/実践活動
	13	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理）/実践活動と経過報告	卒論研究の諸活動/実践活動
	14	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理）/実践活動と経過報告	卒論研究の諸活動/実践活動
	15	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理）/実践活動と経過報告	卒論研究の諸活動/実践活動
16	予備日		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しないが下記の参考図書を常に参照するとよい ①都筑 学(2008). 心理学論文の書き方—おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 有斐閣 ②松井 豊(2010). 改訂新版 心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社 ③心理学基礎演習シリーズVol.1 (実験法)、Vol.2 (質問紙法)、Vol.3 (観察・面接法) ナカニシヤ出版 ④小宮あすか・布井雅人(2018). Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける 講談社 ⑤その他の参考図書や文献などは、授業の中で適宜紹介する
-------	--

学びの実践	学びの手立て ・ゼミは、毎時の発表（デザイン発表、研究活動の進捗状況報告、実践活動の経過報告、履修・進路状況報告、年間計画のリ・スケジュールなど）と活動に関する質疑応答・対話、個別指導・助言を組み合わせて進める。 ・卒論研究や実践活動はゼミの時間だけでは進まない。課外時間における自発的・積極的な活動が重要になる。 ・研究や実践を進める過程では多くの疑問や課題に直面する。自分一人で抱え込まず、教員への相談、院生への質問、ゼミ仲間・同期との語り合いなど、さまざまな対話の中で自分の考えを整理し明確にしていくとよい。
-------	--

学びの実践	評価 到達目標①と②：発表や計画書などの内容（研究/実践活動の成果）を評価する（70%） 到達目標③：ゼミへの参加・貢献度（積極的な発表・質問、ゼミメンバーの発表への建設的質問・コメント）、卒論研究または実践活動全般への自発的・積極的な取り組み、ゼミメンバーとの研究協働などを評価（30%）
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学研究法ⅠⅡ、心理統計学基礎、心理学統計法ⅠⅡ、心理学基礎演習AB、心理学実験AB、心理学専門演習ⅠAB、心理プロジェクト演習ⅠAB、その他、心理専門科目と共通科目。次のステージ：卒論研究を通して身につけた心理学的視点と研究力、実践活動を通して身につけた心理学の知識と技法の応用力と実践力を、社会人基礎力の核として、仕事、家庭、社会活動、人生において自信を持って実践しよう。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡA	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	4年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>これまでに心理学を学んできた集大成として、興味・関心のあるテーマを設定し、研究目的を設定し、新しい知見・発見を得るために研究計画を立て、論文・活動報告としてまとめ、発表する。心理学の視点から、人間のこころや行動について、科学的に、多面的に、深く、考察する力を養う。</p>	<p>いよいよ卒業論文・活動報告をまとめることとなります。自分の研究テーマ、活動テーマを設定し、これまで学んできた知識・技術を総動員し、問題解決をしていきます。卒業論文作成、活動プロジェクトの実践のプロセスは、皆さんの社会人基礎力を高め、人間的にも成長していくことになるでしょう。仲間、教員と協力し、4年間の集大成を完成させましょう。</p>

学びの準備	到達目標
	<p>1、自分の卒業論文・活動プロジェクトについて、自分の言葉で相手に伝わるように分かりやすく発表できる。 2、発表に対する質疑に対して明確に応えることができる。 3、卒論作成・活動プロジェクトを通して高めてきた社会人基礎力をキャリア形成に活かせる 4、卒論作成・活動プロジェクトを通して高めてきた心理学的現象を論理的に考え説明できる力を社会生活に応用できる。</p>

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>授業外で卒論の進行状況・活動プロジェクトの経過報告書をレジメにまとめる。 授業内では、レジメに沿って進行状況を報告し、ゼミメンバーで検討会を行う。 報告の日程はゼミ内で調整・割り当てる。 授業内では、それぞれの報告に対して、他の受講生・教員から助言、コメントを行い、研究について相互に検討し、次回の報告までに解決すべき課題を明らかにする。</p> <p>4月～5月中旬 先行研究・文献の精読と研究デザインの検討 6月末 問題と目的・方法の検討 7月～11月上旬 予備調査とデータ収集 11月中旬 中間発表会（途中経過の報告、データ整理と統計的分析の検討） 11月下旬～12月上旬 まとめの作業 12月中旬 卒業論文・活動プロジェクトの報告書提出 1月 発表準備（ポスター資料制作、発表練習） 2月中旬 卒業論文・活動プロジェクトの報告書提出発表会</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習Vol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）ナカニシヤ出版 松井豊 心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために— 河出書房新社 適宜紹介する。</p>

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>卒論・活動プロジェクト報告書はゼミの時間内だけでは作成できない。時間外の学習が不可欠である。ゼミで指定される自分の発表日までには、しっかりと準備を進めて確実に発表できるようにする。 ゼミの時間での指導だけでは不明な点、解決できない点があれば個別の指導も行うので、積極的に利用すること。また、卒論・活動プロジェクト報告書は、一人だけでは作成は不可能。ゼミメンバーで、ディスカッションし、情報を交換し、様々な視点から論文を検討しなければならない。ゼミ生同士、協働して卒論を進めてほしい。</p>
	<p>評価</p> <p>構想発表、デザイン発表、研究計画書などの卒業論文・活動プロジェクト報告書の途中経過を評価する（60%） ゼミへの参加態度・研究への取り組み態度・ゼミへの貢献度（他ゼミメンバーの研究報告に対する質問、意見、助言、協力姿勢）（40%）</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>卒論制作を通して社会人基礎力が育ち、人間的にも成長できる。卒論作成のプロセスを通して見えてくる自分の長所・短所に目を向けて、キャリア形成に活かしていく。</p>

科目 基本 情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡA	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子	4年	5号館424-2研究室 h.imura@okiu.ac.jp (@は小文字に直す)	

学び の 準 備	ねらい これまで履修した講義・演習等を通して興味を持った問題について関連する文献を読み、卒業論文のテーマを設定する。卒業論文の目的を明確にし、研究デザインの発表を行った後、データの収集を行う。受講学生が主体性を持って自分の研究課題に取り組むことを主なねらいとしている。	メッセージ 自分の興味・関心のある事象を、心理学的な視点でとらえること、そして、心理学的手法で検証することを、たえず意識してほしい。
	到達目標 卒業論文のテーマを確定する。 テーマにふさわしい心理学的研究方法を明確にする。 方法が定まれば、心理学的な実験・調査・観察・面接等でのデータ収集準備を行う。	

学 び の 実 践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・授業概要説明	
	2	卒業論文研究構想発表①	発表準備・研究構想へのコメント
	3	卒業論文研究構想発表②	発表準備・研究構想へのコメント
	4	卒業論文研究構想発表③	発表準備・研究構想へのコメント
	5	卒業論文研究構想発表④	発表準備・研究構想へのコメント
	6	卒業論文研究の準備①	研究のための諸活動
	7	卒業論文研究の準備②	研究のための諸活動
	8	卒業論文研究の準備③	研究のための諸活動
9	卒業論文研究の準備④	研究のための諸活動	
10	卒業論文研究の準備⑤	研究のための諸活動	
11	卒業論文研究計画発表①	発表準備・研究計画へのコメント	
12	卒業論文研究計画発表②	発表準備・研究計画へのコメント	
13	卒業論文研究の準備⑥	研究のための諸活動	
14	卒業論文研究の準備⑦	研究のための諸活動	
15	卒業論文研究の準備⑧	研究のための諸活動	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など 個別に助言・提示する。 参考文献 松井豊（著）2010「改訂新版 心理学論文の書き方」河出書房新社		
	学びの手立て 自ら学び、自分を成長させようという意欲と態度を持ち続けること。 他の学生とのディスカッションに積極的に参加すること。		
	評価 論文作成に向けたデザイン発表（①卒論構想発表、②オンラインでの研究計画発表、対面ゼミでの研究計画発表）への参加と内容（60%）、ディスカッションの内容（20%）、最終版の研究計画書（20%）を総合的に評価する。		

学び の 継 続	次のステージ・関連科目 前年度の「心理学専門演習ⅠA」・「心理学専門演習ⅠB」に引き続いて履修し、後期科目「心理学専門演習ⅡB」に続く科目である。
-------------------	--

※ポリシーとの関連性

実験、調査などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明できる力を示す。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡB	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	4年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 卒業論文作成を通して、これまでに学んだ心理学的現象を論理的に考え説明できる力の集大成とする。	メッセージ 【実務経験】これまでの臨床心理士としての経験をもとに、データから臨床的に意義のある（実際に役立つ）解釈ができるように指導します。12月初旬にはデータ分析を終わり、後半には考察に取り組めるように進めること。
	到達目標 卒論を完成させ、卒論発表会で発表する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒論進捗状況（データ分析）発表①	データの整理
	2	卒論進捗状況（データ分析）発表②	データの整理
	3	卒論進捗状況（データ分析）発表③	データの整理
	4	卒論進捗状況（データ分析）発表④	データの整理
	5	卒論進捗状況（データ分析）発表⑤	データ分析
	6	卒論進捗状況（データ分析）発表⑥	データ分析
	7	卒論進捗状況（データ分析）発表⑦	データ分析
	8	卒論進捗状況（データ分析）発表⑧	データ分析
9	卒論進捗状況（考察）発表①	研究の記述	
10	卒論進捗状況（考察）発表②	研究の記述	
11	卒論進捗状況（考察）発表③	研究の記述	
12	卒論進捗状況（考察）発表⑤	研究の記述	
13	卒論進捗状況（考察）発表⑥	卒論提出	
14	卒論発表会 予演 ①	発表準備	
15	卒論発表会 予演 ②	発表準備	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 日本心理学会編 『心理学研究』執筆・投稿の手引き 改訂版		
	学びの手立て 各種の統計分析方法に慣れること。考察のためにさらに文献にあたる必要がある。		
	評価 論文作成過程での取り組み・・・50%、提出された論文の内容・・・50% から評価する。。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文発表会での発表、卒論抄録集の作成
-------	-------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡB	後期	月2	2
	担当者 前堂 志乃	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		4年	研究室：5-431 e-mail：mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講は、卒業研究/活動実践を行い、卒業論文/報告書にまとめることを目的とする。卒論研究は構想発表を踏まえ卒業論文のテーマを設定、関連文献のレビュー、研究デザインの策定、研究デザインに従った適正な研究手続きによる実験・調査、データ収集・分析を行い、卒業論文を執筆し卒論発表を行う。活動実践は活動計画に従い活動実践を継続・発展させ、報告書にまとめ発表を行う。</p> <p>到達目標</p> <p>①人間のこころや行動に関する疑問や関心を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる</p> <p>②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力が身につけている。心理学の知識や技法を社会生活に応用する実践力が身につけている。</p> <p>③現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察し、人とのつながりの中で実践的に問題解決していくための研究力と態度が身につけている。心理学の知識や技法を応用して社会貢献できる実践力（社会人基礎力）と態度が身につけている。</p>	<p>4年間心理学を専門的に学んできた集大成としての卒論研究/実践活動です。卒論研究を行うことで人々に役立つ新しい知識を発見・発信することができ、実践活動で心理学の知識や技法を応用することで社会貢献ができます。卒論研究/実践活動の基本は自分次第ですが、ゼミ仲間、後輩、教員との協働も不可欠です。共に研究/実践を楽しみ、研究力/実践力を高め、成長していきましょう。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	初回オリエンテーション/前期の活動の振り返り	後期の研究活動の計画を立てる
	2	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・整理/卒論アウトライン作成）/実践活動	卒論研究諸活動/実践活動
	3	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・整理/卒論アウトライン作成）/実践活動	卒論研究諸活動/実践活動
	4	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・整理/卒論の執筆）/実践活動	卒論研究諸活動/実践活動
	5	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・整理/卒論の執筆）/実践活動	卒論研究諸活動/実践活動
	6	卒論研究の実施（データ整理・データ解析/解析結果の表現/卒論の執筆）/実践活動	卒論研究諸活動/実践活動
	7	卒論研究の実施（データ整理・データ解析/解析結果の表現/卒論の執筆）/実践活動	卒論研究諸活動/実践活動
	8	卒論研究の実施（データ解析/解析結果の表現/卒論の執筆）/実践活動（報告書まとめ準備）	卒論研究諸活動/実践活動
	9	卒論研究の実施（データ解析/解析結果の表現/卒論の執筆）/実践活動（報告書まとめ準備）	卒論研究諸活動/実践活動
	10	卒論研究の実施（データ解析/解析結果の表現/卒論の執筆）/実践活動（報告書まとめ準備）	卒論研究諸活動/実践活動
	11	卒論研究の実施（データ解析/解析結果の表現/卒論の執筆）/実践活動（報告書まとめ準備）	卒論研究諸活動/実践活動
	12	卒論研究の実施（結果の読み取り・考察/引用文献/卒論執筆）/実践活動・報告書まとめ	卒論研究諸活動/実践活動
	13	卒論研究の実施（結果の読み取り・考察/引用文献/卒論執筆）/実践活動・報告書まとめ	卒論研究諸活動/実践活動
	14	卒論研究の実施（結果の読み取り・考察/引用文献/卒論完成・提出）/実践活動報告書まとめ	発表会のための準備
15	卒論研究の実施（発表会の準備・予演/卒論の加筆・修正）/報告書提出・発表準備・予演	発表会のための準備	
16	予備日（発表会（2月）/抄録集原稿提出）	卒業論文/報告書最終提出準備	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しないが下記の参考図書を常に参照するとよい</p> <p>①都筑 学(2008). 心理学論文の書き方ーおいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 有斐閣</p> <p>②松井 豊(2010). 改訂新版 心理学論文の書き方ー卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1 (実験法)、Vol.2 (質問紙法)、Vol.3 (観察・面接法) ナカニシヤ出版</p> <p>④小宮あすか・布井雅人(2018).Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける 講談社</p> <p>⑤その他の参考図書や文献などは、授業の中で適宜紹介する</p>
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミは、毎時の発表（研究活動の進捗状況報告、実践活動の経過報告、履修・進路状況の報告、年間計画のリ・スケジュールなど）と活動に関する質疑応答・対話、個別指導・助言を組み合わせる。 ・卒論研究や実践活動はゼミの時間だけでは進まない。課外時間における自発的・積極的な活動が重要になる。 ・研究や実践を進める過程では多くの疑問や課題に直面する。自分一人で抱え込まず、教員への相談、院生への質問、ゼミ仲間・同期との語り合いなど、さまざまな対話の中で自分の考えを整理し明確にしていくとよい。
--------	---

評価	<p>到達目標①と②：卒業論文発表、卒業論文（ゼミ論）、抄録、実践活動報告書などの内容（研究/実践の成果）を評価する（70%）</p> <p>到達目標③：ゼミへの参加・貢献度（積極的な発表・質問、ゼミメンバーの発表への建設的質問・コメント）、卒論研究/実践活動の活動全般への自発的・積極的な取り組み、ゼミメンバーとの研究協働などを評価（30%）</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学研究法ⅠⅡ、心理統計学基礎、心理学統計法ⅠⅡ、心理学基礎演習AB、心理学実験AB、心理学専門演習ⅠAB・ⅡA、心理プロジェクト演習ⅠAB・ⅡA、その他、心理専門科目と共通科目。次のステージ：卒論研究を通して身につけた心理学的視点と研究力、実践活動を通して身につけた心理学の知識と技法の応用力と実践力を、社会人基礎力の核として、仕事、家庭、社会活動、人生において自信を持って実践しよう。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡB	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	4年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>これまで心理学を学んできた集大成として、興味・関心のあるテーマを設定し、研究目的を設定し、新しい知見・発見を得るために研究計画を立て、論文としてまとめ、発表する。心理学の視点から、人間のこころや行動について、科学的に、多面的に、深く、考察する力を養う。</p>	<p>いよいよ卒業論文をまとめることとなります。自分の研究テーマを設定し、それを明らかにするためにこれまで学んできた知識・技術を総動員し、問題解決をしていきます。卒業論文作成のプロセスは、皆さんの社会人基礎力を高め、人間的にも成長していくことになるでしょう。仲間、教員と協力し、4年間の集大成を完成させましょう。</p>

学びの準備	到達目標
	<ol style="list-style-type: none"> 1、自分の卒業論文について、自分の言葉で相手に伝わるように分かりやすく発表できる。 2、発表に対する質疑に対して明確に応えることができる。 3、卒論作成を通して高めてきた社会人基礎力をキャリア形成に活かせる 4、卒論作成を通して高めてきた心理学的現象を論理的に考え説明できる力を社会生活に応用できる。

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>授業外で卒論の進行状況をレジメにまとめる。 授業内では、レジメに沿って進行状況を報告する。 報告の日程はゼミ内で調整・割り当てる。 授業内では、それぞれの報告に対して、他の受講生・教員から助言、コメントを行い、研究について相互に検討し、次回の報告までに解決すべき課題を明らかにする。</p> <p>2020年度後期は基本的に全て対面授業で行う。 *ただし、大学の講義開講形式の方針によって特例授業に切り替えることもある。</p> <table border="0"> <tr> <td>4月～5月中旬</td> <td>先行研究・文献の精読と研究デザインの検討</td> </tr> <tr> <td>6月末</td> <td>問題と目的・方法の検討</td> </tr> <tr> <td>7月～11月上旬</td> <td>予備調査とデータ収集</td> </tr> <tr> <td>11月中旬</td> <td>中間発表会（途中経過の報告、データ整理と統計的分析の検討）</td> </tr> <tr> <td>11月下旬～12月上旬</td> <td>まとめの作業</td> </tr> <tr> <td>12月中旬</td> <td>卒業論文提出</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>発表準備（ポスター資料制作、発表練習）</td> </tr> <tr> <td>2月中旬</td> <td>卒業論文発表会</td> </tr> </table>	4月～5月中旬	先行研究・文献の精読と研究デザインの検討	6月末	問題と目的・方法の検討	7月～11月上旬	予備調査とデータ収集	11月中旬	中間発表会（途中経過の報告、データ整理と統計的分析の検討）	11月下旬～12月上旬	まとめの作業	12月中旬	卒業論文提出	1月	発表準備（ポスター資料制作、発表練習）	2月中旬	卒業論文発表会
	4月～5月中旬	先行研究・文献の精読と研究デザインの検討															
6月末	問題と目的・方法の検討																
7月～11月上旬	予備調査とデータ収集																
11月中旬	中間発表会（途中経過の報告、データ整理と統計的分析の検討）																
11月下旬～12月上旬	まとめの作業																
12月中旬	卒業論文提出																
1月	発表準備（ポスター資料制作、発表練習）																
2月中旬	卒業論文発表会																

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習Vol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）ナカニシヤ出版 松井豊 心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために― 河出書房新社 適宜紹介する。</p>
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>卒論はゼミの時間内だけでは作成できない。時間外の学習が不可欠である。ゼミで指定される自分の発表日までは、しっかりと準備を進めて確実に発表できるようにする。 ゼミの時間での指導だけでは不明な点、解決できない点があれば個別の指導も行うので、積極的に利用すること。また、卒論は、一人だけでは作成は不可能。ゼミメンバーで、ディスカッションし、情報を交換し、様々な視点から論文を検討しなければならない。ゼミ生同士、協働して卒論を進めてほしい。</p>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>研究計画書などの卒業論文の途中経過を評価する（60%） ゼミへの参加態度・研究への取り組み態度・ゼミへの貢献度（他ゼミメンバーの研究報告に対する質問、意見、助言、協力姿勢）（40%）</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒論制作を通して社会人基礎力が育ち、人間的にも成長できる。卒論作成のプロセスを通して見えてくる自分の長所・短所に目を向けて、キャリア形成に活かしていく。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 本専攻のカリキュラム・ポリシー「心理学的現象を論理的に考え説明できる力身につけるための実証的研究法を学ぶ」専門演習。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡB	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子	4年	5号館424-2研究室 h.imura@okiu.ac.jp (@は小文字に直す)	

学びの準備	ねらい 前期で作成した卒業論文の研究デザインに沿って、データを収集し、得られたデータの分析と整理を行い、卒業論文を執筆する。その後、卒業論文発表会に向けて、ポスターや論文抄録を作成し、最終発表を行う。受講学生が主体性を持って、自分の研究課題に取り組むことを主なねらいとしている。	メッセージ 自分の興味・関心のある事象を、心理学的な視点でとらえること、そして、心理学的手法で検証することを、たえず意識してほしい。
	到達目標 卒業論文デザインに沿って、実験・調査・観察・面接等の手法で、データを収集する。収集したデータを、心理学的な方法で分析・考察し、論文を作成する。作成した論文をわかりやすくまとめ、最終発表を行う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒業論文研究の実施①（データ収集・データ整理）	研究のための諸活動
	2	卒業論文研究の実施②（データ収集・データ整理）	研究のための諸活動
	3	卒業論文研究の実施③（データ収集・データ整理）	研究のための諸活動
	4	卒業論文研究の経過報告発表①	報告発表準備
	5	卒業論文研究の経過報告発表②	報告発表準備
	6	卒業論文研究の実施④（データ入力・データ分析）	研究のための諸活動
	7	卒業論文研究の実施⑤（データ入力・データ分析）	研究のための諸活動
	8	卒業論文研究の実施⑥（データ入力・データ分析）	研究のための諸活動
9	卒業論文研究の経過報告発表③	報告発表準備	
10	卒業論文研究の経過報告発表④	報告発表準備	
11	卒業論文研究の実施⑦（分析結果のまとめ・考察・卒業論文の執筆）	研究のための諸活動・卒論執筆	
12	卒業論文研究の実施⑧（分析結果のまとめ・考察・卒業論文の執筆）	研究のための諸活動・卒論執筆	
13	卒業論文研究の実施⑨（卒業論文の執筆）	卒業論文執筆	
14	卒業論文研究の実施⑩（卒業論文の執筆・卒業論文提出）	卒業論文執筆・提出	
15	卒業論文発表会準備（発表資料作成・予行演習）	卒業論文発表会準備	
16	卒業論文発表会	卒業論文抄録集原稿作成・提出	
実践	テキスト・参考文献・資料など 個別に助言・提示する。 参考文献 松井豊（著）2010「改訂新版 心理学論文の書き方」河出書房新社		
	学びの手立て 自ら学び、自分を成長させようという意欲と態度を持ち続けてほしい。 他の学生とのディスカッションに積極的に参加してほしい。		
	評価 授業参加態度（ゼミ内での研究報告発表・ゼミメンバーの研究へのコメント等）が50%、卒業論文研究への取り組みが50%であり、総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 前期開講の「心理学専門演習ⅡA」に引き続き履修する科目である。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学的支援法	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-赤嶺 遼太郎	3年	大学用のメールアドレスへ連絡、必要があればメール以外の連絡手段を検討します。	

学びの準備	ねらい 公認心理師に必要な心理学的支援法について体系的な知識を身につけることを目的とします。 体系的な知識を持っていることが専門的活動の前提条件と考えて下さい。	メッセージ 臨床心理学も心理学全般も（あるいはすべての学問や実践は）日進月歩で発展しています。 支援の原理原則を理解しながら、新しい視点や既知の別の視点を取り入れる柔軟性とのバランス感覚を、私も皆さんと一緒に研鑽していきたいと思っています。 各階の講義テーマは予告なく変更される場合があります。
	到達目標 心理学的支援法について知識を身に付け、他者に説明できることが目標で、評価の対象になります。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスを読むこと
	2	心理学的支援とは	課題
	3	代表的心理療法1 心理力動論	課題
	4	代表的心理療法2 行動論	課題
	5	代表的心理療法2 システム論	課題
	6	心理学的支援における価値と倫理	課題
	7	援助的コミュニケーション	課題
	8	支援の技術1	課題
9	支援の技術2	課題	
10	支援の技術3	課題	
11	遊戯療法	課題	
12	集団療法	課題	
13	心理コンサルテーション	課題	
14	コミュニティ支援	課題	
15	心の健康教育	課題	
16	テスト		
	テキスト・参考文献・資料など 杉原保史ら（2019）公認心理師標準テキスト 心理学的支援法 北大路書房（2970円） 斎藤清二（2018）総合臨床心理学原論：サイエンスとアートの融合のために 北大路書房（2420円） 基本的には上記の2冊を参考図書として内容を構成します。その他の資料は適宜紹介します。		
	学びの手立て 基本的に大学の規則に従って対応しますので、各自大学の規則を把握しておいて下さい。 内容の変更などあれば適宜連絡します。 受講者がシラバスに事前に目を通して、予習復習をしている前提で講義を進めます。ご協力をお願いします。 効率的に学習を進めるためにICTを活用できる場所は取り入れていきたいと思っておりますが、受講者と相談しながら工夫したいと思います。ただし、大学が提供している基本的なICTツール（Moodleや学内メールなど）は受講者みなさんが使える前提で考えています。		
	評価 講義の内容に関して、体系的な知識を身に着けたかどうか期末のテストで評価します。テストには論述を含みます。 評価配点 期末テスト100%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 臨床心理学系専門科目
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学統計法 I	前期	土 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-遠藤 光男	3年	授業終了後に課題レポート内で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、統計に関する基礎的な知識と、心理学で用いられる統計的分析法を習得し、データの読み取りや、心理学論文等での報告されている解析結果の読み取りができるようにすること、そして、データに合わせて適切な統計解析が自ら実施できるようにすることが目標です。心理統計学 I においては、記述統計と推計学の中の t 検定と分散分析法について理解と修得を目標とします。</p> <p>到達目標 1. 統計学の基礎を理解している。2. 心理学で用いられる統計手法を理解し、データの読み取りや解析結果の読み取りができる。3. 研究方法に合わせた適切なデータの解析法を選択し、実際に解析法を行い、結果の解釈や考察ができる。</p>	<p>授業は前日に資料と課題の配布、授業時間にZoomにて資料の説明と質疑、課題の提出、課題の返却という形で進んでいきます。期限内の課題提出を持って出席とみなします。ただし、未完成のまま提出したものなどは未提出と判定することもあります。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション, 統計学に必要な数学的知識, 尺度の種類	次回講義内容の予習
	2	記述統計 (度数分布, 代表値, 散布度, 正規分布) (1)	講義内容の復習と課題提出
	3	記述統計 (度数分布, 代表値, 散布度, 正規分布) (2)	同上
	4	記述統計 (散布図, 相関係数)	同上
	5	記述統計 (クロス集計表, 連関係数), 測定の信頼性, 妥当性	同上
	6	統計的検定の基本的考え (母数推定, 仮説検定)	同上
	7	統計的検定の基本的考え (効果量, 信頼区間, 検定力)	同上
8	2つの平均値の差の検定 (t検定) (1)	同上	
9	2つの平均値の差の検定 (t検定) (2)	同上	
10	3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (1)	同上	
11	3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (2)	同上	
12	3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (3)	同上	
13	3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (4)	同上	
14	3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (5)	同上	
15	全講義内容のまとめと復習	全学習内容の復習, 学期末試験準備	
16	学期末試験	講義内容の修得について確認	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	毎回授業前日に資料と課題を配付します。課題は期限内に提出して下さい。		
	学びの手立て		
	資料を熟読し、例題等を実際に行ってから課題に取り組んで下さい。毎回新しい内容が付け加わりますので、前の授業を理解してないとその後の授業内容が理解できなくなります。復習を繰り返しながら一つ一つ着実に身につけていって下さい。		
	評価		
	毎回の課題をクリアして、最終試験に合格すること (6割以上) が単位認定の基準になります。評価は、平常点 (授業への取り組み態度, 課題の提出状況等) が70%, 期末試験30%として行います。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	心理統計学 II も履修することで、代表的心理統計法を一通り学ぶことができます。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学統計法 I	前期	土 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-遠藤 光男	3年	授業終了後に課題レポート内で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、統計に関する基礎的な知識と、心理学で用いられる統計的分析法を習得し、データの読み取りや、心理学論文等での報告されている解析結果の読み取りができるようにすること、そして、データに合わせて適切な統計解析が自ら実施できるようにすることが目標です。心理統計学 I においては、記述統計と推計学の中の t 検定と分散分析法について理解と習得を目標とします。</p> <p>到達目標 1. 統計学の基礎を理解している。2. 心理学で用いられる統計手法を理解し、データの読み取りや解析結果の読み取りができる。3. 研究方法に合わせた適切なデータの解析法を選択し、実際に解析法を行い、結果の解釈や考察ができる。</p>	<p>授業は基本的に対面授業になります。授業終了後に毎回課題の提出を行ってまいります。授業への出席と期限内の課題提出をもって出席とみなします。ただし、未完成のまま提出したものなどは未提出と判定することもあります。</p>

学びの実践	学びのヒント																																																				
	授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション, 統計学に必要な数学的知識, 尺度の種類</td><td>次回講義内容の予習</td></tr> <tr><td>2</td><td>記述統計 (度数分布, 代表値, 散布度, 正規分布) (1)</td><td>講義内容の復習と課題提出</td></tr> <tr><td>3</td><td>記述統計 (度数分布, 代表値, 散布度, 正規分布) (2)</td><td>同上</td></tr> <tr><td>4</td><td>記述統計 (散布図, 相関係数)</td><td>同上</td></tr> <tr><td>5</td><td>記述統計 (クロス集計表, 連関係数), 測定の信頼性, 妥当性</td><td>同上</td></tr> <tr><td>6</td><td>統計的検定の基本的考え (母数推定, 仮説検定)</td><td>同上</td></tr> <tr><td>7</td><td>統計的検定の基本的考え (効果量, 信頼区間, 検定力)</td><td>同上</td></tr> <tr><td>8</td><td>2つの平均値の差の検定 (t検定) (1)</td><td>同上</td></tr> <tr><td>9</td><td>2つの平均値の差の検定 (t検定) (2)</td><td>同上</td></tr> <tr><td>10</td><td>3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (1)</td><td>同上</td></tr> <tr><td>11</td><td>3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (2)</td><td>同上</td></tr> <tr><td>12</td><td>3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (3)</td><td>同上</td></tr> <tr><td>13</td><td>3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (4)</td><td>同上</td></tr> <tr><td>14</td><td>3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (5)</td><td>同上</td></tr> <tr><td>15</td><td>全講義内容のまとめと復習</td><td>全学習内容の復習, 学期末試験準備</td></tr> <tr><td>16</td><td>学期末試験</td><td>講義内容の修得について確認</td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	オリエンテーション, 統計学に必要な数学的知識, 尺度の種類	次回講義内容の予習	2	記述統計 (度数分布, 代表値, 散布度, 正規分布) (1)	講義内容の復習と課題提出	3	記述統計 (度数分布, 代表値, 散布度, 正規分布) (2)	同上	4	記述統計 (散布図, 相関係数)	同上	5	記述統計 (クロス集計表, 連関係数), 測定の信頼性, 妥当性	同上	6	統計的検定の基本的考え (母数推定, 仮説検定)	同上	7	統計的検定の基本的考え (効果量, 信頼区間, 検定力)	同上	8	2つの平均値の差の検定 (t検定) (1)	同上	9	2つの平均値の差の検定 (t検定) (2)	同上	10	3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (1)	同上	11	3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (2)	同上	12	3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (3)	同上	13	3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (4)	同上	14	3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (5)	同上	15	全講義内容のまとめと復習	全学習内容の復習, 学期末試験準備	16	学期末試験	講義内容の修得について確認	
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1	オリエンテーション, 統計学に必要な数学的知識, 尺度の種類	次回講義内容の予習																																																			
2	記述統計 (度数分布, 代表値, 散布度, 正規分布) (1)	講義内容の復習と課題提出																																																			
3	記述統計 (度数分布, 代表値, 散布度, 正規分布) (2)	同上																																																			
4	記述統計 (散布図, 相関係数)	同上																																																			
5	記述統計 (クロス集計表, 連関係数), 測定の信頼性, 妥当性	同上																																																			
6	統計的検定の基本的考え (母数推定, 仮説検定)	同上																																																			
7	統計的検定の基本的考え (効果量, 信頼区間, 検定力)	同上																																																			
8	2つの平均値の差の検定 (t検定) (1)	同上																																																			
9	2つの平均値の差の検定 (t検定) (2)	同上																																																			
10	3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (1)	同上																																																			
11	3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (2)	同上																																																			
12	3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (3)	同上																																																			
13	3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (4)	同上																																																			
14	3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (5)	同上																																																			
15	全講義内容のまとめと復習	全学習内容の復習, 学期末試験準備																																																			
16	学期末試験	講義内容の修得について確認																																																			
	テキスト・参考文献・資料など																																																				
	毎回、資料と課題を配付します。課題は期限内に提出して下さい。																																																				
	学びの手立て																																																				
	資料を熟読し、例題等を実際に行ってから課題に取り組んで下さい。毎回新しい内容が付け加わりますので、前の授業を理解してないとその後の授業内容が理解できなくなります。復習を繰り返しながら一つ一つ着実に身につけていって下さい。																																																				
	評価																																																				
	毎回の課題をクリアして、最終試験に合格すること (6割以上) が単位認定の基準になります。最終試験は対面で、ノート・資料持ち込みなしで行う予定です。評価は、平常点 (授業への取り組み態度, 課題の提出状況等) が30%, 期末試験70%として行います。																																																				

学びの継続	次のステージ・関連科目
	心理統計学 II も履修することで、代表的心理統計法を一通り学ぶことができます。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学統計法Ⅱ	後期	土1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-遠藤 光男	3年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、統計に関する基礎的な知識と、心理学で用いられる統計的分析法を習得し、データの読み取りや、心理学論文等での報告されている解析結果の読み取りができるようにすること、そして、データに合わせて適切な統計解析が自ら実施できるようにすることが目標です。心理統計学Ⅱにおいては、比の差の検定や、重回帰分析や因子分析など多変量解析等について理解と修得を目標とします。</p>	<p>授業は基本的に対面授業になります。授業終了後に毎回課題の提出を行ってまいります。授業への出席と期限内の課題提出をもって出席とみなします。ただし、未完成のまま提出したものなどは未提出と判定することもあります。</p>
到達目標	<p>1. 統計学の基礎を理解している。2. 心理学で用いられる統計手法を理解し、データの読み取りや解析結果の読み取りができる。3. 研究方法に合わせた適切なデータの解析法を選択し、実際に解析法を行い、結果の解釈や考察ができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション, 心理統計学Ⅰの復習	次回講義内容の予習
	2	比の差の検定 (χ^2 検定等) (1)	講義内容の復習と課題提出
	3	比の差の検定 (χ^2 検定等) (2)	同上
	4	回帰分析 (1) 単回帰分析	同上
	5	回帰分析 (2) 重回帰分析	同上
	6	回帰分析 (3) 重回帰分析	同上
	7	多変量解析の概要	同上
8	因子分析 (1)	同上	
9	因子分析 (2)	同上	
10	因子分析 (3)	同上	
11	クラスター分析	同上	
12	パス解析, 共分散構造分析	同上	
13	その他の統計的分析法 (1)	同上	
14	その他の統計的分析法 (2)	同上	
15	全講義内容のまとめと復習	全学習内容の復習, 学期末試験準備	
16	学期末試験	講義内容の修得について確認	
学びの手立て	<p>テキスト・参考文献・資料など 毎回、資料と課題を配付します。課題は期限内に提出して下さい。</p>		
評価	<p>資料を熟読し、例題等を実際に行ってから課題に取り組んで下さい。毎回新しい内容が付け加わりますので、前の授業を理解しないとその後の授業内容が理解できなくなります。復習を繰り返しながら一つ一つ着実に身につけていって下さい。</p> <p>毎回の課題をクリアして、最終試験に合格すること (6割以上) が単位認定の基準になります。最終試験は対面でノート・資料持ち込みなしで行う予定です。評価は、平常点 (授業への取り組み態度, 課題の提出状況等) が30%, 期末試験70%として行います。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 ここで学んだ統計的分析法を卒業論文等に活かして下さい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学統計法Ⅱ	後期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-遠藤 光男	3年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、統計に関する基礎的な知識と、心理学で用いられる統計的分析法を習得し、データの読み取りや、心理学論文等での報告されている解析結果の読み取りができるようにすること、そして、データに合わせて適切な統計解析が自ら実施できるようにすることが目標です。心理統計学Ⅱにおいては、比の差の検定や、重回帰分析や因子分析など多変量解析等について理解と修得を目標とします。</p>	<p>授業は基本的に対面授業になります。授業終了後に毎回課題の提出を行ってまいります。授業への出席と期限内の課題提出を持って出席とみなします。ただし、未完成のまま提出したものなどは未提出と判定することもあります。</p>
到達目標	<p>1. 統計学の基礎を理解している。2. 心理学で用いられる統計手法を理解し、データの読み取りや解析結果の読み取りができる。3. 研究方法に合わせた適切なデータの解析法を選択し、実際に解析法を行い、結果の解釈や考察ができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション, 心理統計学Ⅰの復習	次回講義内容の予習
2	比の差の検定 (χ^2 検定等) (1)	講義内容の復習と課題提出	
3	比の差の検定 (χ^2 検定等) (2)	同上	
4	回帰分析 (1) 単回帰分析	同上	
5	回帰分析 (2) 重回帰分析	同上	
6	回帰分析 (3) 重回帰分析	同上	
7	多変量解析の概要	同上	
8	因子分析 (1)	同上	
9	因子分析 (2)	同上	
10	因子分析 (3)	同上	
11	クラスター分析	同上	
12	パス解析, 共分散構造分析	同上	
13	その他の統計的分析法 (1)	同上	
14	その他の統計的分析法 (2)	同上	
15	全講義内容のまとめと復習	全学習内容の復習, 学期末試験準備	
16	学期末試験	講義内容の修得について確認	
テキスト・参考文献・資料など	<p>毎回、資料と課題を配付します。課題は期限内に提出して下さい。</p>		
学びの手立て	<p>資料を熟読し、例題等を実際に行ってから課題に取り組んで下さい。毎回新しい内容が付け加わりますので、前の授業を理解しないとその後の授業内容が理解できなくなります。復習を繰り返しながら一つ一つ着実に身につけていって下さい。</p>		
評価	<p>毎回の課題をクリアして、最終試験に合格すること (6割以上) が単位認定の基準になります。最終試験は対面でノート・資料持ち込みなしで行う予定です。評価は、平常点 (授業への取り組み態度, 課題の提出状況等) が30%, 期末試験70%として行います。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>ここで学んだ統計的分析法を卒業論文等に活かして下さい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学と心理的支援	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲田 梨沙	1年	ptt861@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ニーズが多様化する現代社会において、心理学的援助技術を取り入れた対人援助を求める機運が高まっている。心理療法やカウンセリング技法をふまえた心理学の理論や基礎を理解し、実際の心理的支援について学ぶことを目的とする。	メッセージ オンライン形式での講義ですが、技法の演習やグループディスカッションなど、体験的学習も取り入れる予定です。受講生同士の感想や意見交換もありますので積極的な参加を期待します。
	到達目標 この科目を履修することによって、人の心のはたらきを理解し、成長や回復を期待しつつ働きかけることの意義について理解ができる。また、学んだことを活かして自己を見つめ、多様なニーズに応じた対人援助方法を考える力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 心理学とは	履修登録を確実に済ませる
	2	(特) 障害者差別解消法と合理的配慮	振り返りシート記入・提出
	3	(特) 学童期までの発達理論	振り返りシート記入・提出
	4	(特) 青年期から老年期までの発達理論	振り返りシート記入・提出
	5	(特) さまざまな学習理論	振り返りシート記入・提出
	6	(特) 知能理論と知能検査	振り返りシート記入・提出
	7	(特) 記憶と忘却	振り返りシート記入・提出
	8	(特) 欲求と動機づけ	振り返りシート記入・提出
9	(特) 適応とストレス	振り返りシート記入・提出	
10	(特) 心理アセスメント・心理検査	振り返りシート記入・提出	
11	(特) 心理療法①精神分析	振り返りシート記入・提出	
12	(特) 心理療法②行動療法・認知行動療法	振り返りシート記入・提出	
13	(特) 心理療法③来談者中心療法	振り返りシート記入・提出	
14	(特) 心理療法④さまざまな心理療法	振り返りシート記入・提出	
15	(特) まとめ	振り返りシート記入・提出	
16	(特) 期末考査	なし	
	テキスト・参考文献・資料など 教科書：特に指定せず。講義前に資料を送信します。 参考書：必要に応じて講義内で紹介する。 ：新・社会福祉士養成講座2 心理学理論と心理的支援—心理学 第3版 社会福祉士養成講座編集委員会編集 2015		
	学びの手立て ①履修の心構え 意見・感想の発表や、グループディスカッションでは積極的な参加を望む。 ②学びを深めるために 講義内での体験を振り返り、自身が感じたことや疑問に思ったことなどを振り返りシートに記入し、毎回提出することで、自己をみつめる。		
	評価 各成績評価について、評価の割合（全体を100%）を示す。 ①授業への参加度・毎回の振り返りシート内容（70%）②期末考査（30%） 評価方法については、講義初日に詳細に説明する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 心理学理論が実際に応用されている対人援助場面に関心を持ち、ニーズに応じた対人援助方法を考える機会を積極的に持つ。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学特講B	集中		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-池田 浩	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て

学びの継続	評価
	次のステージ・関連科目

学びの継続	
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学特講C	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-鮫島 智行	2年	ptt1175@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>解説と演習によってビジネスの現場で必要とされる基礎力のうち、「読み・書き・そろばん」を中心とした力を養う。これにより、専門分野の学習や就職活動を効果的に進め、社会へ出てからも活躍できる基礎的な能力を身に付ける。</p> <p>到達目標</p> <p>①読む力の基礎を身に付ける ②書く力の基礎を身に付ける ③数理的な思考力の基礎を身に付ける ④3つの力を総合し、専門分野の学習やキャリア形成に役立てられるようになる</p>	<p>授業や専門書の理解、レポート作成に苦労している。就職試験対策で過去問を見たら難しく、茫然としている。そのような人は、専門性や就職試験で求められる内容の前に、基礎力不足でつまづいている可能性がある。早いうちに初歩から丁寧に積み上げる必要があります。基礎力は、身に付ければ一生ものです。思い当たる人は、ぜひ受講してください。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対) 特性と能力 (勉学・就職・仕事との関係、特性・能力チェック、能力を伸ばすには?)	リフレクションシート
	2	(特) 読む力① (どうすれば読めるのか? 語彙力の重要性)	演習の復習
	3	(特) 読む力② (仕事における文書の色々、言葉の意味と使い分け)	演習の復習
	4	(特) 読む力③ (指示語、かかり言葉)	演習の復習
	5	(特) 読む力④ (キーワードの抽出)	演習の復習
	6	(特) 読む力⑤ (大意のつかみ方)	課題提出
	7	(対) 書く力① (ビジネス文書のポイント、簡潔な表現)	演習の復習
	8	(特) 書く力② (正確な文章のポイント、要約文の作成法)	演習の復習
	9	(特) 書く力③ (短文作成)	演習の復習
	10	(特) 書く力④ (文章の構成と執筆)	課題提出
	11	(対) 数理的な思考力① (ビジネスと仕事と数字、基本的な計算法)	演習の復習
	12	(特) 数理的な思考力② (ビジネス現場の計算)	演習の復習
	13	(特) 数理的な思考力③ (データの見方、結果の解釈)	演習の復習
14	(特) 数理的な思考力④ (確率と期待値、統計の基礎)	課題提出	
15	(特) 総合的な基礎力 (読み・書き・そろばんの組み合わせ、活かし方)	最終レポート提出	
16	予備日		
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しない。毎回の配布資料を保管すること。</p> <p>※全15回を対面授業で行う予定。ただし、コロナの状況などにより、遠隔授業に変更する可能性もあります。</p>		
	<p>学びの手立て</p> <p>初回に特性や能力のセルフチェックを行い、今後の勉学・就職・仕事に向けて意識して伸ばすべき要素や、カバーすべき弱点を把握します。その結果を踏まえて、第2回から読む力、書く力、数理的な思考力の順に学びます。それぞれ解説だけでなくドリル式の小演習を交え、実感と習得に重点を置きます。毎回、リフレクションシートに相当する書式に必要事項を入力し、受講確認をします。学期中に3回、演習問題などに取り組み、習得の状況を確認します。学期末には、学んできた「読み・書き・そろばん」のノウハウを総動員した小レポートを提出してもらいます。「受ける授業」ではなく、「やる授業」として臨んでください。学習内容を他の授業や研究、課外活動やプライベートに活用すればさらに理解が深まり、身につけた力が定着するはずで。</p>		
	<p>評価</p> <p>平常点 (演習参加の態度、リフレクションシート) …30点 課題提出3回…30点 最終レポート…40点</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：インターンシップ、心理ボランティア演習、その他の共通・専門科目</p> <p>次のステージ：身に付けた基礎力を、今後の大学での学びや活動と、就職活動につなげていく。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理調査法	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡 明奈	3年	研究室：5号館534 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 調査計画の立案から、質問紙作成、実施、図表の作成、データ解析（記述統計・信頼性分析・因子分析・相関分析・回帰分析・重回帰分析・分散分析等）、結果のまとめと考察、発表までの一連の過程を理解し、卒業論文で実践できる力を身につける。	メッセージ 2年次での質問紙実習での基礎的な学びをふまえて、本講義でさらに深く質問紙法について理解を深めましょう。
	到達目標 ①質問紙の作成と実施ができる。 ②質問紙によって測定したデータの分析方法を理解し、HADを用いて分析できる。 ③質問紙によって測定したデータを図や表でまとめることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	次回授業の予習
	2	質問紙調査の特徴と対象者の抽出方法	授業内容の復習
	3	質問紙の作成方法	授業内容の復習
	4	調査データの基礎的検討	授業内容の復習
	5	調査データの統計解析の基本・心理尺度を構成するための分析	授業内容の復習
	6	調査の信頼性と妥当性についての理解と検討方法	授業内容の復習
	7	質問紙調査計画の立案・調査票の作成・検討	質問紙の作成
	8	調査実施・調査票の回収と調査データの基礎的検討	調査の実施と回収
	9	調査データの解析：記述統計・相関分析・図表の作成	データの図表作成
	10	調査データの解析：因子分析・信頼性分析	データの分析とまとめ
	11	調査データの解析：単回帰分析・重回帰分析	データの分析とまとめ
	12	調査データの解析：一要因分散分析	データの分析とまとめ
	13	調査データの解析：二要因分散分析	データの分析とまとめ
	14	調査結果の読み取りと考察	調査結果のレポート作成
	15	質問紙研究のまとめ	調査結果の発表資料作成
	16	予備日	
	テキスト・参考文献・資料など ・教科書は特に指定せず、毎回配布する資料を中心に講義を進めます。		
	学びの手立て ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、遅刻、途中退出等）は控えてください。 ・授業の後半は、パソコンを用いて統計ソフトHADを用いて分析を行います。また後半は、グループで調査研究のまとめを行います。 ・授業内で課された課題はmoodleを用いて提出していただきます。		
	評価 ・成績は、授業への参加態度（30%）と授業内で課された課題の提出内容（70%）で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・心理学統計法Ⅰ・Ⅱ、心理学専門演習ⅠA・ⅠBを履修することで、より深い理解につながります。 ・本講義で学んだ内容を卒業論文で生かしてください。
-------	--

※ポリシーとの関連性

人間福祉学科心理カウンセリング専攻学生のみが履修できる。心理学の実践力を身につけるための専門科目である。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理的アセスメントⅠ	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲田 梨沙	3年	ptt861@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 心理アセスメントの専門技法である心理検査について概説を行い、代表的な心理検査の理解を深める。また、心理検査実習を通して、専門技法を用いて人を理解しようとするときの心構えや倫理的問題についても体験的に学ぶ。前期はパーソナリティの特徴を把握するための心理検査を中心に実習し、結果の分析、検査所見の書き方について具体的に学ぶ。	メッセージ 実習が中心の科目である。皆出席であることが前提。毎回の課題レポートに加え、最終レポートまで複数の課題レポートが課されるので、全て提出できる意欲のある学生のみ受講すること。
	到達目標 この科目を履修することによって、心理検査の概要及び代表的な心理検査について十分に理解ができ、臨床現場で心理検査を実施し、所見を作成できる心理学的専門的スキルを身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・心理的アセスメントとは	履修登録を確実に済ませる
	2	アセスメント技法の種類と分類（面接法・観察法・検査法）	配布資料の復習
	3	パーソナリティ理解のための心理検査	配布資料の復習
	4	パーソナリティの構造とテストバッテリー	配布資料の復習
	5	心理検査と倫理問題	配布資料の復習
	6	心理検査①（質問紙法 実習・理論的背景・所見のまとめ方）	課題ワーク
	7	心理検査②-1（作業検査法 実施法と実習）	課題ワーク
	8	心理検査②-2（作業検査法 理論的背景）	課題ワーク
	9	心理検査②-3（作業検査法 所見のまとめ方）	課題ワーク
	10	心理検査③-1（投映法その1 実施法と実習）	課題ワーク
	11	心理検査③-2（投映法その1 理論的背景）	課題ワーク
	12	心理検査③-3（投映法その1 所見のまとめ方）	課題ワーク
	13	心理検査④-1（投映法その2 実施法と実習）	課題ワーク
	14	心理検査④-2（投映法その2 理論的背景）	課題ワーク
15	心理検査④-3（投映法その2 所見のまとめ方）	課題ワーク	
16	最終レポート作成・提出	最終レポート作成・提出	
実践	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて資料を配布する。 上里一郎監修 「心理アセスメントハンドブック 第2版」 西村出版 氏原寛 他編 「心理査定実践ハンドブック」 創元社		
	学びの手立て ①履修の心構え 皆出席が前提である。授業時間内に実習を行うので、遅刻厳禁。高度に専門的な科目なので、「臨床心理学Ⅰ」「臨床心理学Ⅱ」を受講済み、あるいは受講中であること。卒業後に心理職を目指す学生は必ず受講すること。 ②学びを深めるために 臨床現場でのボランティア活動等を行うことを奨励する。		
	評価 評価方法 出席状況、提出されたレポート等により総合的に評価する。 割合 平常点(授業の参加度・発表等) 30% 課題レポート50% 最終レポート20% 上記の評価方法については、講義初日に詳細に説明する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 「臨床心理学Ⅰ」「臨床心理学Ⅱ」を受講済み、または受講中であることが望ましい。 次のステージ 「臨床面接法Ⅰ」「心理検査法Ⅱ」を引き続き受講するとよい。
-------	---

※ポリシーとの関連性 人間福祉学科心理カウンセリング専攻学生のみが履修できる。
心理学の実践力を身につけるための専門科目である。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理的アセスメントⅡ	後期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲田 梨沙	3年	ptt861@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	心理アセスメントの専門技法である代表的な心理検査の理解を深める。また、心理検査実習を通して、専門技法を用いて人を理解しようとするときの心構えや倫理的問題についても体験的に学ぶ。人間の認知的な特徴を把握するための知能検査を中心に実習し、結果の分析、検査所見のまとめ方について具体的に学ぶ。	実習が中心の講義である。実際に心理検査を子どもに施行できるようになるために、事前に心構え、知識、技術を学ぶ。臨床現場で心理検査がどのように用いられているか、導入からフィードバック、検査の活用についても学ぶ。
到達目標	この科目を履修することによって、知能検査の基礎知識、倫理的心構えについて十分に理解ができ、臨床現場で知能検査を実施することができる。またそのデータを読み取り、所見作成できる心理学的専門的スキルを身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・心理的アセスメントとは	履修登録を確実に済ませる
	2	知能とは・発達段階を踏まえたアセスメント	配布資料の復習
	3	田中ビネー式知能検査について	配布資料の復習
	4	ウェクスラー式知能検査について	配布資料の復習
	5	新版K式発達検査について	配布資料の復習
	6	知能検査・発達検査のまとめ・実習前試験	試験の振り返り・復習
	7	検査器具の取り扱いと実施	マニュアル熟読・ロールプレイ
	8	ウェクスラー式知能検査の実施方法	マニュアル熟読・ロールプレイ
	9	田中ビネー式知能検査の実施方法	マニュアル熟読・ロールプレイ
	10	知能検査の実際と結果のフィードバック	検査実習
	11	ウェクスラー式知能検査の結果整理	検査実習
	12	ウェクスラー式知能検査の解釈①群指数について	検査実習
	13	ウェクスラー式知能検査の解釈②下位検査について	検査実習
14	ウェクスラー式知能検査の解釈と所見のまとめ方	レポートまとめ (WISC)	
15	田中ビネー式知能検査の解釈と所見のまとめ方	レポートまとめ (田中ビネー)	
16	まとめ	フィードバック資料作成	
	テキスト・参考文献・資料など		
	必要に応じて資料を配布する。 【参考資料】 日本版WISC-IV知能検査 日本文化科学社 エッセンシャルズWISC-IVによる心理アセスメント 日本文化科学社 田中ビネー知能検査Ⅴ 田研出版		
	学びの手立て		
	①高度に専門的な実習をする講義のため、原則遅刻・欠席は認めない。 ②実習の協力者を自分で探し、依頼し、協力を得ることが必要。 ③心理検査を行うということで、協力者やその保護者に何らかの負担を与えることがある。そのことをよく念頭に置き、その状況に即した配慮をすることが求められる。 ④検査実施には、入念な準備が必要なため、予習・復習は不可欠となる。 ⑤実習前のミニレポート提出と、試験に合格しないと実習に進めないものとする。 ⑥すべての実習を体験し、レポートを提出しなければ単位を認めることはできないものとする。 ⑦出席・レポート提出がされていても、レポートの内容が基準を満たさない場合単位を認めないものとする。		
	評価		
	①検査所見レポート (WISC-IV) 35% ②検査所見レポート (田中ビネー) 35% ③実習前試験・課題・振り返りレポート 30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「臨床心理学Ⅰ」「臨床心理学Ⅱ」「発達心理学」「心理検査法Ⅰ」を受講済みであることが望ましい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理統計学基礎	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡 明奈	1年	研究室：5号館534 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	心理学研究において必要不可欠である、心理学統計の基礎を学ぶ講義です。心理学基礎演習AB、心理学専門演習 I AB、心理学専門演習 II ABの研究活動に繋がる学習スキルの基礎を身に付ける科目でもあります。	心理統計が分かるようになれば、心理学研究の理解も進みます。実際に計算をしたり、図表にまとめたり、手を動かしながら学んでいきましょう。
到達目標	①統計学の必要性を理解できるようになる。 ②データの特徴を数値や図表にまとめたり、読みとることができる。 ③2変数間の関連性について、その特徴を数値や図表にまとめたり、読み取ることができる。 ④統計的検定の基本的な原理について理解できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	次回講義内容の予習
	2	変数の種類と尺度水準	講義の復習となる演習課題
	3	度数分布表	講義の復習となる演習課題
	4	ヒストグラム	講義の復習となる演習課題
	5	量的データの数値要約1：代表値・ Σ を用いた計算	講義の復習となる演習課題
	6	量的データの数値要約2：散布度	講義の復習となる演習課題
	7	量的データの数値要約3：正規分布	講義の復習となる演習課題
	8	量的データの数値要約4：標準化・標準正規分布	講義の復習となる演習課題
	9	2変数間の関係の分析1：散布図・共分散	講義の復習となる演習課題
	10	2変数間の関係の分析2：相関係数	講義の復習となる演習課題
	11	2変数間の関係の分析3：クロス集計表と χ^2 値	講義の復習となる演習課題
	12	2変数間の関係の分析4：連関係数	講義の復習となる演習課題
	13	統計的検定の基礎1：推定	講義の復習となる演習課題
14	統計的検定の基礎2：検定	講義の復習となる演習課題	
15	まとめ	講義の復習となる演習課題	
16	期末試験	全講義の復習	
テキスト・参考文献・資料など	テキスト・参考文献・資料など ・教科書は特に指定せず、毎回配布する資料を中心に講義を進めます。 ※この授業では $\sqrt{\quad}$ の計算ができる電卓を必ず用意して、毎回授業に持参してください。期末試験の際にも $\sqrt{\quad}$ の計算ができる電卓が必須となります。		
学びの手立て	・他の受講生の迷惑になる行為（私語、遅刻、途中退出等）は控えてください。		
評価	・成績は、授業への参加態度（50%）と学期末試験（50%）で評価します。授業への参加態度は、毎回の授業のリアクションペーパーの内容や授業で課された課題への取り組みも評価の対象となります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 心理学研究法 I・II を学ぶと、研究法とデータ分析の関連についての理解が深まります。 心理統計学 I・II を履修すると、本講義の内容をさらに発展させた卒業論文に生かせるデータ解析法を学ぶことができます。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理プロジェクト演習 I A	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	3年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>これまでの心理学の学びを活かした実践的な活動を通して、社会貢献、大学内での貢献、自己実現を目指します。具体的にはグループアプローチ、心理劇、動作法、心理教育・スポーツを用いた支援プログラムの開発や研究、実践を行います。対象者は大学生を対象としてスタートしますが、地域社会の児童・生徒や高齢者にも広がっていくことを目指していきます。</p>	<p>一つのプロジェクトを参加メンバーみんなで協力して成し遂げる体験は、社会のあらゆる場面で活かせる力を高めることにつながります。受講生には、活動を通して、主体性、協働性、コミュニケーション能力、論理性、課題発見能力、行動力、計画性、自信など社会で役立つ力を身につけてもらいたい。</p>
到達目標	プロジェクト活動を立案し、実現のための具体的な計画を立てることができる。 対象者のニーズに合わせた活動が実行できる。 活動に対する客観性のある評価ができる。 社会人基礎力を高める。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p><u>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</u></p> <p>以下の内容で授業を展開する。 グループまたは個人で発表日を割り振り、指定された日にゼミで報告、それを検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、文献・論文の精読・要約報告とディスカッション 2、プロジェクト活動計画の立案の報告と検討 3、プロジェクト活動の具体的方法論の報告と検討 4、プロジェクト活動の基本的技術習得 5、プロジェクト活動の評価方法の検討 6、プロジェクト活動計画発表会 <p>時間外学習の内容としては以下のような内容である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、心理プロジェクト活動を進めるための文献・資料の検索、収集 2、文献精読、文献要約 3、グループでの話し合い 4、支援技法についての習得 5、プレゼンテーションの準備 6、報告・発表資料の作成
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>参考文献 黒木保博・横山穰・水野良也・岩間伸之（2001）「グループワークの専門技術 対人援助のための77の方法」中央法規 福山清蔵（2011）「対人援助のためのグループワーク」誠信書房 中島健一（2012）「高齢者動作法」誠信書房 富永良喜・山中寛（2000）「動作とイメージによるストレスマネジメント教育」北大路書房</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ●履修の心構え チームで協力して活動を進めていきます。主体的にチームへの活動に参加することが求められます。講義時間外に活動とその準備をする必要があります。活動では対象となる相手への理解と配慮が大事になります。謙虚で真摯な態度が求められます。 ●学びを深めるために 「動作法」「グループアプローチ」の講義を事前に履修または同時履修するのが望ましい。
	<p>評価</p> <p>演習への参加態度（報告、コメントなど）（30%） 毎週提出する活動日誌（40%） 心理プロジェクト計画書（30%）</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：「動作法」「グループアプローチ」「コミュニケーションスキル」で技法を学び、実践活動につなげることができます。「心理学専門演習 I A・B」と連動して活動を進めていきます。 次のステージ：「心理プロジェクト演習 I B」「心理学専門演習 II A/B」「心理プロジェクト演習 II A・B」の履修につなげて大学での学びの集大成としてまとめていきます。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理プロジェクト演習 I A	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡 明奈	3年	研究室5号館534号室 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	心理学の知識と技術をもって、多様な他者と関わりながら社会貢献できる知識と技術を身に着ける。	自分の興味・関心があるプロジェクトテーマについて、仲間と共同しながら実践活動に取り組みましょう。

到達目標
①心理学専門演習 I Aの学びをふまえて、プロジェクトの計画を立てられる。 ②プロジェクト活動の計画、準備、実行、見直しを行い、次の実践に生かすことができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	オリエンテーションの理解
	2	プロジェクトに関する調べ学習1	プロジェクトに関する文献調査
	3	プロジェクトに関する調べ学習2	プロジェクトに関する文献調査
	4	プロジェクトに関する調べ学習3	プロジェクトに関する文献調査
	5	プロジェクトのグループ編成とテーマ決定	チームビルディング
	6	各プロジェクトの事前調査1	プロジェクト内容の検討
	7	各プロジェクトの事前調査2	プロジェクト内容の検討
	8	各プロジェクトの事前調査3	プロジェクト内容の検討
	9	各プロジェクトの事前調査結果の分析1	プロジェクト内容の検討
	10	各プロジェクトの事前調査結果の分析2	プロジェクト内容の検討
	11	各プロジェクトの事前調査結果の分析3	プロジェクト内容の検討
	12	各プロジェクトの活動計画の立案1	プロジェクト計画の作成
	13	各プロジェクトの活動計画の立案2	プロジェクト計画の作成
14	各プロジェクトの活動計画の発表と振り返り	プロジェクト計画の作成	
15	各プロジェクトの活動計画書の修正	プロジェクト計画の修正	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など ・授業内で適宜紹介する		
	学びの手立て ・プロジェクトを成功させるために、自主的に調べ活動を行い、グループ内での話し合いには積極的に参加してください。 ・プロジェクトで関わる相手への配慮、柔軟な対応が求められます。 ・プロジェクトに関する疑問点は、活動開始前にあらかじめ確認・相談するようにしてください。		
	評価 ・プロジェクト活動への関与度（50％）と、活動計画発表の内容（50％）で評価します。関与度には、プロジェクト活動における、発言、参加態度、役割分担、コメントシートへの内容も評価対象に含まれます。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学専門演習 I A 次のステージとして、心理プロジェクト演習 I Bの履修につなげていきましょう。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理プロジェクト演習 I A	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃	3年	研究室：5-431 e-mail：mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 心理学の知識と技法をもって、多様な他者と関わりながら社会貢献できる力を身につけていく。仲間と協働する。	メッセージ 自分の興味関心のあるプロジェクトテーマを選択し、仲間と協働しながら実践活動に取り組みましょう。プロジェクトの実践を通して、自分や仲間や対象者の成長や変化を感じましょう。成長や変化には迷いや苦しみもあります。お互いに思いやりをもって楽しみつつ取り組んでいきましょう。
	到達目標 ①心理学専門演習 I Aの学びを踏まえ、プロジェクトの活動計画を策定できる。 ②プロジェクトの活動計画に基づき実践活動を展開できる ③実践活動、記録、振り返り、見直しを行い、次の実践に活かすことができる。 ④心理学の知識と技法を応用して社会貢献ができる実践基礎力（社会人基礎力）を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	初回オリエンテーション／プロジェクトメンバーの確認	授業計画の理解/配布資料の精読
	2	前年度のプロジェクトの実践活動報告	前年度の活動内容の理解
	3	プロジェクトに関する調べ学習①	情報収集・文献を読む
	4	プロジェクトに関する調べ学習②	情報収集・文献を読む
	5	プロジェクトに関する調べ学習③	情報収集・文献を読む
	6	プロジェクトのグループ編成・活動スケジュールの検討	チームビルディング
	7	各プロジェクトの調べ学習・課題抽出①	プロジェクト内容の検討
	8	各プロジェクトの調べ学習・課題抽出②	プロジェクト内容の検討
	9	各プロジェクトの調べ学習・課題抽出③	プロジェクト内容の検討
	10	各プロジェクトの現場の把握（文献・インターネットによる情報収集）①	各現場についての調べ学習
	11	各プロジェクトの現場の把握（文献・インターネットによる情報収集）②	各現場についての調べ学習
	12	各プロジェクトの実践活動計画案の策定①	実践活動計画書案作成
	13	各プロジェクトの実践活動計画案の策定②	実践活動計画書案発表準備
	14	各プロジェクトの実践活動計画案の発表	発表の振り返り/計画書案の修正
15	各プロジェクトの実践活動計画案の完成	実践活動計画書案の完成	
16	予備日	計画書案の理解/前期の振り返り	
	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で適宜紹介する。		
	学びの手立て ・心理学のこれまでの学び（知識と技法）を活かし実践活動するためには、プロジェクトについての事前・事後学習とプロジェクトに関する話し合いが重要になります。特に、プロジェクトに関する話し合いには積極的に参加し、自分の考えや意見を出し、メンバーの意見をよく聴いて下さい。 ・プロジェクトで多様な人々と関わる場合には、相手への配慮、柔軟な対応が求められます。 ・プロジェクト内容、実践活動について、わからないことや疑問点は活動開始前に確認・相談し、解消するように努めて下さい。日頃からプロジェクトメンバーとのザッソウ（雑談と相談）を大事にしてください。		
	評価 プロジェクトのへの関与度：話し合い、調べ学習の発表などの諸活動における、発言、参加態度、役割分担、コメントシートの内容などを総合する・・・50% 活動期間中の調べ学習の報告書と活動計画案の提出（40%）、振り返りレポート（10%）・・・50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学専門演習 I A、発達心理学、障害者・障害児心理学、教育心理学概論、教育・学校心理学、傾聴トレーニング、コミュニケーションスキル、ライフステージの心理学、ストレスマネジメント、ヘルスプロモーション、知覚・認知心理学、神経・生理心理学（神経/生理）など。次へのステージ：心理プロジェクト演習 I Bの実践活動に繋げる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理プロジェクト演習 I B	後期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	3年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>これまでの心理学の学びを活かした実践的な活動を通して、社会貢献、大学内での貢献、自己実現を目指します。具体的にはグループアプローチ、心理劇、動作法、心理教育、スポーツ活動を用いた支援プログラムの開発や研究、実践を行います。対象者は大学生を対象としてスタートしますが、地域社会の児童・生徒や高齢者にも広げていくことを目指していきます。</p> <p>到達目標</p> <p>プロジェクト活動を立案し、実現のための具体的な計画を立てることができる。 対象者のニーズに合わせた活動が実行できる。 活動に対する客観性のある評価ができる。 社会人基礎力を高める。</p>	<p>一つのプロジェクトを参加メンバーみんなで協力して成し遂げる体験は、社会のあらゆる場面で活かせる力を高めることにつながります。受講生には、活動を通して、主体性、協働性、コミュニケーション能力、論理性、課題発見能力、行動力、計画性、自信など社会で役立つ力を身につけてもらいたい。</p>

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p><u>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</u></p> <p>以下の内容で授業を展開する。</p> <p>グループまたは個人で発表日を割り振り、指定された日にゼミで報告、それを検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、文献・論文の精読・要約報告とディスカッション 2、プロジェクト活動計画の立案の報告と検討 3、プロジェクト活動の具体的方法論の報告と検討 4、プロジェクト活動の基本的技術習得 5、プロジェクト活動の評価方法の検討 6、プロジェクト活動計画発表会 7、プロジェクト活動についてのカンファレンス 8、プロジェクト活動中間報告 <p>時間外学習の内容としては以下のような内容である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、心理プロジェクト活動を進めるための文献・資料の検索、収集 2、文献精読、文献要約 3、グループでの話し合い 4、支援技法についての習得 5、プレゼンテーションの準備 6、報告・発表資料の作成
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>参考文献 黒木保博・横山穰・水野良也・岩間伸之（2001）「グループワークの専門技術 対人援助のための77の方法」中央法規 福山清蔵（2011）「対人援助のためのグループワーク」誠信書房 中島健一（2012）「高齢者動作法」誠信書房 富永良喜・山中寛（2000）「動作とイメージによるストレスマネジメント教育」北大路書房</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ●履修の心構え チームで協力して活動を進めていきます。主体的にチームへの活動に参加することが求められます。講義時間外に活動とその準備をする必要があります。活動では対象となる相手への理解と配慮が大事になります。謙虚で真摯な態度が求められます。 ●学びを深めるために 「動作法」「グループアプローチ」の講義を事前に履修または同時履修するのが望ましい。
	<p>評価</p> <p>演習への参加態度（報告、コメントなど）（30%） 毎週提出する活動日誌（40%） 心理プロジェクト計画書（30%）</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：「動作法」「グループアプローチ」「コミュニケーションスキル」で技法を学び、実践活動につなげることができます。「心理学専門演習 I A・B」と連動して活動を進めていきます。 次のステージ：「心理学専門演習 II A/B」「心理プロジェクト演習 II A・B」の履修につなげて大学での学びの集大成としてまとめていきます。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理プロジェクト演習 I B	後期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡 明奈	3年	研究室5号館534号室 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	心理学の知識と技術をもって、多様な他者と関わりながら社会貢献できる知識と技術を身に着ける。	自分の興味・関心があるプロジェクトテーマについて、仲間と共同しながら実践活動に取り組みましょう。

到達目標
①心理学専門演習 I A・I B, 心理プロジェクト演習 I Aの学びをふまえて、プロジェクトの準備及び実行を行うことができる。 ②プロジェクト活動の計画、準備、実行、見直しを行い、次の実践に生かすことができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	オリエンテーションの理解
	2	プロジェクト実践活動のための準備・材料づくり1	準備・材料づくり
	3	プロジェクト実践活動のための準備・材料づくり2	準備・材料づくり
	4	プロジェクト実践活動計画の発表準備1	発表準備
	5	プロジェクト実践活動計画の発表準備2	発表準備
	6	プロジェクト実践活動計画の発表準備3	発表準備
	7	プロジェクト実践活動計画の振り返り	準備・材料づくり
	8	プロジェクト実践活動のための準備・材料づくり3	準備・材料づくり
	9	プロジェクト実践活動のための準備・材料づくり4	準備・材料づくり
	10	プロジェクト実践活動のための準備・材料づくり5	準備・材料づくり
	11	プロジェクト実践活動の実行と振り返り	実行
	12	プロジェクト実践活動の途中経過報告会の準備1	発表準備
	13	プロジェクト実践活動の途中経過報告会の準備2	発表準備
	14	プロジェクト実践活動の途中経過報告会の準備3	発表準備
15	プロジェクト実践活動の途中経過報告会の振り返り	発表の振り返り	
16	予備日		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ・授業内で適宜紹介する
-------	-------------------------------

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトを成功させるために、自主的に調べ活動を行い、グループ内での話し合いには積極的に参加してください。 ・プロジェクトで関わる相手への配慮、柔軟な対応が求められます。 ・プロジェクトに関する疑問点は、活動開始前にあらかじめ確認・相談するようにしてください。
--------	--

評価	・プロジェクト活動への関与度 (50%) と、活動構想発表・途中経過報告の内容 (50%) で評価します。関与度には、プロジェクト活動における、発言、参加態度、役割分担、コメントシートへの内容も評価対象に含まれます。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学専門演習 I A・I B, 心理プロジェクト演習 I A
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理プロジェクト演習 I B	後期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃	3年	研究室：5-431 e-mail：mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	心理学の知識と技法をもって、多様な他者と関わりながら社会貢献できる力を身につけていく。仲間と協働する。	心理プロジェクト演習 I Aで計画を検討してきたプロジェクトの実践を通して、自分や仲間や対象者の成長や変化を感じましょう。成長や変化には迷いや苦しみもあります。そのような体験を通し人間理解を深めましょう。実践と振り返りの中での気づきをふまえ、より良いプロジェクトになるよう見直し実践していきましょう。

到達目標
①心理学専門演習 I AB、心理プロジェクト演習 I Aの学びを踏まえ、プロジェクトの活動計画を策定できる。 ②プロジェクトの活動計画に基づき実践活動を展開できる。 ③実践活動、記録、振り返り、見直しを行い、次の実践に活かすことができる。 ④心理学の知識と技法を応用して社会貢献ができる実践基礎力（社会人基礎力）を身につけることができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	初回オリエンテーション／前期の活動の振り返り	授業計画の理解/配布資料の精読
	2	プロジェクト実践に向けて①	日誌・振り返りシートの作成
	3	プロジェクト実践に向けて②	日誌・振り返りシートの作成
	4	プロジェクト実践に向けて③	実践準備
	5	プロジェクト実践①	活動日誌の記録・振り返り
	6	プロジェクト実践と活動の振り返り②	活動日誌の記録・振り返り
	7	プロジェクト実践と活動の振り返り③	活動日誌の記録・振り返り
	8	プロジェクト実践と活動の振り返り④	活動日誌の記録・振り返り
	9	プロジェクト実践と活動の振り返り⑤	活動日誌の記録・振り返り
	10	プロジェクト実践と活動の振り返り⑥	活動日誌の記録・振り返り
	11	プロジェクト実践と活動の振り返り⑦	活動日誌の記録・振り返り
	12	プロジェクト実践と活動の振り返り⑧	日誌記録・振り返り・報告会準備
	13	プロジェクト実践と活動の振り返り⑨	日誌記録・振り返り・報告会準備
	14	各プロジェクトの実践活動報告会	日誌記録・振り返り・報告書作成
15	各プロジェクトの実践活動報告書の作成	日誌記録・振り返り・報告書作成	
16	予備日	報告書作成・全体の振り返り	

テキスト・参考文献・資料など	授業の中で適宜紹介する。
----------------	--------------

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 心理学のこれまでの学び（知識と技法）を活かし実践活動するためには、プロジェクトについての事前・事後学習とプロジェクトに関する話し合いが重要になります。特に、プロジェクトに関する話し合いには積極的に参加し、自分の考えや意見を出し、メンバーの意見をよく聴いて下さい。 プロジェクトで多様な人々に関わる場合には、相手への配慮、柔軟な対応が求められます。 プロジェクト内容、実践活動について、わからないことや疑問点は活動開始前に確認・相談し、解消するように努めて下さい。日頃からプロジェクトメンバーとのザッソウ（雑談と相談）を大事にしてください。
--------	---

評価	<p>プロジェクト実践活動への参加と活動日誌の内容・・・30%</p> <p>プロジェクトのへの関与度：話し合い、振り返り、発表などの諸活動における、発言、参加態度、役割分担、コメントシートの内容などを総合する・・・20%</p> <p>期末課題：プロジェクトの活動報告の発表と報告書の内容・・・50%</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学専門演習 I AB、心理プロジェクト演習 I A、発達心理学、障害者・障害児心理学、教育心理学概論、教育・学校心理学、傾聴トレーニング、コミュニケーションスキル、ライフステージの心理学、ストレス・マネジメント、心理学特講C、知覚・認知心理学、神経・生理心理学（神経/生理）など。次へのステージ：心理プロジェクト演習 II ABの実践活動に繋げる。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理プロジェクト演習ⅡA	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	4年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>これまでの心理学の学びを活かした実践的な活動を通して、社会貢献、大学内での貢献、自己実現を目指します。具体的にはグループアプローチ、心理劇、動作法、心理教育・スポーツ活動を用いた支援プログラムの開発や研究、実践を行います。対象者は大学生を対象としてスタートしますが、地域社会の児童・生徒や高齢者にも広げていくことを目指していきます。</p>	<p>メンバーみんなで協力して成し遂げる体験は、社会のあらゆる場面で活かせる力を高めることにつながります。受講生には、活動を通して、主体性、協働性、コミュニケーション能力、論理性、課題発見能力、行動力、計画性、自信など社会で役立つ力を身につけてもらいたい。</p>
到達目標	<p>プロジェクト活動を立案し、実現のための具体的な計画を立てることができる。 対象者のニーズに合わせた活動が実行できる。 活動に対する客観性のある評価ができる。 社会人基礎力を高める。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p><u>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</u></p> <p>以下の内容で授業を展開する。 グループまたは個人で発表日を割り振り、指定された日にゼミで報告、それを検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、文献・論文の精読・要約報告とディスカッション 2、プロジェクト活動計画の立案の報告と検討 3、プロジェクト活動の具体的方法論の報告と検討 4、プロジェクト活動の基本的技術習得 5、プロジェクト活動の評価方法の検討 6、プロジェクト活動計画発表会 <p>時間外学習の内容としては以下のような内容である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、心理プロジェクト活動を進めるための文献・資料の検索、収集 2、文献精読、文献要約 3、グループでの話し合い 4、支援技法についての習得 5、プレゼンテーションの準備 6、報告・発表資料の作成
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>参考文献 黒木保博・横山穰・水野良也・岩間伸之（2001）「グループワークの専門技術 対人援助のための77の方法」中央法規 福山清蔵（2011）「対人援助のためのグループワーク」誠信書房 中島健一（2012）「高齢者動作法」誠信書房 富永良喜・山中寛（2000）「動作とイメージによるストレスマネジメント教育」北大路書房</p>

学びの準備	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ●履修の心構え チームで協力して活動を進めていきます。主体的にチームへの活動に参加することが求められます。講義時間外に活動とその準備をする必要があります。活動では対象となる相手への理解と配慮が大事になります。謙虚で真摯な態度が求められます。 ●学びを深めるために 「動作法」「グループアプローチ」の講義を事前に履修または同時履修するのが望ましい。
	<p>評価</p> <p>演習への参加態度（報告、コメントなど）（30%） 毎週提出する活動日誌（40%） 心理プロジェクト計画書（30%）</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：「動作法」「グループアプローチ」「コミュニケーションスキル」で技法を学び、実践活動につなげることができます。「心理学専門演習ⅡA・B」と連動して活動を進めていきます。 次のステージ：「心理学専門演習ⅡA/B」「心理プロジェクト演習ⅡB」の履修につなげて大学での学びの集大成としてまとめていきます。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理プロジェクト演習ⅡA	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃	4年	研究室：5-431 e-mail：mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 心理学の知識と技法をもって、仲間と協働し、多様な他者と関わりながら社会貢献できる力を身につけていく。	メッセージ 心理プロジェクト演習ⅠABで計画実践してきたプロジェクトを継続し、自分や仲間や対象者の成長や変化を感じましょう。成長や変化には迷いや苦しみもあります。そのような体験を通し人間理解を深めましょう。実践と振り返りの中での気づきをふまえ、より良いプロジェクトになるよう見直し実践していきましょう。
	到達目標 ①心理学専門演習ⅠAB、心理プロジェクト演習ⅠABの学びを踏まえ、プロジェクトの活動を継続できる。 ②プロジェクトの活動計画に基づき実践活動を展開できる。 ③実践活動、記録、振り返り、見直しを行い、次の実践に活かすことができる。 ④心理学の知識と技法を応用して社会貢献ができる実践基礎力（社会人基礎力）を高めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	初回オリエンテーション／プロジェクトメンバーの確認	授業計画の理解/配布資料の精読
	2	プロジェクト実践に向けて①	日誌・振り返りシートの作成
	3	プロジェクト実践に向けて②	日誌・振り返りシートの作成
	4	プロジェクト実践に向けて③	実践準備
	5	プロジェクト実践①	活動日誌の記録・振り返り
	6	プロジェクト実践と活動の振り返り②	活動日誌の記録・振り返り
	7	プロジェクト実践と活動の振り返り③	活動日誌の記録・振り返り
	8	プロジェクト実践と活動の振り返り④	活動日誌の記録・振り返り
	9	プロジェクト実践と活動の振り返り⑤	活動日誌の記録・振り返り
	10	プロジェクト実践と活動の振り返り⑥	活動日誌の記録・振り返り
	11	プロジェクト実践と活動の振り返り⑦	活動日誌の記録・振り返り
	12	プロジェクト実践と活動の振り返り⑧	活動日誌の記録・振り返り
	13	プロジェクト実践と活動の振り返り⑨	日誌記録・振り返り・報告会準備
	14	各プロジェクトの実践活動報告会（中間）	日誌記録・振り返り・報告書作成
	15	プロジェクト実践活動報告会の振り返りと後期の計画の検討	後期の実践活動に向けた準備
	16	予備日	
	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で適宜紹介する。		
	学びの手立て ・心理学のこれまでの学び（知識と技法）を活かし実践活動するためには、プロジェクトについての事前・事後学習とプロジェクトに関する話し合いが重要になります。特に、プロジェクトに関する話し合いには積極的に参加し、自分の考えや意見を出し、メンバーの意見をよく聴いて下さい。 ・プロジェクトで多様な人々に関わる場合には、相手への配慮、柔軟な対応が求められます。 ・プロジェクト内容、実践活動について、わからないことや疑問点は活動開始前に確認・相談し、解消するように努めて下さい。日頃からプロジェクトメンバーとのザッソウ（雑談と相談）を大事にしてください。		
	評価 プロジェクト実践活動への参加と活動日誌の内容・・・40% プロジェクトのへの関与度：話し合い、振り返り、発表などの諸活動における、発言、参加態度、役割分担、コメントシートの内容などを総合する・・・30% 期末課題：プロジェクトの活動報告（中間）の発表と報告資料の内容・・・30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学専門演習ⅠAB、心理プロジェクト演習ⅠAB、発達心理学、障害者・障害児心理学、教育心理学概論、教育・学校心理学、傾聴トレーニング、コミュニケーションスキル、ライフステージの心理学、ストレスマネジメント、ヘルスプロモーション、知覚・認知心理学、神経・生理心理学（神経/生理）など。次へのステージ：心理プロジェクト演習ⅡBの実践活動と進路選択・就活に繋げる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理プロジェクト演習ⅡB	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃	4年	研究室：5-431 e-mail：mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 心理学の知識と技法をもって、仲間と協働し、多様な他者と関わりながら社会貢献できる力を身につけていく。	メッセージ 心理プロジェクト演習ⅠAB・ⅡAで計画実践してきたプロジェクトを継続し、自分や仲間や対象者の成長や変化を感じましょう。成長や変化には迷いや苦しみもあります。そのような体験を通し人間理解を深めましょう。実践と振り返りの中での気づきをふまえ、より良いプロジェクトになるよう見直し実践していきましょう。
	到達目標 ①心理学専門演習ⅠAB・ⅡA、心理プロジェクト演習ⅠAB・ⅡAの学びを踏まえ、プロジェクトの活動を継続できる。 ②プロジェクトの活動計画に基づき実践活動を展開できる。 ③実践活動、記録、振り返り、見直しを行い、次の実践に活かすことができる。 ④心理学の知識と技法を応用して社会貢献ができる実践基礎力（社会人基礎力）を高めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	
	1	初回オリエンテーション／前期の実践活動の振り返り	
	2	プロジェクト実践に向けて①	
		時間外学習の内容	
	3	プロジェクト実践に向けて②	授業計画の理解/配布資料の精読
	4	プロジェクト実践①	活動実践の準備
	5	プロジェクト実践と活動の振り返り②	活動実践の準備
	6	プロジェクト実践と活動の振り返り③	活動日誌の記録・振り返り
	7	プロジェクト実践と活動の振り返り④	活動日誌の記録・振り返り
	8	プロジェクト実践と活動の振り返り⑤	活動日誌の記録・振り返り
	9	プロジェクト実践と活動の振り返り⑥	活動日誌の記録・振り返り
	10	プロジェクト実践と活動の振り返り⑦	活動日誌の記録・振り返り
	11	プロジェクト実践と活動の振り返り⑧	活動日誌の記録・振り返り
	12	プロジェクト実践と活動の振り返り⑨	活動日誌の記録・振り返り
	13	プロジェクト実践と活動の振り返り⑩	日誌の記録・振り返り・報告会準備
	14	各プロジェクトの実践活動報告会（最終）	日誌記録・振り返り・報告書作成
	15	各プロジェクトの実践活動報告書の作成	各プロジェクトの最終報告書の作成
	16	予備日	報告書作成・全体の振り返り
	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で適宜紹介する。		
	学びの手立て ・心理学のこれまでの学び（知識と技法）を活かし実践活動するためには、プロジェクトについての事前・事後学習とプロジェクトに関する話し合いが重要になります。特に、プロジェクトに関する話し合いには積極的に参加し、自分の考えや意見を出し、メンバーの意見をよく聴いて下さい。 ・プロジェクトで多様な人々と関わる場合には、相手への配慮、柔軟な対応が求められます。 ・プロジェクト内容、実践活動について、わからないことや疑問点は活動開始前に確認・相談し、解消するように努めて下さい。日頃からプロジェクトメンバーとのザッソウ（雑談と相談）を大事にしてください。		
	評価 プロジェクト実践活動への参加と活動日誌の内容・・・40% プロジェクトのへの関与度：話し合い、振り返り、発表などの諸活動における、発言、参加態度、役割分担、コメントシートの内容などを総合する・・・20% 期末課題：プロジェクトの活動報告の発表と報告書の内容・・・40%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学専門演習ⅠAB・ⅡAB、心理プロジェクト演習ⅠAB・ⅡA、発達心理学、障害者・障害児心理学、教育心理学概論、教育・学校心理学、傾聴トレーニング、コミュニケーションスキル、ライフステージの心理学、ストレス・マネジメント、心理学特講C、知覚・認知心理学、神経・生理心理学（神経/生理）など。次へのステージ：心理プロジェクト演習ⅡABの実践活動を卒業後の社会生活に繋げる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理プロジェクト演習ⅡB	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	4年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>これまでの心理学の学びを活かした実践的な活動を通して、社会貢献、大学内での貢献、自己実現を目指します。具体的にはグループアプローチ、心理劇、動作法、心理教育・スポーツ活動を用いた支援プログラムの開発や研究、実践を行います。対象者は大学生を対象としてスタートしますが、地域社会の児童・生徒や高齢者にも広げていくことを目指していきます。</p>	<p>一つのプロジェクトを参加メンバーみんなで協力して成し遂げる体験は、社会のあらゆる場面で活かせる力を高めることにつながります。受講生には、活動を通して、主体性、協働性、コミュニケーション能力、論理性、課題発見能力、行動力、計画性、自信など社会で役立つ力を身につけてもらいたい。</p>
到達目標	プロジェクト活動を立案し、実現のための具体的な計画を立てることができる。 対象者のニーズに合わせた活動が実行できる。 活動に対する客観性のある評価ができる。 社会人基礎力を高める。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p><u>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</u></p> <p>以下の内容で授業を展開する。 グループまたは個人で発表日を割り振り、指定された日にゼミで報告、それを検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、文献・論文の精読・要約報告とディスカッション 2、プロジェクト活動計画の立案の報告と検討 3、プロジェクト活動の具体的方法論の報告と検討 4、プロジェクト活動の基本的技術習得 5、プロジェクト活動の評価方法の検討 6、プロジェクト活動計画発表会 <p>時間外学習の内容としては以下のような内容である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、心理プロジェクト活動を進めるための文献・資料の検索、収集 2、文献精読、文献要約 3、グループでの話し合い 4、支援技法についての習得 5、プレゼンテーションの準備 6、報告・発表資料の作成
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>参考文献 黒木保博・横山穰・水野良也・岩間伸之（2001）「グループワークの専門技術 対人援助のための77の方法」中央法規 福山清蔵（2011）「対人援助のためのグループワーク」誠信書房 中島健一（2012）「高齢者動作法」誠信書房 富永良喜・山中寛（2000）「動作とイメージによるストレスマネジメント教育」北大路書房</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ●履修の心構え チームで協力して活動を進めていきます。主体的にチームへの活動に参加することが求められます。講義時間外に活動とその準備をする必要があります。活動では対象となる相手への理解と配慮が大事になります。謙虚で真摯な態度が求められます。 ●学びを深めるために 「動作法」「グループアプローチ」の講義を事前に履修または同時履修するのが望ましい。
	<p>評価</p> <p>演習への参加態度（報告、コメントなど）（30%） 毎週提出する活動日誌（40%） 心理プロジェクト計画書（30%）</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：「動作法」「グループアプローチ」「コミュニケーションスキル」で技法を学び、実践活動につなげることができます。「心理学専門演習ⅠA・B」と連動して活動を進めていきます。 次のステージ：大学での学びの集大成として活動し、そこで養った社会人基礎力を今後の人生に活かしていきます。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理ボランティア演習			2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山篤史・前堂志乃・井村弘子・上田幸彦	1年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>(1) 社会を知り、自分を知る。</p> <p>(2) 心理学を学ぶ意義を考え、心理学と社会とのつながりを考える。</p> <p>(3) 支援の現場に必要な基本的コミュニケーション能力を身につける。</p> <p>(4) 人を支援する（寄り添うこと、共感すること、傾聴すること）</p>	<p>学外の支援を必要としている方々と直接かかわりをもつこととなります。そのことをしっかり自覚し、明確な目標をもって登録をする必要があります。支援の対象となる相手やその関係者に対して真摯に、誠実に向き合うことが求められます。大学や当該施設（団体）からの注意事項をよく守り、求められる役割を遂行し、謙虚な態度で上記の目的を達成して下さい。</p>
到達目標	<p>(1) 支援の現場に必要な基本的コミュニケーション能力を身につける</p> <p>(2) 自分なりの心理学を学ぶ意義や、心理学と社会とのつながりを説明できる。</p> <p>(3) 人を支援する上で大切なことを体験を通じた理解として説明できる。</p> <p>(4) 対人支援をしていく上で活かすことができる自身の資質と改善すべき課題について説明できる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	学内オリエンテーション1回目	配布資料を読む・希望実習先選択
	2	学内オリエンテーション2回目	希望実習先の調べ学習
	3	学外施設オリエンテーション・研修会	希望実習先の調べ学習
	4	ボランティア活動①	実習報告書作成
	5	ボランティア活動②	実習報告書作成
	6	ボランティア活動③	実習報告書作成
	7	ボランティア活動④	実習報告書作成
	8	ボランティア活動⑤	実習報告書作成
	9	中間報告会（複数回開催予定）	振り返りシート
	10	ボランティア活動⑥	実習報告書作成
	11	ボランティア活動⑦	実習報告書作成
	12	ボランティア活動⑧	実習報告書作成
	13	ボランティア活動⑨	実習報告書作成
14	ボランティア活動⑩	実習報告書作成	
15	最終報告会1回目（複数回開催予定）	振り返りシート	
16	最終報告会2回目（複数回開催予定）	振り返りシート	
テキスト・参考文献・資料など	特に指定しない。その都度配布する資料を参考にすること。		
学びの手立て	<p>●履修の心構え</p> <p>単位認定科目。時間割りに講義時間は設定されていない。初回のオリエンテーション（4月下旬予定：ポータル掲示板を確認すること）に参加し、エントリーシートを提出することで受講がスタートする。オリエンテーションで説明する要件を満たした上で、所定の申請を行うと単位が取得（2単位）できる。前期・後期・長期休暇のいずれの時期、あるいは年間を通して講義外の時間でボランティア活動に従事する。学内オリエンテーション及び報告会は学内で開催する。</p>		
評価	<p>所定のオリエンテーション・研修会への参加、報告会への参加、事前学習（合計20時間）、ボランティア活動への従事、日誌・振り返りレポートの作成（合計40時間）、エントリーシート、報告会での報告、日誌・振り返りレポートの提出を全て満たすことが要件となる。要件を満たしたうえで学期末に単位申請（2単位）ができる。実習日誌（60%）、最終レポート及び報告会での報告（40%）</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理専攻が設定する各臨床心理学領域の専門科目</p> <p>次のステージ：「心理プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ」「心理学専門演習Ⅰ・Ⅱ」</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ジェンダー論	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎濱 佳代	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>〈性別〉によって分割された社会——〈女である/男である〉ことはどのような社会的意味をもち、日本や世界で〈女性〉はどのような社会状況を生きているのでしょうか。皆さんが暮らす社会の〈性別〉をめぐる「あたりまえ」を問い直し、教育、労働、家族、人口、国家・国際社会、移動・グローバル化など、ジェンダーの視点から</p>	<p>女だから/男だから?——家族や教育、市場や国家など社会のあらゆる領域で、人間は性別によって振分けられ、意味づけられているようです。学校・部活動、バイト・就活、恋愛・結婚、出産や育児・介護、遊びや流行の音楽・ドラマなど身近な経験にふれながら、ジェンダー化された社会の仕組みと課題を考えていきましょう。</p>
到達目標	<p>①ジェンダーという概念とその分析概念としての深化のあり方を理解する。 ②ジェンダー研究の基礎的な思考枠組みを知る。 ③身近な自分の経験を、講義で学んだことと関連付けて、ジェンダーの視点から考察する。 ④現代社会の様々な問題群と課題について、ジェンダーの視点から分析する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	授業時に指示する
	2	ジェンダーとは何か——性別の構築性と多様性	授業時に指示する
	3	教育とジェンダー①子どもの社会化	授業時に指示する
	4	教育とジェンダー②学校教育と性差別	授業時に指示する
	5	労働とジェンダー①雇用のジェンダー構造	授業時に指示する
	6	労働とジェンダー②無償労働とケアワーク	授業時に指示する
	7	労働とジェンダー③有償/無償労働とジェンダー平等	授業時に指示する
	8	家族とジェンダー①近代家族と多様化する家族	授業時に指示する
	9	家族とジェンダー②少子高齢社会とジェンダー平等政策	授業時に指示する
	10	家族とジェンダー③福祉レジームと生活保障システム	授業時に指示する
	11	家族とジェンダー④世界の人口問題とリプロダクティブ・ヘルス/ライツ	授業時に指示する
	12	国際社会・国家とジェンダー	授業時に指示する
	13	移動・グローバル化とジェンダー①労働力の女性化と新国際分業	授業時に指示する
	14	移動・グローバル化とジェンダー②ポスト新国際分業と家族のグローバル化	授業時に指示する
15	全体のまとめ——フェミニズムとジェンダー	授業時に指示する	
16	学期末テスト	授業時に指示する	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【参考文献】毎回の講義でテーマに応じた参考文献を紹介します。全体を通した参考文献は以下のとおりです。 ・伊藤公雄・牟田和恵編, 2015『ジェンダーで学ぶ社会学』世界思想社。 ・千田有紀・中西裕子・青山薫, 2013『ジェンダー論をつかむ』有斐閣。 【資料】毎回の授業で必要に応じて配布します。</p>
----	---

学びの手立て	<p>①本講義は、受講生による「主体的学び」を重視する科目です。各回の講義終了後、配布資料と参考文献を読み、理解を深めてください。 ②本講義は、基本的に担当教員による講義形式で授業を進めますが、学生への問いかけを随所に取り入れ、双方向的な授業展開を目指します。受講生数に応じて、随所でグループワーク等も盛り込む予定です。 ③授業終了時に、講義内容に関して学んだこと・考えたことをコメントシートに記入してもらいます。重要な考察・問いかけについては、次回の講義開始時に受講生全員に紹介し共有します。</p>
--------	---

評価	<p>平常点(30%)、中間テスト(30%)、学期末テスト（あるいは学期末レポート）(40%)の結果にもとづいて総合的に評価します。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(関連科目) 社会学理論、国際社会学、都市社会学、南島社会学、家族社会学、マスコミ論、アジア社会論</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

本科目では子ども家庭福祉の基礎を学ぶことにより、支援者として子どもに現れてくる諸問題に対し効果的に対応できる能力を培う。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	2年	比嘉研究室：5-418 mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目では、現在の子どもが置かれている社会環境はもちろんのこと、子ども家庭福祉の法体系、制度・サービス、歴史、子どもが抱える諸問題及び支援活動の実際について学ぶ。その中で、社会全体が子どものウェルビーイングに焦点を当て、子どもが尊重され主体的な存在として位置づけられるよう努力しなければならないことを理解する。</p> <p>到達目標</p> <p>子どもに現れてくる諸問題を多角的に捉えることができ、子どもや保護者等への支援方法を理解する。また、福祉機関をはじめとする関係機関等との連携のあり方も把握する。</p>	<p>常日頃から、社会で起こる子どもに現れてくるの諸問題に関心をもってほしい。また、子どもやその保護者のもつ「真」のニーズは何かについて考えること。COVID-19の影響でZoom等を活用してのオンライン授業になる場合もある。ポータル等大学からの連絡をこまめに確認して下さい。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション；授業計画、評価等について	受講の心構えなど
	2	第1章 子ども家庭福祉とは何か① 子どもの権利、子どもの生命と発達	第1章予習：テキストの読み込み
	3	子ども家庭福祉とは何か② 子どもと家庭・地域、子ども家庭福祉とは	章の振り返り。
	4	第2章 子ども家庭福祉の歴史	第2章予習：テキストの読み込み
	5	第3章 子ども家庭を取り巻く現代社会 子ども家庭を取り巻く社会環境	第3章予習：テキストの読み込み
	6	第4章 子ども家庭福祉の支援の基盤① 子ども家庭福祉の法体系	第4章予習：テキストの読み込み
	7	子ども家庭福祉の支援の基盤② 子ども家庭福祉の実施体制	分からない語句を調べる。
8	子ども家庭福祉の支援の基盤③ 子ども家庭福祉に関わる関係機関・施設	分からない語句を調べる。	
9	子ども家庭福祉の支援の基盤④ 子ども家庭福祉の財源と費用負担	分からない語句を調べる。	
10	子ども家庭福祉の支援の基盤⑤ 子ども家庭福祉の人材と専門職、計画的推進	章の振り返り。	
11	第5章 子ども福祉課題と支援① 子ども子育て支援、母子保健	第5章前半予習：テキストの読み込み	
12	子ども福祉課題と支援② 保育、要保護児童等と在宅支援	分からない語句を調べる。	
13	子ども福祉課題と支援③ 児童虐待にかかわる支援、社会的養護	第5章後半予習：テキストの読み込み	
14	子ども福祉課題と支援④ ひとり親家庭への支援、DVと女性支援	分からない語句を調べる。	
15	子ども福祉課題と支援⑤ SSW、少年非行	章の振り返り。	
16	期末テスト	総まとめ	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>日本ソーシャルワーク教育学校連盟編(2021)：最新 社会福祉士養成講座『児童・家庭福祉』、中央法規。 ミネルヴァ書房編集部(最新年)：『社会福祉小六法 最新年版』、ミネルヴァ書房。</p>	
	学びの手立て	<p>授業に対して、予習・復習を含め積極的に取り組むのはもちろんのこと、授業後には質問をすること。また、自らの関心事(例えば、児童虐待、不登校、いじめ等)で構わないので、常日頃より「新聞」に目を通しスクラップして下さい。</p>	
	評価	<p>出席は平常点とし、授業態度(10%)、レポート(20%)及びテスト(70%)を総合して評価する。また、開講時間数の3分の2以上出席しなければ、期末試験が受けられないので注意すること(公欠は配慮する)。なお、スクラップレポート(記事の内容、感想・考察等)の提出は任意だが、加点する。</p>	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「スクールソーシャルワーク論」やその他社会福祉士関連科目とのつながりを意識すること。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人体の構造と機能及び疾病	後期	土3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-富盛 宏[心理カウンセリング専攻対象]	2年	授業終了後に教室で受け付ける	

学びの準備	ねらい 公認心理師として知っておくべき人体の構造と機能、心理支援対象となる疾病について学び、保健医療領域の実践に活かせることがねらいです。	メッセージ ヒトのこころと身体は分けて考えることはできません。心身機能、身体構造に関する基礎知識を得て、心理支援に役立ててもらいたいと考えます。医療現場の実践を踏まえ、臨床例を紹介しながら講義を進める予定です。
	到達目標 ①心身機能、身体構造及びさまざまな疾病と障害を理解することができる ②心理支援が必要な主な疾病を理解することができる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	配布資料の確認
	2	解剖学、生理学	配布資料・参考資料の精読
	3	加齢による身体、心理、精神機能の変化	配布資料・参考資料の精読
	4	めまい、倦怠感、呼吸困難等の主要な症候	配布資料・参考資料の精読
	5	心理的支援が必要な疾病①がん、難病	配布資料・参考資料の精読
	6	心理的支援が必要な疾病②遺伝性疾患	配布資料・参考資料の精読
	7	心理的支援が必要な疾病③後天性免疫不全症候群（AIDS）	配布資料・参考資料の精読
	8	心理的支援が必要な疾病④脳血管疾患	配布資料・参考資料の精読
9	心理的支援が必要な疾病⑤脳卒中後遺症、循環器疾患、内分泌代謝疾患	配布資料・参考資料の精読	
10	心理的支援が必要な疾病⑥依存症	配布資料・参考資料の精読	
11	心理的支援が必要な疾病⑦移植医療、再生医療	配布資料・参考資料の精読	
12	心理的支援が必要な疾病⑧サイコオンコロジー	配布資料・参考資料の精読	
13	心理的支援が必要な疾病⑨緩和ケア、終末期ケア	配布資料・参考資料の精読	
14	まとめ①	配布資料・参考資料の精読	
15	まとめ②	配布資料・参考資料の精読	
16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など 講義の中で適宜資料を配布し、参考文献を紹介する。 参考文献『人体の構造と機能及び疾病 武田克彦他編 医歯薬出版会社』		
	学びの手立て ・「障害者・障害児の心理学」、「健康・医療に関する心理学」を学んでおくこと。 ・授業中の私語や携帯（スマホ）などの使用は認めない。授業途中からの参加は講義内容を理解できないと考えられることから、遅刻は原則認めない。		
	評価 期末試験80%、平常点20%（毎回授業終了後にその回のテーマに関する問題1つ提示）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義の学びを踏まえ、臨床演習、臨床実習に臨んでいただきたい。
-------	--

※ポリシーとの関連性 本科目ではスクールソーシャルワークの基礎を学ぶことにより、子どもに現れてくる諸問題に効果的に対応できる能力を培う。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 スクールソーシャルワーク論	期別 後期	曜日・時限 水 3	単位 2
	担当者 比嘉 昌哉	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 比嘉研究室：5-418 mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本科目では、今日の学校現場になぜスクールソーシャルワーカーが必要なのか、またその歴史・動向について理解を深める。そして、学校教育の特徴や教育(学校)が連携する機関とその機能について学ぶとともにスクールソーシャルワーク(以下、SSW)の基礎理論等に関し理解する。さらに、SSWの展開過程や実践について考える。それらを通して、SSWの課題と展望について理解する。	メッセージ 現在の学校現場で何か起こっているのか関心をもちながら、受講してほしい。特にコロナ禍における子どもの貧困や児童虐待等が子どもの心身に与える影響について学ぶこと。COVID-19の影響でZoom等を活用してのオンライン授業になる場合もある。ポータル等大学からの連絡をこまめに確認して下さい。
	到達目標 学校現場で生じる子どもに現れてくる諸問題を把握する。また、子どもやその保護者(家庭)への支援について理解する。その際、教育委員会、児童相談所、福祉事務所等関係機関との連携のあり方も身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：授業の目的、沖縄県の現状等 ①導入	受講の心構え等
	2	学校における現代的課題 その1 ②I章	予習
	3	学校における現代的課題 その2	レポート課題
	4	SSWとは？ その1 DVD「SSWrのしごと」	(DVD視聴①) レポートの提出
	5	SSWとは？ その2 ③II章	予習
	6	SSWとは？ その3	レポート課題
	7	SSWの歴史と動向 ④III章	予習
	8	学校教育の特徴、教育(学校)が連携する機関とその機能 ⑤IV章+α	予習
9	SSWの基礎理論 VI章	レポート課題	
10	SSWの展開過程 その1 「SSWrによるケース会議」	(DVD視聴②) レポートの提出	
11	SSWの展開過程 その2 ⑥VII	レポート課題	
12	SSW実践、SSWの課題と展望 ⑦VIII章+⑧IX章	予習	
13	現役SSWrの実践 ゲストスピーカー	レクチャーに関するレポート	
14	SSWへのスーパービジョン	予習	
15	これまでの振り返り	レポート課題	
16	学期末テスト	総まとめ	
実践	テキスト・参考文献・資料など ◎山野・野田・半羽編著(2016)；『よくわかる スクールソーシャルワーク』、ミネルヴァ書房。 金澤・奥村・郭・野尻編著(2016)；『スクールソーシャルワーカー実務テキスト』、学事出版。 米川編著(2015)；『スクールソーシャルワーク実習・演習テキスト』、北大路書房。 門田・奥村監修(2014)；『スクールソーシャルワーカー実践事例集』、中央法規。 キャロル・リップペイ・マサット他編著、山野則子監修(2020)；『スクールソーシャルワークハンドブック』、明石書店。		
	学びの手立て 授業に対して、予習・復習を含め積極的に取り組むのはもちろんのこと、授業後には質問をすること。また、自らの関心事(例えば、子どもの貧困、児童虐待、不登校、障がい等)で構わないので、常日頃から「新聞」に目を通しスクラップして下さい。		
	評価 出席は平常点とし、授業態度(10%)、レポート(40%)及び学期末テスト(もしくは、レポート)(50%)を総合して評価を行う。スクラップレポート(記事の内容、感想・考察等)の提出は任意だが加点する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「スクールソーシャルワーカー認定課程」資格の指定科目である「スクールソーシャルワーク演習」「スクールソーシャルワーク実習指導」につながる。ただし、同課程に進むには、各種課題に取り組むなどして選抜されなければならない。詳しくは、『履修ガイド』参照のこと。 関連科目：上記スクールソーシャルワーク関連科目の他、社会福祉士関連科目。
-------	---

※ポリシーとの関連性 現代社会における諸問題に関心を持ち、課題解決に役立つ対人援助力を身につける、実践的な専門科目である。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ストレス・マネジメント	後期	土4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田(5回)、平山(1回)、赤嶺遼太郎(2回)、宜保英理(2回)、滝友秀(2回)	2年	上田まで	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	心身の健康の維持・増進・回復への支援を考えると、ストレスについての諸理論と実践的支援法を学ぶことは重要である。この講義では、ストレスの基本的理論を学習し、実際に臨床現場で用いられているストレス支援の心理学的支援技法について学ぶ。	【実務経験】実際に臨床の現場で働いている現役公認心理師が、オムニバス形式で講義を担当します。臨床の現場に即したストレス理論、対処法を伝えます。

到達目標	受講学生が、日常生活でのストレスへ適切に対処し、自らの心身の健康の維持増進に学んだことを活用できるようになる。
------	---

学びの実践	学びのヒント																																																				
	授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション/ストレスとは何か</td><td>配布資料の復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>ストレスモデル・心理教育</td><td>配布資料の復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>ストレスモデル・心理教育</td><td>配布資料の復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>ストレスの測定・ストレスチェック</td><td>ストレスチェックの確認</td></tr> <tr><td>5</td><td>日々のコーピングのコツ</td><td>コーピングの実践</td></tr> <tr><td>6</td><td>漸進的筋弛緩法</td><td>対処法の実践</td></tr> <tr><td>7</td><td>自律訓練法</td><td>対処法の実践</td></tr> <tr><td>8</td><td>呼吸法</td><td>対処法の実践</td></tr> <tr><td>9</td><td>マインドフルネス瞑想</td><td>対処法の実践</td></tr> <tr><td>10</td><td>動作法</td><td>対処法の実践</td></tr> <tr><td>11</td><td>アンガーマネジメント</td><td>対処法の実践</td></tr> <tr><td>12</td><td>認知行動療法</td><td>対処法の実践</td></tr> <tr><td>13</td><td>認知行動療法</td><td>対処法の実践</td></tr> <tr><td>14</td><td>問題解決法</td><td>対処法の実践</td></tr> <tr><td>15</td><td>ストレス測定・ストレスチェック</td><td>ストレスチェックの振り返り</td></tr> <tr><td>16</td><td>試験</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	オリエンテーション/ストレスとは何か	配布資料の復習	2	ストレスモデル・心理教育	配布資料の復習	3	ストレスモデル・心理教育	配布資料の復習	4	ストレスの測定・ストレスチェック	ストレスチェックの確認	5	日々のコーピングのコツ	コーピングの実践	6	漸進的筋弛緩法	対処法の実践	7	自律訓練法	対処法の実践	8	呼吸法	対処法の実践	9	マインドフルネス瞑想	対処法の実践	10	動作法	対処法の実践	11	アンガーマネジメント	対処法の実践	12	認知行動療法	対処法の実践	13	認知行動療法	対処法の実践	14	問題解決法	対処法の実践	15	ストレス測定・ストレスチェック	ストレスチェックの振り返り	16	試験		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1	オリエンテーション/ストレスとは何か	配布資料の復習																																																			
2	ストレスモデル・心理教育	配布資料の復習																																																			
3	ストレスモデル・心理教育	配布資料の復習																																																			
4	ストレスの測定・ストレスチェック	ストレスチェックの確認																																																			
5	日々のコーピングのコツ	コーピングの実践																																																			
6	漸進的筋弛緩法	対処法の実践																																																			
7	自律訓練法	対処法の実践																																																			
8	呼吸法	対処法の実践																																																			
9	マインドフルネス瞑想	対処法の実践																																																			
10	動作法	対処法の実践																																																			
11	アンガーマネジメント	対処法の実践																																																			
12	認知行動療法	対処法の実践																																																			
13	認知行動療法	対処法の実践																																																			
14	問題解決法	対処法の実践																																																			
15	ストレス測定・ストレスチェック	ストレスチェックの振り返り																																																			
16	試験																																																				
	テキスト・参考文献・資料など																																																				

参考文献：
 図解雑学ストレス ナツメ社
 中野敬子著 ストレスマネジメント入門 金剛出版
 日本ストレス学会編 ストレス科学事典 実務教育出版

学びの手立て	講義に出てくるストレス対処技法は実際に自分でやってみること。
--------	--------------------------------

評価	平常点(講義への積極的参加、質問、授業中に行うミニレポート)・・・20%、最終試験・・・80%によって評価する。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 神経・生理心理学 臨床心理学
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神医学	通年	水6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名(4)、新垣元(5)、伊室(6)、社会人特別講師(17)	2年	人間福祉学科 知名孝	

学びの準備	ねらい この講義では、いわゆる「精神医学」と言われる学問分野の基礎編を中心に講義します。福祉や心理実践において必要最低限の知識を提供していきます。	メッセージ この講義は精神科医師を中心とした各講師が精神医学の実践者としての経験を生かした、実践を前提とした講義内容となっている。
	到達目標 ①精神医学総論の習得 ②精神医学各論・疾病論の習得 ③精神医療・保健・福祉に関する歴史や制度に関する知識の習得	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の導入およびオリエンテーション	教科書第1章・第2章を読む
	2	精神医学の基礎1	教科書第1章・第2章を読む
	3	精神医学の基礎2	教科書第1章・第2章を読む
	4	精神医学の基礎3	教科書第3章を読む
	5	症状性を含む器質性精神障害1	教科書第4章第1節を読む
	6	症状性を含む器質性精神障害2	教科書第4章第1節を読む
	7	精神作用物質使用による精神及び行動の障害1	教科書第4章第2節を読む
	8	精神作用物質使用による精神及び行動の障害2	教科書第4章第2節を読む
	9	統合失調症1	教科書第4章第3節を読む
	10	統合失調症2	教科書第4章第3節を読む
	11	統合失調症3	教科書第5章を読む
	12	地域精神医療 精神科治療における人権擁護1	教科書第7章を読む
	13	地域精神医療 精神科治療における人権擁護2	教科書第6章を読む
	14	地域精神医療 精神科治療における人権擁護	教科書第5章第4節を読む
	15	神経症性障害	教科書第4章第5節を読む
	16	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	教科書 p 170～179を読む
	17	パーソナリティ障害と行動の障害	教科書第4章第7節を読む
	18	心理発達の障害	教科書第4章8・9節を読む
	19	小児期および青年期に発症する精神疾患	教科書第4章10節を読む
	20	高齢者と精神疾患1	教科書第1節を読む
	21	高齢者と精神疾患2	教科書第1節を読む
	22	高齢者と精神疾患3	教科書第1節を読む
	23	小テスト	テストの準備
	24	ジェンダーの問題と精神疾患 1	教科書 4章 4節を読む
	25	ジェンダーの問題と精神疾患 2	教科書 4章 4節を読む
	26	ジェンダーの問題と精神疾患 3	教科書 4章 4節を読む
	27	心理臨床実践と精神医学 1	教科書第5章 3節を読む
	28	心理臨床実践と精神医学 2	教科書第5章 3節を読む
	29	精神医療と福祉および関連機関との間における連携の重要性	事前の資料学習
30	精神医療と福祉および関連機関との間における連携の重要性・テストについての説明	事前の資料学習	
31	講義のまとめ・試験(特例授業)	講義の復習	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 詳細は講義の際に説明する。以下のテキストの使用を検討している。 『新・精神保健福祉士養成講座1 精神疾患とその治療』日本精神保健福祉士養成校協会編集 中法規出版（第2版）</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 精神医学の基本を学ぶ講義であるため教科書熟読を推奨する。</p>
	<p>評価 ①この講義は精神保健福祉士受験資格取得のための指定科目であるため、出席に関しては厚生労働省の規定により4/5を単位認定の条件とします。 ②要約課題の提出（48%） ③期末テスト・期末課題（46%） ④学期中の小テスト（6%）</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 精神保健福祉士養成課程履修者にとっては精神保健福祉士受験資格科目が次のステージとなる科目となる。心理カウンセリング専攻および社会福祉士養成課程の学生にとっては、それぞれの関連科目が次のステージの科目となる。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神疾患とその治療	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-尾野 勤子	3年	メールにて受け付ける	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	公認心理師の実習において医療領域は必須であり、現場に入る前に精神疾患とその治療について理解を深めることは不可欠です。正しい知識を得て、現場に入ることが望まれます。	精神疾患をもつ患者やその家族について理解を深めて下さい。精神科の現場実践を踏まえ、臨床例を紹介しながら講義を進める予定です。
到達目標	①代表的な精神疾患の成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を理解する ②向精神病薬をはじめとする薬剤による心身の変化を理解する ③医療機関へ紹介すべき症状や紹介の仕方について知る	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) オリエンテーション	配布資料の確認
	2	(特) 精神疾患の診断分類・診断基準 (ICD-10、DSM-5)	配布資料・参考資料の精読
	3	(特) 器質性精神障害	配布資料・参考資料の精読
	4	(特) 精神作用物質使用による精神および行動の障害	配布資料・参考資料の精読
	5	(特) 統合失調症、統合失笑型障害および妄想性障害	配布資料・参考資料の精読
	6	(特) 気分(感情)障害	配布資料・参考資料の精読
	7	(特) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	配布資料・参考資料の精読
8	(特) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	配布資料・参考資料の精読	
9	(特) 成人のパーソナリティおよび行動の障害	配布資料・参考資料の精読	
10	(特) 精神遅滞(知的障害)	配布資料・参考資料の精読	
11	(特) 心理的発達の障害	配布資料・参考資料の精読	
12	(特) 各種検査について	配布資料・参考資料の精読	
13	(特) 向精神薬の薬理作用、薬物動態、有害事象、副作用について	配布資料・参考資料の精読	
14	(特) 精神疾患の治療法(薬物療法、作業療法、心理療法)	配布資料・参考資料の精読	
15	(特) 地域移行について・まとめ	配布資料・参考資料の精読	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	講義の中で適宜資料を配布し、参考文献を紹介する。		
学びの手立て	・「障害者障害児心理学」、「健康・医療心理学」を学んでおくこと。 ・対面式授業形式。講義時間内に参加すること。授業途中からの参加は講義内容を理解できないと考えられることから、遅刻は原則認めない。		
評価	期末試験80%、平常点20% (毎回授業終了後に提出してもらいリフレクションシートによって評価する)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義の学びを踏まえ、臨床演習、臨床実習に臨んでいただきたい。
-------	--

科目基本情報	科目名 精神障害者の生活支援システム	期別	曜日・時限	単位
	担当者 -兼浜 克弥	前期	水 6	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	ptt960@okiu.ac.jp にて受け付けします。	

学びの準備	ねらい 障害の概念をICFの視点から理解すると同時に、精神障害者の生活実態やニーズを把握し、精神障害者の地域での自立と社会参加を促進するための生活支援システムを精神障害当事者と同じ視点に立ちながら、共に生き方を模索するという『精神保健福祉士』としての具体的な活動のポイントをマスターする。	メッセージ 精神障害者の生活支援について必要な基礎知識を学びながら、普段意識することのない「私たちの生活」を感じた時に気付く「人間らしく生きること」を学びます。
	到達目標 精神保健福祉士として、精神障害者をサポートしていく上で必要なスキルを獲得し、精神疾患になっても安心して生活できる社会のあり方を理解する。「もしも自分が精神障害者になったら・・・」という視点を大事に支援活動を行い、人間らしく生きるために必要な気づきと実践力を獲得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 講義の目的について	講義を学ぶ意義について整理する
	2	精神障害者の概念①	教科書の授業のテーマ部分を熟読
	3	精神障害者の概念②	教科書の授業のテーマ部分を熟読
	4	精神障害者の生活の実際①	教科書の授業のテーマ部分を熟読
	5	精神障害者の生活の実際②	教科書の授業のテーマ部分を熟読
	6	精神障害者の生活と人権	教科書の授業のテーマ部分を熟読
	7	精神障害者の居住支援①	教科書の授業のテーマ部分を熟読
	8	精神障害者の居住支援②	教科書の授業のテーマ部分を熟読
	9	精神障害者の就労支援①	教科書の授業のテーマ部分を熟読
	10	精神障害者の就労支援②	教科書の授業のテーマ部分を熟読
	11	行政における相談援助	教科書の授業のテーマ部分を熟読
	12	精神障害者の地域生活支援システム①	教科書の授業のテーマ部分を熟読
	13	精神障害者の地域生活支援システム②	教科書の授業のテーマ部分を熟読
	14	精神障害当事者との語らい①	精神障害当事者への質問を準備
15	精神障害当事者との語らい②	当事者と対話して感じたことを整理	
16	まとめ 試験またはレポート提出	学んだ事、気づいた事を整理する。	
	テキスト・参考文献・資料など		
	①『技法以前一べてるの家のつくりかた（シリーズ ケアをひらく）』 向谷地 生良 著 医学書院		
	②精神障害者の生活支援システム 日本精神保健福祉養成校協会 編集		
	①をテキストとして使用します。講義内で読み合せしながら、精神障害者へのまなざしのコツを学びます。		
	②精神保健福祉士として精神障害者を支援するために必要な基礎知識を学びます。（資料配布）		
	学びの手立て		
	講義参加者が感じたことを発言しやすい席の配置を工夫します。		
	講義内で把握した専門用語について、インターネット検索などを活用しながら再確認して頂く。 精神障害者の生活支援の現状の課題などを動画を通してさらに理解を深める。 精神障害者の生活支援における課題とは何か？その課題解決のために何が必要なのか？ 講義を通して感じた「？：疑問」を大事にしたいと思います。		
	評価		
	2/3以上の出席を前提とする。講義中の参加態度（50%）、試験またはレポート（50%）によって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 講義後半もしくは講義終了後に予定される現場実習にて感じる「？：疑問」と講義内容で感じた疑問「？：疑問」はどのように違うのか？その違いはなぜ起こったのか？を検証するために、『精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ』を履修することを勧めます。
-------	---

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシー1. 社会福祉専門職を養成する教育および2. 実践的活動を重視した教育に対応している。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神保健学 I	前期	木 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-渡邊 浩樹	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 今後社会福祉実践を行って行く上で、メンタルヘルスは避けて通れないテーマとなっている。この講義では、メンタルヘルスの現状とともに、それをどのように見ていくのかを受講する学生のみなさんに考えていただくような講義となる。	メッセージ この講義は精神科医としての経験を生かした、実践を前提とした講義内容となっている。
	到達目標 1 精神保健やメンタルヘルスの歴史・現状についての理解か すすむ 2 精神保健やメンタルヘルス実践の対象となっている人達の実情についての理解か すすむ 3 地域における精神保健実践について考えることか て できるようになる	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の導入およびオリエンテーション	主な精神疾患の調べ学習
2	精神保健の概要と課題 (1)	教科書第1章1節・2節読む	
3	精神保健の概要と課題 (2)	教科書第1章3節読む	
4	精神保健の概要と課題 (3)	精神保健の概要について調べ学習	
5	精神の健康とその要因 (1)	教科書第2章1節・2節読む	
6	精神の健康とその要因 (2)	教科書第2章3節・4節読む	
7	精神の健康とその要因 (3)	教科書第2章5節・調べ学習	
8	精神の健康への関与と支援 (1)	教科書第3章1節・2節読む	
9	精神の健康への関与と支援 (2)	教科書第3章3節・4節読む	
10	精神の健康への関与と支援 (3)	配付資料読む	
11	精神の健康への関与と支援 (4)	精神的健康の調べ学習	
12	事例を通して学ぶ	事例を事前に読む	
13	精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ (1)	第4章1節・2節読む	
14	精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ (2)	第4章3節・4節読む	
15	事例を通して学ぶ	事例を事前に読む	
16	まとめ・試験	試験・課題の準備	
	テキスト・参考文献・資料など (1) 「新・精神保健福祉士養成講座2 精神保健の課題と支援」中央法規 (2) 「看護のための精神医学」(中井久夫+山口直彦著)医学書院 (3) 資料のコピーを配布 講義初日にどの教科書をどのように準備するか指示します。		
	学びの手立て 精神保健の分野には多様性があります。是非自分の興味のある分野を特定してきていくといいかと思います。		
	評価 1 講義への出席は2/3以上を評価の前提 2 課題の提出 (30%) 3 講義中のディスカッション等への参加状況 (20%) 4 期末テスト・期末課題の提出の有無とその内容 (50%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 精神保健福祉士養成課程の学生は以下の科目が関連科目となる 関連科目：精神保健福祉士受験資格科目 次のステージ：精神保健福祉援助演習および 精神保健福祉援助実習など 精神保健福祉士養成課程以外の学生は、「精神医学」(通年)の履修も参考となる。
-------	---

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシー1. 社会福祉専門職を養成する教育および2. 実践的活動を重視した教育に対応している。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神保健学Ⅱ	後期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-渡邊 浩樹	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 今後社会福祉実践を行って行く上で、メンタルヘルスは避けて通れないテーマとなっている。この講義では、メンタルヘルスの現状とともに、それをどのように見ていくのかを受講する学生のみなさんに考えていただくような講義となる。	メッセージ この講義は精神科医としての経験を生かした、実践を前提とした講義内容となっている。
	到達目標 1 精神保健やメンタルヘルスの歴史・現状についての理解か すすむ 2 精神保健やメンタルヘルス実践の対象となっている人達の実情についての理解か すすむ 3 地域における精神保健実践について考えることか て できるようになる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の導入およびオリエンテーション・精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ	教科書第4章5節・第6節を読む
	2	精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ	教科書第4章7節・8節を読む
	3	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ (1)	教科書第5章1節・2節を読む
	4	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ (2)	教科書第5章3節・4節読む
	5	事例で考える	事前に事例を読む
	6	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ	教科書第6章を読む
	7	精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割 (1)	教科書第7章1節・2節を読む
	8	精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割 (2)	教科書第7章3節～5節読む
	9	精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割 (3)	教科書第7章6節～8節読む
	10	事例で考える	事例を事前に読む
	11	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ (1)	教科書第8章1節～3節
	12	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ (2)	教科書第8章4節～8節
	13	事例で考える	事例を事前に読む
	14	地域精神保健に関する諸活動	教科書第9章を読む
15	初夏外国の精神保健活動の現状および対策	教科書第10章を読む	
16	まとめ・試験	試験・課題の準備	
実践	テキスト・参考文献・資料など (1) 「新・精神保健福祉士養成講座2 精神保健の課題と支援」中央法規 (2) 「看護のための精神医学」(中井久夫+山口直彦著)医学書院 (3) 資料のコピーを配布 講義初日にどの教科書をどのように準備するか指示します。		
	学びの手立て 精神保健の分野には多様性があります。是非自分の興味のある分野を特定してきていくといいかと思います。		
	評価 1 講義への出席は2/3以上を評価の前提 2 課題の提出 (30%) 3 講義中のディスカッション等への参加状況 (20%) 4 期末テスト・期末課題の提出の有無とその内容 (50%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 精神保健福祉士養成課程の学生は以下の科目が関連科目となる 関連科目：精神保健福祉士受験資格科目 次のステージ：精神保健福祉援助演習および 精神保健福祉援助実習など 精神保健福祉士養成課程以外の学生は、「精神医学」(通年)の履修も参考となる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	前期	月6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	高橋（8）、真栄平（8）	2年	学務課を通して担当講師に連絡するようお願いいたします	

学びの準備	ねらい この講義は主に精神保健福祉士を目指している学生に対して、精神保健福祉士としての実践の基本的な視点を身につけてもらうための内容となっています。社会福祉の中でも、精神障害者を中心とした人達との共存のありかたを考えることのできる講義にしていきます。	メッセージ 精神障害者への「支援」ではなく、「共存」の在り方を考えていける講義であればいいと思っています。
	到達目標 ①社会福祉実践の基礎的な視点を持てるようになる。 ②精神障害者が障害・疾患を抱えて生きる現実と生きづらさへの共感的視点を養う。 ③精神医療・保健・福祉・教育をはじめとする、様々な関連機関の実践の現状（連携協力とすれちがい）についてとらえることができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の導入およびオリエンテーション	教科書p2～37
	2	精神保健福祉士の役割と意義1	教科書p2～37
	3	精神保健福祉士の役割と意義2	教科書p2～37
	4	社会福祉士の役割と意義1	教科書p38～53
	5	社会福祉士の役割と意義2	教科書p38～53
	6	相談援助の価値と理念1	教科書p78～97
	7	相談援助の価値と理念2	教科書p78～97
	8	相談援助の形成過程1	教科書p98～135
	9	相談援助の形成過程2	教科書p98～135
	10	精神保健福祉分野における相談援助の体系1	教科書p136～165
	11	精神保健福祉分野における相談援助の体系2	教科書p136～165
	12	精神保健福祉分野における相談援助の体系3	教科書p136～165
	13	精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲	教科書p166～205
	14	精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲	教科書p206～255
	15	精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携	教科書p256～289
	16	講義のまとめ・試験	今期の講義の復習
	テキスト・参考文献・資料など 詳細は講義の際に説明する。以下のテキストの使用を検討している。 『新・精神保健福祉士養成講座3 精神保健福祉相談援助の基盤（基礎・専門）』日本精神保健福祉士養成校協会編集 中法規出版		
	学びの手立て 社会福祉実践としての精神保健福祉の基礎的な概念を学ぶ講義であることを認識して受講していただければと思います。		
	評価 ①講義への参加・出席（2/3以上の出席が評価の前提となる） ②課題の提出（40%） ③講義中のディスカッション等への参加状況（40%） ④期末テスト・期末課題の提出の有無とその内容（20%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：精神保健福祉士受験資格科目 次のステージ：精神保健福祉援助演習および精神保健福祉援助実習など
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神保健福祉に関する制度とサービス	通年	火6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	熊谷(16)、比嘉俊江(11)、金城由美(4)	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 精神疾患のケアや再発の予防だけでなく、精神疾患を患いつつも結婚や子育てなど日常生活をどのように支えるか実践事例などの活用しながら、今後の精神保健福祉のありかたや、支援者として制度・サービスをどのように活かすことが求められているかを考察する。	メッセージ 近年、福祉制度はより良い制度を目指しながら法改正を繰り返している。その制度を扱う支援者の関わり方が支援へ大きく影響を与えることから、講義では制度の理解と、制度があることの意味を検討する。
	到達目標 精神保健福祉制度やサービスの利用が該当するかどうかという判断力だけでなく、支援を提供することで支えられることと、支援を提供することで失うものなど、日常生活や社会的環境との相互関係を理解する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	精神障害者の相談援助活動 —精神保健福祉に関する制度とサービスの相互作用の理解—	教科書の授業内容部分を事前に読む
	2	精神保健福祉法の成立まで —精神病患者監護法から精神保健法成立までの経緯—	教科書の授業内容部分を事前に読む
	3	精神保健福祉法の成立まで —精神保健法から精神保健福祉法成立までの経緯—	教科書の授業内容部分を事前に読む
	4	精神保健福祉法の成立まで —精神保健福祉法成立の意義とその後の変化—	教科書の授業内容部分を事前に読む
	5	精神保健福祉法の成立まで —障害者自立支援法成立による変化—	教科書の授業内容部分を事前に読む
	6	精神保健福祉法の構成	教科書の授業内容部分を事前に読む
	7	精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割	教科書の授業内容部分を事前に読む
	8	精神保健領域における近年の動向について	教科書の授業内容部分を事前に読む
	9	障害者基本法と精神障害者施策とのかかわり	教科書の授業内容部分を事前に読む
	10	障害者自立支援法における精神障害者の福祉サービス	教科書の授業内容部分を事前に読む
	11	精神障害者等を対象とした福祉施策・事業	教科書の授業内容部分を事前に読む
	12	社会保障制度と社会福祉制度の違いとその役割	教科書の授業内容部分を事前に読む
	13	医療保険制度	教科書の授業内容部分を事前に読む
	14	介護保険制度	教科書の授業内容部分を事前に読む
	15	経済的支援に関する制度	教科書の授業内容部分を事前に読む
	16	相談援助にかかわる行政組織と民間組織	教科書の授業内容部分を事前に読む
	17	福祉サービス提供施設・機関の役割	教科書の授業内容部分を事前に読む
	18	専門職や地域の支援者等	教科書の授業内容部分を事前に読む
	19	刑事司法と更生保護	教科書の授業内容部分を事前に読む
	20	保護観察所と更生保護の担い手	教科書の授業内容部分を事前に読む
	21	司法・医療・福祉の連携の必要性和実際	教科書の授業内容部分を事前に読む
	22	医療観察法の意義と内容	教科書の授業内容部分を事前に読む
	23	医療観察法の審判と精神保健参与員の役割	教科書の授業内容部分を事前に読む
	24	指定入院医療機関における処遇	教科書の授業内容部分を事前に読む
	25	地域処遇 —精神保健観察—	教科書の授業内容部分を事前に読む
	26	社会復帰調整官の役割と実際	教科書の授業内容部分を事前に読む
	27	社会調査の意義と目的 —社会調査の対象と倫理—	教科書の授業内容部分を事前に読む
	28	量的調査法と質的調査法の違いと活用における留意点	教科書の授業内容部分を事前に読む
	29	ICTの活用方法	教科書の授業内容部分を事前に読む
30	社会調査をもとに社会資源の調整・開発に結びつけた事例	教科書の授業内容部分を事前に読む	
31	これまでの講義の振り返りおよびテスト	教科書の授業内容部分を事前に読む	

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 講義では下記のことを教科書として使用します。</p> <p>新・精神保健福祉士養成講座6「精神保健福祉に関する制度とサービス」 中央法規 ￥2,700（税別） 制度を理解するために「障害者総合支援法とは・・・」 東京都社会福祉協議会 ￥400（税別）</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>講義形式とグループディスカッションを併用してカリキュラムを進めていきます。そのために制度とサービスの概要だけでなく、学生同士での意見交換を求め、相談援助として必要なコミュニケーションを意識して下さい。</p>
	<p>評価</p> <p>各講師からの授業時間内の課題（50%）および授業時間外の課題・レポート（50%）、および2/3以上の出席を前提とする</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：精神保健福祉士受験資格科目 次のステージ：精神保健福祉援助演習および精神保健福祉援助実習など</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I	前期	木 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	2年	人間福祉学科 知名孝	

学びの準備	ねらい 精神障害者への理解とリハビリテーション、そして地域支援の方法と現状を紹介していく中で、私たちが精神障害（者）とどのように向き合うべきかを考えていく講義である。具体的なケース検討などを交えながら講義を進めて行く。	メッセージ この講義は精神保健福祉士・臨床心理士・公認心理師として勤務歴のある実践者としての経験を生かした、実践を前提とした講義内容となっている。
	到達目標 ①精神障害者の歴史を理解した上で、彼らが抱える「生きづらさ」に関する理解がすすむ。 ②精神障害者のリハビリテーションと地域支援についての理解がすすむ。 ③精神障害者への相談・支援の具体的方法論について習得する。 ④具体的支援方法を以下に適応するかについての「支援のコツ」について習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	導入・基礎知識の確認	精神疾患についての調べ学習
	2	基礎知識の確認	精神疾患についての調べ学習
	3	基礎知識の確認	教科書1第1章事前に読む
	4	精神保健医療福祉の歴史と動向	教科書1第1章事前に読む
	5	精神保健医療福祉の歴史と動向	教科書1第2章事前に読む
	6	精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識	教科書1第2章事前に読む
	7	精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識	教科書1第2章事前に読む
	8	精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識	教科書1第3章事前に読む
9	精神科リハビリテーションの概念と構成	教科書1第3章事前に読む	
10	精神科リハビリテーションの概念と構成	教科書1第3章事前に読む	
11	精神科リハビリテーションの概念と構成	教科書1第4章事前に読む	
12	精神科リハビリテーションのプロセス	教科書1第4章事前に読む	
13	精神科リハビリテーションのプロセス	教科書1第4章事前に読む	
14	精神科リハビリテーションのプロセス	配布の事例資料を事前に読む	
15	事例検討・まとめ	試験に備える	
16	試験	試験の振り返り	
	テキスト・参考文献・資料など 詳細は講義の際に説明する。以下のテキストの使用を検討している。 『新・精神保健福祉士養成講座 5 精神保健の理論と相談援助の展開 I・II』日本精神保健福祉士養成校協会編集 中法規出版		
	学びの手立て 講義中行うケース検討やその発表などへの参加は評価の対象としており、事例のなかから積極的に学んでもらいたい。		
	評価 ①講義への出席は3/4（12回）以上を評価の条件とする。 ②課題の提出・定期テストの結果（60%） ③講義中のディスカッション等への参加状況（10%） ④期末テスト・期末課題の提出の有無とその内容（30%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 精神保健福祉士養成課程の学生は以下の関連科目があります。 次のステージ・関連科目 関連科目：精神保健福祉士受験資格科目
-------	---

※ポリシーとの関連性

今日の社会課題を理論的に分析するとともに、実際に現場に関わりながら社会福祉実践に活かせる具体的な能力や技能を養います。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 a	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	2年	演習終了後に受付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	福祉ニーズの多様化・複雑化に伴い、新たなサービス提供システム構築、具体的には社会から排除された人々が包括され人権が保障され安心して暮らすことができるインクルーシブな社会構築が課題となっている。演習では市民社会、協働、インクルージョン、社会資源の発掘等をキーワードにして理論と実践を学ぶ。また、実際にアクションを起こしている人々を訪問して話を伺う。	本科目では、まず、今日の社会問題を丁寧に掘り下げて現状と課題を理解します。その上で、地域包括支援、異分野異業種との連携、協働によるまちづくり等の手法をゼミメンバーと共に学んでいきましょう。また、すでに社会変革のアクションを起こしている方々との交流やゼミ合宿を通して互いの知的探求心を刺激していきましょう。
到達目標	多様な人々がお互いの違いを認め合い尊重しあえる社会を構築するために社会福祉が貢献できることは何か考えることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション① ゼミの概要説明、ゼミ生自己紹介	配布資料を読む
	2	オリエンテーション② ゼミの体制づくり、スケジュール確認	配布資料を読む
	3	講義①：現代社会をキーワードで理解する	講義時に示す課題をまとめる
	4	講義②：協働によるまちづくりについて理解する	講義時に示す課題をまとめる
	5	協働によるまちづくりの個別研究の目的と、作成に向けた準備方法を理解する	個別面談に向けて研究計画作成
	6	個別面談①	個別面談に向けて研究計画作成
	7	個別面談②	個別面談に向けて研究計画作成
8	協働によるまちづくりの実践者の講話	講話の感想をまとめる	
9	個別研究発表①	ディスカッションを深める	
10	個別研究発表②	ディスカッションを深める	
11	個別研究発表③	ディスカッションを深める	
12	個別研究発表④	ディスカッションを深める	
13	個別研究発表⑤	演習テーマについてレポート作成	
14	個別研究発表⑥、施設訪問事前学習	演習テーマについてレポート作成	
15	協働によるまちづくりの実践者訪問	訪問の感想をまとめる	
16	まとめ	演習をふりかえる	
	テキスト・参考文献・資料など	ゼミの時間に随時紹介します。	
	学びの手立て	①本演習は学生ひとりひとりの主体的参加が不可欠です。誰かの指示を待つのではなく、自ら考え行動しましょう。 ②協働によるまちづくりや障害児者に関連する講演会やシンポジウム、また、ボランティア活動に積極的に参加しましょう。 ③図書館を活用し、国内外の理論や実践を広く学びましょう。	
	評価	研究成果発表（40%）、レポート（30%）、ゼミ活動への主体的参加（30%）、	

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習aで培った知識と経験を専門演習bにつなげていきましょう。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 a	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小柳 正弘	2年	mkoyanagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	理論的には、書いたり話したりすることで自分の問題意識や立ち位置を探り、対話を通して様々な問題を多面的に(ときに根底的に)検討/「現場」に関して理論的な考察を深める/先行研究を整理し調査を実施して卒業論文にむけて研究計画を作成、実践的なテーマとして、アートとケア/動物介在療育/障害者法制/療育教材教具開発製作/園芸福祉のための農園芸/イベント・ファシリテート等	私自身は、障害学や自己決定などにかかわる理論的な研究のほか、ケアとしてのアートや園芸福祉などに関心をもっています。「頭を働かせて身体を動かす」ことをいとわないのであれば、どんなテーマに取り組む学生にもつきあうつもりです。
到達目標	関連する諸問題や先行研究に関する多面的な検討をふまえたうえで、(卒業論文につながる)自身固有の問題意識を方法論の想定も含めて明瞭かつ判明に説明できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>*2年次では、まず、それぞれの問題関心をふりかえるとともに、研究の基本的な作法を学ぶ。 *発表/報告等のレジュメ、特定質問、コメント等の作成、ワークショップ/体験等の準備などは時間外の学習として行う(第1回-第15回)。 *授業方法は、第1回から第15回まで対面授業を原則とする。ただし、新型コロナウイルス感染症関連等で対面に不都合がある学生については特例授業 (Teamsによるオンラインまたは課題研究等) (特)で対応する。 *対面授業が困難になった場合に備え、全員が特例授業 (Teams等)に対応するためのスキルを習得する。 第1回 オリエンテーション、履修状況セルフ/ピア・チェック、問題関心の確認。 第2回 問題関心の確認・先行研究の探索 第3回-第15回は以下の通り(順不同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リテラシー自己評価シートの作成と他の受講者と科目担当者によるコメント ・基本的なアカデミックスキル習得のためのテキストの講読(受講生が分担してレジュメを作成) ・各自の問題関心にそった先行研究の探索 ・先行研究についての概要発表と他の受講者と科目担当者による質疑・コメント ・各自の研究課題のキーワードについての概要発表と他の受講者と科目担当者による質疑・コメント ・社会福祉の諸問題
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白井・高橋著『よくわかる卒論の書き方第2版』ミネルヴァ書房 <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田中千枝子編集代表『社会福祉・介護福祉の質的研究法-実践者のための現場研究』中央法規 ・荒井浩道『ナラティブ・ソーシャルワーク - (支援)しない支援の方法』新泉社 ・徳川直人『色覚差別と語りづらさの社会学』生活書院
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ともに学ぶことに主体性をもってとりくむ」というスタンスで、対話を通して、自分以外のゼミ生がどんなことにどんな関心をもっているのかも含め、さまざまな問題を多面的に(ときに根底的に)検討する。 ・理論的学習においても実践的学習においても、何が必要とされるかを考えることも含めて、まずは自らの創意工夫で理論的な準備を試みる。 ・学んだことは、その都度、文字にして、他者との対話のなかで、その意義を検証してみる。
評価	<p>①授業中の発表/報告/議論/質疑/コメントを内容と形式(積極性も含む)から評価30%、②授業(時間外の学習も含む)の準備・成果を主体性・協働性の観点から評価20%、③時間外に作成した卒業論文の研究計画等・レジュメ・レポート等(特定質問、コメント、レジュメの修正版も含む)など提出物を形式と内容から評価50%</p> <p>①②③の合計で100点 *遅刻・早退は二回で欠席一回と見なす。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 b
-------	-----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 a	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	樋口 美智子	2年	授業終了後に教室で受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailへしてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	相談援助を必要とする人々、特に病気や障がいを抱えながら生活する人々や、その生活問題を理解するために、「ソーシャルワークの価値・倫理」「医療福祉の概念」や「医療における尊厳と権利」等を学ぶ必要があります。また、ピアサポートやサバイバーシップ等を学ぶことにより、ソーシャルワークにおけるエンパワメントの理解を深めます。	患者さんやご家族は、いのち・こころ・くらしの問題を抱えながら生活しています。一方で、個性豊かな人として、家庭人として社会人として、様々な役割を果たしてまいります。人々から直接、話を聴くことは、社会福祉の専門職として、最も基本的で重要な出発点です。患者さんやご家族が、どのように自分らしい生活をしているか実際に会に参加する等して教えていただきます。
到達目標	①ソーシャルワークの価値・倫理に基づいて、病気や障がいを抱えながら生活する人々を理解し、説明できる。 ②保健医療分野における患者会・家族会活動等について、事例を通じて説明できる。 ③「患者の権利と義務」について説明できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション①：ゼミの概要説明、自己紹介	配布資料を読む
	2	オリエンテーション②：ゼミの進め方等について、学びたいことについて	配布資料を読む
	3	講義①：「患者」を理解するための視点について<DVD視聴・図書等>	講義時に示す課題をまとめる
	4	講義②：「家族」を理解するための視点について<DVD視聴・図書等>	講義時に示す課題をまとめる
	5	講義③：「ピアサポート」「サバイバーシップ」を理解するための視点について<DVD視聴・図書等>	講義時に示す課題をまとめる
	6	グループスタディ①：グループスタディの目的と方法について	グループスタディの計画を作成する
	7	グループスタディ②：患者・家族の手記・闘病記等について調べる	テーマについてレポートを作成する
	8	グループスタディ③：患者会・家族会等について調べる	テーマについてレポートを作成する
	9	見学①：患者会・家族会等を見学する	準備・方法・役割分担等を作成する
	10	見学②：患者会・家族会等を見学する	準備・方法・役割分担等を作成する
	11	グループスタディ④：発表内容を作成する	発表の準備をする
	12	グループスタディ⑤：発表内容を作成する	発表の準備をする
	13	グループ発表①	発表の準備をする
	14	グループ発表②	発表の準備をする
15	全体共有	演習を振り返る	
16	まとめ	演習テーマのレポートを作成する	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキスト：『大学生学びのハンドブック 4訂版』、世界思想社編集部編、世界思想社、2019年 参考文献： ・『支援者が成長するための50の原則-あなたの心と力を築く物語-』、川村隆彦著、中央法規、2007年 ・『患者の声を医療に生かす』、大熊由紀子、関原成充、服部洋一編著、医学書院、2006年

学びの手立て	①一人一人が積極的・主体的に参加し、自ら考え発言すると共に、仲間と協力して取り組みましょう。 ②患者会・家族会等に関する講演会やシンポジウム、ボランティア活動に積極的に参加しましょう。 ③図書館等を活用し、沖縄県だけではなく、日本や世界における実践・活動も広く学びましょう。
--------	---

評価	・平常点：質問や発言の有無、積極的・協調的なグループワーク参加態度等を適宜加算します。（30%） ・時間外学習レポートの提出状況・到達度を評価します。（20%） ・個人レポート、グループレポートの提出状況・到達度を評価します。（50%）
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目：「保健福祉政策論」「保健医療サービス」「医療福祉論」 (2) 次のステージ：専門演習aで学んだ知識と経験を専門演習bに繋げていきます
-------	---

科目基本情報	科目名 専門演習 a	期 別	曜日・時限	単 位
	担当者 比嘉 昌哉	前期	水 2	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2 年	比嘉研究室：5-418 mahiga@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい 広くは「子ども家庭福祉」をテーマとする。全体を通してグループディスカッションや論文購読を行い、プレゼン能力やレポート・論文作成能力を培う。フィールドワークとしては、児童福祉施設等の福祉現場や学校等の教育現場に足を運び、自ら見聞し、学びを深める。また、授業のねらいとしてソーシャルワーカーとしての知識・技術・倫理観の確立を掲げる。	メッセージ 本科目は「子ども家庭福祉」を学ぶ第一歩となるゼミである。自らの関心事に焦点を当てつつ、幅広く学んでください。受け身ではなく、ゼミ生からの積極的な提案を期待する。COVID-19の影響でZoom等を活用してオンライン授業になる可能性もある。ポータル等大学からの連絡をこまめに確認して下さい。		
	到達目標 子どもに現れてくる諸問題について講義・ゼミ等で学ぶと同時に、自ら現場に足を運ぶことで現場の実態を肌で感じとる。それらにより、支援者として専門性を身につける重要性を認識する。最終的に、子どもの支援者として必要な基礎知識・技術を身につける。			
学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 子どもの抱える諸問題の背景には、保護者を含む家庭の問題がある。つまり、子どもを支援する際には家庭で起こる問題を避けて通ることはできない。そのため、子どもを取り巻く環境(家庭・地域等)を理解しなければならない。 本科目では特に「スクールソーシャルワーク」と「子どもたちに現れてくる諸問題」に焦点を当て展開する。 1. 「スクールソーシャルワーク」 ・その現状及び課題 ・諸外国の現状(英書講読含む) ・学校等関係機関の理解 など 2. 「子どもたちに現れてくる諸問題」その1 ・子どもの貧困 ・児童虐待 ・いじめ など なお、現場理解のためボランティア活動及びゼミ単位での機関/施設への訪問も計画する。			
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて、授業時に提示する。			
	学びの手立て 本科目は、講義形式で受け身で受講するものではない。他ゼミ生とともに積極的に取り組み、学問を探究し、その成果等を発表してもらおう。そのために、図書館を大いに活用すること。			
	評価 出席は平常点とし、授業態度;積極的な参加(20%)、レポート(80%)等を総合して判断する。			
学びの継続	次のステージ・関連科目 引き続き「専門演習 b」で子ども家庭福祉について学ぶ。 関連科目：「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」「スクールソーシャルワーク論」等。			

※ポリシーとの関連性

国際性を日本や他国での経験がある人からの話や施設訪問などの体験を通して学んでいく。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 a	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド・クレイグ・ウィルコックス	2年	Email:d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この演習で取り組む内容は世界を取り巻く福祉の状況や国際福祉の基本的な考え方が中心となる。国際福祉の基本的な概論や現状や動向をグループ発表形式を行いながらゼミ全体で共有・理解を深めていくことを目的とする。	大学内だけのゼミだけではなく、施設訪問などを取り入れた活動的な内容も行う。学生には県内にはどのような国際福祉分野に関する施設があるかを情報共有して欲しい。定例の施設見学も予定しているが、学生の興味のある施設を見学できるよう調整していきたい。「社会調査士」の資格取得を希望する学生は、履修ガイドを参照し、既定の講義を履修すること。
到達目標	国際福祉の基本的な考え方、何が問題となっているのかを理解できるようになる。その考えを元に自分がどの国際福祉の分野に興味があるかを決めることができ、その分野の情報を積極的に集められるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	本演習像の把握と国際福祉を考える
	2	グローバル化時代の意義	配付資料の精読
	3	ディスカッション	前回の内容の確認と考えをまとめる
	4	国際社会福祉をテーマにしたDVD鑑賞	事前連絡した内容について調べる
	5	国際社会福祉の位置づけ	テキスト1章の精読
	6	国際社会福祉の沿革	テキスト2章の精読
	7	国際社会福祉の課題	テキスト3章の精読
8	国際社会における支援活動1	テキスト4章の精読	
9	国際社会における支援活動2	テキスト4章の精読	
10	ゲストレクチャーによる講演（予定）	今までの内容を整理しておく	
11	沖縄県内の国際社会福祉施設について	該当施設に関連する事前学習を行う	
12	JICA見学ツアー（予定）	JICAについて調べておく	
13	各国の社会福祉についての現状1	テキスト5章の精読	
14	各国の社会福祉についての現状	テキスト5章の精読	
15	前期まとめ	今までの学習内容を書面にまとめる	
16	後期に向けて	今までの内容を整理しておく	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	<ul style="list-style-type: none"> 川村匡由、「国際社会福祉論」 ミネルヴァ書房 を使用しながら演習を進めていく。 参考文献として 仲村優一,他『グローバル化と国際社会福祉』2002年 ジェームス ミッジリイ(1999)『国際社会福祉論』中央法規 その他、必要に応じて資料を配布または紹介する。 		
	<p>学びの手立て</p> <p>積極的な議論に参加をするために、各自が他グループの発表の前には発表予定項目・資料等の事前精読を必ず行うこと。それら知識を元に議論のための意見・質問等を積極的に行うこと。この活動を行うなかで自分の国際福祉分野に関する興味を持てる分野を見つけて欲しい。それが3年次の課題研究へとつながる材料となる。</p>		
	評価	授業参加度（20%）課題の提出状況・内容（80%）を基本とし、総合的に評価を行う。	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この講義後は「専門演習 b」へと繋がります。各自興味のある海外福祉関連ボランティアや、国際フィールドワークへ参加をすすめる。海外の福祉について考えることのできる「海外社会福祉演習 I・II」への参加も検討して欲しい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 a	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	2年	人間福祉学科 知名孝	

学びの準備	ねらい 1) 発達障害児への支援、2) インタビュー調査を学ぶことをねらいとします。月2回のソーシャルスキル・トレーニングへの参加を通じ、発達障害児への支援について学びます。後期には保護者へのライフストーリーインタビューを通じインタビュー調査への導入を行います。	メッセージ この講義は精神保健福祉士・臨床心理士・公認心理師としての実践を生かし、実践を前提とした講義内容となっている。
	到達目標 発達障害児とその保護者への理解。インタビュー調査方法への理解。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>以下のテーマについて学生の学びのペースに合わせて進行してく。</p> <p>1. 発達障害児への支援について： (1) 基礎知識の習得：発達障害の医学的知識（診断基準、二次障害、周辺症状や問題）についての学習、発達についての概念、社会環境・子どもの生活の子どもの発達・発育への影響などについて学んでいく。 (2) 地域の児童デイサービスと親の会と実施するソーシャルスキルトレーニング、リトミックなどのグループワークを通じて、「実践」を学んでいく。 2. 発達障害児をもつ親の語りからの学び： (1) 基礎知識と実践を積み上げた上で、発達に偏りを持つ子どもの現状、そういう子どもを持つという経験について親のインタビューを行い、語りのなかから学びを深める。 (2) インタビューを通して、インタビューの方法、得られたデータの解釈の方法、まとめ方を学ぶ。</p> <p>コロナウイルス感染状況に応じてOnlineによる特例授業になることもあります。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>ゼミのなかで指定していく</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>実習・演習と座学とを比較しながら学びを深めていく。</p>
	<p>評価</p> <p>ゼミで行われる発表（50％）その他の課題（50％）2/3以上の出席を単位認定の条件とする。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>専門演習 b が次のステージ・関連科目となる。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 a	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	2年	講義終了後あるいはメール等で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>当演習ゼミは、3年次で実施する社会学の実証研究（社会調査）のための基礎的な視点、方法、概念・理論を学び、社会調査の準備を行う。とくに、社会学的な問題発見、テーマ設定、そして社会調査に向けた学問の応用方法などを習得するための演習となる。</p>	<p>当演習ゼミは、3年次で社会調査を実践し、報告書を作成するための基礎的な学習をします。社会学と社会調査の素材は皆さんの身近にたくさんあります。社会学の学習と社会調査の実践は大変な作業を伴いますが、他者の声に耳を傾ける姿勢を身につけ、みんなで励ましあい、支えあい、学び合いながら研究成果をまとめていきましょう。</p>
到達目標	社会学の基本、とくに基本的な視点と概念、そして理論を習得すること。また、社会調査のテーマ設定の基本、調査技法の基本を習得すること。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>専門演習aでは、社会学の基本的な視点や概念、そして理論の学習を行なう。ただし、文献を読んで発表するだけでなく、グループでのディスカッションや学習活動・発表などを通して、実践的に社会学の基礎を理解する。つまり、学問の抽象的な用語（概念）を身近な社会現象や私たちの行いや発言を通して理解していこうというものである。</p> <p>また、3年次の社会調査の実践に向けて、その予備訓練も随時行う。例えば、ショッピングモールを観察法の現場としたり、那覇、コザ、名護などの商店街でも聞き取り調査のための探索を行う。そして、沖縄の現代的な社会問題が生起している現場、あるいはそれが歴史的に継続している現場に赴き、その背景に蓄積された人々の生活、運動、思いも感受できるような訓練も行う。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>とくにテキストは指定しない。社会学の基礎、予備的調査に関する資料、社会調査の技法に関する参考書等を適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>最低限、社会学に関心をもつこと。そのためには、現代社会および沖縄社会に関心をもつこと。それがなければ社会調査自体に取り組むことは絶対にできない。よって、日頃からニュースをよく見聞きすること。とくに新聞は社会の時事情報の「宝庫」なので、可能なかぎり目を通すこと。</p> <p>また、社会調査では、他者は一方的に視かれ、聞き取られる存在。よって、社会調査上の倫理は必ず身に付けること。その心構えとして、他者を尊重し敬うこと。他者を決めつけないこと。それがなければ、真摯に他者の声を聞き取り、みることはできない。</p>
評価	演習プログラムへの取り組み姿勢（平常点）が50点、個人やグループに与えられた課題の内容と精度が50点。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：専門演習b、専門演習c、専門演習d</p> <p>次のステージ： 専門演習aで身につけた社会学の基礎知識と視点を活かして、社会調査のテーマを具体化する。 また、3年次の専門演習で行われる社会調査の実践につなげていくこと。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

今日の社会課題を理論的に分析するとともに、実際に現場に関わりながら社会福祉実践に活かせる具体的な能力や技能を養います。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習b	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	2年	演習終了後に受付ます。	

学びの準備	ねらい 専門演習aで学んだことを踏まえてさらに社会課題について学びます。また、ディベート、自主企画を通して地域包括支援、多職種連携、協働によるまちづくり等の事例を具体的に学びます。	メッセージ 演習では、たくさんディスカッションをしましょう。また、地域でアクションを起こしている方々と交流していきましょう。既存の価値観にとらわれず、新たな価値を創造していきましょう。本科目は奇数週に ^{対面} 講義を行い、偶数週は ^{オンライン} で行います。
	到達目標 多様な人々がお互いの違いを認め合い尊重しあえる社会を構築するために社会福祉が貢献できることは何か議論を深めます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 前期のふりかえり (対面)	配布資料を読む
	2	グループ企画①学生企画プロジェクトの概要説明	ディベートのテーマを考える
	3	グループ企画②テーマ設定、グループ決め (対面)	グループごとに調べ学習
	4	グループ企画③グループで話し合い	グループごとに調べ学習
	5	グループ企画④グループで話し合い (対面)	グループごとに調べ学習
	6	グループ企画⑤グループ1のプロジェクト	レポートをまとめる
	7	グループ企画⑥グループ2のプロジェクト	レポートを作成する
	8	グループ企画⑦グループ3のプロジェクト	訪問報告をまとめる
	9	グループ企画⑧ふりかえり	企画運営のテーマについて考える
	10	ディベート大会①目的および概要説明、テーマ決定	企画運営のテーマについて考える
	11	ディベート大会②準備	グループごとに調べ学習
	12	ディベート大会③準備	グループごとに調べ学習
	13	ディベート体会④実施	グループごとに調べ学習
	14	ディベート大会⑤実施	レポートを作成する
15	ディベート大会⑥実施	レポートを作成する	
16	演習ふりかえり	演習のふりかえり	
	テキスト・参考文献・資料など 演習の時間に随時紹介します。		
	学びの手立て ①積極的にボランティア活動に参加し、多くの方と出会い、学生時代だからこそ得られる経験を自ら獲得しましょう。 ②図書館を活用し、国内外の理論や実践を学びましょう。 ③ゼミ生間で互いを高め合う関係を構築していきましょう。		
	評価 グループ企画の積極的参画 (40%)、ディベート大会への積極的参画 (40%)、ゼミ活動全体への参画 (20%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習c, dの学びにつなげましょう。
-------	-------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 b	後期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小柳 正弘	2年	mkoyanagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>理論的には、書いたり話したりすることで自分の問題意識や立ち位置を探り、対話を通して様々な問題を多面的に(ときに根底的に)検討/「現場」に関して理論的な考察を深める/先行研究を整理し調査を実施して卒業論文にむけて研究計画を作成、実践的なテーマとして、アートとケア/動物介在療育/障害者法制/療育教材教具開発製作/園芸福祉のための農園芸/イベント・ファシリテート等</p>	<p>私自身は、障害学や自己決定などにかかわる理論的な研究のほか、ケアとしてのアートや園芸福祉などに関心をもっています。「頭を働かせて身体を動かす」ことをいとわないのであれば、どんなテーマに取り組む学生にもつきあうつもりです。</p>
到達目標	<p>関連する諸問題や先行研究に関する多面的な検討をふまえたうえで、(卒業論文につながる)自身固有の問題意識を方法論も含めて明晰かつ判明に説明できるようになる。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>*2年次では、まず、それぞれの問題関心をふりかえるとともに、研究の基本的な作法を学ぶ。 *発表/報告等のレジュメ、特定質問、コメント等の作成、ワークショップ/体験等の準備などは時間外の学習として行う(第1回-第15回)。 *授業方法は、第1回から第15回まで対面授業を原則とする。ただし、新型コロナウイルス感染症関連等で対面に不都合がある学生については特例授業 (Teamsによるオンラインまたは課題研究等) (特)で対応する。 *対面授業が困難になった場合に備え、全員が特例授業 (Teams等)に対応するためのスキルを習得する。 第1回 オリエンテーション、履修状況セルフ/ピア・チェック、問題関心の再確認。 第2回 問題関心の再確認・先行研究の探索 第3回-第15回は以下の通り(順不同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リテラシー自己評価シートの作成と他の受講者と科目担当者によるコメント ・基本的なアカデミックスキル習得のためのテキストの講読(受講生が分担してレジュメを作成) ・各自の問題関心にそった先行研究の探索 ・先行研究についての概要発表と他の受講者と科目担当者による質疑・コメント ・各自の研究課題のキーワードについての概要発表と他の受講者と科目担当者による質疑・コメント ・社会福祉の諸問題
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白井・高橋著『よくわかる卒論の書き方第2版』ミネルヴァ書房 <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荒井浩道『ナラティブ・ソーシャルワーク - 〈支援〉しない支援の方法』新泉社 ・徳川直人『色覚差別と語りづらさの社会学』生活書院
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ともに学ぶことに主体性をもってとりくむ」というスタンスで、対話を通して、自分以外のゼミ生がどんなことにどんな関心をもっているのかも含め、さまざまな問題を多面的に(ときに根底的に)検討する。 ・理論的学習においても実践的学習においても、何が必要とされるかを考えることも含めて、まずは自らの創意工夫で理論的な準備を試みる。 ・学んだことは、その都度、文字にして、他者との対話のなかで、その意義を検証してみる。
	<p>評価</p> <p>①授業中の発表/報告/議論/質疑/コメントを内容と形式(積極性も含む)から評価30%、②授業(時間外の学習も含む)の準備・成果を主体性・協働性の観点から評価20%、③時間外に作成した卒業論文の研究計画等・レジュメ・レポート等(特定質問、コメント、レジュメの修正版も含む)など提出物を形式と内容から評価50% ①②③の合計で100点 *遅刻・早退は二回で欠席一回と見なす。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>専門演習 c</p>
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習b	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	樋口 美智子	2年	授業終了後に受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailへしてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	相談援助を必要とする人々、特に病気や障がいを抱えながら生活する人々や、その生活問題を理解するために、「ソーシャルワークの価値・倫理」「医療福祉の概念」や「医療における尊厳と権利」等を学ぶ必要があります。また、ピアサポートやサバイバーシップ等を学ぶことにより、ソーシャルワークにおけるエンパワメントの理解を深めます。	患者さんやご家族は、いのち・こころ・くらしの問題を抱えながら生活しています。一方で、個性豊かな人として、家庭人として社会人として、様々な役割を果たしてまいります。人々から直接、話を聴くことは、社会福祉の専門職として、最も基本的で重要な出発点です。患者さんやご家族が、どのように自分らしい生活をしているか実際に会に参加する等して教えていただきます。
到達目標	①ソーシャルワークの価値・倫理に基づいて、病気や障がいを抱えながら生活する人々を理解し、説明できる。 ②保健医療分野における患者会・家族会活動等におけるソーシャルワーカーの役割について、事例を通して説明できる。 ③「患者の権利と義務」について説明できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション①：ゼミの概要説明	配布資料を読む
	2	オリエンテーション②：ゼミの進め方等について。学びたいことについて	配布資料を読む
	3	講義①：「医療法」について	講義時に示す課題をまとめる
	4	講義②：「医療基本法案」について	講義時に示す課題をまとめる
	5	講義③：「患者の権利法」について	講義時に示す課題をまとめる
	6	グループスタディ①：グループスタディの目的と方法について	グループスタディの計画を作成する
	7	グループスタディ②：患者会等におけるピアサポーターの役割について調べる	インタビュー質問項目を作成する
	8	グループスタディ③：患者会等に関わるソーシャルワーカーの役割について調べる	インタビュー質問項目を作成する
	9	見学①：患者会・家族会等を見学する	準備・方法・役割分担等を作成する
	10	見学②：患者会・家族会等を見学する	準備・方法・役割分担等を作成する
	11	グループスタディ④：発表内容を作成する	発表の準備をする
	12	グループスタディ⑤：発表内容を作成する	発表の準備をする
	13	グループ発表①	発表の準備をする
	14	グループ発表②	発表の準備をする
15	全体共有	ゼミ論文を作成する	
16	まとめと振り返り	ゼミ論文を作成する	

実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：『大学生学びのハンドブック 4訂版』、世界思想社編集部編、世界思想社、2019年 参考文献： ・『支援者が成長するための50の原則-あなたの心と力を築く物語-』、川村隆彦著、中央法規、2007年 ・『患者の声を医療に生かす』、大熊由紀子、関原成充、服部洋一編著、医学書院、2006年
----	---

学びの手立て	①一人一人が積極的・主体的に参加し、自ら考え発言すると共に、仲間と協力して取り組みましょう。 ②患者会・家族会等に関する講演会やシンポジウム、ボランティア活動に積極的に参加しましょう。 ③図書館等を活用し、沖縄県だけではなく、日本や世界における実践・活動も広く学びましょう。
--------	---

評価	・平常点：質問や発言の有無、積極的・協調的なグループワーク参加態度等を適宜加算します。（30%） ・時間外学習レポートの提出状況・到達度を評価します。（20%） ・個人レポート、グループレポートの提出状況・到達度を評価します。（50%）
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目：「保健福祉政策論」「保健医療サービス」「医療福祉論」 (2) 次のステージ：専門演習bで学んだ知識と経験を専門演習c、dに繋げていきます
-------	---

※ポリシーとの関連性

各学生の国際性をはぐくむために、外部講師の活用や施設訪問を通して国際福祉をする事への理解やイメージをできるようにする。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 b	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド クレイグ ウィルコックス	2年	Email:d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	分野は、貧困問題、移民問題、世界的な高齢化現象などを中心に学んでいく。沖縄にある国際的な福祉組織についても学ぶ事を計画しており、訪問学習を実施する。国際福祉の現状や動向を分野ごとに分類しグループ発表形式を行いながらゼミ全体で理解を深めることを目的とする。	大学内だけのゼミだけではなく、施設訪問などを取り入れた授業を行う。学生には県内にはどのような国際福祉分野に関する施設があるかを情報共有して欲しい。JICA沖縄、沖縄NGOセンター、米軍基地内にある福祉施設の訪問を予定している。「社会調査士」の資格取得を希望する学生は、履修ガイドを参照し、既定の講義を履修すること。
到達目標	国際福祉の分野の認識、何が問題であるかをとらえる力を持つことが出来るようになる。 国際福祉の枠にとらわれず、日本も国際福祉のフィールドとしてとらえ問題解決に取り組むことが出来るようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	本演習のデザインを各自行う
	2	社会福祉の国際比較	テキスト5章の精読
	3	発表に関するテーマ決め	興味のある国際福祉分野を調べる
	4	海外の福祉について	海外の福祉について調べる
	5	ゲストレクチャーによる講話	講師の専門分野を理解する
	6	ゲストレクチャーによる講話	講師の専門分野を理解する
	7	ゲストレクチャーによる講話	講師の専門分野を理解する
	8	発表準備	発表準備
	9	発表準備	発表準備
	10	学生による発表	資料の精読と発表の感想をまとめる
	11	学生による発表	資料の精読と発表の感想をまとめる
	12	JICAについて	該当センターの情報収集
	13	ファミリーサポートセンターについて	該当センターの情報収集
14	ファミリーサポートセンターについて	アメリカの福祉の考え方を知る	
15	後期のまとめ	今までの勉強内容を振り返る	
16	1年のふりかえり	次年度への目標をまとめる	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	・川村匡由、「国際社会福祉論」 ミネルヴァ書房 を使用しながら演習を進めていく。 参考文献として ・仲村優一,他『グローバリゼーションと国際社会福祉』2002年 ・ジェームス ミッジリイ (1999) 『国際社会福祉論』中央法規 ・その他、必要に応じて資料を配布または紹介する。		
	学びの手立て		
	積極的な議論に参加をするために、他グループの発表の前には発表予定項目・資料等の事前精読は各自必ず行うこと。それら知識を元に議論のための意見・質問等を積極的に行うこと。 この活動を行うなかで自分の国際福祉分野に関する興味を持てる分野を見つけて欲しい。それが3年次の課題研究へとつながる材料となる。		
	評価		
	授業参加度 (50%)、ゼミ内での授業態度・発表の内容 (40%)、その他 (10%) を基本とし総合的に評価を行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	この講義後は「専門演習 c」へと繋がります。 各自興味のある海外福祉関連ボランティアや、国際フィールドワークへ参加をすすめる。 海外の福祉について考えることのできる「海外社会福祉演習 I・II」への参加も検討して欲しい。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 b	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	2年	比嘉研究室：5-418 mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>広くは「子ども家庭福祉」をテーマとする。全体を通してグループディスカッションや論文購読を行い、プレゼン能力やレポート・論文作成能力を培う。フィールドワークとしては、児童福祉施設等の福祉現場や学校等の教育現場に足を運び、自ら見聞し、学びを深める。また、授業のねらいとしてソーシャルワーカーとしての知識・技術・倫理観の確立を掲げる。</p>	<p>本科目は「専門演習a」に引き続き、「子ども家庭福祉」を学ぶ第一歩となるゼミである。自らの関心事に焦点を当てつつ、幅広く学んで下さい。受け身ではなく、ゼミ生からの積極的な提案を期待する。COVID-19の影響でZoom等を活用してのオンライン授業になる場合もある。ポータル等大学からの連絡をこまめに確認して下さい。</p>
到達目標	<p>子どもに現れてくる諸問題について講義・ゼミ等で学ぶと同時に、自ら現場に足を運ぶことで現場の実態を肌で感じとる。それらにより、支援者として専門性を身につける重要性を認識する。最終的に、子どもの支援者として必要な基礎知識・技術を身につける。</p>	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>子どもの抱える諸問題の背景には、保護者を含む家庭の問題がある。つまり、子どもを支援する際には家庭で起こる問題を避けて通ることはできない。そのため、子どもを取り巻く環境(家庭・地域等)を理解しなければならない。</p> <p>本科目では特に「ソーシャルワークスキル」「子どもたちに現れてくる諸問題」に焦点を当て展開する。</p> <p>1. 「ソーシャルワークスキル」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーカー(社会福祉士)として現場で求められるスキル(対個人・グループ)の修得 ・各機関/施設の社会福祉士等から学ぶなど <p>2. 「子どもたちに現れてくる諸問題」その2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校 ・非行 ・発達障がい など <p>なお、現場理解のためボランティア活動及びゼミ単位での機関/施設への訪問も計画する。学期末には、各自が行ったボランティア活動について報告し、ゼミでディスカッションを行う。</p> <p>さらに、図書館の活用方法(レポートの書き方等)についても学ぶ。</p>
	テキスト・参考文献・資料など
	<p>必要に応じて、授業時に提示する。</p>
学びの手立て	<p>本科目は、講義形式で受け身で受講するものではない。他ゼミ生とともに積極的に取り組み、学問を探究し、その成果等を発表してもらおう。そのために、図書館を大いに活用すること。</p>
評価	<p>出席は平常点とし、授業態度;積極的な参加(20%)、レポート(80%)等を総合して判断する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次年度の「専門演習 c・d」ではより深く子ども家庭福祉について学ぶ。特に「専門演習 d」では、卒論につながる「課題研究」に取り組む。</p> <p>関連科目：「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」「スクールソーシャルワーク論」等。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習b	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	2年	人間福祉学科 知名孝	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	1) 発達障害児への支援、2) インタビュー調査を学ぶことをねらいとします。月2回のソーシャルスキル・トレーニングへの参加を通じ、発達障害児への支援について学びます。後期には保護者へのライフストーリーインタビューを通じインタビュー調査への導入を行います。	この講義は精神保健福祉士・臨床心理士・公認心理師としての実践を生かした、実践を前提とした講義内容となっている。

到達目標	発達障害児とその保護者への理解。インタビュー調査方法への理解。
------	---------------------------------

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>以下のテーマについて学生の学びのペースに合わせて進行してく。</p> <p>1. 発達障害児への支援について：</p> <p>(1) 基礎知識の習得：発達障害の医学的知識（診断基準、二次障害、周辺症状や問題）についての学習、発達についての概念、社会環境・子どもの生活の子どもの発達・発育への影響などについて学んでいく。</p> <p>(2) 地域の子供デイサービスと親の会と実施するソーシャルスキルトレーニング、リトミックなどのグループワークを通じて、「実践」を学んでいく。</p> <p>2. 発達障害児をもつ親の語りからの学び：</p> <p>(1) 基礎知識と実践を積み上げた上で、発達に偏りを持つ子どもの現状、そういう子どもを持つという経験について親のインタビューを行い、語りのなかから学びを深める。</p> <p>(2) インタビューを通して、インタビューの方法、得られたデータの解釈の方法、まとめ方を学ぶ。</p> <p>コロナウイルス感染の状況に応じてはOnlineによる特例授業になる可能性があります。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>ゼミのなかで指定していく</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>実習・演習と座学とを比較しながら学びを深めていく。</p>
	<p>評価</p> <p>ゼミで行われる発表（50％）その他の課題（50％）2/3以上の出席を単位認定の条件とする。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次年度の専門演習c・dおよび4年次の卒業演習が次のステージ・関連科目となる。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

高度化かつ多様化する現代社会を解説するための基礎的知識と技能を修得させ、社会福祉の周辺学問領域として社会学を学ぶ。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習b	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	2年	講義終了後あるいはメール等で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>当演習ゼミは、3年次で実施する社会学の実証研究（社会調査）のための基礎的な視点、方法、概念・理論を学び、社会調査の準備を行う。とくに、社会学的な問題発見、テーマ設定、そして社会調査に向けた学問の応用方法などを習得するための演習となる。</p>	<p>当演習ゼミは、3年次で社会調査を実践し、報告書を作成するための基礎的な学習をします。社会学と社会調査の素材は皆さんの身近にたくさんあります。社会学の学習と社会調査の実践は大変な作業を伴いますが、他者の声に耳を傾ける姿勢を身につけ、みんなで励ましあい、支えあい、学び合いながら研究成果をまとめていきましょう。</p>
到達目標	<p>社会学の基本、とくに基本的な視点と概念、そして理論を習得すること。また、社会調査のテーマ設定の基本、調査技法の基本を習得すること。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>専門演習aでは、社会学の基本的な視点や概念、そして理論の学習を行なう。ただし、文献を読んで発表するだけでなく、グループでのディスカッションや学習活動・発表などを通して、実践的に社会学の基礎を理解する。つまり、学問の抽象的な用語（概念）を身近な社会現象や私たちの行いや発言を通して理解していこうというものである。</p> <p>また、3年次の社会調査の実践に向けて、その予備訓練も随時行う。例えば、ショッピングモールを観察法の現場としたり、那覇、コザ、名護などの商店街でも聞き取り調査のための探索を行う。そして、沖縄の現代的な社会問題が生起している現場、あるいはそれが歴史的に継続している現場に赴き、その背景に蓄積された人々の生活、運動、思いも感受できるような訓練も行う。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>とくにテキストは指定しない。社会学の基礎、予備的調査に関する資料、社会調査の技法に関する参考書等を適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>最低限、社会学に関心をもつこと。そのためには、現代社会および沖縄社会に関心をもつこと。それがなければ社会調査自体に取り組むことは絶対にできない。よって、日頃からニュースをよく見聞きすること。とくに新聞は社会の時事情報の「宝庫」なので、可能なかぎり目を通すこと。</p> <p>また、社会調査では、他者は一方的に覗かれ、聞き取られる存在。よって、社会調査上の倫理は必ず身に付けること。その心構えとして、他者を尊重し敬うこと。他者を決めつけないこと。それがなければ、真摯に他者の声を聞き取り、思いを汲み取ることはできない。</p>
	<p>評価</p> <p>演習プログラムへの取り組み姿勢（平常点）が50点、個人やグループに与えられた課題の内容と精度が50点。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：専門演習c、専門演習d</p> <p>次のステージ：</p> <p>専門演習bで身につけた社会学と社会調査の基礎に基づいて、社会調査のテーマ設定と社会調査の実践へとつなげていく。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍するために求められる人間性と能力を豊かにすることにつながる演習です。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 c	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	3年	演習終了時に受付ます	

学びの準備	ねらい 課題研究の事前学習として、地域包括支援、協働によるまちづくりをしている施設や機関を訪問し、聞き取り調査を実施します。そして、各自が調査結果を報告して取組を共有すると共に、聞き取り調査を行う際に気を付けることを学び合う。	メッセージ 演習では、生活課題に対して先行研究を分析し、問いを立て、調査し、考察するプロセスを具体的に学びます。積極的にチャレンジしましょう。
	到達目標 研究とは何か、研究はどのようなプロセスで行うのか理解できる。課題研究につなげる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	配布資料を読む
	2	社会福祉政策の動向①現代社会の特徴を理解する（少子高齢化、人口減少等）	配布資料を読む
	3	社会福祉政策の動向②地域共生社会の実現に向けて	関心テーマを調べる
	4	聞き取り調査テーマを設定する	先行研究一覧を作成する
	5	先行研究を分析する	先行研究の動向をまとめる
	6	個人面談①	個人面談の準備をする
	7	個人面談②	配布資料を読む
	8	個人面談③	調査対象にアポイントをとる
9	個人面談④	調査を実施する	
10	聞き取り調査の分析方法を理解する	調査をまとめる	
11	聞き取り調査発表準備	調査をまとめる	
12	個別発表①	個別発表の準備をする	
13	個別発表②	個別発表の準備をする	
14	個別発表③	最終レポートを作成する	
15	個別発表④	最終レポートを作成する	
16	まとめ	演習をふりかえる	
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 指定のテキストはありません。		
学びの実践	学びの手立て 関心分野の実践に直接触れる時間をつくりましょう。 調査に関する文献、関心分野に関する文献など図書館の文献を積極的に読みましょう。 当たり前を「問う」ことに積極的になりましょう。		
学びの実践	評価 先行研究分析レポート25%、個人発表30%、個人レポート25%、ゼミの主体的参加20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 d につなげる。
-------	------------------------------

※ポリシーとの関連性 国際福祉の課題への取り組みを各自で考え、そのためには何が必要かを多文化共生等の支援から考える。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 c	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド・クレイグ・ウィルコックス	3年	Email:d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「課題研究」の準備として、今まで学んだ内容に加え国際福祉に関して発展した内容で演習を進める。それらを学びながら各自課題研究に関するテーマを考えていくことを目的とする。	引き続き国際福祉分野について学習をしていく。演習の後半からは課題研究の書き方などについての内容も行う。「社会調査士」の資格取得を希望する学生は、履修ガイドを参照し、既定の講義を履修すること。

到達目標	課題研究を作成するための論文の書き方などのマナー、調査の方法を理解することが出来るようになる。 課題研究テーマを絞り、課題研究作成の準備を進めることが出来る。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期オリエンテーション	演習の目標を立てる
	2	国際社会福祉に関するDVD鑑賞	事前連絡した内容について調べる
	3	社会福祉における研究とは何か	テキスト1章の精読
	4	研究環境を整える	テキスト2章の精読
	5	研究テーマの選び方	テキスト3章の精読
	6	研究計画の立て方・進め方	テキスト4章の精読
	7	文献レビューの方法	テキスト5章の精読
	8	量的調査の方法	テキスト6章の精読
	9	ゲストレクチャーによる講話（予定）	講師の専門分野を理解しておく
	10	質的調査研究法	テキスト7章の精読
	11	論文の執筆方法	テキスト8章の精読
	12	論文投稿・項と都発表の行い方	テキスト9章の精読
	13	ゲストレクチャーによる講話（予定）	講師の専門分野の理解しておく
	14	論文の書き方のポイント紹介	課題研究計画をたてる
15	前期のまとめ	研究計画や執筆内容を考える	
16	後期に向けての確認など	夏休みの計画をする。	

実践	テキスト・参考文献・資料など 社会福祉の研究入門ー計画立案から論文執筆まで(中央法規出版) 久田則夫 2003年 よくわかる卒論の書き方(ミネルヴァ書房) 白井利明・高橋一郎著 2010年 その他、演習時に適宜紹介する。
----	---

学びの手立て	課題研究の作成の為の準備段階としての演習となる。各学生は研究の方法、文献の探し方、調査の仕方など多岐にわたる知識・技術を身につけることが必要とされる。積極的に、図書館での文献検索・閲覧、インターネットを使っての文献検索・閲覧を積極的に出来ないながら課題研究作成に必要な情報を探して欲しい。必要に応じて、論文内容については担当教員との相談も必要に応じて行う点も注意すること。研究の方法、文献の引用の方法など課題研究から4年次に引き継げる内容もおおくあるため、しっかりと課題研究作成で知識等を深めることをすすめる。
--------	---

評価	授業参加度（10%）、課題の提出状況・内容および課題研究計画書の提出・内容（90%）とし総合的に判断する。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 課題研究を執筆するための事前知識を修得し、後期に開講される「専門演習 d」にて課題研究執筆を行う。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習c	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	3年	講義終了後あるいはメール等で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>当演習ゼミは、現代社会を社会学的な視点で解説する技法として社会調査を実践し、調査報告書を作成する。その際、沖縄社会をめぐる諸側面として沖縄県外調査班と県内調査班に分かれ、社会調査を実践する。</p>	<p>当演習ゼミは社会調査を実践し、報告書を作成するための基礎的な学習を行います。社会調査の素材は皆さんの身近にたくさんあります。社会調査の実践は大変な作業を伴いますが、他者の声に耳を傾ける姿勢を身につけ、みんなで励ましあい、支えあい、学び合いながら研究成果をまとめていきましょう。</p>
到達目標	<p>社会調査の基礎知識と技法を身につけ、資料収集と調査テーマの設定、方法の検討、データ収集、データ整理と分析・考察を行い、調査報告書を執筆、作成すること。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>当演習ゼミは、2年次の専門演習a・bで身につけた社会学と社会調査の基礎に基づいて、社会調査のテーマ設定を行い、社会調査の実践と調査報告書の執筆・作成を行う。その際、現代の沖縄社会をめぐる諸側面を共通テーマとして、沖縄県外調査班と県内調査班に分かれ、社会調査を実践する。よって、現代社会への洞察力をより深めていくための共同研究・相互学習の場となる。</p> <p>前者の県外調査班については、関西大都市圏に在住する沖縄出身者のコミュニティに焦点を当て、その地域福祉的な課題を具体的なテーマとして調査研究を行う。そのテーマ設定においては加山弾『地域におけるソーシャル・エクスクルージョン ―沖縄からの移住者コミュニティをめぐる地域福祉の課題』（有斐閣、2014年）から多くの示唆を得ている。すなわち、関西大都市圏に集住する沖縄出身者に対するソーシャル・エクスクルージョン（社会的排除）の側面に着目し、今日地域福祉が抱える課題を理解するための調査を行うものとする。具体的な調査対象地域としては兵庫県尼崎市を設定しており、同市の沖縄出身者を調査の対象としていきたい。</p> <p>以上をテーマとして設定し、今日の地域福祉の観点において見落とされているマイノリティに対する排除とコミュニティの互助のありようについて「ディアスポラ」や「ポストコロニアリズム」の観点および日本社会と沖縄社会との政治的な緊張や権力関係からデータを収集し分析していきたい。その上で、先行的な研究の文献・資料等の収集を行い、調査テーマの具体的な絞り込みを行う。そして調査項目設定および調査に関する企画設計を行い社会調査実習に備える。調査方法は聞き取り方式によるライフヒストリーを採用し、沖縄での暮らしぶり、故郷を離村した理由、県外大都市に定住した理由、日本社会との関係性（とくに差別や排除の側面）、沖縄出身者コミュニティの互助のありよう、県人会・郷友会等との関わり、故郷との関係および今日の基地問題や沖縄社会の問題等に対する意識について聞き取りを行っていく。</p> <p>後者の県内調査班においては、沖縄社会の現代的な問題をテーマとして設定し、社会調査の実践を行なっていく。その際は、テーマ内容によって方法論と調査対象を検討する。沖縄社会を「県外」と「県内」に分けることにはなるが、先ほどの「ディアスポラ」や「ポストコロニアリズム」をキーワードとして、沖縄社会の「構造」的な連続性に着目する。</p> <p>両社会調査の実施は、どちらも9月～11月を予定し、後期（専門演習d）のデータ整理、分析・考察、報告書の執筆・作成に向けた準備とする。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>とくにテキストは指定しない。社会調査のテーマ設定に関する先行研究、基礎的資料等の文献など参考書を適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>最低限、社会学に関心をもつこと。そのためには、現代社会および沖縄社会に関心をもつこと。それがなければ社会調査自体に取り組むことは絶対にできない。よって、日頃からニュースをよく見聞きすること。とくに新聞は社会の時事情報の「宝庫」なので、可能なかぎり目を通すこと。</p> <p>また、社会調査では、他者は一方的に覗かれ、聞き取られる存在。よって、社会調査上の倫理は必ず身に付けること。その心構えとして、他者を尊重し敬うこと。他者を決めつけないこと。それがなければ、真摯に他者の声を聞き取り、思いを汲み取ることはできない。</p>
	<p>評価</p> <p>テーマ設定における社会学の視点導入と概念設定については25点、テーマに関する基礎文献や資料収集への取り組み姿勢が50点、調査票作成や質問項目の設定および対象者へのアプローチ時における取り組み姿勢が25点となる。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：専門演習a、専門演習b、専門演習d</p> <p>次のステージ： 専門演習dで行われる社会調査の実践と報告書作成につなげていくこと。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

医療・保健・福祉等の他の専門職と協働し、福祉問題に効果的に対応できる能力を、理論的な学習や実践的活動を通して養成します。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 c	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	樋口 美智子	3年	授業終了後に教室で受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailにしてください。	

学びの準備	ねらい 学術研究上必要な知識・技能（聞く・課題を発見する・情報を収集する・情報を整理する・読む・書く・分析する・発表する）を段階的に学びます。	メッセージ 専門演習a・bで取り組んだレポート作成や訪問インタビュー等を土台に、自分の研究テーマを見つけ課題研究を行います。「自ら学ぶ」姿勢を大切に、「自ら学ぶ」方法をしっかり身に付けましょう。
	到達目標 ①課題研究・卒業論文作成に必要な基礎的内容や研究方法について理解できる。 ②先行研究の収集や整理ができる。 ③研究テーマや研究デザインの設定に取り組むことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：課題研究・卒業論文とは何か	専門演習a・bの振り返り
	2	テーマの決め方・深め方①：「問い」の立て方について	課題研究・卒業論文を読む
	3	テーマの決め方・深め方②：研究デザインについて	課題研究・卒業論文を読む
	4	情報の収集・文献検索について①	参考図書・書誌の購読
	5	情報の収集・文献検索について②	参考図書・書誌の購読
	6	情報の整理・文献の読み方について①：「読書ノート」の作成	テーマに関連した本を読む
	7	情報の整理・文献の読み方について②：「読書ノート」の作成	テーマに関連した本を読む
	8	研究方法の選び方①：研究の倫理について	テーマに関連した学術論文を読む
9	研究方法の選び方②：質的研究・量的研究について	テーマに関連した学術論文を読む	
10	質問紙調査の演習①	質問項目を作る	
11	質問紙調査の演習②：個別発表	質問項目を作る	
12	インタビュー調査の演習①	インタビュー事前準備メモを作る	
13	インタビュー調査の演習②：個別発表	インタビュー事前準備メモを作る	
14	先行研究・文献リストの作成①	先行研究・文献リストを作成する	
15	先行研究・文献リストの作成②：個別発表	先行研究・文献リストを作成する	
16	まとめ	専門演習cの振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：白井利明・高橋一郎著、『よくわかる卒論の書き方 第2版』、ミネルヴァ書房、2019年 参考文献：山田剛史・林創著、『大学生のためのリサーチリテラシー入門—研究のための8つのカー』、ミネルヴァ書房、2019年		
	学びの手立て ①一人ひとりが積極的・主体的に参加し、自ら考え発言すると共に、仲間と協力して取り組みましょう。 ②関心のあるテーマ等に関する講演会やシンポジウム、ボランティア活動に積極的に参加しましょう。 ③図書館等を活用し、沖縄県だけでなく、日本や世界における実践・活動も広く学びましょう。		
	評価 ・平常点：質問や発言の有無、積極的・協調的なグループワーク参加態度等を適宜加算します。（30%） ・時間外学習レポートの提出状況・到達度を評価します。（20%） ・個人レポート、グループレポートの提出状況・到達度を評価します。（50%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目：「保健福祉政策論」「保健医療サービス」「医療福祉論」 (2) 次のステージ：専門演習cで学んだ知識と経験を専門演習d、卒業演習に繋げていきます。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習c	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	3年	比嘉研究室；5-418 mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	各学生の関心のある児童家庭福祉をテーマに深めていく。全体を通してグループディスカッションや論文購読を行い、プレゼン能力やレポート・論文作成能力を培う。フィールドワークとしては、児童福祉施設等を中心に福祉・教育現場に足を運び、自ら見聞し、学びを深める。また、ソーシャルワーカーとしての知識・技術・倫理観の確立も掲げる。	本科目は「専門演習a・b」での学びを踏まえ「卒論演習a・b」につなげる重要な位置づけである。自らの関心に焦点化し学びを深めてください。COVID-19の影響でZoom等を活用してオンライン授業になる場合もある。ポータル等大学からの連絡をこまめに確認して下さい。
到達目標	調査学習、ディスカッション等を通して自ら発信できるプレゼン能力を培う。また、レポート作成能力を向上させ、最終的には「課題研究」を仕上げることができる。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>子どもを取り巻く環境を総合的に理解する。特に子どもの貧困や児童虐待、社会的養護などに焦点をあてその背景等を理解する。併せて、学校現場における支援方法の一つであるスクールソーシャルワークについて理解を深めていく。</p> <p>以下、「子どもの貧困」「児童虐待」「社会的養護(施設養護・家庭養護)」および「スクールソーシャルワーク」に関する学びの柱を示す。</p> <p>①「子どもの貧困」 ・その現状と課題 ・諸外国の現状 等</p> <p>②「児童虐待」 ・その現状と課題 ・諸外国の現状 等</p> <p>③「社会的養護」 ・施設養護(本体施設・グループホーム)及び家庭養護(里親・ファミリーホーム)それぞれの現状と課題 ・諸外国の現状 等</p> <p>④「スクールソーシャルワーク」 ・その役・割機能 ・その現状と課題 ・学校等関係機関の訪問 等</p> <p>※学生それぞれの関心をもとに個人・グループ単位での調べ学習・プレゼンも行う。</p>
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じ、授業時に提示する。
	<p>学びの手立て</p> <p>本科目は、講義形式で受身で受講するものではない。他のゼミ生とともに自ら積極的に取り組み、学問を探究し、その成果等を発表する。そのために図書館を大いに活用すること。</p>
評価	出席は平常点とし、本科目の主旨を鑑み、授業態度；積極的な参加等(20%)、レポート(80%)等を総合して行う。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文作成に向けて意識して取り組むこと。 関連科目：「卒業演習a・b」、「卒業研究発表」</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習c	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	3年	人間福祉学科 知名孝	

学びの準備	ねらい 2年生で行った実践→インタビューの経験をもとに、この学年の専門演習では、4年次に執筆する卒論の準備を行っていきます。具体的には、(1)卒論・論文についての理解、(2)調査(質的調査)の理解と演習、(3)自分の卒論テーマと研究デザインの決定を目標としていきます。	メッセージ 3年生では、次年度の卒業論文とそのための調査に比重をうつしてゼミ活動を展開していきます。そのため個別の指導や春休み中の卒論指導を行っていきます。この講義は精神保健福祉士・臨床心理士・公認心理師としての実践を生かした、実践を前提とした講義内容となっている。
	到達目標 インタビュー調査方法への理解。卒論テーマの設定、卒論調査のデザインの設定、先行研究調査を行う。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>3年次専門演習では、次年度の卒論に向けてインタビュー調査・分析方法の習得とともに、自分の卒論テーマの設定、そのテーマに沿った調査のデザインの検討、先行研究の調査と執筆を行っていきます。学生の学びのペースにあわせて以下のことを行っていきます。以下の学習内容に合わせた事前学習を課題として課していきます。</p> <p>インタビュー調査の学習、インタビュー調査にもとづく論文の購読、インタビュー調査演習、卒論テーマの設定、読書ノート(アノテーション・ビブリオグラフィ)の作成、先行研究の執筆</p> <p>コロナウィルスの影響で状況に応じてOnlineによる特例授業になります。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>授業の中で提示していきます。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>授業共有ファイルに過去の卒論や資料をアップしておくので、それらを参照しながらゼミでの学習を進めていく。</p>
	<p>評価</p> <p>2/3以上の出席を単位認定の条件とする。ゼミで出されるそれぞれの課題、発表、個別指導で課される卒論に向けての課題が60%、学期末提出の先行研究が40%。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この年度の専門演習の成果は、そのまま次年度の卒論の一部になっていきます。この年度から次年度の間の春休みには継続して卒論指導を行っていきます。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 d	後期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	3年	演習終了後に受付けます。	

学びの準備	ねらい 課題研究を作成することが専門演習 d の主たる内容です。研究デザインを作成し、研究プロセスを丁寧に学びます。	メッセージ 課題研究を作成する上でひとりひとりが自発的に論文を作成することが求められます。それぞれ計画を立ててしっかり取り組み、研究を充実させていきましょう。本科目は奇数週に対面授業、偶数週はオンラインで行います
	到達目標 研究のプロセスを理解することができる。自身の研究を発表することを経験することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	配布資料を読む
	2	研究デザインの作成方法	配布資料を読む
	3	研究倫理について	個人面談の準備をする
	4	個人面談①	個人面談の準備をする
	5	個人面談②	課題研究を作成する
	6	個人面談③	課題研究を作成する
	7	個人面談④	課題研究を作成する
	8	課題研究中間報告会①	課題研究を作成する
9	課題研究中間報告会②	課題研究を作成する	
10	課題研究中間報告会③	課題研究を作成する	
11	課題研究中間報告会④	課題研究を作成する	
12	課題研究中間報告会⑤	研究を提出する準備をする	
13	課題研究中間報告会⑥	レジュメを準備する	
14	卒業論文発表会において配布するレジュメの作成	レジュメをまとめる	
15	卒業論文発表会企画運営のための準備	企画運営の準備をする	
16	まとめ	演習をふりかえる	
実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストはありません。随時資料を配布します。		
	学びの手立て 研究するとはどういうことなのか多角的に考えましょう。 積極的に先行研究や先輩の論文を読みましょう。 仲間と議論を重ねましょう。		
	評価 中間発表の内容30%、課題研究の内容60%、課題研究の積極的な取組み10%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業演習abにつなげていきましょう。
-------	-----------------------------------

※ポリシーとの関連性

国際福祉の分野での実践的な活動を観察し、それに対する問題点や解決方法を考える事を通し対応能力を身につける。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 d	後期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド・クレイグ・ウィルコックス	3年	Email:d.willcox@okui.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	前期で行った内容を踏まえ、社会福祉や国際社会福祉に関連したテーマについて各自が自身で文献を調べ課題研究を作成することを目的とする。	「課題研究」を書くことを目標に重点を置いた内容を行う。社会福祉や国際社会福祉に関連したテーマについて各自が自身で文献を調べ課題研究を作成する事になる。作成期間中は、ゼミにおいて進行状況の発表を行う。「社会調査士」の資格取得を希望する学生は、履修ガイドを参照し、既定の講義を履修すること。
到達目標	課題研究を作成し、報告書集を完成させるのがこの演習の大きな目標となる。積極的に情報の収集・中間報告・論文作成に関して相談をすることが出来るようになる。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	課題研究作成について計画を練る
	2	課題研究の説明 1 テーマの確認	課題研究について計画を練る
	3	課題研究の説明 2 調査の方法について	調査の方法について調べる
	4	課題研究の説明 3 調査の方法について	各調査法の長所短所を調べる
	5	課題研究の説明 4 論文作成についての諸注意	論文の作法について調べる
	6	課題研究の説明 5 論文作成についての諸注意	論文の作法を資料を使い確認
	7	論文指導	論文の執筆を行う
	8	課題研究 経過発表会 1	他発表への感想をまとめる
	9	課題研究 経過発表会 2	他発表への感想をまとめる
	10	課題研究 経過発表会 3	他発表への感想をまとめる
	11	課題研究 経過発表会 4	他発表への感想をまとめる
	12	ゲストレクチャーによる講話（予定）	講師の分野を調べておく
	13	課題研究 修正期間	論文の執筆を行う
	14	課題研究 修正期間	論文の執筆を行う
	15	課題研究報告書作成について	課題研究報告書をゼミ全体で作成
16	1年のまとめ	課題研究報告書の作成	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	社会福祉の研究入門－計画立案から論文執筆まで(中央法規出版) 久田則夫 2003年 よくわかる卒論の書き方(ミネルヴァ書房) 白井利明・高橋一郎著 2010年 その他、演習時に適宜紹介する。

学びの手立て	課題研究の作成を目的とした演習となる。各学生は研究の方法、文献の探し方、調査の仕方など多岐にわたる知識・技術を身につけることが必要とされる。積極的に、図書館での文献検索・閲覧、インターネットを使っての文献検索・閲覧を積極的に来ないながら課題研究作成に必要な情報を探して欲しい。必要に応じて、論文内容については担当教員との相談も必要に応じて行う点も注意すること。研究の方法、文献の引用の方法など課題研究から4年次に引き継げる内容も多くあるため、しっかりと課題研究作成で知識等を深めることをすすめる。
--------	--

評価	授業参加度（40%）、発表や質疑応答等のディスカッション内容（30%）、課題研究の内容（30%）など総合的に判断する。 ゼミ内での発表・課題研究作成が行わなければ評価ができないので必ず行うこと。 課題研究執筆時における個人面談も評価へ影響します。必ず個人面談を行いながら課題研究に取り組んでください。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 課題研究の内容を踏まえ、引き続きその内容を発展させるか、または新しくテーマを設定し、「卒業演習」にて卒業論文を作成を行う。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 d	後期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	3年	講義終了後あるいはメール等で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>当演習ゼミは、現代社会を社会学的な視点で解説する技法として社会調査を実践し、調査報告書を作成する。その際、沖縄社会をめぐる諸側面として沖縄県外調査班と県内調査班に分かれ、社会調査を実践する。</p>	<p>当演習ゼミは社会調査を実践し、報告書を作成するための基礎的な学習を行います。社会調査の素材は皆さんの身近にたくさんあります。社会調査の実践は大変な作業を伴いますが、他者の声に耳を傾ける姿勢を身につけ、みんなで励ましあい、支えあい、学び合いながら研究成果をまとめていきましょう。</p>
到達目標	<p>社会調査の基礎知識と技法を身につけ、資料収集と調査テーマの設定、方法の検討、データ収集、データ整理と分析・考察を行い、調査報告書を執筆、作成すること。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>当演習ゼミは、専門演習cで企画した社会調査の実践と調査報告書の執筆・作成を行う。その際、現代の沖縄社会をめぐる諸側面を共通テーマとして、沖縄県外調査班と県内調査班に分かれ、社会調査を実践する。よって、現代社会への洞察力をより深めていくための共同研究・相互学習の場となる。</p> <p>前者の県外調査班については、関西大都市圏に在住する沖縄出身者のコミュニティに焦点を当て、その地域福祉的な課題を具体的なテーマとして調査研究を行う。そのテーマ設定においては加山弾『地域におけるソーシャル・エクスクルージョン —沖縄からの移住者コミュニティをめぐる地域福祉の課題』（有斐閣、2014年）から多くの示唆を得ている。すなわち、関西大都市圏に集住する沖縄出身者に対するソーシャル・エクスクルージョン（社会的排除）の側面に着目し、今日地域福祉が抱える課題を理解するための調査を行うものとする。具体的な調査対象地域としては兵庫県尼崎市を設定しており、同市の沖縄出身者を調査の対象としていきたい。</p> <p>以上をテーマとして設定し、今日の地域福祉の観点において見落とされているマイノリティに対する排除とコミュニティの互助のありようについて「ディアスポラ」や「ポストコロナリズム」の観点および日本社会と沖縄社会との政治的な緊張や権力関係からデータを収集し分析していきたい。その上で、調査項目設定および調査に関する企画設計を行い社会調査実習を実践する。調査方法は聞き取り方式によるライフストーリーを採用し、沖縄での暮らしぶり、故郷を離村した理由、県外大都市に定住した理由、日本社会との関係性（とくに差別や排除の側面）、沖縄出身者コミュニティの互助のありよう、県人会・郷友会等との関わり、故郷との関係および今日の基地問題や沖縄社会の問題等に対する意識について聞き取りを行っていく。</p> <p>後者の県内調査班においては、沖縄社会の現代的な問題をテーマについて、社会調査の実践を行なっていく。その際は、テーマ内容によって方法論と調査対象を検討する。沖縄社会を「県外」と「県内」に分けることにはなるが、先ほどの「ディアスポラ」や「ポストコロナリズム」をキーワードとして、沖縄社会の「構造」的な連続性に着目する。</p> <p>両社会調査の実施は、どちらも9月～11月を予定し、12月ごろからデータ整理、分析・考察、報告書の執筆・作成を行う。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>とくにテキストは指定しない。社会調査のデータの分析・考察および原稿執筆に関する参考文献等を適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>最低限、社会学に関心をもつこと。そのためには、現代社会および沖縄社会に関心をもつこと。それがなければ社会調査自体に取り組むことは絶対にできない。よって、日頃からニュースをよく見聞きすること。とくに新聞は社会の時事情報の「宝庫」なので、可能なかぎり目を通すこと。</p> <p>また、社会調査では、他者は一方的に視かれ、聞き取られる存在。よって、社会調査上の倫理は必ず身につけること。その心構えとして、他者を尊重し敬うこと。他者を決めつけないこと。それがなければ、真摯に他者の声を聞き取り、思いを汲み取ることはできない。そして、その他者の声や想いを編集し、分析・考察を行い、報告書を執筆・作成する社会的責任と研究者倫理の自覚を持つこと。</p>
	<p>評価</p> <p>社会調査への取り組み姿勢が50点、データ整理への取り組み姿勢が20点、データの分析・考察および報告書の執筆・作成への取り組み姿勢が30点となる。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：専門演習a、専門演習b、専門演習c</p> <p>次のステージ： 専門演習で身につけた社会学の基礎知識と社会調査の技法を活かして、卒業研究のテーマを確立する。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 d	後期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	樋口 美智子	3年	授業終了後に受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailへしてください。	

学びの準備	ねらい 学術研究上必要な知識・技能（聞く・課題を発見する・情報を収集する・情報を整理する・読む・書く・分析する・発表する）を段階的に学びます。	メッセージ 専門演習a・b・cで取り組んだレポート作成や訪問インタビュー等を土台に、自分の研究テーマを見つけ課題研究を行います。「自ら学ぶ」姿勢を大切に、「自ら学ぶ」方法をしっかり身に付けましょう。
	到達目標 ①課題研究・卒業論文作成に必要な基礎的内容や研究方法について理解できる。 ②課題研究論文を作成することができる。 ③課題研究を発表することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション：課題研究・卒業論文とは何か	専門演習a・b・cの振り返り
	2	探索研究（パイロットスタディ）について①	探索研究の段取りを行う
	3	探索研究（パイロットスタディ）について②：個別発表	探索研究の段取りを行う
	4	研究計画書の書き方①	研究計画書を作成する
	5	研究計画書の書き方②：個別発表	研究計画書を作成する
	6	調査・資料分析について①	調査・資料分析を行う
	7	調査・資料分析について②	調査・資料分析を行う
	8	中間報告①：個別発表	中間報告書を作成する
	9	中間報告②：個別発表	中間報告書を作成する
	10	課題研究論文の書き進め方について①	論文を作成する
	11	課題研究論文の書き進め方について②	論文を作成する
	12	課題研究論文の点検と推敲①	論文の点検と推敲を行う
	13	課題研究論文の点検と推敲②	論文の点検と推敲を行う
	14	課題研究発表①：個別発表	発表資料・原稿を作成する
15	課題研究発表②：個別発表	発表資料・原稿を作成する	
16	まとめと振り返り	専門演習dの振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：白井利明・高橋一郎著、『よくわかる卒論の書き方 第2版』、ミネルヴァ書房、2019年 参考文献：山田剛史・林創著、『大学生のためのリサーチリテラシー入門—研究のための8つのカー』、ミネルヴァ書房、2019年		
	学びの手立て ①一人ひとりが積極的・主体的に参加し、自ら考え発言すると共に、仲間と協力して取り組みましょう。 ②関心のあるテーマ等に関する講演会やシンポジウム、ボランティア活動に積極的に参加しましょう。 ③図書館等を活用し、沖縄県だけでなく、日本や世界における実践・活動も広く学びましょう。		
	評価 ・平常点：質問や発言の有無、積極的・協調的なグループワーク参加態度等を適宜加算します。（30%） ・時間外学習レポートの提出状況・到達度を評価します。（20%） ・個人レポート、グループレポートの提出状況・到達度を評価します。（50%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目：「保健福祉政策論」「保健医療サービス」「医療福祉論」 (2) 次のステージ：専門演習dで学んだ知識と経験を卒業演習に繋げていきます。
-------	---

科目 基本 情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	専門演習 d	後期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	3 年	比嘉研究室 ; 5-418 mahiga@okiu.ac.jp	
学 び の 準 備	ねらい	メッセージ		
	各学生の関心のある児童家庭福祉をテーマに深めていく。全体を通してグループディスカッションや論文購読を行い、プレゼン能力やレポート・論文作成能力を培う。フィールドワークとしては、児童福祉施設等を中心に福祉・教育現場に足を運び、自ら見聞し、学びを深める。また、ソーシャルワーカーとしての知識・技術・倫理観の確立も掲げる。	「専門演習c」に引き続き、自らの関心を意識し卒業論文につなげるように主体的に学んでください。COVID-19の影響でZoom等を活用してのオンライン授業になる場合もある。ポータル等大学からの連絡をこまめに確認して下さい。		
到達目標	調べ学習、ディスカッション等を通して自ら発信できるプレゼン能力を培う。また、レポート作成能力を向上させ、最終的には「課題研究」を仕上げることができる。			
学 び の 実 践	学びのヒント			
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)			
	前期科目「専門演習 c」での学びを活かし、学生個々人の関心に合わせて「課題研究」に取り組む。			
	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ選定 ・文献/資料収集 ・執筆(中間報告あり) ・完成 <p>後期の早い段階で図書館の活用方法について学ぶ。具体的には、論文検索や卒業論文の書き方等について学びを深め、課題研究に取り組む。</p> <p>各自の課題研究について、それぞれの進捗状況をゼミにて中間報告(全体ゼミ)を行う。併行して、個別指導を受け進めていく。</p>			
テキスト・参考文献・資料など				
必要に応じ、授業時に提示する。				
学びの手立て				
本科目は、講義形式で受身で受講するものではない。他のゼミ生とともに自ら積極的に取り組み、学問を探究し、その成果等を発表する。そのために図書館を大いに活用すること。				
評価				
出席は平常点とし、本科目の主旨を鑑み、授業態度;積極的な参加等(20%)、レポート(80%)等を総合して行う。				
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目			
卒業論文作成に向けて意識すること。				
関連科目: 「卒業演習a・b」 「卒業研究発表」				

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 d	後期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	3年	人間福祉学科 知名孝	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	2年生で行った実践→インタビューの経験をもとに、この学年の専門演習では、4年次に執筆する卒論の準備を行っていきます。具体的には、(1)卒論・論文についての理解、(2)調査(質的調査)の理解と演習、(3)自分の卒論テーマと研究デザインの決定を目標としていきます。	3年生では、次年度の卒業論文とそのため調査に比重をうつしてゼミ活動を展開していきます。そのため個別の指導や春休み中の卒論指導を行っていきます。		
到達目標	インタビュー調査方法への理解。卒論テーマの設定、卒論調査のデザインの設定、先行研究調査を行う。			
学びの実践	学びのヒント			
	授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)			
	3年次専門演習では、次年度の卒論に向けてインタビュー調査・分析方法の習得とともに、自分の卒論テーマの設定、そのテーマに沿った調査のデザインの検討、先行研究の調査と執筆を行っていきます。学生の学びのペースにあわせて以下のことを行っていきます。以下の学習内容に合わせた事前学習を課題として課していきます。			
	インタビュー調査の学習、インタビュー調査にもとづく論文の購読、インタビュー調査演習、卒論テーマの設定、読書ノート(アノテーション・ビブリオグラフィー)の作成、先行研究の執筆			
テキスト・参考文献・資料など	授業の中で提示していきます。			
学びの手立て	授業共有ファイルに過去の卒論や資料をアップしておくので、それらを参照しながらゼミでの学習を進めていく。			
評価	2/3以上の出席を単位認定の条件とする。ゼミで出されるそれぞれの課題、発表、個別指導で課される卒論に向けての課題が60%、学期末提出の先行研究が40%。			
学びの継続	次のステージ・関連科目			
	この年度の専門演習の成果は、そのまま次年度の卒論の一部になっていきます。この年度から次年度の間の春休みには継続して卒論指導を行っていきます。			

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 美智子	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含む）と意義、②精神保健福祉士の役割と意義、③相談援助の概念と範囲、④相談援助理念、⑤相談援助における権利擁護の意義と範囲、⑥相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理、⑦総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容等につ</p>	<p>本科目の受講生は、社会福祉士、精神保健福祉士、心理カウンセラーを目指す学生となっている。多職種によるチームアプローチが求められている現在、各々の専門領域を理解し共通言語を持つことは重要である。ソーシャルワーク実践の場における各々の役割についても触れながら説明する。</p>

到達目標	<p>①社会福祉士・精神保健福祉士は法的根拠をもった専門職であることを理解しソーシャルワークの観点から役割と意義を説明することができる。②ソーシャルワークに係る国際定義を理解すると共に、ソーシャルワークの形成過程について説明することができる。③ソーシャルワークの価値基盤である人権尊重・社会正義・権利擁護について理解しクライアントの自己決定・自立支援・エンパワメント・ストレンクス視点・ノーマライゼーション・社会的包摂を実践に結び付けて考えることができる。④専門職倫理について倫理綱領に基づいて考察することができる。⑤ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点について理解し、総合的かつ包括的な相談援助の実践に応用することができる。⑥相談援助にかかる専門職の概念と範囲について理解し説明することができる。</p>
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 履修上の注意事項・評価方法について説明	①次回の予習（テキストを熟読）
	2	社会福祉士の役割と意義 ①	①、②講義感想と考察を提出
	3	社会福祉士の役割と意義 ②	①、②講義感想と考察を提出
	4	相談援助の定義と構成要素①	①、②講義感想と考察を提出
	5	相談援助の定義と構成要素②	①、②講義感想と考察を提出
	6	相談援助の形成過程Ⅰ①	①、②講義感想と考察を提出
	7	相談援助の形成過程Ⅰ②	①、②講義感想と考察を提出
	8	相談援助の形成過程Ⅱ①	①、②講義感想と考察を提出
	9	相談援助の形成過程Ⅱ②	①、②講義感想と考察を提出
	10	相談援助の形成過程Ⅱ③	①、②講義感想と考察を提出
	11	相談援助の理念Ⅰ①	①、②講義感想と考察を提出
	12	相談援助の理念Ⅰ②	①、②講義感想と考察を提出
	13	相談援助の理念Ⅰ③	①、②講義感想と考察を提出
	14	相談援助の理念Ⅱ①	①、②講義感想と考察を提出
15	相談援助の理念Ⅱ②	①、②講義感想と考察を提出	
16	学期末テスト		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基盤と専門職』中央法規（学内の朝野書房で購入してください）</p> <p>参考書 授業の中で随時紹介する資料</p> <p>随時配布する</p>
-------	--

学びの手立て	<p>テキストに沿って講義を展開していきます。従って、テキストを熟読し理解してください。わからない用語については辞書などを使って調べる習慣をつけてください。</p> <p>また、新聞、マスコミの報道に感心を持つことは講義で学習した内容を深めることに繋がります。</p>
--------	--

評価	<p>期末テスト60%、受講への積極的な姿勢20%、提出物20%等を元に総合的に評価する。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>社会福祉士、精神保健福祉士の受験資格取得に必要な科目ですが、国家試験のためだけの学習にとどまらず「人間の福利」を追求する学問であることを念頭において学んでください。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	後期	火3	2
	担当者 -宮城 美智子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	対面授業終了後教室またはGメールで受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含む）と意義、②精神保健福祉士の役割と意義、③相談援助の概念と範囲、④相談援助理念、⑤相談援助における権利擁護の意義と範囲、⑥相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理、⑦総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容等について理解する。</p>	<p>本科目の受講生は、社会福祉士、精神保健福祉士、心理カウンセラーを目指す学生となっている。多職種によるチームアプローチが求められている現在、各々の専門領域を理解し共通言語を持つことは重要である。ソーシャルワーク実践の場における各々の役割についても触れながら説明する。</p>
到達目標	<p>①社会福祉士・精神保健福祉士は法的根拠をもった専門職であることを理解しソーシャルワークの観点から役割と意義を説明することができる。②ソーシャルワークに係る国際定義を理解すると共に、ソーシャルワークの形成過程について説明することができる。③ソーシャルワークの価値基盤である人権尊重・社会正義・権利擁護について理解しクライアントの自己決定・自立支援・エンパワメント・ストレンクス視点・ノーマライゼーション・社会的包摂を実践に結び付けて考えることができる。④専門職倫理について倫理綱領に基づいて考察することができる。⑤ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点について理解し、総合的かつ包括的な相談援助の実践に応用することができる。⑥相談援助にかかる専門職の概念と範囲について理解し説明することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	後期オリエンテーション 授業説明	①次回の予習(テキストを塾読)
	2	専門職倫理と倫理的ジレンマ①	①②講義の感想と考察を提出
	3	専門職倫理と倫理的ジレンマ②	①②講義の感想と考察を提出
	4	専門職倫理と倫理的ジレンマ③	①②講義の感想と考察を提出
	5	総合的かつ包括的な相談援助の全体像①	①②講義の感想と考察を提出
	6	総合的かつ包括的な相談援助の全体像②	①②講義の感想と考察を提出
	7	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論	①②講義の感想と考察を提出
	8	相談援助にかかる専門職の概念と範囲①	①②講義の感想と考察を提出
	9	相談援助にかかる専門職の概念と範囲②	①②講義の感想と考察を提出
	10	相談援助にかかる専門職と概念と範囲③	①②講義の感想と考察を提出
	11	総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能①	①②講義の感想と考察を提出
	12	総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能②	①②講義の感想と考察を提出
	13	総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能③	①②講義の感想と考察を提出
14	総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能④	①②講義の感想と考察を提出	
15	総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能⑤	①②講義の感想と考察を提出	
16	学期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など	<p>教科書 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基盤と専門職 第3版』中央法規(教科書に沿って授業します。各自で購入してください) 参考書 授業の中で随時紹介する資料 随時配布する</p>		
学びの手立て	<p>テキストに沿って講義を展開していきます。従って、テキストを熟読し理解してください。わからない用語については辞書などを使って調べる習慣をつけてください。 また、新聞、マスコミの報道に感心を持つことは講義で学習した内容を深めることに繋がります。</p>		
評価	<p>受講への積極的な姿勢40%、提出物60%等を元に総合的に評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>社会福祉士、精神保健福祉士の受験資格取得に必要な科目ですが、国家試験のためだけの学習にとどまらず「人間の福利」を追求する学問であることを念頭において学んでください。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助の理論と方法Ⅰ	前期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲宗根 政貴	2年	授業終了後に教室で受け付け。またはppt910@okiu.ac.jpまで。	

学びの準備	ねらい 本科目では、ソーシャルワークを実践し展開するため、ソーシャルワークの理論とその理論を土台とした実践がどう結びついているのかを学び、ソーシャルワークの専門性や専門職性についての学びを深める。	メッセージ 将来、ソーシャルワーク専門職をめざすみなさんにとって、本科目はその基幹となる価値や倫理、知識、技術について学ぶ。ソーシャルワーク専門職としての自分自身をイメージしながら本科目を受講して欲しい。
	到達目標 本科目を受講することで、ソーシャルワークの専門性や専門職性について理解し、ソーシャルワーク実践における根拠や拠りどころとなるソーシャルワークの理論（価値や倫理、知識、技術）が、ソーシャルワーク実践とどう結びついているかを理解し、説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	ソーシャルワークの専門職性の理解
	2	相談援助とは	ソーシャルワークの価値倫理の理解
	3	相談援助の構造と機能①	ソーシャルワークの構造機能の理解
	4	相談援助の構造と機能②	ソーシャルワークの構造機能の理解
	5	相談援助における援助関係①	援助関係の活用の理解
	6	相談援助における援助関係②	援助関係の活用の理解
	7	人と環境の交互作用①	人と環境との交互作用の理解
	8	人と環境の交互作用②	人と環境との交互作用の理解
	9	相談援助における援助関係③	自己覚知についての理解
	10	相談援助のためのアウトリーチの技術①	アウトリーチ実践の理解
	11	相談援助のためのアウトリーチの技術②	アウトリーチ実践の理解
	12	相談援助の展開過程Ⅰ	援助プロセスの理解
	13	相談援助の展開過程Ⅱ	援助プロセスの理解
	14	相談援助のためのアセスメントの技術	アセスメントについての理解
15	相談援助のためのモニタリング	モニタリングについての理解	
16	まとめ	相談援助の理論と方法のまとめ	
実践	テキスト・参考文献・資料など 1. 社会福祉士養成講座編集委員会(2015)：『相談援助の理論と方法Ⅰ（第3版）』、中央法規、2600円（税抜） 2. 社会福祉士養成講座編集委員会(2015)：『相談援助の理論と方法Ⅱ（第3版）』、中央法規、2600円（税抜） 3. その他、必要に応じて受講時に示すこととする。		
	学びの手立て 本科目は、講義形式だけではなく演習も取り入れた授業展開が多いため、授業は受け身ではなく、積極的に参加すること。また、課題についてもしっかりと取り組み、提出期限は守ること。一方、本科目以外の社会福祉士の関連科目（基礎科目）との関連性も意識しながら受講すること。特に併行して受講する「相談援助の基盤と専門職Ⅰ」、「相談援助演習Ⅰ」は特に重要である。		
	評価 演習への参加状況及び期間中に与える小課題等も含め、総合的に評価する。 総合的な評価方法は「演習参加態度30%、小課題70%」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本科目の発展的科目には「相談援助の理論と方法Ⅱ～Ⅳ」が存在する。授業間の関連性を意識し受講すること。その他、併行して「相談援助の基盤と専門職Ⅰ」、「相談援助演習Ⅰ」等を受講し、さらに本科目受講後には「相談援助実習指導Ⅱ」等で学びの継続を行うこと。本専攻のディプロマポリシーに掲げる「福祉・医療・保健・教育の各分野で活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材」となってほしい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習 a	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	4年	講義終了後に受付けます。また、メールでも受付けます。	

学びの準備	ねらい 卒業演習abは卒業論文を作成することを目標としています。課題研究作成の経験を活かしながら研究を進めていきます。卒業演習aでは主体的に、そして計画に沿って論文を作成します。また、卒業論文の中間報告を行います。	メッセージ 卒業論文作成は個々の孤独な作業のように思えますが、実際は作成過程をゼミ仲間と励ましあいながら歩んでいきます。学生どおし互いの研究を紹介し、議論を重ねたり情報を交換したりして視野を広げていきます。楽しく議論を重ねていきましょう。
	到達目標 ①論文作成手法を学ぶことができる。 ②発表と議論のスキルを高めることができる。 ③他の学生の研究から学び視野を広げることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、ゼミ体制づくり	卒論テーマを考える
	2	卒業論文中間報告の方法	卒論テーマを考える
	3	個別面談①	個別面談の準備をする
	4	個別面談②	個別面談の準備をする
	5	個別面談③	個別面談の準備をする
	6	個別面談④	就職分野を考える
	7	福祉の仕事ガイダンス	ガイダンスをふりかえる
	8	中間報告会①	中間報告会の準備をする
	9	中間報告会②	中間報告会の準備をする
	10	中間報告会③	中間報告会の準備をする
	11	ゲストスピーカー講演会	講演会の感想をまとめる
	12	中間報告会④	中間報告会の準備をする
	13	中間報告会⑤	中間報告会の準備をする
	14	中間報告会⑥	国家試験対策に関する資料を読む
15	国家試験勉強法について	国家試験勉強会の体制をつくる	
16	まとめ	演習をふりかえる	
	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストはありません。演習時に随時紹介していきます。		
	学びの手立て まずは研究を楽しみましょう。また、余裕をもって計画を立てることで国試の勉強や就職活動などの両立を図っていきましょう。卒業演習aの取り組みが卒業演習bに大きく影響しますので計画的に学びを進めましょう。		
	評価 中間報告の内容50%、ゼミメンバーの研究発表に対する積極的議論40%、授業への主体的参加10%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業演習 b につなげる。
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習 a	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	樋口 美智子	4年	授業終了後に受け付けます。問い合わせは教員のE-mailにしてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①大学4年間の学びの集大成として、自分で「問い」を立て解決する研究過程を卒業論文としてまとめること。②自分の頭で批判的に考えること、論理的・合理的に考えること、学んだ理論や知識を活かし問題解決の方法を考えること。卒業論文の作成を通して、自分のライフワークに繋がる何かを見つけることができることをねらいとする。</p> <p>到達目標</p> <p>①研究上必要な知識・技能（聞く・課題を発見する・情報を収集する・情報を整理する・読む・書く・分析する・発表する）が身についている。</p> <p>②卒業論文を作成することができる。</p> <p>③卒業論文研究を発表することができる。</p>	<p>社会情勢や保健・医療・介護・福祉領域の課題に関心を持ち、自分の「問い」をあたためること。卒業論文は本人が主体的に取り組まなければ作成できない。そのためには、同級生や先輩との交流、指導教員とのディスカッションが力になる。セルフマネジメントも重要である。お世話になる関係者も含め、周りの力を借りながら取り組もう。</p>

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	専門演習 c・d を振り返る
	2	卒業論文とは何か、研究仮説について	研究仮説を立てる
	3	研究の倫理について、研究計画書とは、	先行研究論文を検索する
	4	卒業論文計画書作成①	卒業論文の構成を考える
	5	卒業論文計画書作成②	卒業論文計画書を作成する
	6	卒業論文計画書の提出	参考文献リストを作成する
	7	卒業論文作成のための個人面談①	テーマと論文概要を執筆する
	8	卒業論文作成のための個人面談②	テーマと論文概要を執筆する
9	卒業論文作成のための個人面談③	テーマと論文概要を執筆する	
10	卒業論文作成のための個人面談④	テーマと論文概要を執筆する	
11	卒業論文作成のための個人面談⑤	テーマと論文概要を執筆する	
12	卒業論文計画書、要約の提出	卒業論文計画書・要約を作成する	
13	卒業論文中間報告①	卒業論文中間報告の準備	
14	卒業論文中間報告②	卒業論文中間報告の準備	
15	卒業論文中間報告③	卒業論文中間報告の準備	
16	まとめと振り返り	卒業論文計画書の見直し	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：『よくわかる卒論の書き方 第2版』、白井利明・高橋一郎著、ミネルヴァ書房、2019年</p> <p>参考文献：『よくわかる学びの技法 第3版』、田中共子編、ミネルヴァ書房、2020年</p> <p>『社会福祉の研究入門—計画立案から論文執筆まで—』、久田則夫編、中央法規、2003年</p> <p>資料：必要に応じて配布する資料は、ファイリングし持参することが望ましい。</p>	
学びの手立て	<p>①自分の知りたいことや「問い」を深めたり広げたりして、「研究仮説」をたてること。</p> <p>②資料収集が論文執筆のカギである。専門演習から始めた資料（本・雑誌論文・新聞記事・統計資料・インターネット上の情報等）の整理を行うこと。</p> <p>③特に、先行研究論文の知見を表にまとめておくこと。</p> <p>④卒業論文作成は、教員と二人三脚で進む。積極的に個人面談や執筆指導に臨むこと。</p>		
評価	<p>①平常点：授業参加度20%、課題提出状況・到達度20%、中間報告20%</p> <p>②卒業演習論文提出40%とし、総合的に評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「卒業演習 b」において、論文作成を続ける。基本的な論文の書き進め方に沿って執筆すること。関連する科目や集中講義を履修することも考察を深めることに繋がる。また夏期休暇を有効に活用し、学内外の講演会や研修会に参加することも推奨する。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 社会福祉を勉強してきて自分が取り上げたテーマについて、現状を
しらべ、解決策を模索する一連の流れから専門性を高める。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習 a	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド クレイグ ウィルコックス	4年	Email:d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文を作成するための演習となる。4年間の集大成として、これまでに履修してきた講義・演習・実習にて学んだ知識と経験を生かして研究テーマを設定する。本演習では、各自の設定したテーマを設定するところから始め、文献を調べつつ研究の企画と設計、論文・参考文献等の検索の方法と収集、データ分析に関する指導等を行う。受講生には自主性を持って取り組むことを強く求める。	各学生は、今まで演習や講義でつちかってきた知識・技術を発揮して欲しい。論文執筆の進行具合に合わせて定期的に論文指導を受けることが望ましい。卒業論文について要項もあるためそれに従った論文を作成、提出を行うこと。
到達目標	卒業論文の提出を目標とする。 計画性をもって卒業論文執筆を進めることが出来るようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	演習全体の進め方を考える
	2	卒業論文について	論文執筆のための準備
	3	卒業論文計画書作成①	研究計画書を資料を確認しつつ作成
	4	卒業論文計画書作成②	研究計画書を資料を確認しつつ作成
	5	卒業論文計画書作成③	研究計画書を資料を確認しつつ作成
	6	卒業論文計画書の提出	研究計画書作成や論文執筆
	7	卒業論文準備・個人面談①	各自で文献を探すなどの執筆活動
	8	卒業論文準備・個人面談②	各自で文献を探すなどの執筆活動
	9	卒業論文準備・個人面談③	各自で文献を探すなどの執筆活動
	10	卒業論文準備・個人面談④	各自で文献を探すなどの執筆活動
	11	卒業論文準備・個人面談⑤	各自で文献を探すなどの執筆活動
	12	卒業論文中間報告準備	中間発表のため今まで整理
	13	中間報告①	中間発表のため今までの整理
14	中間報告②	中間発表のため今までの整理	
15	中間報告③	他発表者への感想をまとめる	
16	まとめ・後期へ向けて	論文執筆活動	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	指定はしない。必要に応じて、文献・資料の紹介をおこなう。 参考書籍 よくわかる卒論の書き方（ミネルヴァ書房）白井利明・高橋一郎著 2010年 社会福祉の研究入門-計画立案から論文執筆まで-（中央法規）久田則夫：編 2003年 よくわかる学びの技法第2版（ミネルヴァ書房）田中共子編 2009年		
	学びの手立て		
	卒業論文を作成するために図書館や論文検索サイトなどのインターネット情報等を有効利用すること。自分から情報を集める、教員との綿密なやりとりなどが作成に関しては必要不可欠です。		
	評価		
	授業参加度（10%）、課題の提出状況・内容および研究計画書の提出・内容（90%）とし総合的に判断します。 この講義においては、授業内を行う個人面談にも評価の重点を置く。論文執筆の際は必ず個人面談を行いながら執筆活動を行うこと。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「卒業演習 b」に続きます。引き続き論文の作成を行うので、夏休み期間中も自身の論文執筆を中断せず引き続き調べる必要があります。 自身の論文作成に関した講義があれば履修し、情報を集めることも良いです。
-------	---

※ポリシーとの関連性

専攻では、最終的に社会福祉学理論の基礎をもとに、現場を重視した人間性と能力を兼ね備えた人材を養成することを掲げている。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習 a	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	4年	比嘉研究室 ; 5-418 mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	4年間の集大成として、卒業論文に取り組む。これまでの講義・演習・実習等で得た知識・経験に基づいて各自のテーマを設定する。それぞれのテーマに基づいて文献検索・資料収集・調査等を行い、夏季の中間報告につなげる。	これまでの学びに加えて最新の情報が得られるように常にアンテナを張ること。1月には国家試験が控えているため、なるべく早めに取り組むこと。COVID-19の影響でZoom等を活用してオンライン授業になる場合もある。ポータル等大学からの連絡をこまめに確認して下さい。

到達目標	これまでの学び(講義・演習・実習等)の集大成として、「卒業論文」を仕上げることができる。
------	--

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>1. オリエンテーション ; 年間スケジュールの確認 (※後期開講「卒業演習b」含む)</p> <p>(a;前期)</p> <p>①「卒論の書き方」・各自のテーマ決定(～5月中旬)</p> <p>②個別指導(6月～)</p> <p>③中間報告会(8月中旬)</p> <p>(b;後期)</p> <p>④仮提出[ゼミ](10月下旬)</p> <p>⑤本提出[社会福祉専攻](12月中旬)</p> <p>⑥卒業論文報告会(2月初旬)</p> <p>2. 各自のテーマの決定・報告</p> <p>3. 各自のテーマに関する先行研究等の文献・資料収集</p> <p>4. 個別指導 ; 各自の進捗状況を報告</p> <p>5. 中間報告会</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>白井・高橋(2008) ; 『よくわかる 卒論の書き方』、ミネルヴァ書房。 その他は必要に応じて適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>卒業論文を作成するため、これまでの先行研究を踏まえて早めに自らのテーマに関する資料を集めること。その際図書館の利用は欠かせない。また「卒業論文」として仕上げるためには、コンスタントに研究室を訪ね、指導を受けること。</p>
	<p>評価</p> <p>ゼミへの出席は当たり前であり、受講態度(20%)、中間報告(20%)と論文作成への取り組み(そのプロセス)、論文(60%)を総合的に判断して評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>社会福祉士国家試験、就職。 関連科目：卒業研究発表。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名 卒業演習 a	期別	曜日・時限	単位
		前期	金 1	2
	担当者 知名 孝	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		4年	人間福祉学科 知名孝	
学びの準備	ねらい 大学4年間で学んだことを卒業論文（ゼミ論文）執筆や卒業制作を通して形にしていくことをねらいとする。	メッセージ このゼミを通じて、学生生活の集大成として形に残すものを執筆・作成し、これからの人生で振り返ることのできるものをつくって欲しい。		
	到達目標 (1) 卒業論文（制作）のテーマを決める、(2) 論文執筆に必要な知識（執筆方法や調査方法）の取得、(3) 調査を行い論文の執筆を行う、(4) 論文や制作を完成させる			
学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 到達目標にある、(1) 卒業論文（制作）のテーマを決める、(2) 論文執筆に必要な知識（執筆方法や調査方法）の取得、(3) 調査を行い論文の執筆を行う、(4) 論文や制作を完成させるを、ゼミ単位での指導（講義含め）と各学生単位での個人指導で進めていく。学生の執筆・作成に合わせて指導を進めていく。また同じく学生の執筆・作成の内容や進行に合わせた課題を、個人指導の中で（各学生）に課していく。 *対面を基本としますがコロナウイルス感染の状況に応じてOnline授業となる可能性もあります。			
	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で指定していく。ポータルサイト上の「授業共有ファイル」にも必要な資料などをアップしておくので活用するようにすること。			
	学びの手立て 自分一人で悩まずに、指導教員と相談しながら自分の執筆・作成プロジェクトを進めていくように。			
	評価 指導で課された課題（卒論執筆原稿ドラフトの提出）（40%）、中間発表など執筆・作成に関する発表（15%）、執筆・作成の最終成果（45%）で評価を行う。			
学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業演習 b（後期）はこのゼミで行ったものを引き継ぐ形で執筆・作成作業を行っていく。			

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習 a	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	4年	講義終了後またはメール等で受け付ける。	

学びの準備	ねらい 現代社会を讀解するため、社会学の基礎と社会調査の技法を身につけ、4年間の集大成としての研究成果物として作成し、発表する。	メッセージ 大学生活および大学での学びの集大成です。これに取り組みず、何を大学生の証しにするとと言えるのだろうか。大学で学んでいたことを、今の自分、将来の自分に目に見える形で残しておこう。
	到達目標 各自で設定した卒業研究テーマに沿って、企画・設計、先行研究等の情報収集、データや素材等の収集と整理、分析・考察、卒業論文の執筆や研究成果物の作成をおこなう。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	年間のスケジュールと諸注意	仮テーマについて考える
	2	各自卒業研究テーマ候補の報告	仮テーマに関する資料収集
	3	各自卒業研究テーマの確定と発表①	資料の読み込みとテーマの具体化①
	4	各自卒業研究テーマの確定と発表②	資料の読み込みとテーマの具体化②
	5	各自卒業研究テーマの確定と発表③	資料の読み込みとテーマの具体化③
	6	各自卒業研究テーマの確定と発表④	資料の読み込みとテーマの具体化④
	7	卒業研究の企画・設計に関する指導	研究方法を検討する
	8	先行研究に関する文献・資料等の収集に関する指導	文献・資料等の探索と精読
	9	研究の方法論に関する指導	研究方法の検討と確定
	10	論文構成に関する指導	目次構成の作成
	11	データおよび素材の収集に関する指導①	研究方法の詳細な手順確認①
	12	データおよび素材の収集に関する指導②	研究方法の詳細な手順確認②
	13	個別の進捗確認と指導①	研究作業の進捗状況をまとめる①
	14	個別の進捗確認と指導②	研究作業の進捗状況をまとめる②
15	個別の進捗確認と指導③	研究作業の進捗状況をまとめる③	
16	予備日	予備的な作業	
	テキスト・参考文献・資料など テキストの指定はとくにない。各自の研究テーマに応じて、適宜参考文献を紹介していく。		
	学びの手立て 必ず卒業研究の成果物を提出しなければならない。ただし、平常点（受講態度など）も重視するので、怠けずに課題に取り組むこと。		
	評価 卒業研究のテーマ設定への取り組みが25点、テーマに関する文献・資料等の収集への取り組みが50点、研究方法のや対象の設定等に関する具体化などが25点となる。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：卒業演習b、卒業研究発表 次のステージ：卒業研究のテーマに関する研究の取り組みと原稿執筆および論集の作成
-------	---

※ポリシーとの関連性

専攻では、最終的に社会福祉学理論の基礎をもとに、現場を重視した人間性と能力を兼ね備えた人材を養成することを掲げている。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習 b	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	4年	比嘉研究室；5-418 mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	4年間の集大成として、卒業論文に取り組む。これまでの講義・演習・実習等で得た知識・経験に基づいて各自のテーマを設定する。それぞれのテーマに基づいて文献検索・資料収集・調査等を行い、夏季の中間報告を経て、最終的に卒業論文にまとめる。	これまでの学びに加えて最新の情報が得られるように常にアンテナを張ること。年明けには国家試験が控えているため、なるべく早めに取り組むこと。COVID-19の影響でZoom等を活用してのオンライン授業になる場合もある。ポータル等大学からの連絡をこまめに確認して下さい。
到達目標	これまでの学び(講義・演習・実習等)の集大成として、「卒業論文」を仕上げることができる。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>前期「卒業演習a」での学び、中間報告を踏まえて、卒業論文を完成させる。</p> <p>本科目では、個別指導を中心に進めていく。</p> <p>スケジュール</p> <p>↓</p> <p>〈b:後期〉 仮提出[ゼミ](10月下旬) 本提出[社会福祉専攻](12月中旬) 卒業論文報告会(2月初旬)</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>白井・高橋(2008)；『よくわかる 卒論の書き方』、ミネルヴァ書房。 その他は必要に応じて適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>卒業論文を作成するため、これまでの先行研究を踏まえて早めに自らのテーマに関する資料を集めること。その際図書館の利用は欠かせない。また「卒業論文」として仕上げるためには、コンスタントに研究室を訪ね、指導を受けること。</p>
評価	ゼミへの出席は当たり前であり、受講態度(20%)、最終的に提出される論文と論文作成への取り組み(そのプロセス)(80%)を総合的に判断して評価する。一方「卒業研究発表」(卒業論文:4単位)は、ゼミ担当教員が主査、他専攻教員が副査となって論文審査を行い、最終評価を与える。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>社会福祉士国家試験、就職。 関連科目：卒業研究発表。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習 b	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	樋口 美智子	4年	授業終了後に受け付けます。問い合わせは教員のE-mailにしてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①大学4年間の学びの集大成として、自分で「問い」を立て解決する研究過程を卒業論文としてまとめること。②自分の頭で批判的に考えること、論理的・合理的に考えること、学んだ理論や知識を活かし問題解決の方法を考えること。卒業論文の作成を通して、自分のライフワークに繋がる何かを見つけることができることをねらいとする。</p> <p>到達目標</p> <p>①研究上必要な知識・技能（聞く・課題を発見する・情報を収集する・情報を整理する・読む・書く・分析する・発表する）が身についている。</p> <p>②卒業論文を作成することができる。</p> <p>③卒業論文研究を発表することができる。</p>	<p>社会情勢や保健・医療・介護・福祉領域の課題に関心を持ち、自分の「問い」をあたためること。卒業論文は本人が主体的に取り組まなければ作成できない。そのためには、同級生や先輩との交流、指導教員とのディスカッションが力になる。セルフマネジメントも重要である。お世話になる関係者も含め、周りの力を借りながら取り組もう。</p>

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・卒業論文の進捗確認	研究計画書の確認・見直し
	2	論文執筆指導・個人面談①	論文執筆・進捗報告・相談
	3	論文執筆指導・個人面談②	論文執筆・進捗報告・相談
	4	論文執筆指導・個人面談③	論文執筆・進捗報告・相談
	5	論文執筆指導・個人面談④	論文執筆・進捗報告・相談
	6	論文執筆指導・個人面談⑤	論文執筆・進捗報告・相談
	7	卒業論文作成要領について	発表要旨をまとめる
	8	卒業論文発表会①	発表用パワーポイントの作成
	9	卒業論文発表会②	口頭発表原稿の作成
	10	卒業論文発表会③	質疑応答文案の作成
	11	卒業論文の提出	指摘箇所の加除修正
	12	論文の点検と推敲①	論文の点検と推敲
	13	論文の点検と推敲②	論文の点検と推敲
	14	卒業論文集の制作①	お礼状の作成
	15	卒業論文集の制作②	送付の準備
16	まとめと振り返り	専門演習・卒業演習の振り返り	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：『よくわかる卒論の書き方 第2版』、白井利明・高橋一郎著、ミネルヴァ書房、2019年</p> <p>参考文献：『よくわかる学びの技法 第3版』、田中共子編、ミネルヴァ書房、2020年</p> <p>『社会福祉の研究入門—計画立案から論文執筆まで—』、久田則夫編、中央法規、2003年</p> <p>資料：必要に応じて配布する資料は、ファイリングし持参することが望ましい。</p>
----	---

学びの手立て	<p>①自分の知りたいことや「問い」を深めたり広げたりして、「研究仮説」をたてること。</p> <p>②資料収集が論文執筆のカギである。専門演習から始めた資料（本・雑誌論文・新聞記事・統計資料・インターネット上の情報等）の整理を行うこと。</p> <p>③特に、先行研究論文の知見を表にまとめておくこと。</p> <p>④卒業論文作成は、教員と二人三脚で進む。積極的に個人面談や執筆指導に臨むこと。</p>
--------	---

評価	<p>①平常点：授業参加度20%、課題提出状況・到達度20%、中間報告20%</p> <p>②卒業演習論文提出40%とし、総合的に評価する。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「専門演習」や「卒業演習」を通して、自ら「問い」を立て研究した学びを卒業後も活かそう。広く社会の課題に関心を持ち、いろいろな人々と共に、ライフワークに取り組むことを期待する。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

社会福祉を勉強してきて自分が取り上げたテーマについて、現状を調べ、解決策を模索する一連の流れから専門性を高める。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習 b	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド クレイグ ウィルコックス	4年	d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文を作成するための演習となる。4年間の集大成として、これまでに履修してきた講義・演習・実習にて学んだ知識と経験を活かして研究テーマを設定する。本演習では、各自の設定したテーマを設定するところから始め、文献を調べつつ研究の企画と設計、論文・参考文献等の検索の方法と収集、データ分析に関する指導等を行う。受講生には自主性を持って取り組むことを強く求める。	各学生は、今までの演習や講義で培ってきた知識・技術を発揮して欲しい。論文執筆の進行具合に合わせて定期的に論文指導を受けることが望ましい。卒業論文についての要項もあるため、それに従った論文を作成、提出を行うこと。
到達目標	卒業論文の提出を目標とする。各学生は積極的に卒業論文作成に取り組んで欲しい。また、年度末には「卒業論文集」の作成も行う。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	各自で論文執筆活動や相談
	2	卒業論文進捗確認	各自で論文執筆活動や相談
	3	卒業論文準備・個人面談①	各自で論文執筆活動や相談
	4	卒業論文準備・個人面談②	各自で論文執筆活動や相談
	5	卒業論文準備・個人面談③	各自で論文執筆活動や相談
	6	卒業論文準備・個人面談④	各自で論文執筆活動や相談
	7	卒業論文準備・個人面談⑤	各自で論文執筆活動や相談
	8	卒業論文準備・個人面談⑥	各自で論文執筆活動や相談
	9	卒業論文準備・個人面談⑦	各自で論文執筆活動や相談
	10	論文・卒業論文提出日	各自で論文執筆活動や相談
	11	論文修正期間・個人面談①	各自で論文執筆活動や相談
	12	論文修正期間・個人面談②	各自で論文執筆活動や相談
	13	論文修正期間・個人面談③	各自で論文執筆活動や相談
14	論文修正期間・個人面談④	各自で論文執筆活動や相談	
15	卒業論文集作成について	演習で論文集作成を行う	
16	卒業論文集完成・1年の振り返り、まとめ	演習で論文集作成を行う	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	指定はしない。必要に応じて、文献・資料の紹介をおこなう。 参考書籍 よくわかる学びの技法第2版（ミネルヴァ書房）田中共子編 2009年 よくわかる卒論の書き方（ミネルヴァ書房）白井利明・高橋一郎著 2010年 社会福祉の研究入門-計画立案から論文執筆まで-（中央法規）久田則夫編 2003年		
	学びの手立て		
	卒業論文を作成するために図書館や論文検索サイトなどのインターネット情報等を有効活用すること。自分から情報を集める、教員との綿密なやりとりなどが作成に関しては必要不可欠です。		
	評価		
	授業参加度（40%）、論文の評価（40%）、その他（20%）とし総合的に判断します。 この講義においては、授業外に行う個人面談にも評価の重点を置く。論文執筆の際は必ず個人面談を行いながら執筆活動を行うこと。 論文の提出を行わなければ評価ができないので注意すること。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	この演習の単位が取得できれば卒業も間近となります。様々な福祉分野について考える事はもちろんのこと、他の分野とも連携しているのが福祉です。自分だけの知見にとらわれず様々な分野の話や出来事に気を向け情報を得ながら福祉の考えを磨いていってください。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習b	後期	金1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	4年	人間福祉学科 知名孝	

学びの準備	ねらい 大学4年間で学んだことを卒業論文（ゼミ論文）執筆や卒業制作を通して形にしていくことをねらいとする。	メッセージ このゼミを通じて、学生生活の集大成として形に残すものを執筆・作成し、これからの人生で振り返ることのできるものをつくって欲しい。
	到達目標 (1) 卒業論文（制作）のテーマを決める、(2) 論文執筆に必要な知識（執筆方法や調査方法）の取得、(3) 調査を行い論文の執筆を行う、(4) 論文や制作を完成させる 対面授業を基本としますが、コロナウイルス感染の状況に応じてOnline授業となる可能性もあります。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 到達目標にある、(1) 卒業論文（制作）のテーマを決める、(2) 論文執筆に必要な知識（執筆方法や調査方法）の取得、(3) 調査を行い論文の執筆を行う、(4) 論文や制作を完成させるを、ゼミ単位での指導（講義含め）と各学生単位での個人指導で進めていく。学生の執筆・作成に合わせて指導を進めていく。また同じく学生の執筆・作成の内容や進行に合わせた課題を、個人指導の中で（各学生）に課していく。
	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で指定していく。ポータルサイト上の「授業共有ファイル」にも必要な資料などをアップしておくので活用するようにすること。

学びの実践	学びの手立て 自分一人で悩まずに、指導教員と相談しながら自分の執筆・作成プロジェクトを進めていくように。
	評価 指導で課された課題（卒論執筆原稿ドラフトの提出）（40%）、中間発表など執筆・作成に関する発表（15%）、執筆・作成の最終成果（45%）で評価を行う。

学びの継続	次のステージ・関連科目 最終成果物には卒業論文として単位を認定する。
-------	---------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習b	後期	金1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	4年	講義終了後またはメール等で受け付ける。	

学びの準備	ねらい 現代社会を讀解するため、社会学の基礎と社会調査の技法を身につけ、4年間の集大成としての研究成果物として作成し、発表する。	メッセージ 大学生活および大学での学びの集大成です。これに取り組みず、何を大学生の証しにすると出来るのだろうか。大学で学んでいたことを、今の自分、将来の自分に目に見える形で残しておこう。
	到達目標 各自で設定した卒業研究テーマに沿って、企画・設計、先行研究等の情報収集、データや素材等の収集と整理、分析・考察、卒業論文の執筆や研究成果物の作成をおこなう。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	後期のスケジュール確認と諸注意	前期のふりかえりを行う
	2	データ、素材収集の実施（適宜個別指導）①	データ収集の実践①
	3	データ、素材収集の実施（適宜個別指導）②	データ収集の実践②
	4	データ、素材収集の実施（適宜個別指導）③	データ収集の実践③
	5	卒業論文の進捗状況報告	進捗状況報告のレジュメ作成
	6	補足的な資料収集に関する指導（適宜個別指導）	資料収集の実践
	7	データおよび素材の整理方法の指導（適宜個別指導）	データ整理の実践
	8	論文または成果物の内容構成の再検討（適宜個別指導）	内容構成の最終的な確定作業
	9	個別の進捗報告と指導①	研究成果をまとめる①
	10	個別の進捗報告と指導②	研究成果をまとめる②
	11	個別の進捗報告と指導③	研究成果をまとめる③
	12	卒業研究成果の発表	発表資料の作成
	13	卒論および成果物の仮提出と修正指導	論文の執筆と修正作業
	14	卒論および成果物の本提出	論文集の編集作業
15	卒業論文および卒業研究集の作成	論文集の印刷、製本作業	
16	予備日	予備的な作業	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストの指定はとくにない。各自の研究テーマに応じて、適宜参考文献を紹介していく。		
	学びの手立て 必ず卒業研究成果物を提出しなければならない。ただし、平常点（受講態度など）も重視するので、怠けずに課題に取り組むこと。		
	評価 卒業研究のテーマに関する資料収集への取り組みが25点、「卒業研究発表」（卒業論文執筆／提出完了）の研究成果の提出で65点、卒業研究論集の編集・作成作業への取り組み姿勢で10点とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：卒業演習a、卒業研究発表 次のステージ：卒業研究成果の作成と発表およびそこで身につけたジェネリックスキル（特にリサーチリテラシー）を卒業後に活かすこと。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習b	後期	金1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	4年	講義の後およびメールにて受付けます。	

学びの準備	ねらい 卒業論文をまとめることを目的としています。個々の取り組みを深めると共に、他のゼミ生の研究成果から様々なことを学ぶことを大切にしていきたいと思ひます。	メッセージ 互いに研究成果を披露し、議論を深め、社会福祉学の充実発展につなげていきましょう。
	到達目標 ①研究をまとめることができる。 ②議論を深めることができる。 ③研究発表の手法について学ぶことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	卒論進捗状況をまとめる
	2	卒論進捗状況を発表する	個別面談の準備をする
	3	個別面談①	個別面談の準備をする
	4	個別面談②	個別面談の準備をする
	5	個別面談③	個別面談の準備をする
	6	個別面談④	中間報告会の準備をする
	7	中間報告会①	中間報告会の準備をする
	8	中間報告会②	中間報告会の準備をする
9	中間報告会③	卒論を完成させる	
10	中間報告会④	卒論を完成させる	
11	卒業論文集の作成	卒論とレジュメを編集する	
12	卒業論文集の作成	卒論を印刷する	
13	レジュメ集の作成	レジュメを印刷する	
14	卒業論文発表会①準備	発表会の準備をする	
15	卒業論文発表会②発表会	発表会をふりかえる	
16	まとめ	演習をふりかえる	
実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストはありません。演習時に随時紹介します。		
	学びの手立て 論文作成のプロセスを丁寧に進めていきましょう。		
	評価 卒業論文の内容50%、他の学生の研究に対する積極的議論40%、ゼミ活動への積極的関わり10%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 大学生生活の集大成として卒業論文に取り組み、卒業後の人生に活かしていきましょう。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域コーディネーター養成演習	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田直子（4）、南信乃介（6）、大城喜江子（6）	2年	講義の最後に受付ます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	地域コーディネートの基本的理論を復習したのち、講師から具体的実践（福祉分野間の連携にとどまらず異業種異分野ともつながる実践）を学ぶことが本科目の目的です。本科目の講師は地域コーディネーターとして先駆的実践をリードしています。このような講師から沖縄で展開されている地域づくりについて具体的に学びましょう。	まちづくりや公民館における”地域コーディネート”を事例に、地域コーディネーションの実際を学びましょう。ソーシャルワーカーに期待されるコーディネーションの知識や技術について最前線で活躍する講師から学びましょう。実際に現場にも訪問する予定です。また、演習科目なので毎回ディスカッションをする予定です。

到達目標	文献を通して地域コーディネートについて理解することができる。ソーシャルワーカーに期待されているコーディネーション機能について事例を通して考えることができる。コーディネーション機能について自分なりに課題を提示することができる。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	配布資料を読む
	2	地域コーディネーションの考え方①	地域コーディネートについて調べる
	3	地域コーディネーションの考え方②	地域コーディネートについて調べる
	4	まちづくりの取り組み事例から学ぶ①	提示した課題に取り組む
	5	まちづくりの取り組み事例から学ぶ②	提示した課題に取り組む
	6	まちづくりの取り組み事例から学ぶ③	提示した課題に取り組む
	7	まちづくりの取り組み事例から学ぶ④	発表の準備をする
	8	まちづくりの取り組み事例から学ぶ⑤	発表の準備をする
	9	まちづくりの取り組み事例から学ぶ⑥	発表をふりかえる
	10	公民館の取り組み事例から学ぶ①	提示した課題に取り組む
	11	公民館の取り組み事例から学ぶ②	提示した課題に取り組む
	12	公民館の取り組み事例から学ぶ③	提示した課題に取り組む
	13	公民館の取り組み事例から学ぶ④	発表の準備をする
	14	公民館の取り組み事例から学ぶ⑤	発表の準備をする
15	公民館の取り組み事例から学ぶ⑥	発表をふりかえる	
16	まとめ	講義で学んだことをふりかえる	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストはありません。参考文献および資料を随時紹介します。
-------	--

学びの手立て	地域コーディネート実践の現場においてボランティア活動を積極的に行い、地域コーディネートの最前線に関わります。また、関連文献を積極的に読みましょう。
--------	---

評価	グループ発表50%、課題40%、演習参加態度10% *3名の教員が担当します。評価についてもそれぞれの教員の評価を総合します。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 地域コーディネート実践を具体的に学びます。相談援助実習/精神保健福祉実習を終えた学生が実習で得た学びを深める上で有効な科目です。また、卒業論文につなげることができます。
-------	---

※ポリシーとの関連性

専門職として必要な知識を習得する。地域における個人支援や地域支援、社会資源の活用・開発に求められる知識を習得する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域福祉の理論と方法 I	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上地 武昭	2年	講義の記録用紙で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	教科書をしっかり読んで講義に臨むこと。特に自分の住む地域（市町村）について関心を持って欲しい。一般的な地域ではなく地域福祉は自分の住む地域（市町村及び自治会）の現状と課題についても関心を持ってほしい。	<ul style="list-style-type: none"> *教科書をしっかり読んで講義に臨むこと *地域福祉に関する文献を積極的に読むこと *積極的にボランティアに参加すること
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域福祉の基本的考え方(人権尊重, 権利擁護, 自立支援, 地域生活支援, 地域移行社会的包摂等を含む)について理解する。 2. 地域福祉の主体と対象について理解する。 3. 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。 4. 地域福祉におけるネットワーク(多職種・多機関との連携を含む)の意義と方法及びその実際について理解する。 5. 地域福祉の推進方法(ネットワーク, 社会資源の活用・調整・開発・福祉ニーズの把握方法, 地域トータルケアシステムの構築方法, サービスの評価方法を含む)について理解する。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、地域福祉の基本的考え方(1)導入	地域福祉の概念と範囲、理念
	2	地域福祉の基本的考え方(2)概念と範囲、理念	地域福祉の発展過程
	3	地域福祉の基本的考え方(3)発展過程	地域福祉における住民参加の意義
	4	地域福祉の基本的考え方(4)地域福祉における住民参加の意義	地域福祉のアウトリーチの意義
	5	地域福祉の基本的考え方(5)地域福祉におけるアウトリーチの意義	地域福祉の主体
	6	地域福祉の主体と対象(1)主体	地域福祉の対象
	7	地域福祉の主体と対象(2)対象	地域福祉と社会福祉法
8	地域福祉の主体と対象(3)社会福祉法	行政組織と民間組織の役割と実際	
9	行政組織と民間組織の役割と実際(1)地方自治体、社会福祉法人、NPO法人等	社協、民生・児童委員の役割	
10	行政組織と民間組織の役割と実際(2)社会福祉協議会、民生・児童委員	ボランティア組織・企業の役割	
11	行政組織と民間組織の役割と実際(3)ボランティア組織・企業	生協、農協、その他の役割と実際	
12	行政組織と民間組織の役割と実際(4)生活協同組合、農業協同組合、その他	社会福祉士や地域住民の役割	
13	専門職や地域住民の役割と実際(1)社会福祉士	介護相談員、認知症サポーター役割	
14	専門職や地域住民の役割と実際(2)介護相談員、認知症サポーター、その他	専門職、地域住民の役割と連携	
15	地域福祉を担う組織、専門職、地域住民の役割と連携	振り返り	
16	振り返り、テスト、評価		
テキスト・参考文献・資料など	<p>毎時資料を配布する。</p> <p>参考文献：「新・社会福祉士養成講座(9)社会福祉の理論と方法第3版」、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版社、2015年2月4日出版、2,808円</p>		
学びの手立て	<ol style="list-style-type: none"> ①「履修の心構え」 受講時に求められる態度は、専門職としての態度で学んでほしい。遅刻を3回すると1回の欠席とする。国家試験科目であるので受講にあたって必要となる前提科目や推奨科目確認しておく知識は、特にない。 ②「学びを深めるために」 講義内容の理解をより促進させ、到達目標まで引き上げるために講義に必要な事項を課題として予習して学んでもらう。 		
評価	<p>「期末試験70%、レポート20%、平常点10%」期末試験では到着目標に達しているかを試験する。レポートは毎回の課題の提出内容で評価し、受講態度は毎回の提出記録で確認して評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目：この科目は社会福祉国家試験の科目であるので国家試験に関する他の科目もしっかり履修してほしい。</p> <p>(2) 次のステージ：日本の少子高齢人口減少化社会であるので教室における理論的な学習はもとより、学生自身の地域におけるボランティア活動にも積極的に参加してほしい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 専門職として必要な知識を習得する。地域における個人支援や地域支援、社会資源の活用・開発に求められる知識を習得する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上地 武昭	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	教科書をしっかり読んで講義に臨むこと。特に自分の住む地域（市町村）について関心を持って欲しい。一般的な地域ではなく地域福祉は自分の住む地域（市町村及び自治会）の現状と課題についても関心を持ってほしい。	<ul style="list-style-type: none"> *教科書をしっかり読んで講義に臨むこと *地域福祉に関する文献を積極的に読むこと *積極的にボランティアに参加すること
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域福祉の基本的考え方(人権尊重, 権利擁護, 自立支援, 地域生活支援, 地域移行, 社会的包摂等を含む)について理解する。 2. 地域福祉の主体と対象について理解する。 3. 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。 4. 地域福祉におけるネットワーク(多職種・多機関との連携を含む)の意義と方法及びその実際について理解する。 5. 地域福祉の推進方法(ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発・福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む)について理解する。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、地域福祉の推進方法（導入）	ネットワークの意義と方法
	2	ネットワークの意義と方法	ネットワークの実際
	3	ネットワークの実際	地域における社会資源の活用・調整
	4	地域における社会資源の活用・調整・開発の意義と目的	地域における社会資源の開発方法
	5	地域における社会資源の活用・調整・開発の方法	地域における社会資源の実際
	6	地域における社会資源の活用・調整・開発の実際	地域における福祉ニーズの把握
	7	地域における福祉ニーズの把握方法と実際（1）質的な福祉ニーズの把握方法	地域における質的なニーズの把握
	8	地域における福祉ニーズの把握方法と実際（2）質的なニーズの把握（その実際）	地域における量的な福祉ニーズ
	9	地域における福祉ニーズの把握方法と実際（3）量的な福祉ニーズの把握方法	地域における量的福祉ニーズの把握
	10	地域における福祉ニーズの把握方法と実際（4）量的な福祉ニーズの把握（その実際）	地域トータルケアシステムの要素
	11	地域トータルケアシステムの構築に必要な要素	地域トータルケアシステムの実際
	12	地域トータルケアシステムの構築方法と実際	福祉サービスのストラクチャー評価
	13	地域における福祉サービスの評価方法（1）ストラクチャー評価、プロセス評価	福祉サービスのアウトカム評価
	14	地域における福祉サービスの評価方法（2）アウトカム評価、その他	福祉サービスの評価方法第三者評価
15	地域における福祉サービスの評価方法（3）第三者評価、ISO、運営適正化委員会等	後期テスト範囲や振り返り	
16	テスト・振り返り・評価など		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>毎時資料を配布する。</p> <p>参考文献：「新・社会福祉士養成講座（9）社会福祉の理論と方法第3版」、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版社、2015年2月4日出版、2,808円</p>

学びの手立て	<ol style="list-style-type: none"> ①「履修の心構え」 受講時に求められる態度は、専門職としての態度で学んでほしい。遅刻を3回すると1回の欠席とする。国家試験科目であるので受講にあたって必要となる前提科目や推奨科目確認しておく知識は、特にない。 ②「学びを深めるために」 講義内容の理解をより促進させ、到達目標まで引き上げるために講義に必要な事項を課題として予習して学んでもらう。
--------	---

評価	「期末試験70%、レポート20%、平常点10%」期末試験では到着目標に達しているかを試験する。レポートは毎回の課題の提出内容で評価し、受講態度は毎回の提出記録で確認して評価する。
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目：この科目は社会福祉国家試験の科目であるので国家試験に関する他の科目もしっかり履修してほしい。</p> <p>(2) 次のステージ：日本の少子高齢人口減少化社会であるので教室における理論的な学習はもとより、学生自身の地域におけるボランティア活動にも積極的に参加してほしい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域連携演習 I	集中		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲垣 暁	2年	nahanohana@gmail.com 授業内や後でも適宜対応	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	子どもや高齢者の「居場所」づくりを通して住民・自治会・学校・大学・事業所・NPO・メディア・社会福祉協議会・行政など、地域社会でさまざまな役割を果たすメンバーが連携し、解決を目指すプロセスを学ぶ。多様な人々が集まりお互いを認め合いながらよりよい社会づくりを実践する人を育てることも目標とする。	沖縄の地域社会が抱える様々な課題のうち近年トピックとなっているテーマについて実際に地域の現場に出て学び、解決の方策を当事者や支援者と共に考えよう。自ら発信することが困難な人々に代わりコミュニティラジオを通じて社会に発信する実践もチャレンジしてみよう。障害のある学生も積極的に参加してほしい。事前オリエンテーションに参加することを受講条件とする。
到達目標	地域の課題、とりわけ「子ども」「高齢者」の安全・安心が保たれる地域環境づくりは今後さらに高度化複合化が予想される。本講義では、ソーシャルワーカーの力がより一層必要とされている「経済的貧困」「社会的孤立」「災害時（緊急時）対応」の支援現場を経験し、住民による「自助」「共助」「自治」についての理解を深める。また、「文化的・社会的貧困」の視点で課題を捉えるセンスも育む。 ①地域の課題について、現状と背景、関係機関、制度、支援プランの実際を知る。 ②既存制度ですくいきれていない課題について、臨床実践を通して新たなセーフティネットづくりと包括的支援の方法を習得する。 ③ソーシャルワークとしての地域連携の方法とコーディネート、発信のスキルを習得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	地域課題における現状と背景の理解【現場講義】	関連情報やニュース記事の収集
	2	地域課題における現状と背景の理解【現場ディスカッション】	関連情報やニュース記事の収集
	3	制度や支援、地域連携の実際と課題【現場講義】	関連情報やニュース記事の収集
	4	制度や支援、地域連携の実際と課題【現場ディスカッション】	関連情報やニュース記事の収集
	5	複合する地域課題と新たな問題【現場講義】	関連情報やニュース記事の収集
	6	複合する地域課題と新たな問題【現場ディスカッション】	関連情報やニュース記事の収集
	7	既存制度でケアできない課題と新しいセーフティネット【現場講義】	関連情報やニュース記事の収集
	8	既存制度でケアできない課題と新しいセーフティネット【現場ディスカッション】	関連情報やニュース記事の収集
	9	新しい地域づくりモデル①【現場研修】	関連情報やニュース記事の収集
	10	新しい地域づくりモデル②【現場研修】	関連情報やニュース記事の収集
	11	新しい地域づくりモデル③【現場研修】	関連情報やニュース記事の収集
	12	新しい地域づくりモデル④【現場研修】	関連情報やニュース記事の収集
	13	新たなセーフティネットづくりや地域連携の提案①【企画】	関連情報やニュース記事の収集
	14	新たなセーフティネットづくりや地域連携の提案②【企画】	関連情報やニュース記事の収集
15	発信に向けまとめ【情報整理】	関連情報やニュース記事の収集	
16	コミュニティFMでの発信【発信】＊肉声によるレポート		

実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストはありません。演習内で指示します。
----	--

学びの手立て	<p>【現場講義】：地域の現場で、基礎的な情報提供を行う。</p> <p>【現場ディスカッション】：地域の現場で、関係機関と共にワークショップや討議を行う。</p> <p>【現場研修】：現場でのヒアリングや模擬的な活動を行う。</p> <p>【企画】：現場での経験や耳を傾けた内容を元に、課題解決に向かう企画を考える。</p> <p>【情報整理】：演習で学んだことを発信に向けて整理する。</p> <p>【発信】：コミュニティFMの電波を通じ、宜野湾の地域課題と当事者の声を発信する。（レポート提出と同等の扱い）</p>
--------	--

評価	<p>①主体的参加状況40%。（あいさつなどソーシャルワークとしての基本動作、講義への向き合い方、受講生同志で支え合う力（ピアサポート）など総合的に判断する。</p> <p>②ディスカッション参加状況30%</p> <p>③企画プロセスおよび発表状況30%</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習を行った地域や関係機関を自分の情報資源やネットワークのひとつととらえ、演習終了後もボランティアや学びの場として関わり続けることで、演習で得た技術や知識がさらに磨かれ、卒業後の仕事や活動に大きな力となる。
-------	---

科目基本情報	科目名 知覚・認知心理学	期別 前期	曜日・時限 木5	単位 2
	担当者 前堂 志乃	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室：5-431 e-mail:mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 知覚・認知心理学の主要なテーマ（感覚、知覚、記憶、知識と表象、思考、言語、注意と意識等のメカニズム）に関する基礎知識を学ぶ。あわせて知覚・認知の障害の概要についても学ぶ。授業の学びを通して日常行動を観察し考える。知覚・認知心理学の知識を日常生活と結びつけ、知覚・認知過程を具体的に理解し、知覚・認知心理学的観点から物事を捉えて考える視点を持つことを目指す。	メッセージ 授業内・外で、「ものごとを知覚し認識すること、理解すること、考えること」というこころの働き（知覚・認知過程）について、文献を読み、対話し、考える機会を多く経験しよう。日頃から自分や人々のこころの動きや、認識と感情と行動の関係を意識的に観察してみよう。知覚・認知という視点からこころの理解をしていこう。
	到達目標 ①知覚・認知心理学の基礎知識（専門用語、理論）を理解し、知覚・認知心理学分野の入門書を自分で読んで内容を理解できる。 ②知覚・認知心理学の基礎知識（専門用語、理論）と日常の出来事を結びつけて自分の言葉でわかりやすく説明できる。 ③日常の身近な課題や問題について、知覚・認知心理学の基礎知識をもちいて考えることができる。 ④知覚・認知心理学の立場からの心理学的視点（人、社会、自分、他者、人間の心の諸問題を科学的に分析的に理解し考える力）を身につけられる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	初回オリエンテーション、知覚心理学、認知心理学とは
	2	感覚①：感覚の種類と構造
	3	感覚②：感覚の一般的特性・感覚から知覚へー聴、触、味、嗅の知覚
	4	知覚①：パターン認知と物体認知
	5	知覚②：大きさ・奥行の知覚・錯視
	6	知覚③：運動の知覚・感性知覚
	7	知覚④：顔認知と表情認知
	8	注意①：選択的注意、注意の抑制と制御
	9	注意②：注意のメカニズム
	10	記憶①：記憶のしくみ、二重貯蔵モデル、ワーキングメモリ
	11	記憶②：長期記憶と日常の記憶
	12	知識：知識の表象と構造、スキーマとスクリプト、カテゴリー化と概念
	13	思考①：思考、問題解決
	14	思考②：推論、意思決定
	15	知覚・認知の障害：感覚の障害、知覚の障害、注意の障害、記憶の障害、思考・判断の障害
16	期末テスト	
		時間外学習の内容
		シラバス理解と授業の予・復習
		授業内容の予・復習と日常観察
		授業内容の予・復習と日常観察
		授業内容の予・復習と日常観察
		授業内容の予・復習と日常観察
		授業内容の予・復習と日常観察
		授業内容の予・復習と日常観察
		授業内容の予・復習と日常観察
		授業内容の予・復習と日常観察
		全体の復習と振り返り/期末課題
		学習内容の総復習

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。授業ごとに必要な資料を配布する。以下の①～④の参考図書を参照するとよい。 ①大山正 (2000) . 新心理学ライブラリ18視覚心理学への招待ー見えの世界へのアプローチーサイエンス社 ②松田隆夫 (2000) . 知覚心理学の基礎 培風館 ③大山 正他 (編) (1994) . 新編 感覚・知覚ハンドブック 誠信書房 ④日本認知心理学会 (編) (2013) . 認知心理学ハンドブック 有斐閣
-------	---

学びの実践	学びの手立て ・心理学の専門的な参考文献を読んで理解するには、2度読み（下読み、分析読み）をすることと、心理学の専門用語について自分で調べることが重要です。 ・授業内容に関する予習・復習と日常観察を課します。ひとの「知覚と認知」について「よく読み、よく観察し、よく話し、よく考える」ことに積極的に取り組む気持ちで受講してください。 ・心理カウンセリング専攻の学生を優先します。他学科、他専攻学生の受講に際しては、共通科目の心理学Ⅰ・Ⅱまたは心理学概論などの心理学入門科目を履修済みであることが望ましい。
-------	--

学びの実践	評価 1) 平常点：授業についての振り返り、授業内・外でのワーク課題など50% 2) 課題レポート10% 3) 振り返りレポート10% 4) 期末テスト30% ※1)～4)において到達目標の①～④の達成度を評価する
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学概論、神経・生理心理学（生理）、神経・生理心理学（神経）、学習・言語心理学。 次へのステージ：知覚心理学と認知心理学の観点から身近な物事を捉え考える（専門知識と日常を繋げる）習慣を継続しよう。引き続き、知覚・認知心理学で学んだ知識と結びつけながらその他の心理学の専門科目を幅広く履修しよう。
-------	---

※ポリシーとの関連性 公的扶助の考え方、主に生活保護と低所得者支援を学び、社会福祉専門職として効果的に対応できる能力を養う。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	低所得者に対する支援と生活保護制度	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-伊志嶺 利香	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 生活保護制度や低所得者対策の概要を理解し、貧困問題や支援の実際を学ぶことにより、現業員（ワーカー）、社会福祉士専門職としての役割を認識することを目的とする。	メッセージ 生活保護制度と低所得対策を学ぶことで、我が国におけるセーフティネットがどのようなものか理解することができます。社会福祉士としてどのように支援を行っていくのかイメージできるように学んでいきましょう。
	到達目標 生活保護制度、低所得者に対する支援の概要を学び、社会福祉士としての支援活動の実際を理解することにより、社会福祉士として現代の貧困問題にどう対応していくのかを学び、実践していけるようにすることを目的とする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション・講義概要について
	2	公的扶助の概念について
	3	貧困と社会的排除
	4	貧困・低所得者の現代的課題
	5	公的扶助制度の歴史（海外）
	6	公的扶助制度の歴史（日本）
	7	生活保護制度の仕組み
	8	生活保護制度の仕組み
9	最低生活保障水準と生活保護基準	
10	生活保護の動向	
11	低所得者対策の概要	
12	低所得者対策の概要	
13	生活保護の運営実施体制と関係機関・団体	
14	生活保護における相談援助活動	
15	生活保護における自立支援	
16	まとめとテスト	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト 新・社会福祉士養成講座16 低所得者に対する支援と生活保護制度 第5版 中央法規出版株式会社 資料は毎回の講義でレジュメを配布します。	
	学びの手立て レジュメや講義内容を確認しながら、講義の中で理解できるように心がけていきましょう。授業をよく聞き、不明な点は、質問するか、最後に配る小レポートに質問を書き添えていただきたいと思います。日頃から貧困や格差に関するニュースや新聞・本等に興味を持って臨んでもらいたいです。	
	評価 ① 期末テスト評価 55% ② 小レポート評価（授業毎回提出）45%	

学びの継続	次のステージ・関連科目 他の社会福祉士養成講座科目全般
-------	--------------------------------

科目 基本 情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	適応の心理	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	1 年	平山篤史 研究室13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学 び の 準 備	ねらい 青年期の心理的・対人関係の特徴、陥りやすい様々なリスク、心理学・臨床心理学の知識や技法を学ぶことによって、大学生活へのスムーズな導入と適応を図る。	メッセージ 青年期は、子どもと大人の境界の時期であると言われていいます。自分の住む世界が広がり、多様な価値観に触れ、自分の進む道を主体的に決める時期でもあります。この時期には悩むことや行き詰ることもありますが、それは成長のプロセスの中にある証拠ともいえま す。講義を通して、心理学の視点から青年期の特徴やこの時期の悩みについて学び、自分の悩みと向き合い、成長に活かしてほしい。
	到達目標 ①大学生活へのスムーズな導入・適応ができる②青年期の特徴と悩みについて理解できる③悩みやトラブルに対して対応を考えることができる④心理学の学びを実生活に活かす視点を養う	

学 び の 実 践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、適応とは	配布資料を読む
	2	青年期の特徴と友人関係	リフレクションシート
	3	青年期の悩み①（対人不安・人見知り・対人緊張）	リフレクションシート
	4	キャンパス相談室ガイダンス・ハラスメント（キャンパス相談室スタッフ）	リフレクションシート
	5	青年期の悩み②（対人不安・人見知り・対人緊張）	リフレクションシート
	6	青年期の悩み③（ストレスとコロナ禍におけるメンタルヘルス）	リフレクションシート
	7	コミュニケーションスキルグループワーク①	リフレクションシート
	8	青年期の悩み④（アイデンティティ・自分らしさ）	リフレクションシート
	9	コミュニケーションスキルグループワーク②	リフレクションシート
	10	青年期の悩み⑤（こころの病）	リフレクションシート
	11	青年期の悩み⑥（発達障害）	リフレクションシート
	12	青年期の悩み⑦（睡眠・生活習慣・犯罪・事故対策・ブラックバイト・SNS）	リフレクションシート
	13	メンタルヘルスの知識と技法①カウンセリング	リフレクションシート
	14	メンタルヘルスの知識と技法②ストレスマネジメント・リラクセーション	リフレクションシート
15	メンタルヘルスの知識と技法③認知行動療法	リフレクションシート	
16	予備日	最終レポート	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。 参考図書は適宜紹介する。		
	学びの手立て 講義で取り上げる各テーマに対して、自分の日常生活・実体験と照らし合わせて考えてほしい。 また、他の講義で学んでいる（あるいはこれから学ぶ）心理学やその他の学問の理論や効果とどのように関連しているのか考えるとよい。		
	評価 平常点（講義参加の態度、リフレクションシートの提出状況・内容）…45点 最終レポート内容…55点		

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 学んだことを各共通科目・専門科目、大学内外の課外活動で活かす 「臨床心理学概論」「ストレスマネジメント」「コミュニケーションスキル」「グループアプローチ」など臨床心理学系科目
-----------------------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	都市社会学	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	2年	Teams上でのチャット、あるいはメール等で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	都市社会学は「都市(化)」という現象を社会的に解説する学問である。都市の社会構造、空間構造が、私たちの生活、社会関係、心的性向とどのように関係しているのかについて理解する。	社会学の基礎概念「行為」と「構造」の関係を、都市空間や都市社会に応用して、現代社会を解説してみよう。講義では、都市に生きる人々の生活や心的性向を具体的に理解する素材として、映画作品や音楽作品も取り入れます。※この科目は全15回を遠隔授業(Teams)で行います。Teamsに参加する方法は、第1回目の講義(4月13日)までにポータル「授業連絡」でお知らせします。

到達目標	古典的都市社会学の理論と概念、Black Sociologyの基本的な視点、日本における都市社会学の系譜、テーマ化された都市空間や「ジェントリフィケーション」を捉える視点等の習得。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 都市社会学への招待 ～近代都市と近代国家の関係性	近代都市誕生の歴史を調べる
	2	(特) アメリカ合衆国における資本主義の展開と人種化された都市の様相	身近なグローバル資本の探索
	3	(特) シカゴ学派都市社会学理論 ～形式社会学と人間生態学	ジンメルの基本概念的復習
	4	(特) バージェスの都市空間論とワースのアーバニズム論	身近な都市的生活様式の探索
	5	(特) Black Sociologyの展開とその特徴	学問と差別の構造的な関係の探索
	6	(特) Black Sociologyの可能性と今日的課題	マイノリティの文化論的実践の探索
	7	(特) 都市社会を解説するミニ課題について ～古典的都市社会またはBlack Sociologyに関する課	資料収集への取り組み
	8	(特) 日本における都市化の歴史的展開	日本の近代都市誕生の歴史を調べる
	9	(特) 日本における都市社会学の展開① ～「結節機関」「正常人口の正常生活」「第三の空間」	古典的概念を応用した課題の探索
	10	(特) 日本における都市社会学の展開② ～都市コミュニティ、「世界都市論」、都市エスニシティ	身近な「グローバル化」の探索
	11	(特) 日本における都市社会学の展開③ ～新都市社会学と「ジェントリフィケーション」の視点	身近な格差と社会的孤立の探索
	12	(特) テーマ化された都市① ～近代都市の博覧会から現代のテーマパークまで	スペクタクル空間の系譜を考える
	13	(特) テーマ化された都市② ～郊外開発とショッピングモールの社会的側面	ショッピングモールの特徴を調べる
	14	(特) テーマ化された都市③ ～「気散じ」「身散じ」、アフオーダンス	テーマ化された空間の心身を考える
15	(特) 都市社会学のまとめと期末課題について	講義プリントのふりかえり	
16	(特) 予備日	期末課題の作成	

テキスト・参考文献・資料など	テキストの指定はとくにないので、参考文献・資料などを適宜紹介していく。
----------------	-------------------------------------

学びの手立て	リアクション・ペーパーは平常点の重要なポイントとなるので、面倒くさがらずに書き込むこと。大学は「学士力」(ジェネリック・スキル)を養うところ。その重要なポイントは「リサーチ・リテラシー」(高度かつ適切な情報収集と処理能力)となる。よって、課題に取り組む際は、インターネットの情報に頼りすぎないこと。インターネット情報を分析せずに、鵜呑みにして使用した場合は、減点の対象となる。
--------	--

評価	Teamsへの接続状況とリアクション・ペーパーへの書き込み内容など平常点が20点、「都市社会を解説するミニ課題」が30点、期末レポート課題の内容評価が50点という構成で総合評価する。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：専門演習、卒業演習 都市社会学で学んだ知識や視点をいかして、社会調査や卒業研究につなげる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	動作法	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	2年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>動作法は、自分自身の姿勢や動きをコントロールし、「動作課題」の達成に向けて、主体的に取り組む過程で、本人が実感する心身の感じ方や取り組み方を変化させる心理療法である。姿勢や動作の改善、ストレスマネジメントなど様々な対象者の心身の支援に有効である。講義では動作法の理論の学習と実技を行い、動作法を日々の生活に生かすことや、援助技法を身につけることをねらいとする。</p>	<p>実技の実習の多い講義です。体を通してここに働きかける心理療法ですので、受講者がベアになり、援助者役-被援助者役に分かれて実技の実習を進めていきます。学びながら自身の心身のメンテナンスを行えることがこの講義の魅力です。今年度は、感染防止対策のため身体に触れない動作法で実技を行います。初回の講義に出席しない学生は登録から外しますので、注意してください。</p>
到達目標	<p>①対人援助の基本的姿勢が身につく。 ②動作法の基礎的な知識・技術を使って支援のかかわりができる。 ③動作法を利用した自身のストレスマネジメントができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション —こころとからだのつながりと実習に関する諸注意—	配布資料の復習
	2	動作法の歴史と理論～催眠から動作へ～	配布資料の復習
	3	動作法の理論	リフレクションシート作成
	4	動作法の援助の考え方と基本的な支援方法	リフレクションシート作成
	5	躯幹部位の動きとリラクゼーション1	リフレクションシート・実技復習
	6	躯幹部位の動きとリラクゼーション2	リフレクションシート・実技復習
	7	肩周りの動きとリラクゼーション	リフレクションシート・実技復習
	8	股関節を中心とした動きとリラクゼーション	リフレクションシート・実技復習
	9	前半の実習振り返り	リフレクションシート・実技復習
	10	動作法の臨床事例	配布資料の予習・復習
	11	タテ系動作課題の見立てと基本的支援方法	リフレクションシート・実技復習
	12	座位姿勢の実技1	リフレクションシート・実技復習
	13	座位姿勢の実技2	リフレクションシート・実技復習
	14	立位姿勢の実技	リフレクションシート・実技復習
15	まとめ	リフレクションシート・実技復習	
16		レポート作成	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは講義の中で適宜、資料を配布する。 参考図書 「臨床動作法への招待」鶴光代 金剛出版 「動作療法」成瀬悟策 誠信書房 「臨床動作法の実践を学ぶ」針塚進（監）、遠矢浩一（編） 新曜社</p>
----	---

学びの手立て	<p>履修の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> ●初回の講義で実習に関する重要なオリエンテーションを行います。初回の講義に出席しない人は取り消しとみなします。 ●本授業では、身体を通してここに働きかける心理療法を実習を通して学ぶ。相手のからだを扱うこと＝こころを扱うことである。実技では相手を思いやり、真摯な態度で実習に臨むこと。 ●実習時の講義は場所を移動（厚生会館や体育館武道場など）することもある。 ●実習の時には、激しい運動はしないが、床にあぐら姿勢、横になる姿勢を取ることもある。そのため、からだを動かしやすい格好をしてくる。スカートは不可。
--------	---

評価	<p>講義・実習への参加状況、実技実習への取り組み、毎回の小レポート…70% 最終レポート…30%</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「ストレスマネジメント」も併せて受講することで理解が深まる。「心理プロジェクト演習」（平山クラス）で動作法に関する実践活動に取り組むことができる。動作法を用いた心理支援の実践に関心がある学生は、障害児者を対象とした支援活動のボランティアに参加し、実践を通して学びを深めることができる（受講料無料の研修あり）。興味のある学生は担当教員まで申し出て下さい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

人間、誰しもが「発達」します。人の成長を発達という視点から理解し、自己・他者理解への応用を目指します。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	発達心理学	前期	土3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宜保 英理	2年	講義時間以外学内不在のため、授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	人は生まれてから死に至るまで「発達」します。心身の発達、内面の発達を体系的に学ぶ機会とします。また、発達障害や発達に影響する周辺問題について事例を交えながらお伝えします。	私たちは皆、生まれてから発達を遂げて今存在しています。発達を中心に自己・他者理解のきっかけになればと思います。グループあるいは全体での意見・感想のシェアや学生自身が積極的な参加できる講義を目指したいです。
到達目標	①心身の発達について理解する ②認知、思考、感情等、今私たちが形成している内面の発達過程を理解する ③発達をとりまく問題（他者との関係、障害など）を理解する ④成人期以降の発達について学ぶ	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 発達とは、発達心理学とは	感想シートの作成
	2	生涯発達について	人の発達とは何かについて復習
	3	認知・思考の発達	認知・思考の発達について復習
	4	言語の発達	コミュニケーションについて復習
	5	感情の発達	感情の発達について復習
	6	自己認知の発達	自己認知について復習
	7	自己と他者との関係	愛着について復習
	8	パーソナリティの発達	人格の発達について復習
9	発達段階と発達課題	各発達段階の復習	
10	定型発達と非定型発達	定型・非定型発達について復習	
11	発達障害について	発達障害について復習	
12	発達の支援	発達を支援することの復習	
13	発達をとりまく諸問題	発達を取り巻く問題の復習	
14	大人の発達（成人期～老年期）	成人期以降の発達の復習	
15	まとめ	感想シート作成	
16	テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など	講義の中で資料を配布します。適宜、参考文献も紹介します。	
学びの手立て	講義では、発達のプロセスについて説明するため、遅れないよう気を付けて参加してください。また講義のはじめに感想シートを元にした振り返りを行いますので、理解に役立てていただけたらと思います。		
評価	出席した際の感想シート60%、期末試験・課題レポート40%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育心理学概論等
-------	-------------------------

※ポリシーとの関連性 This course will develop your ability to talk about topics relevant to social welfare - in English!

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	福祉英語Ⅱ	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ロビンソン サイモン	2年	Come talk to me at the end of class! Or email: simonrobinson10@gmail.com	

学びの準備	ねらい To develop your ability to talk about yourself, and about topics related to social welfare, in English!	メッセージ This class is lots of talking, and talking is fun!
	到達目標 By the end of the course you will feel confident giving a short presentation, including answering questions, about a topic you choose.	

学びの準備	到達目標 By the end of the course you will feel confident giving a short presentation, including answering questions, about a topic you choose.
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Self-introductions	practice your self-introduction
	2	Hobbies and free time	practice hobby talk
	3	Social welfare topic 1 - questions, vocabulary	internet resources
	4	further questions	internet research
	5	Our opinions	write your opinion
	6	debate	internet research
	7	Topic 2: questions, vocabulary	internet resources
	8	further questions - thinking more deeply	prepare presentation
	9	our opinions	practice presentation
	10	presentation	none
	11	Topic 3: questions, vocabulary	internet resources
	12	further questions - thinking more deeply	internet research
	13	our opinions, other perspectives	write your opinion
	14	preparing for the interview exam	practice your opinion
	15	practicing the interview exam	practice practice practice
16	interview exam	reflect	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など We will not use a textbook for this course - instead we will use the internet and our own experiences.
-------	--

学びの実践	学びの手立て Learning through exploring the topic in discussion
-------	--

学びの実践	評価 30% debate 30% presentation 30% interview exam 10% participation
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 Good luck with your continuing study!
-------	--

※ポリシーとの関連性

重要な福祉システム一つである福祉行財政の仕組みと、福祉施策の重要な方法の一つである福祉計画の内容を学ぶことができる。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	福祉行財政と福祉計画	前期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-竹藤 登	2年	take10140730@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	福祉システムの一つである福祉行財政の内容を理解し、また福祉施策の方法としての福祉計画の実際を理解することにより、現場の福祉ニーズを支援するソーシャルワーカー社会福祉士の専門職としての役割を認識することを目的とする。	福祉行政の仕組み、考え方、具体的な施策を学ぶことで、現場の福祉ニーズを支援する役割のソーシャルワーカー社会福祉士の具体的な責務、役割が見えてきます。しっかり学びましょう。

到達目標	福祉行財政システム、福祉計画の内容を学び、ソーシャルワーカー社会福祉士としての必要な知識・技術・価値・倫理観を身につけ、福祉現場の実践活動に役立てるようになることを目的とする。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	福祉と制度 社会福祉のとらえ方 社会福祉の概念 社会福祉の定義の変遷を理解する	社会福祉の概念を理解する
	2	社会福祉法制度の歴史的変遷 福祉概念の変化を理解する	福祉概念の変化を理解する
	3	福祉法制度の展開 確立期～拡充期～見直し期～改革期～現代 福祉計画の概要を理解する	福祉法の変遷を理解する
	4	福祉行政の骨格 社会福祉法制度を理解する	福祉行政の仕組みを理解する
	5	福祉行政 福祉行政の組織 社会福祉構造改革を理解する	社会福祉基礎構造改革を理解する
	6	福祉財政 社会保障関係費の動向 福祉財源の課題を理解する	福祉財政の課題を理解する
	7	福祉行政の組織 相談過程 相談体制を理解する	相談過程と相談体制を理解する
	8	福祉行政の専門職の役割、地域の相談システムを理解する	行政における専門職を理解する
	9	福祉計画の目的と意義を理解する	福祉計画の意義と目的を理解する
	10	福祉計画の基本的視点とプロセスの留意点を理解する。	福祉計画の基本的視点を理解
	11	福祉計画におけるニーズの把握～評価～住民参加について理解する	福祉計画のプロセスを理解する
	12	福祉計画の実際 老人福祉計画・介護保険事業計画について理解する	高齢者に対するプランを理解する
	13	福祉計画の実際 障害者計画・障害福祉計画について理解する	障害者に対するプランを理解する
	14	福祉計画の実際 次世代育成支援行動計画を理解する	児童に対するプランを理解する。
15	福祉計画の実際 地域福祉計画を理解する	地域福祉計画を理解する	
16	まとめとテスト		

テキスト・参考文献・資料など	テキスト 新・社会福祉士養成講座10 福祉行財政と福祉計画 中央法規出版株式会社 資料 毎回レジュメを配布します。
----------------	--

学びの手立て	レジュメに授業内容をまとめてあるので、授業中は聴くことに集中し、理解することに心がける。聞き逃すと、授業についていけなくなることもありますので、授業中は他の受講生のじゃまにならないように静かに受講するように心がけてください。わからない時は授業後に質問するか、授業後に配布する小レポートに質問を記入すると、次回授業時に回答します。
--------	--

評価	① 期末テスト評価 55% ② 小レポート評価(授業後毎回提出) 45% 【1回3点～0点×15日】
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 他の社会福祉士養成講座科目 全般
-------	---------------------------------

科目基本情報	科目名 福祉サービス組織と経営	期別 後期	曜日・時限 水5	単位 2
	担当者 神谷牧人(4)、大城(12)	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ	
			原則、授業終了語に教室で受け付けます。ただし、必要に応じて時間外での相談も可能。	

学びの準備	ねらい 平成18年10月の障害者自立支援法の施行以降、福祉事業が保障よりサービスへと変革され、福祉サービスを提供する事業所は従来型の受け身体制ではなく、市場原理の中で利用者や地域から選ばれるサービス展開を主体的に行っていかなければならない。当科目では、マーケティングや差別化戦略等、広く経営の観点から福祉を理解する。	メッセージ 学生自身が福祉サービス事業所を開設（もしくは民間の会社として起業）するための企画書ならびに事業計画書を作成。理念や顧客定義、差別化戦略、予算書等の企画立案の手法の獲得を目指す。一方的な講義だけではなく、それぞれの手法の説明を行い、あとはグループでの企画が主な講義スタイルとなる。講義の中から実際に起業家が生まれることを期待している。
	到達目標 到達目標は「経営者視点」である。福祉サービス提供者として、各々の法人種別毎の意義や目的を理解し、ソーシャル・ミッションを実現するための手法を学び、実際に福祉サービスを提供している法人の経営者と同じ視点の獲得が当科目の到達目標となる。そのような経営者と同じ視点を獲得することは、単純に当科目の評価基準となるだけではなく、社会人として（福祉サービス従事者のみならず）、「何をやっているのか？」ではなく「何のためにやっているのか？」を理解した上で働くことに通ずる。到達目標に対する評価に関しては、企画立案（起業するための事業計画の作成）に「正しいゴール」はないため、講義内での課題に対して能動的に取り組むことで、広義の意味で「プレゼン力（言語化・可視化する力）」や「考える力」「実現する力」の獲得があげられる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	福祉サービスにおける組織と経営/福祉サービスにかかる組織や団体
	2	福祉サービスの管理運営方法③（会計管理と財務管理の視点でみる支出とは）
	3	福祉サービスの管理運営方法③（会計管理と財務管理の視点でみる収入とは）
	4	福祉サービスの組織と経営の基礎理論（組織と管理運営について）
	5	福祉サービスの組織と経営の基礎理論（事業についてⅠ）
	6	福祉サービスの組織と経営の基礎理論（事業についてⅡ）
	7	福祉サービスの組織と経営の基礎理論（戦略について）
	8	福祉サービスの組織と経営の基礎理論（集団力学とリーダーシップについて）
	9	福祉サービスの管理運営方法①（サービスマネジメントⅠ）
	10	福祉サービスの管理運営方法①（サービスマネジメントⅡ）
	11	福祉サービスの管理運営方法②（人事管理と労務管理）
	12	福祉サービスの管理運営方法②（情報管理と戦略的広報）
	13	事業計画作成
	14	事業計画作成
	15	プレゼンの方法とプレゼン資料の作成
16	グループ発表	
		時間外学習の内容
		各法人の概要について
		資金の流れや財源について
		財務管理や各種コストについて
		管理の定義と手法について
		事業計画策定の意義について
		事業実施に向けた組織について
		経営戦略の策定プロセスについて
		集団がもたらす効果について
		サービス対象とその領域について
		評価制度導入の背景について
		人事考課と労働体制について
		情報管理の必要性と活用について
		テーマについてフィールドリサーチ
		リサーチを踏まえた各種分析
		事前発表練習
		事前発表練習

実践	テキスト・参考文献・資料など 使用する教科書「新・社会福祉士養成講座 11福祉サービスの組織と経営 第4版」中央法規 定価2,200円（税別）
----	--

学びの手立て	1、履修の心構え：一方的な講義はほとんどなく、グループ毎に「考える」「議論する」内容がほとんどになります。そのため、他人まかせの受動的な姿勢では望まないように。 2、学びを深めるために：アルバイトでも福祉実習でも、どのようなカタチでも一度、経営者と話す機会を作ると、より一層学びが深まると考える。
--------	---

評価	評価方法：最終プレゼン40点満点 / 事業計画書28点満点 / 授業参加（グループにおける参加態度など）32点満点 評価基準：最終プレゼンや事業計画における評価基準は、マーケティングや市場分析などにおいて、主観ではなく実際に足を運んで可能な限り客観的なデータ（資料）を集めているのか等が評価の基準となる。資料作成における情報収集やグループワークにおける主体性等を授業参加とする。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目：社会調査の基礎、福祉行財政と福祉計画 (2) ディプロマポリシー：地域福祉の多様な課題を発見、分析、解決する能力を身につける。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	福祉と倫理	前期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 信哉	2年	講義時間内が望ましいのですが、講義終了時にも教室にてお聞きします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講座は福祉専門職を志す人を対象に、福祉についてやや広い視野から考えることを目的とします。社会に福祉の制度が必要なのは当然に思えますが、あらためて理論的根拠を探りながら検討します。同時に福祉を人間同士の関係と見て、特に現場で人間同士が触れ合うことについても哲学のおよび倫理的に考察するつもりです。</p>	<p>人間福祉学科の専門科目です。福祉に興味がない受講希望者はいないでしょうが、倫理学の方はどうでしょうか。当然と思われ勝ちなことをあらためて考え直すのが哲学という学で、倫理学はそのなかの実践部門です。ですからここでも人間同士の良い（望ましい）接触とは何かを、あらためて考える姿勢を諸君に求めたいと思います。そのような関心に耐える心構えがさしあたりの準備です。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の理論的根拠についてこれまで考えられてきた概略が説明できるようになる。 ・社会福祉の必要について漠然と思う以上の理論的根拠を自分自身で考えられる。 ・人間同士の関係についての現代の倫理的考察の成果を多少とも説明できるようになる。 ・互いに他者である人間同士が触れ合うことの意味を自分でも深く考えられるようになる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	開講にあたって受講者諸君との合意作り。	シラバスを読んでくるように。
	2	近代の福祉思想：人間の義務について。	事典類にあたってみるように。
	3	近代の福祉思想：幸福と功利性について。	事典類にあたってみるように。
	4	福祉と善：共同体と徳について考える。	学生同士の議論を勧めたい。
	5	福祉と社会制度：福祉国家のプラン。	事典類にあたってみるように。
	6	あらためて福祉とは何かを考える。	講義後の復習をするように。
	7	近代の人間観①：人格と目的。	講義後の復習をするように。
	8	近代の人間観②：「私・たち」と他者。	講義後の復習をするように。
	9	共同体・人間・社会。	講義後の復習をするように。
	10	福祉と社会的分業：専門職としての福祉。	学生同士の議論を勧めたい。
	11	福祉の現場の倫理①：ケアの倫理と公正	学生同士の議論を勧めたい。
	12	福祉の現場の倫理②：ケアの技術と共感。	学生同士の議論を勧めたい。
	13	福祉の現場の倫理③：感情労働について	学生同士の議論を勧めたい。
	14	批判にどう答えるか	学生同士の議論を勧めたい。
15	あらためて福祉と社会。	自分の理解を再検討する。	
16	期末考査。	自分の理解を確認する	

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は使用しません。資料はすべて教室にて配布します。参考文献は必要に応じて教室で指示します。まずは図書館で各種事典類を引く習慣を身につけるように。なお、毎回感想を書いてもらう（いわゆるリアクションペーパー）ことを考えていますが、詳細は初回に受講生諸君と話し合っ決めて決めます。</p>
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>受講者の人数にもよりますが、こちらから皆さんにも質問します。活発な議論となることを望みます（皆さんの専門分野なので、すでに皆さん自身にも何か自分の意見があることでしょう）。出席も含めて評価については厳正であるように努めますが、教室での時間は皆さんと楽しく共有したいと願っています。そのためにも、講義には積極的に参加するように。なお、欠席の場合、特に事前連絡は必要ありません。あとから確認します。</p>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>最終回にテストをして、同時に小レポートも提出してもらい、その両方によって評価します。配点はテスト85点、小レポート15点です。平常点をどう評価するかは受講者の人数にもよりますが、積極的に参加してほしいと思っています。なお、受講者が出席することは学ぶための最低限の条件ですので、出席それ自体を取りたてて成績判定の材料として評価することはありません。毎回感想を書いてもらうというのも各自が学んだことの確認のため、出席確認以上の評価資料ではありません。</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>物事の背景となる思想を学ぶことはすぐに役立つわけではありませんが、その物事を深く考えるためにはぜひとも必要ことです。この科目が、福祉に興味があった人にとって、なぜ社会福祉が必要なのか、あるいはどの程度の規模のそれが適切であるのかを、自分自身で探求するためのヒントとなれたら幸いです。そのような探求ができるようになれば、あとは諸君ひとりひとりが自分の問題を見つけて進んでいけば良いのです。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	福祉レクリエーション技術Ⅰ	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-細田 奈々	2年	講義修了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> ・多彩なレクリエーション活動を体験し、修得する ・ホスピタリティを身につける ・アイスブレイキングの技術を修得する ・レクリエーション活動の展開方法を修得する 	<p>本講義は身体的な活動が中心です。動きやすい服装で参加してください。また、レクリエーション技法に必要な道具等の事前準備が必要となってきます。受講生は、事前の指示を忠実に遂行し、講義に支障がないように努めてください。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① レクリエーション支援の全体像を理解する ② レクリエーション技法を実践できる ③ 自らの計画に基づくレクリエーション支援が実践ができる 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション / アイスブレイキングプログラム体験	講義の趣旨の理解
	2	信頼関係づくりの方法 / ホスピタリティートレーニング	指示された課題・内容の準備
	3	レクリエーション活動支援の理解 - わかりやすい説明・アイスブレイキングの基礎技術	指示された課題・内容の準備
	4	アイスブレイキングの効果を高める基礎技術の実践(気づき) - 支援演習	指示された課題・内容の準備
	5	アイスブレイキングの効果を高める基礎技術の実践① - シナリオ作成	指示された課題・内容の準備
	6	アイスブレイキングの効果を高める基礎技術の実践② - 支援演習	指示された課題・内容の準備
	7	やる気を引き出すレクリエーション支援技術の実践① - シナリオ作成	指示された課題・内容の準備
8	やる気を引き出すレクリエーション支援技術の実践② - 支援演習	指示された課題・内容の準備	
9	レクリエーション活動の習得①	習得した活動の練習	
10	レクリエーション活動の実践①	実践発表の準備	
11	レクリエーション活動の習得②	習得した活動の練習	
12	レクリエーション活動の実践②	実践発表の準備	
13	レクリエーション活動の習得③	習得した活動の練習	
14	レクリエーション活動の実践③	実践発表の準備	
15	レクリエーション活動の習得④	習得した活動の練習	
16	レクリエーション活動の実践④	実践発表の準備	
テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> ① 必要に応じて資料を配布する。 ② 参考分件等も必要に応じて提示する。 		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ①生活場面でのレクリエーション技術の活用を考える ②自分の特技や趣味を活かしたレクリエーション技術を身につける ③様々な社会的場面や施設などで実践されているレクリエーションを観察し情報収集に努める ④積極的・自主的に取り組む 		
評価	<p>以下の内容をなどを総合的に判断して評価します</p> <ul style="list-style-type: none"> ①出席状況(20%) ②参加態度(20%) ③自主性・主体性(30%) ④技術の習得(30%) 		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本科目では、レクリエーション支援の基礎的な技術を修得します。実際に対象者を想定した実践的技術は、レクリエーション技術Ⅱで行います。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	福祉レクリエーション技術Ⅱ	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-細田 奈々	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> レクリエーション支援の基礎技術を定着させる 対象者を想定したレクリエーション支援のプロセスを定着させる 実際に福祉現場に出かけ、実践力につなげる 	<p>本講義は現場に出向きレクリエーションプログラムの実践があります。そのため、レクリエーションに限らずこれまで学んできた様々な知識を活かしてプログラミングに取り組むこととなります。また、プログラムに必要とされる道具等の事前準備も必要となります。受講生は、事前の指示を忠実に遂行し、講義に支障がないように努めてください。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ①レクリエーション支援技術を福祉現場で実践できるレベルに高める ②アセスメントに基づくレクリエーション支援プログラムを考案できる ③考案した支援プログラムを実践するためのプロセスを修得する ④対象者を目の前にして得られる「場」の空気感を直接感じることによって、対象者に寄り添いながら目的に向かって進行するために必要な素養に気づき、それらを修得する 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・アイスブレイキング (体験 プログラム構成 技法)	指示された事項について事前学習
	2	信頼関係づくりの方法 (ホスピタリティ) と良好な集団作りの方法 (アイスブレイキング)	指示された事項について事前学習
	3	モデルプログラムの体験① 高齢者	指示された事項について事前学習
	4	プログラムロールプレイ演習	指示された事項について事前学習
	5	モデルプログラムの体験② 幼児・児童	指示された事項について事前学習
	6	プログラムロールプレイ演習	指示された事項について事前学習
	7	モデルプログラムの体験③ 地域	指示された事項について事前学習
	8	プログラムロールプレイ演習	指示された事項について事前学習
	9	モデルプログラムの体験④ 屋外	指示された事項について事前学習
	10	プログラムロールプレイ演習	指示された事項について事前学習
	11	レクリエーション支援の実施 / アセスメント	指示された事項について事前学習
	12	プログラム立案 / プログラミング	指示された事項について事前学習
	13	プレ実施	指示された事項について事前学習
14	評価 / 改善	指示された事項について事前学習	
15	現場実践	指示された事項について事前学習	
16	成果報告	指示された事項について事前学習	
テキスト・参考文献・資料など			
<ul style="list-style-type: none"> ①テキスト 日本レクリエーション協会編 『楽しさをおとした心の元気づくり - レクリエーション支援の理論と方法 - 』 ②その他、必要に応じて資料を配布する 			
学びの手立て			
<p>講義では実践的な内容が主になってきます。福祉社会について様々な角度から考察し、ご自身の考えを持って受講してください。また、ご自身を福祉の専門従事者と想定し、あらゆる場面でのようにレクリエーション技術を活用していただけるかを常に考えてください。</p>			
評価			
<p>以下の内容などを総合的に判断して評価します</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自主性・主体性 (20%) ②プログラミング (40%) ③最終レポート (40%) 			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>講義内容を基に、国内外の規則・制度・施策の状況把握に努め、公私の社会参加の在り方について考察を深める。また、特に社会福祉の対象者への対応については、専門職として対応できる知識・技量を深めることを期待する</p>
-------	---

科目基本情報	科目名 フレッシュマンセミナー	期別	曜日・時限	単位
		前期	木1	2
	担当者 岩田 直子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	原則、授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 主に、大学で学ぶことの意義、大学機能の理解、大学生活の特徴を学びます。演習形式の特徴を活かし、ゼミ生が共に切磋琢磨しながら教養を深め視野を広げることを目的とします。	メッセージ 高校までの学びと大学での学びは大きく異なります。大学で学ぶことの意義、学ぶためにどのように大学の機能を活用するか、大学で学ぶ上で身につけたい技術（主にレポート作成）等々について共に学びましょう。
	到達目標 ①大学で学ぶことの意義を理解することができる ②大学の機能を理解することができる ③レポートの書き方を理解することができる。	

学びの準備	到達目標 ①大学で学ぶことの意義を理解することができる ②大学の機能を理解することができる ③レポートの書き方を理解することができる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション ゼミの概要説明、レポート課題①大学生活の抱負	課題に取り組む
	2	自己紹介①愛読書を紹介しながら自己紹介	自己紹介準備
	3	自己紹介①趣味を紹介しながら自己紹介	配布資料を読む
	4	大学で学ぶことの意義①高校までの学びとの相違	課題に取り組む
	5	図書館オリエンテーション	図書館オリエンテーションまとめ
	6	大学で学ぶことの意義②学術研究の役割	配布資料を読む
	7	大学の機能を理解する①キャリア支援課、グローバル教育支援センター	大学で学ぶことの意義まとめる
	8	大学の機能を理解する②学生支援室、印刷室	感想をまとめる
	9	大学の機能を理解する③キャンパス相談室	感想をまとめる
	10	大学の機能を理解する④ボランティア活動支援	感想をまとめる
	11	合同ゼミ②キャンパス相談室の機能について説明ほか	感想をまとめる
	12	合同ゼミ③社会人講師による講話	感想をまとめる
	13	レポートの書き方：レポート作成のポイントと心得①	レポート作成に関する資料を読む
	14	レポートの書き方：レポート作成のポイントと心得②	課題に取り組む
	15	レポートの書き方：レポート作成時の疑問を解決する	課題に取り組む
16	まとめ	演習をふりかえる	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 講義時に随時紹介します。指定の教科書はありません。
-------	---

学びの実践	学びの手立て ①履修の心構え：演習科目は学生の主体性が不可欠です。積極的に活動に参加しましょう。ゼミのメンバーと積極的に交流しましょう。 ②学びを深めるために：受講にあたっては講義終了後に振り返りをしっかりしていきましょう。また、大学サービスを実際に活用していきましょう。
-------	--

学びの実践	評価 演習への主体的参加状況（50%）、レポート（50%）
-------	----------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 ①次のステージ：専門の勉強をする際にフレッシュマンセミナーで学んだことを活かしていきいましょう。 ②関連科目：1年次が履修できる社会福祉専攻の専門科目
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマンセミナー	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富 郁哉	1年	教員メール(i.ashitomi@okiu.ac.jp)あるいは、ゼミ室で随時回答する。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学生生活に慣れることをベースにして、大学4年間で何をどのように学べばよいか(学びの意義)、また、より良い級友関係を構築し、さらに教員との交流を図ることを目的とする。</p>	<p>大学生生活に早く慣れてもらうために、まずは友人づくりから始める。そして、4年間の大学生生活に向けて、基本的な「アカデミック・スキルズ」を身につけ、また、発表力(プレゼンテーション能力)等を向上させる。</p>
到達目標	<p>大学でのまなびの意義と自分の進むべき道を見つけるための入門ゼミナールとして捉え、①大学を知る(各部署の理解:図書館・学生支援室・キャリア支援室・キャンパス相談室等)②アカデミック・スキルズ(レポートの書き方、パソコンの利用、その他マルチメディア(インターネットを中心として)等を身につける。③発表力を培う(パワーポイントを使用した発表)④遠隔授業ツール(Team s)の基本的な操作ができるの4点を到達目標とする。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	自己・他己紹介①	自己紹介準備
	3	自己・他己紹介②	自己紹介準備
	4	パワーポイントを使って「マイブーム」を発表①	マイブーム発表準備
	5	パワーポイントを使って「マイブーム」を発表②	マイブーム発表準備
	6	パワーポイントを使って「マイブーム」を発表③	マイブーム発表準備
	7	図書館オリエンテーション(予定)	パソコンによる情報検索
	8	Teams基礎の基礎(社会人講師招へい)予定	Teamsについて調べる
	9	合同ゼミ:キャリア支援室・学生支援室等紹介予定①	沖国大の組織を調べる
	10	合同ゼミ:キャリア支援室・学生支援室等紹介予定②	沖国大の組織を調べる
	11	合同ゼミ:キャンパス相談室等紹介予定③	沖国大の組織を調べる
	12	合同ゼミ:社会人講師招へい予定	未定
	13	レポート作成①	ソーシャルワーカーについて①
14	レポート作成②	ソーシャルワーカーについて②	
15	レポート作成③	ソーシャルワーカーについて③	
16	まとめ&基礎演習への誘い	後期「基礎演習」についての説明	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストについては特に指定しないが、必要に応じて随時資料の配布と参考書等の紹介を行う。</p>		
学びの手立て	<p>大学生生活のための入門ゼミナールと位置付けているため、積極的にゼミに参加することを心がける。また、与えられた課題等についてはよほどの理由がない限り提出すること。</p>		
評価	<p>ゼミ形式で行われる「フレッシュマンセミナー」については、授業への参加度(30%)、課題等提出状況(30%)、発表力(プレゼンテーション力・まとめ方)(40%)で評価する。但し、授業(ゼミ)参加は単位付与の前提条件であるため、出席時数が3分の2に満たない者は「不可」とする。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>フレッシュマンセミナーは、後期開講の「基礎演習」と連動した科目である。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 社会福祉を勉強し自身の意見を円滑に他者へ伝えるための基本をこの講義で行う。充実した大学生活を過ごせるよう技術を習得する

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマンセミナー	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド クレイグ ウィルコックス	1年	E-mail:d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい この演習は、大学生活に慣れるために行うものである。大学生生活のはじめとして、「大学で学ぶ目的はなにか」「大学で学ぶためにはどのような準備が必要か」など充実した大学生活を過ごす上で必要な知識・技術を身につけていくことを目的とする。	メッセージ 新入生を対象とした大学教育へのオリエンテーション的な内容を持つゼミで、入学年度（編入生は初年度）前期で履修をします。大学で出会った新しい仲間とともに大学生活の基礎を築いていきましょう。
	到達目標 図書館・学生支援室などの活用方法を理解することができる。 ワードやパワーポイント作成、操作が出来るようになる。 発表の際のレジメ・資料作成が出来るようになる。 資料の印刷準備が出来るようになる。 個人・グループでのプレゼンテーションが出来るようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	大学の各施設になれる
	2	大学での学び方	資料の精読・自分の考えをまとめる
	3	合同ゼミ（学生支援室概要/海外福祉演習説明）	学内施設や海外福祉演習を理解する
	4	図書館オリエンテーション（予定）	図書館からの資料を読んでおく
	5	一日研修のふりかえり	研修後感想をまとめておく
	6	グループ発表の準備	資料の精読・自分の考えをまとめる
	7	グループ発表の準備	資料の精読・自分の考えをまとめる
	8	合同ゼミ（キャンパス相談室紹介他）	学内施設を理解する
9	合同ゼミ（社会人講師による講話）	講師の専門を理解しておく	
10	グループ発表	配付資料の精読	
11	グループ発表	配付資料の精読	
12	グループ発表	配布資料の精読	
13	その他（学生のリクエストで調整）	ゼミで取り組みたい内容を考える	
14	その他（学生のリクエストで調整）	ゼミで取り組みたい内容を考える	
15	まとめ	演習の内容を振り返る	
16	後期へ向けての説明	夏休みの計画を作る	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト「よくわかる学びの技法」ミネルヴァ書房 を使用しながら講義を進めていく。 必要に応じて、資料を紹介・配付する。		
	学びの手立て 演習においては、指示された資料等については事前に読んでおくこと。 グループでの発表も予定しているので他学生との交流も積極的に行い、意見交換等を行うのが望ましい。		
	評価 授業参加度（20%）、課題の提出状況・内容（80%）として評価を行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 この講義を終えると次は「基礎演習」につながります。1年次では「社会福祉の基礎」も同時に履修し自分ごとの福祉分野に興味があるかを認識してください。
-------	---

※ポリシーとの関連性 コミュニケーションの技能の修得と実戦的学習を重視し、豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマンセミナー	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	1年	講義終了後あるいはメール等でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	フレッシュマンセミナーは、初年次学生（新入学生）が大学環境やキャンパスライフにスムーズに馴染んでもらうことを主たる目的として様々なプログラムを用意している。とくにゼミ学生相互の共同学習や共同作業を通して、大学における仲間づくりがスムーズにいくように働きかける内容となっている。	大学生生活初年次は、とにかく緊張感を伴います。この講義はその緊張感を少しでもほぐし、後期のグループ学習や討論に向けた人間関係の基礎づくりを行います。大学生活をお互いに支えていく仲間づくりをしましょう。
到達目標	福祉レクリエーションを取り入れたメンバー間のアイスブレイキング（緊張をほぐす）。自己覚知と他者覚知を目指す。ゼミの枠を超えた専攻全体での仲間づくり。コミュニケーション技能とグループ学習や討論の基本的姿勢を身につける。	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）
	まず、大学での「学び」とは何かについてレクチャーする。高校と大学では学びの方法が異なるため、初年次学生には戸惑う者も多くいる。よって、手はじめに「大学での学び入門」について教員と学生相互に考える。また、講義に対する取り組み方、レポートを書く技術、グループディスカッションとプレゼンテーションの技法などに取り組んでいく。
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特にないが、参考文献等があれば適宜紹介する。
学びの手立て	
評価	

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：基礎演習（1年次後期） 次のステージ：同ゼミではコミュニケーション技能とグループ学習や討論の基本的姿勢を身につけることを目標にしており、1年次後期の「基礎演習」で目標とする社会福祉に関する基礎的な課題やグループ学習・討論へと取り組めるように準備すること。
-------	--

※ポリシーとの関連性 社会福祉を勉強し自身の意見を円滑に他者へ伝えるための基本をこの講義で行う。充実した大学生活を過ごせるよう技術を習得する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマンセミナー	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド クレイグ ウィルコックス	1年	Email:d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい この演習は、大学生活に慣れるために行うものである。大学生活のはじめとして、「大学で学ぶ目的はなにか」「大学で学ぶためにはどのような準備が必要か」など充実した大学生活を過ごす上で必要な知識・技術を身につけていくことを目的とする。	メッセージ 新入生を対象とした大学教育へのオリエンテーション的な内容を持つゼミで、入学年度（編入生は初年度）前期で履修をします。大学で出会った新しい仲間とともに大学生活の基礎を築いていきましょう。
	到達目標 図書館・学生支援室などの活用方法を理解することができる。 ワードやパワーポイント作成、操作ができるようになる。 発表の際のレジメ・資料作成ができるようになる。 資料の印刷準備ができるようになる。 個人・グループでのプレゼンテーションができるようになる。	

学びの準備	到達目標 図書館・学生支援室などの活用方法を理解することができる。 ワードやパワーポイント作成、操作ができるようになる。 発表の際のレジメ・資料作成ができるようになる。 資料の印刷準備ができるようになる。 個人・グループでのプレゼンテーションができるようになる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	大学の各施設になれる
	2	大学での学び方	資料の精読・自分の考えをまとめる
	3	合同ゼミ（学生支援室/海外福祉演習説明）	学内施設や海外福祉演習を理解する
	4	図書館オリエンテーション（予定）	図書館からの資料を読んでおく
	5	グループ発表の準備	資料の精読・自分の考えをまとめる
	6	グループ発表の準備	資料の精読・自分の考えをまとめる
	7	一日研修のふりかえり	研修後感想をまとめておく
	8	グループ発表	配付資料の精読
	9	グループ発表	配付資料の精読
	10	合同ゼミ（キャンパス相談室紹介他）	学内施設を理解する
	11	社会人講師による講話	講師の専門を理解しておく
	12	グループ発表	配付資料の精読
	13	その他（学生のリクエストで調整）	ゼミで取り組みたい内容を考える
	14	その他（学生のリクエストで調整）	ゼミで取り組みたい内容を考える
15	まとめ	演習の内容を振り返る	
16	後期へ向けての説明	夏休みの計画を作る	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト「よくわかる学びの技法」ミネルヴァ書房 を使用しながら講義を進めていく。 必要に応じて、資料を紹介・配付する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 演習においては、指示された資料等については事前に読んでおくこと。 グループでの発表も予定しているので他学生との交流も積極的に行い、意見交換等を行うのが望ましい。
-------	---

学びの実践	評価 授業参加度（20%）、課題の提出状況・内容（80%）として評価を行う。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 この講義を終えると次は「基礎演習」につながります。1年次では「社会福祉の基礎」も同時に履修し自分ごとの福祉分野に興味があるかを認識してください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ヘルスプロモーション	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史、他	3年	平山篤史 研究室13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	心理学や心理学の周辺領域・関連領域の知見から心身の健康増進・維持に役に立つ知識と工夫、生活習慣について学ぶ。その上で、これらの知恵や工夫をより有効にするために心理学がどのように貢献できるのかについて、心理学との類似点・相違点から考察することを目的とする。	心身の健康増進に役に立つ心理学以外の様々な知恵や工夫についても学び、みなさんの生活に取り入れてもらいたい。そして、心理学の知恵や工夫との類似点・相違点から考察することで、心身の健康について考えを深めてほしい。社会人特別講師をお招きして行うオムニバス形式の講義です。講師の日程に応じて講義計画が変更する可能性もあります。毎回のアナウンスによく注意してください。
到達目標	①学んだことを日常生活の中に取り入れ、自身の心身の健康増進に役立てることができる。 ②学んだことを心理学の視点から考察することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	配布資料を読む
	2	インターネット・SNSの社会的問題	講義の復習・振り返りシート作成
	3	インターネット・SNSと心身の健康	講義の復習・振り返りシート作成
	4	栄養・食育と心身の健康	講義の復習・振り返りシート作成
	5	栄養・食育と心身の健康	講義の復習・振り返りシート作成
	6	片付け・整理整頓と心身の健康	講義の復習・振り返りシート作成
	7	こころとからだのつながり 1	講義の復習・振り返りシート作成
8	こころとからだのつながり 2	講義の復習・振り返りシート作成	
9	自己表現と心身の健康 1	講義の復習・振り返りシート作成	
10	自己表現と心身の健康 2	講義の復習・振り返りシート作成	
11	家族関係・恋愛関係と心身の健康	講義の復習・振り返りシート作成	
12	運動と心身の健康	講義の復習・振り返りシート作成	
13	感情のコントロールと心身の健康	講義の復習・振り返りシート作成	
14	民間信仰と心身の健康	講義の復習・振り返りシート作成	
15	まとめとディスカッション 心理学との関連	講義の復習・振り返りシート作成	
16		最終レポートの作成	
テキスト・参考文献・資料など	特に指定しない。 各回の講義担当者から配布資料、参考図書の紹介をする。		
学びの手立て	講義で取り上げる心身の健康増進に関する知恵や工夫を、自身の日常生活に取り入れると、実体験を通して学ぶことができる。そのうえで、他の講義で学んでいる（あるいはこれから学ぶ）心理学やその他の学問の理論や効果とどのように関連しているのか照らし合わせながら考えるとよい。心身の健康について、心理学的視点だけでなく、様々な領域から多角的視点、科学的視点でとらえることを試みてほしい。		
評価	①毎回の講義終了後の振り返りシート (50%) ②最終レポート (50%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 その他の心理学専門科目 心理プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ
-------	---

※ポリシーとの関連性

地域包括ケアシステムが推進される中、社会福祉専門職者には、福祉以外の保健・医療に関する知識も重要となる。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	保健医療サービス	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富 郁哉	2年	教員メールにて受け付ける。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	わが国における保健医療サービスの現状を知り、また、今後の動向について学ぶ。さらに、高齢社会を背景として、今後伸展する保健・医療・福祉の連携のもとで展開される地域包括ケアシステムについて学ぶ。	保健・医療に関する社会的事象に常に関心をもつことをこころがける。また、わからない医療用語等はすぐに調べるようにする。前期で開講される「保健福祉政策論」を履修し、疾病等含めた「医療」に関する知識を深めておくことが望ましい。
到達目標	到達目標は3点ある。①我が国の保健医療サービスの現状を知り、他者に説明することができる。②今後の我が国の保健医療サービスのあり方を理解し、他者に説明することができる。③地域包括ケアシステムについて説明することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス・保健医療サービスとは	保健医療とは
	2	保健医療サービスとその構成要素	人・もの・財と保健医療サービス
	3	医療資源① ヒト(人)	医療従事者の種類
	4	医療資源② モノ(物)	医療従事者数の現況
	5	医療資源③ カネ(ザイ)	医療施設の種類
	6	医療資源④ ジョウホウ(情報)	医療法という法律
	7	保健医療サービスの専門職とその役割①	MSWの役割を調べる
	8	保健医療サービスの専門職とその役割②	MSWと他職種との連携
	9	病病・病診・病福連携の手段としてのクリティカルパス①	クリティカルパスとは
	10	病病・病診・病福連携の手段としてのクリティカルパス②	地域連携パス
	11	緩和ケア①	悪性新生物ステージ・末期
	12	緩和ケア②	緩和ケアとホスピス
	13	保健・医療・福祉の連携	保健医療と福祉の連携について
14	医療の出口に福祉あり(地域包括ケアシステム)	地域包括ケアシステムとは	
15	国民医療費	国民医療費とは	
16	期末試験実施予定(新型コロナの感染状況によっては課題レポートに替える)	講義時配布のReview資料の理解	
テキスト・参考文献・資料など	テキスト：中央法規・最新・社会福祉士養成講座5「保健医療と福祉」(旧名称：保健医療サービス)を指定テキストとする。同テキストは時間外の予習・復習に役立ててもらいたい。参考文献：「国民衛生の動向」「厚生労働白書」厚生省統計協会等官公庁(特に厚生労働省)出版物を参照することが望ましい。		
学びの手立て	人間福祉学科では、保健学・医療学・医学を学ぶ機会は極めて少ない。しかしながら今後は保健・医療・福祉の連携において重要不可欠な科目となる。日頃からマスメディアなどで話題となる疾病・その他医療用語などには関心を持ち、知識を深めることを希望する。		
評価	期末試験の得点を学部履修規定に基づき評価する。また、授業出席は単位付与の前提条件であるため、出席時数が3分の2に満たない者は期末試験を受けることができない。なお、Covid-19感染拡大等で期末試験が実施できなかった場合は授業出席状況(50%)及び課題レポート(50%)によって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として、前期開講の「保健福祉政策論」がある。保健医療サービスと併せて履修し、「疾病(主として生活習慣病)」「医療」について幅広い知識を持ち、理解を深めてもらいたい。また、履修中及び履修後も、マスメディアで取り上げられる保健・医療問題に関心を持つことが望ましい。
-------	---

※ポリシーとの関連性

今後は他職種との協働・連携が重要となるが、福祉以外の職種との関わりには「保健・医療」の知識は必要不可欠となる。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	保健福祉政策論	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富 郁哉	2年	教員メールにて受け付ける。	

学びの準備	ねらい 生活習慣病（がん・脳卒中・心疾患など）について学び、また、同疾患群に対する健康政策について理解する。	メッセージ 我が国の健康課題である「生活習慣病」に対する健康政策を主として教示する。
	到達目標 一般目標：我が国における保健福祉政策（健康政策）について理解する。行動目標：①生活習慣病を中心とした「保健福祉政策」について説明できる②健康課題の基礎となる疾病について説明できる③生活習慣病の発症する臓器等人体の構造及び機能について説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス・政策とは・我が国における健康課題・生活習慣病	生活習慣病について調べる
	2	患者調査の概況から「国民の健康状況」を知る	消化器系臓器を調べる
	3	人口動態統計から「国民の健康状況」を知る	呼吸器系臓器を調べる
	4	消化器系主要臓器がんの統計的な特徴を知り、これらに対する国の施策を知る	がん対策を調べる
	5	呼吸器系臓器のがんの統計的な特徴を知り、これらに対する国の施策を知る	タバコの害について調べる
	6	女性特有のがん（乳がん・子宮がん）について知り、これらに対する国の施策を学ぶ	心臓と脳について調べる
	7	我国の「がん対策基本法」「がん対策基本計画」について学ぶ	がん対策基本法について調べる
	8	心臓の構造を知り、さらに、虚血性心疾患について学ぶ	心筋梗塞について調べる
	9	脳血管障害から発症する認知症、その政策とは～新オレンジプラン～について学ぶ	オレンジプランについて知る
	10	泌尿器系臓器・・・腎臓について知ろう。どこにある？どんな働き？	腎臓の位置は？人工透析
	11	腎臓の解剖学的構造・機能を知る。併せて腎透析、医療費公費負担制度について知る	医療費の公費負担制度について
	12	メタボリックシンドロームについて理解する	メタボについて調べる
	13	メタボって肥満のこと？：特定健診・特定保健指導・・・まずはメタボを知る	メタボについて調べる
	14	メタボ対策：特定健診・特定保健指導の内容を理解する	メタボ健診について調べる
15	東京オリンピックから始まった日本の健康づくり「国民健康づくり」政策について理解する	国民健康づくり	
16	期末試験実施予定（新型コロナの感染状況によっては課題レポートに替えることがある）	振り返りと期末試験の実施	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：特にテキストは指定しない。参考文献：国民衛生の動向、厚生労働省の指標、厚生労働白書を随時参考にする。		
	学びの手立て 我が国における健康課題について、新聞・テレビ等マスコミ情報につねに関心を持ち、不明な用語等については各自確認することが望ましい。また、健康課題を考える上で基本となる人体の構造及び疾病についても関心を示すことが望ましい。		
	評価 期末試験の得点を学部履修規定に基づき評価する。また、授業出席は単位付与の前提条件であるため、出席時数が3分の2に満たない者は期末試験を受けることができない。なお、Covid-19感染拡大等で期末試験が実施できなかった場合は授業出席状況(50%)及び課題レポート(50%)によって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本科目については、我が国の健康課題である「生活習慣病」に対する健康政策を中心にすすめる。関連科目として、後期開講の「保健医療サービス」及び隔年開講(今年度は閉講)の「人体の構造と機能及び疾病」がある。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ライフステージの心理学	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-金武 育子	2年	office.ikuko@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ライフステージ（胎児期、乳幼児期、児童期、青年期、成人期）における心身の成長・変化の特徴と、誕生、就学、反抗期、進学、恋愛、就活、結婚、出産、子育て、仕事と家庭、転職、離婚、巣立ち、定年、介護、終活などの人生のトピックスを結びつけて学ぶことで、発達心理学への理解を深め、人間理解の手がかりとして発達領域の知見を活用する手立てを身につけていただきたいと思います。</p> <p>到達目標 人間の生涯の発達に関する理解を深め、人間理解の手掛かりとして発達心理学的知見を生かせるようになります。発達心理学の理論や知見と実際のライフステージの様々なエピソードを結びつけて、理解することができます。各人の個人的発達の過程及び課題について理論や知見から理解を深めることができます。</p>	<p>積極的な参加と「感じる心」、個々人の意見の表明を期待します。それに基づき相互に理解を深めていきたいと思ひます。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：ライフステージとは（講義の進行、評価について説明する）	配布資料とワークシート
	2	胎児期：胎児期の発達の様子	配布資料とワークシート
	3	乳幼児期：乳幼児期の発達の様子	配布資料とワークシート
	4	幼児前期：幼児期の発達の様子①	配布資料とワークシート
	5	幼児後期：幼児期の発達の様子②	配布資料とワークシート
	6	児童期：児童期の発達の様子	配布資料とワークシート
	7	青年期：青年期の発達の様子①発達課題	配布資料とワークシート
	8	青年期：青年期の発達の様子②適応	配布資料とワークシート
	9	成人前期：成人前期の発達の様子②発達課題	配布資料とワークシート
	10	成人前期：成人前期の発達の様子②適応	配布資料とワークシート
	11	成人中期：成人中期の発達の様子①発達課題	配布資料とワークシート
	12	成人中期：成人中期の発達の様子②適応	配布資料とワークシート
	13	成人後期：成人後期の発達の様子①発達課題	配布資料とワークシート
14	成人後期：成人後期の発達の様子①適応	配布資料とワークシート	
15	まとめ	配布資料とワークシート	
16	試験日	最終レポート（又は試験）の準備	
	テキスト・参考文献・資料など		
	前原武子 編著 「発達支援のための生涯発達心理学」 ナカニシヤ出版 その他の資料は、講義中に適宜紹介する		
	学びの手立て		
	積極的な参加と「感じる心」、個々人の意見の表明を期待します。それに基づき相互に理解を深めていきたいと思ひます。		
	評価		
	毎回、所定のワークシートを課す（50%）。 レポート（期末考査）を1タイトル以上課し（50%）、総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>関連科目：発達心理学、教育心理学概論など、他の心理学の科目。 次のステージ：人間発達を捉える視点を、日常生活における自己理解及び、他者理解に応用してみましょう。</p>

※ポリシーとの関連性

自分の「内なる声」を聞き取り、表現し、社会・特に沖縄社会との関連を、社会学の見地を活用して、受講生同士で話し合います。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床社会学	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-知念 ウシ	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>自分自身やその周囲で起こったことを通し、感じ考えることを、受講生同士でゆっくり話し合います。浮上してきたテーマと流れを大切にします。また授業進行時起こった社会にとって重要な事件を取り上げること、またコロナ感染状況に応じて、授業形式の変動、授業計画の変更もあります。</p>	<p>基本的に対面授業の場で、自分の体験や自分の周囲で起こった出来事を通し、感じ考えていることなどを、受講生同士でゆっくり語り合おうを大切にします。そのため出てきたテーマと流れを重視する中で、厳密な授業計画通りではなく、柔軟に展開していくこともあります。また、コロナウィルスの感染状況に対応した授業形式の変動によって、授業計画の変更もあります。</p>
到達目標	<p>「自分の内なる声」を開けるようになること、表現できるようになること。そして、社会、特に沖縄社会との関連を考え、自分や周りの人に起こった事柄の分析や意味づけを社会学の見地を利用しながら、あるいは、それから自由になりながら、沖縄と自分のことを考え、表現し、受講生同士で話し合えるようになります。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスー「臨床社会学」の時間に何をやるか	資料を読む
	2	受講生の自己紹介大会	受講生仲間の名前を覚える
	3	マインドフルネスを練習する 1	日記帳を準備する
	4	マインドフルネスを練習する 2	自宅でもやってみる
	5	話を聞く練習をする 1ー相手の存在感から命薬（ヌチグスイ）を得ながら話を聞く	得た気づきや学びを書き留める
	6	話を聞く練習をする 2	同上
	7	切り紙をしながら自由を感じ考える 1	作品を自室に展示する
	8	切り紙をしながら自由を感じ考える 2	自宅でも作ってみる
	9	私の好きな本・漫画を紹介する	好きな本・漫画を準備する
	10	私の好きな本・漫画から出てきたテーマについてユンタクする	紹介されたものを読んでみる
	11	私の夢（やりたいこと）100個・やりたくないこと100個を書いてみる	自分の望みを俯瞰してみる
	12	私の夢（やりたいこと）100個・やりたくないこと100個について話してみる	社会との関連を考えて見る
	13	新聞コラージュ川柳をつくる	社会問題を意識して作ってみる
14	新聞コラージュ川柳についてユンタクする 1	問題提起する準備をする	
15	新聞コラージュ川柳についてユンタクする 2	社会問題と関連させて解釈してみる	
16	まとめ	最終課題へつなげる	
テキスト・参考文献・資料など	教科書はありません。参考資料（論文や動画など）は適宜、配布・紹介します。		
学びの手立て	日常的に新聞を読み、社会の出来事と自分や身近な人の体験を関連させて考える癖をつけてください。授業後は。ジャーナリング（日記の執筆）をして、当日の気づきと学びの振り返りをしてください。		
評価	受講態度（積極的参加・発言、授業の下準備、必要な物を忘れず持ってくる等）70%と最終試験（課題）30%で判断します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	社会学の授業や沖縄関連科目群の受講とリンクさせていってください。どの学問も「自分の内なる声」を聞きながら、沖縄社会にいる自分との関係を考えながら、主体的に学んでいってください。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理学概論	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-佐久本 夢来	2年	muku.s.0101@gmail.com	

学びの準備	ねらい 臨床心理学という学問の学問的位置づけと、その対象、基礎的理論、基礎的方法について、できるだけ幅広く具体的に解説する。講義をとおして、総合的な学問としての臨床心理学の幅広さを感じ取り、今後の研究対象を選択していく上での指標となることを目指す。	メッセージ こころの問題だけでなく、こころの健康の保持、こころの問題の予防などにも寄与できる学びを深める機会となればと考えています。
	到達目標 臨床心理学の、歴史、支援の対象、基礎理論、アセスメント、支援の方法などの基礎的な知識を広範囲に学ぶことによって、今後臨床心理学への興味と知見を深めていくための手がかりを得ることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスを確認する
	2	臨床心理学とは：歴史的背景・援助の対象・臨床心理学の領域	配布資料とワークシート
	3	臨床心理学的諸問題：問題の分類とその基準	同上
	4	臨床心理学的諸問題：小児の問題（発達障害、不登校など）	同上
	5	臨床心理学的諸問題：思春期以降の問題（パーソナリティ障害など）	同上
	6	臨床心理学的諸問題：老年期の問題、その他（認知症など）	同上
	7	臨床心理学の基礎理論：人格理論（フロイト、ロジャースなど）	同上
	8	臨床心理学の基礎理論：発達理論（マラー、ウィニコットなど）	同上
9	臨床心理学的方法：心理アセスメント（知能の評価）	同上	
10	臨床心理学的方法：心理アセスメント（パーソナリティの評価）	同上	
11	臨床心理学的方法：心理療法（来談者中心療法・認知療法など）	同上	
12	臨床心理学的方法：心理療法（箱庭療法・芸術療法など）	同上	
13	臨床心理学的方法：（家族療法・短期療法など）	同上	
14	臨床心理学のその他のトピック	同上	
15	まとめ	全ての配布資料の再確認	
16	試験	総合評価60点未満で不可	
	テキスト・参考文献・資料など 各講義毎に適宜ハンドアウト資料を作成し配布する。 講義の中で参考文献等、適宜紹介します。		
	学びの手立て シラバスを事前に目を通して、予習・復習を行ってください。 授業では質問など積極的な授業参加を期待します。		
	評価 授業参加及び毎回のリアクションペーパー提出状況（30%）、学期末試験（70%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：社会・集団・家族心理学（社会・集団）、集団・家族心理学（家族）、発達心理学などがあるが、臨床の学問である以上、すべての専門科目が関連科目となりうる。 次のステージ：心理的アセスメント、傾聴トレーニング
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	レクリエーション理論	前期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-細田 奈々	2年	講義修了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> レクリエーション活動の楽しさを知り、レク活動がもたらす良好な心の変化に気づく 良好な対人関係を構築するため、コミュニケーションを促進するための知識を深める レクリエーション活動を効果的に展開するための基本的な考え方を修得する 	自分をみつめ、ご自身のコミュニケーションスタイル、他者との交流の在り方、グループ活動におけるリーダーシップ等について考え、社会活動におけるレクリエーションの可能性について整理しておく
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ①レクリエーションの基本的な考え方を理解する ②人が楽しいと感じる心の仕組みを理解する ③社会生活におけるレクリエーションの意義・有効性について理解する ④レクリエーションの支援について理解する 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション / アイスブレイキングプログラム体験	講義の趣旨の理解
	2	レクリエーションを学ぶにあたって (歴史的背景から新しい枠組みの理解)	指示された課題・内容の準備
	3	レクリエーションインストラクターの役割	指示された課題・内容の準備
	4	楽しさと心の元気づくりの理論 1 楽しさについて (活動そのものが持つ楽しさ)	指示された課題・内容の準備
	5	(集団で行う楽しさ)	指示された課題・内容の準備
	6	2 心の元気づくりについて	指示された課題・内容の準備
	7	3 きづなづくりとレクリエーション事業	指示された課題・内容の準備
	8	ホスピタリティとコミュニケーションスタイルの気づき	指示された課題・内容の準備
	9	コミュニケーションと信頼関係づくりの理論-レク支援におけるコミュニケーション-	指示された課題・内容の準備
	10	レクリエーション活動を通じた良好な集団づくりの理論	指示された課題・内容の準備
	11	自主的・主体的に楽しむ力を育む理論	指示された課題・内容の準備
	12	やる気を引き出すレクリエーション支援の技術	指示された課題・内容の準備
	13	気持ちを一つにするコミュニケーション技術	指示された課題・内容の準備
14	アイスブレイキングの効果を高める基礎技術	指示された課題・内容の準備	
15	対象者を想定したプログラムづくり	アセスメント	最終レポート
16		プログラミング	プレゼンテーション準備
テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> ① 日本レクリエーション協会編『楽しさをとおした心の元気づくり - レクリエーション支援の理論と方法 - 』 ② その他、必要に応じて資料を配付する 		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ①生活場面において、レクリエーション技術の活用を考える ②様々な社会的場面や施設などで実践されているレクリエーションを観察し情報収集に努める ③自分の特技や趣味を活かした独自のレクリエーションを見つける ④その他、活動には主体的に取り組み 学びにつなげる 		
評価	以下の内容をなどを総合的に判断して評価します ①授業参加態度 (40%) ②最終レポート (30%) ③プレゼンテーション (30%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 <ul style="list-style-type: none"> ① 本科目は、レクリエーション技術Ⅰ・Ⅱの修得をもって完結するもので、受講生はⅠ・Ⅱも受講すること ② 本科目においてレクリエーションの意味や意義、その概要等について理解し、技術Ⅰ及びⅡの受講に備えること
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	老年学概論Ⅰ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	トナルド クレイグ ウィルコックス、他（社会人特別講師）	2年	d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい 老年学とは、加齢に伴う心身の変化を研究し、高齢社会に起こる様々な問題を解決するための学問である。高齢者の取り巻く現状、加齢に関する身体的・心理的な諸問題などについて学んでいく。	メッセージ 本講義は老年学の概論を説明するものとなります。高齢社会の現状、加齢とは何かなどを学んでいきます。高齢者がどういった存在かを講義を通して学びつつ、外部講師を招待しながら少し踏み込んだ内容も検討しています。
	到達目標 老年学がどのような学問かを理解し、高齢者の特性を理解する事を目標とする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	講義の進め方を把握する
	2	世界の高齢化の現実と課題	世界の高齢化について考える
	3	日本の高齢社会について	日本の高齢社会をまとめる
	4	高齢社会の歴史と老化のイメージ	一般的な老化のイメージを考える
	5	加齢の生物学的理論1	身体的な加齢を考える
	6	加齢の生物学的理論2	身体的な加齢を考える
	7	加齢の生物学的理論3	学習した理論をまとめておく
	8	加齢と障害の理解1	加齢による障害を考える
	9	加齢と障害の理解2	加齢による障害をまとめる
	10	健康長寿の日本国内と国際的な展望	健康長寿について調べる
	11	健康長寿の国性的な展望	国際的な健康長寿について調べる
	12	加齢の心理的側面1	加齢で起こる心理的な問題を調べる
	13	加齢の心理的側面2	心理的な問題をまとめる
	14	認知症の理解1	認知症が何かを調べておく
15	認知症の理解2	認知症についてまとめる	
16	まとめ	今までの内容をまとめておく	
実践	テキスト・参考文献・資料など Robert C. Atchley, Amanda S. Barusch, (2005)『ジェロントロジー 加齢の価値と社会の力学』 きんざい そのほか、適宜参考資料の紹介を行う。		
	学びの手立て 高齢期や高齢者がどういった存在かを概論的に学んでいく。学びを得た後に自分の福祉分野や実生活での応用を行いながら各自老年学の分野を深めていって欲しい。 受講中は様々なメディアを通じた高齢期や高齢者問題について些細な情報にも目を向け社会がどのように高齢期や高齢者をとらえているかを考える事で学んでいる知識もより深くなる。		
	評価 出席状況(30%)、提出物の内容や提出状況(30%)、課題等の内容(40%)、など授業への参加意欲を総合的に判断し評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義は「老年学概論Ⅱ」へとつながる。また、講義受講後や並行して関連する「高齢者に対する支援と介護保険制度」や統計データを閲覧する上での基礎知識となる「社会統計基礎」を受講をすすめる。
-------	---